

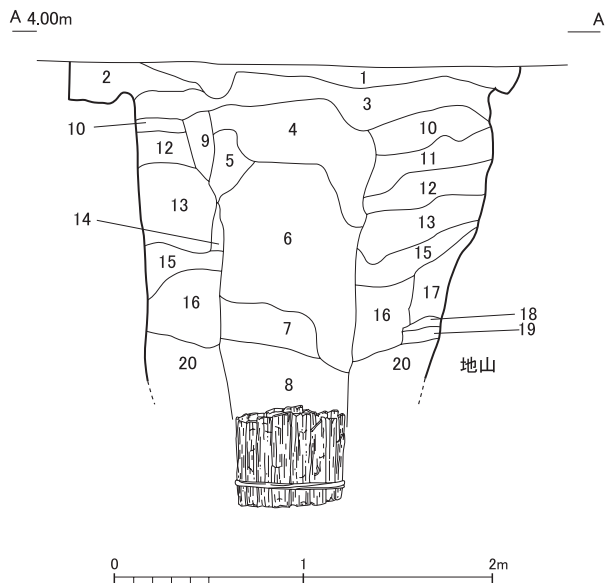
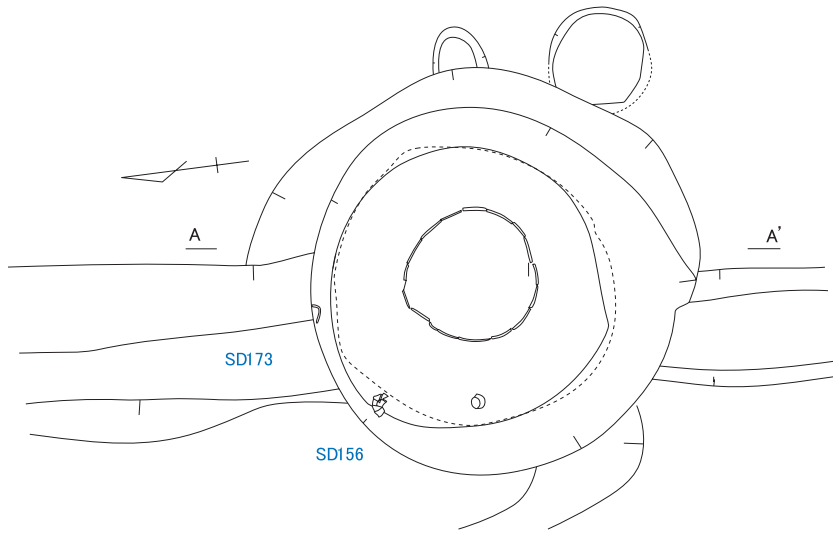
(3) 井戸

SE240 (第401図)

調査区南東部で確認された井戸である。SD156とSD173に切られているため、西半分の上半が削られているが、復元すると堀方は直径2.5m程度になるだろう。断面図からわかるように、遺構検出面からの深さ1.8mで、桶が検出されたが、湧水のためそれ以上の掘削は出来なかった。桶の直径は0.56mで、確認した深さは2.3mである。

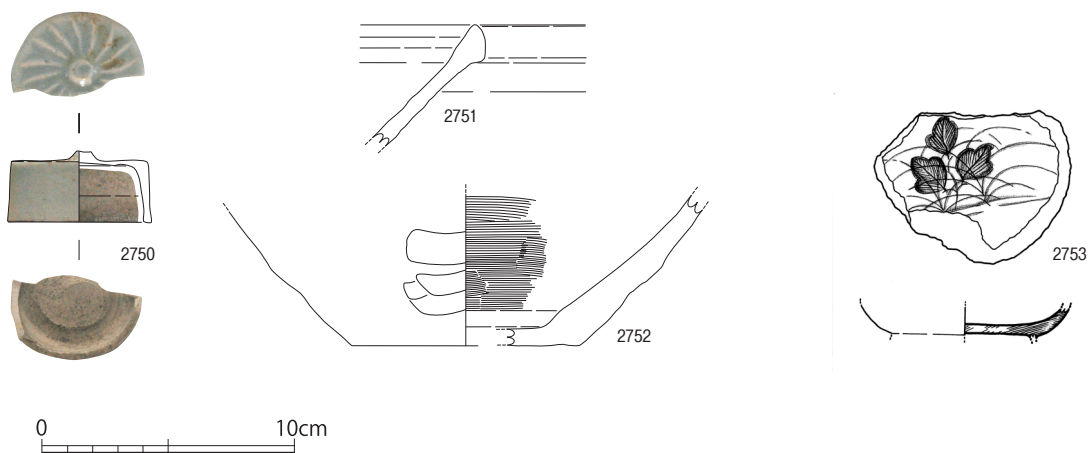
出土遺物は第402図2750から2753である。2750は青白磁の蓋で、上面には菊花文が貼花で描かれている。摘みは小さく盛り上がる程度である。内側は釉が掛かっている。瓶の蓋であろうか。漆器 2751と2752は東播系須恵器の鉢である。2753は漆器碗で、外面に朱色で草文が描かれている。他に細片であるが、同安窯系の青磁破片も出土している。

時期は、15世紀中頃から後半の遺構に切られていることから、それ以前とすることが出来る。東播系須恵器の鉢から判断すると、14世紀以前に遡る可能性もある。



1. にぶい黄褐色砂質シルト 黄褐色ブロック多量含む
2. にぶい黄褐色砂質シルト 炭化物多量含む
3. 暗褐色砂質シルト 炭化物含む
4. 黒褐色砂質シルト 炭化物多量含む
5. 黒褐色砂質シルト 炭化物・黄褐色ブロック含む
6. 黒褐色砂質シルト 炭化物含む
7. 黒褐色砂質粘質土 鉄分多量含む
8. 黒褐色粘質土
9. 灰黄褐色砂質シルト 黄褐色ブロック少量含む
10. にぶい黄褐色砂質シルト 黄褐色ブロック多量含む
11. 灰黄褐色砂質シルト 黄褐色ブロック多量含む
12. 褐灰砂質シルト 黄褐色ブロック多量含む
12. 褐灰砂質シルト 黄褐色ブロック多量含む
13. 灰黄褐色砂質シルト 黄褐色ブロック多量含む
14. 褐灰砂質シルト
15. 黄灰色シルト 鉄分少量含む
16. 黄灰色シルト 黄褐色ブロック少量含む
17. 灰黄褐色砂質シルト
18. 黄灰色シルト
19. 灰黄褐色砂質シルト
20. 黄灰色シルト 黄褐色ブロック少量含む

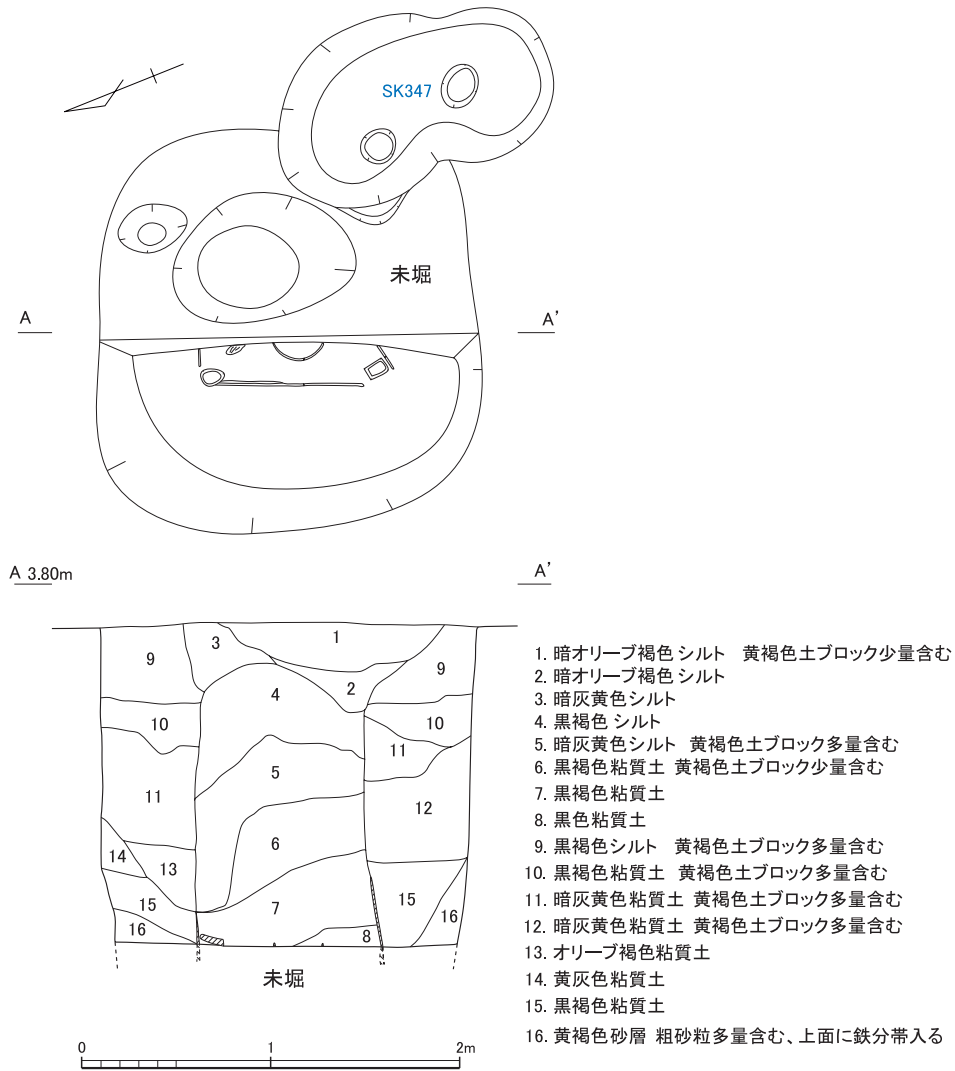
第401図 SE240(1/40)



第402図 SE240出土遺物(1/3)

SE440 (第403図)

第2南北街路を掘削した段階で検出された井戸である。上面で2.0m×2.1mのほぼ正方形を呈する。井側は方形で、下部に板が残っていたが、上部は失われていた。1.3m掘下げ、縦板が検出されたところで崩壊の危険が生じたため掘削を断念した。遺物は出土しなかったが、道路下で見つかったことから、16世紀後葉以前であることは確かである。

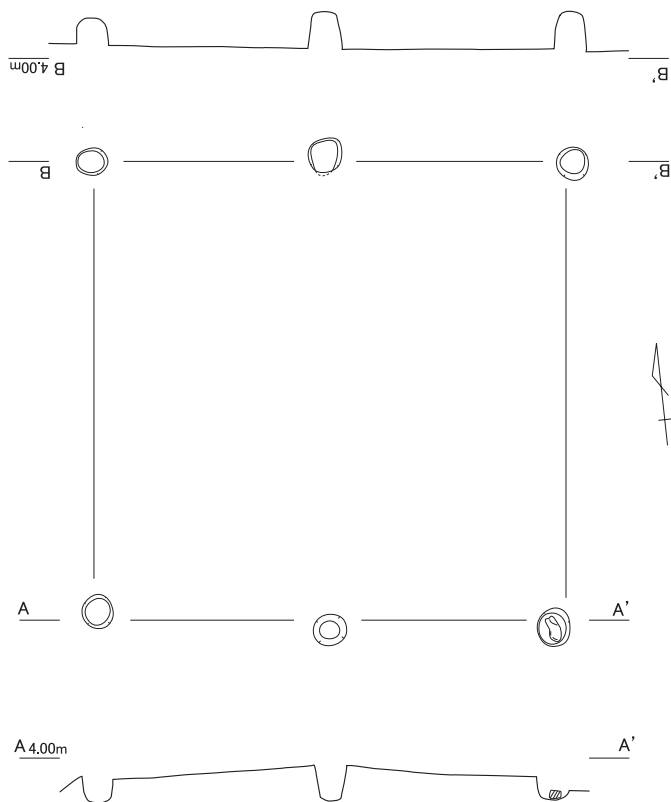


第403図 SE440(1/40)

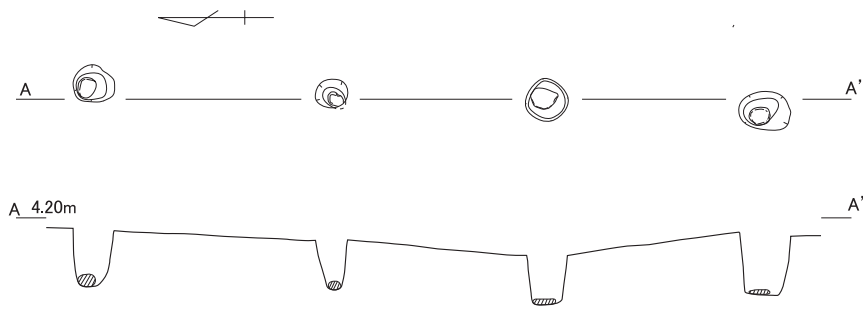
4 時期不明の遺構

調査区内で、掘立柱建物1棟と柱穴列2箇所が確認された。SB452は唯一の建物遺構である。SD060A、SD060Bに隣接し、かつ主軸がほぼ同一であるのはSD060と近い時期を予想させるが、柱穴からの遺物は無く時期の確定は出来ない。

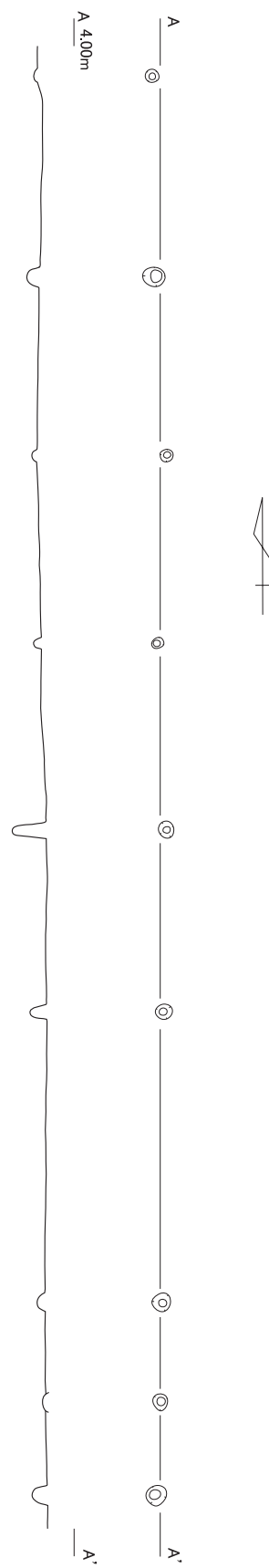
柱穴列SX453は、SD160とSD225との間で確認された。4箇所の柱穴にはすべて礎板石が底に据えられていた。建物にならないか周辺をかなり精査したが、対になる柱穴は無かった。柱穴列SX451は、第2南北街路を掘下げ終わった段階で、長さ22mにわたって確認されている。いずれも柱穴からの出土遺物は無く、時期の特定は出来ないが、出土層位から考えて、16世紀後葉以前とすることができよう。



第405図 SB452(1/60)



第406図 SX453(1/80)

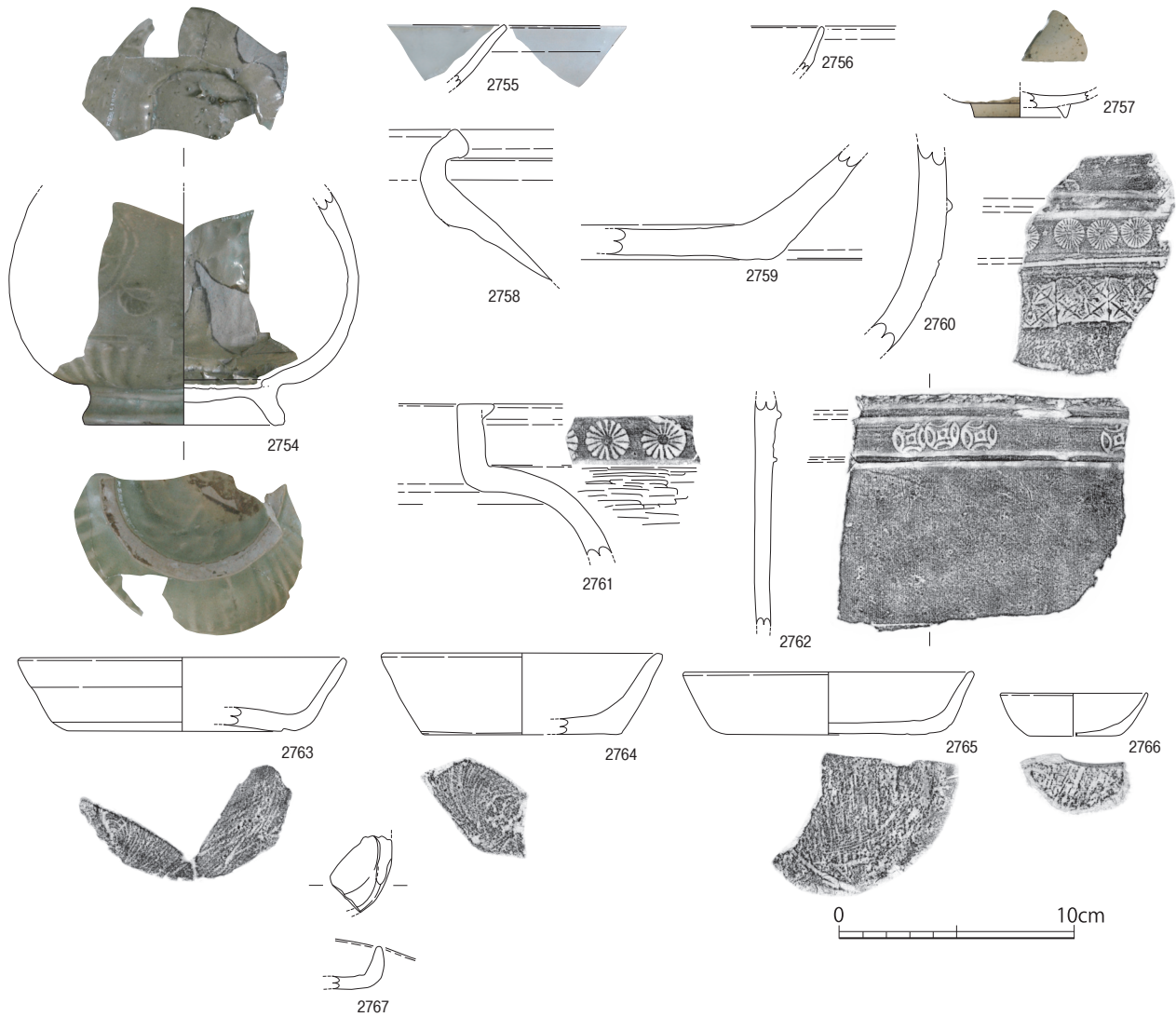


第404図 SX451(1/80)

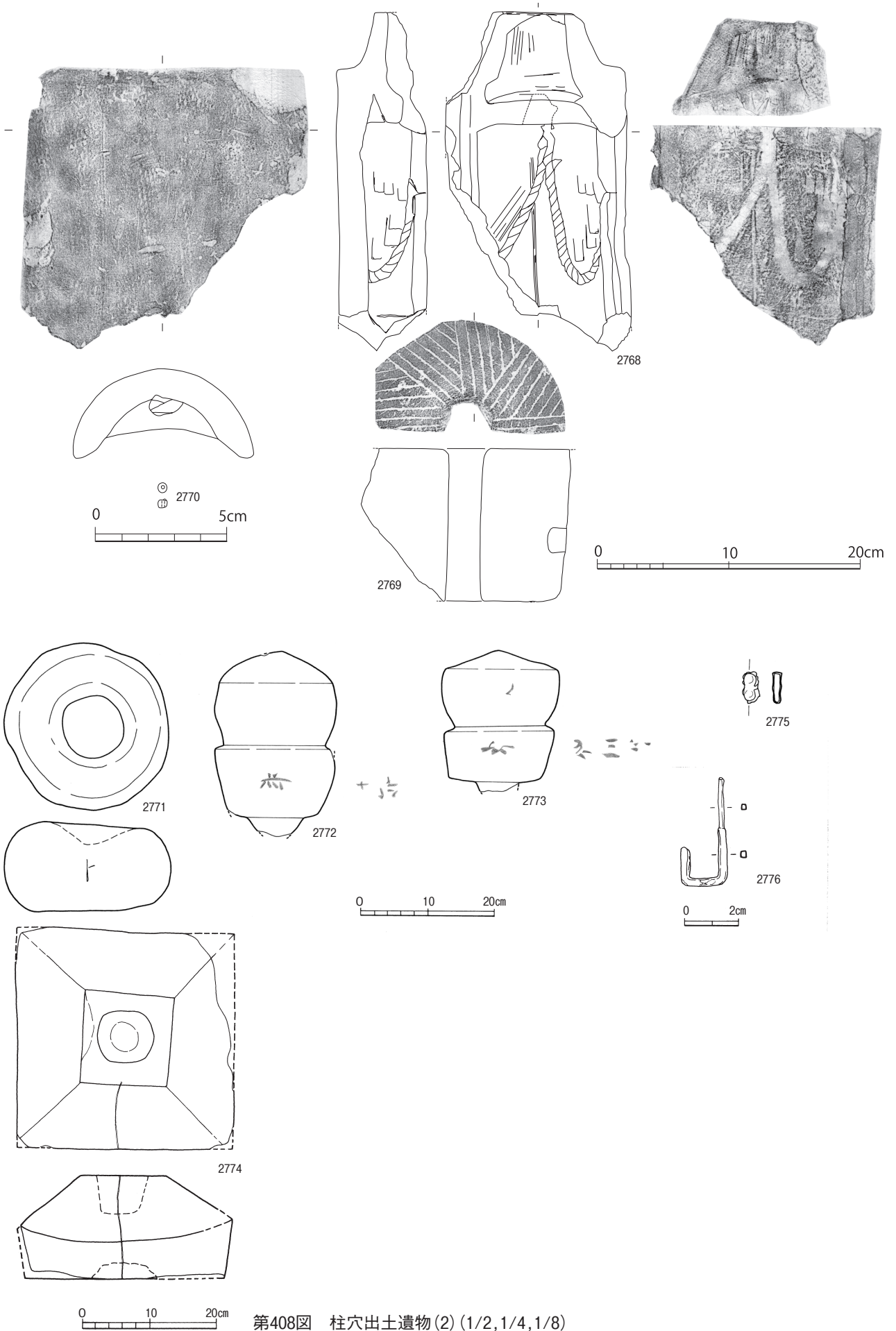
5 柱穴出土の遺物

建物や柱穴列にならないピットからも遺物が出土している。ここでは、その遺物について説明する。2754は青磁瓶である。SD033AやSE070出土資料と接合した。2755は白磁碗である。2756は瓦質土器の碗である。2757は土師質土器の碗である。2758は備前焼壺、2759は常滑焼甕である。2760から2762は瓦質土器。2760と2761は風炉か。2763から2766は糸切り底の土師器である。2767は耳土器である。2768は丸瓦で、内面にU字形の大きな吊紐痕がある。2769は、和泉砂岩製の茶臼である。

ガラス小玉 2770はガラス製の小玉である。



第407図 柱穴出土遺物(1)(1/3)



第408图 柱穴出土遺物(2) (1/2, 1/4, 1/8)

第3節 小 結

ここでは第88次調査のまとめを行い、他調査区との関係から明らかになる事項については、章を改めて述べることにする。

1 遺構について

確認された遺構は、遺構の説明で述べたとおり3時期に大きく分けることができた。しかし、第Ⅲ段階が比較的短時間であったのに対し、第Ⅰ段階は約200年以上の時間幅を持つことから、当然この段階内での各遺構の消長はあったことになる。また、第Ⅱ段階は短時間であるにも関わらず、SD120が機能していた段階と、半ば埋められその機能を失った段階に細かく分けることができる。しかし、Ⅱ段階の小段階は年数でいえば10年足らず、あるいはさらにそれより短い年数が想定され、遺物から設定される考古学的な時間では対応不可能な時間幅となってくる。SD120そのものはその二つの小段階を明確に示すが、その他の遺構は分別は不可能であるので、ここでは第Ⅱ段階として一括りとした。

称名寺 第88次調査区は、調査前いわゆる「府内古図」に示された「称名寺」の西の端と第2南北街路の部分に想定された。その想定通り、街路跡とその東側に堀を伴った遺構が展開することが確認された。ここが称名寺であることは「府内古図」でしか確認できないが⁽¹⁾、称名寺其阿なる時宗の僧侶が大友氏の蔵役人として天正10年前後に活躍していたことから⁽²⁾、さらには「称名寺」の南側の街が「名ヶ小路（名号小路）」、東側の街路が「道場小路」と呼ばれていたことも、ここに浄土教系寺院があったことを間接的に裏付ける。さらに、近世の記録ではあるが、善巧寺の過去帳に永禄の頃称名寺が「事故アリテ府主ノ命ニ依リテ」沖浜に移ったという記載がある⁽³⁾。沖の浜に称名寺があったことは、「府内古図」の沖の浜に、称名寺にあったとされる島津勝久の塚の記載があることによっても間接的に裏付けられる。つまり、ある段階まで今回の調査区のところにあった称名寺が、ある段階で沖の浜に移ったことは歴史的事実としてよいと考える。

今回の調査によって明らかになった施設の区画を示すと思われる遺構としては、SD160とSD120という溝がある。出土遺物から前者は15世紀後半代、後者は16世紀後葉（1570年代から1580年前後）の年代が与えられる。この両者は、ともに第72次調査区まで南に延びてそこで東に屈曲する（第1分冊参照）。これは「府内古図」のとおり、ここに大きな溝に囲まれた何らかの施設があったことを考古学的に確認したことになる。それがある段階までは「称名寺」であることに異論はないだろう。

問題は「称名寺」が永禄の頃に沖の浜に移ったことが事実なのかどうか、である。もし仮に事実であるとする、SD120の溝は天正期のものであり、「称名寺以後」ということになる。このことについては、改めて別章で触れるので、ここではこれ以上立ち入らない。当初の時期区分に従って第Ⅱ段階を「大規模施設の時代」とするにとどめておく。

次に時期別にやや詳しく遺構の変遷を見ていこう。

(1) 最も古いとされるA類には「称名寺」の記載は見えない。しかし、一角を赤く塗って何らかの施設があったことは示唆している。他のB類、C類には赤く塗られた一角が「称名寺」という寺院であることを明記している。

(2) 鹿毛敏夫「戦国大名大友氏の蔵経営」『大分県地方史』第167号 1998年 大分県地方史研究会

(3) 小泊立矢「豊後における中世時宗の展開」『史料館研究紀要』第2号 1997年 大分県立先哲資料館

(2) 第Ⅱ段階の遺構 (第410図)

この段階は、1570年前後から1586年頃までと時期幅は狭いが、最も濃密に土木工事がなされ、短時日で廃棄されるという特殊な段階である。背後に天正14(1586)年の薩摩の島津氏による府内侵攻があったことは言うまでもないが、この段階の遺構の消長を詳細にみると、島津氏侵攻はこの段階の終焉と次期への展開を後押ししたに過ぎず、この段階を決定的に特徴付けたのは別なところにあると考えている。詳細は第9章で述べるが、「大友館」の北東の斜向かいに位置するこの「称名寺」が、府内あるいは豊後の支配や防衛上、大友氏にとって重要なポイントであったことが背後に存在したものと考えている。

この段階を象徴するSD120は、一度掘り直しが認められ、その後は街路側(西側)から土砂が流入し、さらにその上を東側から埋めた段階で機能は完全に停止する。つまり、①当初の掘削→②掘り直し→③道路の土砂の流入→④東側からの堆積、という4段階を経て、天正14年12月の島津氏侵攻を迎える。その結果堆積したのが、⑤最も上部の焼土混じりの堆積土である。これらの5段階の内、多くの遺物が出土した①と③段階の遺物を比較しても差は認められない。①からも漳州窯青花が出土しており、どんなに遡っても掘削が1570年を遡ることは無い。また、SD120の終焉は少なくとも1586年段階では④段階まで埋まっており、そこに瓦が多く含まれるということは内部の施設も同時に機能を停止していたことを示唆している。つまり、1570年代にSD120を廻らせた何らかの施設は、1580年代の前半には早くもその機能を停止したことになる。少なくともここに島津氏侵攻との直接的な関連性は認められない。

では、SD120で囲まれた施設の内部はどうなっていたのかを見てみよう。まず注目されるのは前段階で指摘した位置に東西方向の溝が3本掘削されていることである。微妙な時期差があることが考えられるが、いずれもが南北方向の溝SD071の手前で終わっていることである。特に一番北側のSD033AはSK207に繋がり、さらにそれがSD120へ排水する暗渠排水施設のSX206とSX208に繋がるという関連性を有しているため、SD120との一体性も明らかである。また、SX206とSX208がわざわざ暗渠排水にしているのは、その位置に土塁などの上部施設が存在したことを示唆する。つまり、SD120とSD071の間の南北方向の細長い空間は、土塁あるいは築地塀などの施設があったのであろう。土層図で示される東側からの堆積土(第117図では黄色で示したものが)、それほど厚さを持たないことから考えれば低平な土塁となるだろう(仮に土塁などの土が全てSD120に堆積したとするならば、基底部幅2mとして高さは1~1.5m程度になろう)。その上部には板塀などが建っていたことは考えられるが、今回の知見では確証は得られていない。

また、東西方向の溝SD003AやSD174などは、前の時期や後の時期でもそうであるが、南北方向の溝(SD120やSD160)などが現在の座標で言えば概ね南北方向に延びるのに対して、東西方向の溝は約5度ほど座標軸からずれている。このずれは実は第72次調査区やその南の第12次調査区で確認されている名ヶ小路の傾きと等しいのである。この名ヶ小路に沿ってSD120やSD160に繋がる溝は東に屈曲している。つまり、SD033Aなどの溝は、そこから約70m南の地割り線に規定されていることを示している。このことは、堀で囲まれた施設の正面性を示唆していると言えるだろう。府内古図では、「称名寺」は名ヶ小路に沿った南と、道場小路に沿った東に門が描かれているが、寺院であれば当然とはいえ、南門が正面と言うことになる。このことを、この第2段階でも踏襲していたということになるので、この段階の大規模施設は南向きの施設であったことになる。そう考えれば、SD033A等の東西溝から南側(第11次や80次調査区)は前面の施設がある区域になり、溝から北側は背後の施設が展開していたということになろう。第11次や80次調査区等では東西方向の溝が確認されていないことを考えれば、SD033Aなどの東西溝は、少なくとも施設を南北に二分する性格を兼ね備えた排水施設であったことになる。

植栽痕

ところで、いわゆる第2南北街路とSD120の掘削の前後関係は、掘り直しがあつたりして明確には判らないが、ほぼ同時と見て良いだろう。そして後のSD142とSD120の間には不連続の土坑や溝が南北方向に掘削される。それらは植栽痕ではないかとされるが、SD120が半ば埋まった段階で掘削されたSD142が、それらの土坑群を避ける形でやや西側に配置されているのは、そこに木が植わっていたと考えれば納得がいく。これらのことを総合的に考えると、SD120で囲まれた大規模施設は、街路の構築を伴う町作りの一環として整備されたことは明らかである。ほぼ同じ様相が、大友館の南東の斜向かいに位置する万寿寺でも確認されていることを考えれば、1570年代になって府内の町が大規模に改修されたことがあらためて確認出来たことになる。

唐人町の衰退

次に、SD120が機能を失ってからは、街路東側の側溝としてSD142が掘削される。前記したように植栽を避けるように内側（西側）に掘られたため道幅はやや狭まるように見えるが、道路面が、前時期の街路西側側溝でもあった唐人町の堀（SD223）を埋めてさらに西側に広がっているので、道幅自体はほとんど変わらずに、街路がやや西側に動いたということである。唐人町の堀（SD223）がSD120とともに埋められているのは、唐人町の衰退を物語る可能性があるが（唐人町の形成もSD120などと同一時期の可能性もあるが）、今回の調査ではそれ以上は言及できない。



第410図 第Ⅱ期の遺構

(3) 第Ⅲ段階の遺構 (第411図)

町屋

この段階は、SD120がすっかり埋められて、第80次調査区等では南北街路に面して町屋が建ち並ぶ段階である。ただし、第88次調査区では明確な建物跡は確認出来なかった。このことは、第88次調査区内では、前段階に引き続いて東西方向の溝が何条も掘削されていることと関係があるものと考えている。SD031やSD032は、前時期と同じく軸が東西に対して数度ずれているが、平行する2条の溝は道路側溝を彷彿とさせる。道路面は確認出来なかったが、第2南北街路のように掘り込み地業を伴うような道路ではないならば可能性はある。

町屋

東西道路

西は第2南北街路、南は名ヶ小路、東は道場小路、北は横小路で囲まれた一ブロック(街区)は、南北180m~200m、東西は100m~120mある。ここに特殊な施設(称名寺やその後の大規模施設)があった段階でも、ここに南北に分かつ何らかの施設があったことを考えれば、それらの施設が廃絶した後に町屋が展開するとなると南北200mではあまりに長すぎる。SD031とSD032は簡易な道路であったと考えた方が良いのではなからうか。そうするとSE0170は道路の真ん中に位置するようになるが、SD031、SD032が掘削された段階では完全埋まっていたものと理解できる。さらに、南北街路を横切るSD002からSD005もある段階の道路と考えられるかもしれないが、時期は大きく下る可能性もある。



第411図 第Ⅲ期の遺構

2 遺物について

今回の調査においては第Ⅰ段階の称名寺に関わると考えられる優品の青磁なども特筆すべきものがあるが、第Ⅱ段階のSD120において様々な遺物が出土しているのも、ここではその内のいくつかについて改めて触れておきたい。

ガラス器 先ずガラス器である。このガラス器はいわゆるレースガラスなどと違って産地を特定できる外見上の特徴を持たないが、分析の結果では南ヨーロッパ産の可能性が高いとされる。16世紀代の主要なガラス産地であったベネチアのムラノ島も含まれる。一応ここではヨーロッパ産吹きガラス製品として扱う。

ベネチアングラス 中世末から近世初頭の、いわゆる南蛮貿易を通じて海外からヨーロッパ産のガラス器が日本列島に入ってきていたことは考古学的に確認されている。さらには、天正遣欧使節もベネチアングラスを贈られ、実際に日本に持ち帰っている。これは天正18年のことである。今回の出土遺構は、前記したように古式の漳州窯が出土する溝底部付近であり、溝上層には天正14年に島津氏が府内を侵攻した際に焼かれた焼土が混入した土層で覆われており、その間には溝を意識的に埋めた土層も存在するので、ガラスが廃棄されたのは1570年代から1580年代の初めにかけてであると判断される。現在まで管見の限りでは当該時期のヨーロッパ産ガラス製品の内、今までもっとも古いとされていた八王子城のレースガラスは天正18年（1590年）落城の城跡からの出土であり、今回の大友府内町跡出土のガラス器はそれを10年近く遡る。現段階では、少なくとも天正遣欧使節がベネチアングラスを持ち帰った天正18年を遡る唯一の事例とすることができる。

ガラス器廃棄の時期 ガラス器は、溝SD120の西側すなわち唐人町側から流れ込んだ土層に含まれていた。貝層（食物残滓）上面付近であったこと、3つに割れて比較的近くから出土したこと、これ以外に破片がなかったこと、などからガラス器が割れて使用できなくなって破片を意識的に投棄したものと思われる。同じSD120からは景德鎮窯と考えられる窯道具（ハマ）や第80次調査区では漳州窯のテストピースである「色見」も出土していることから、唐人町には中国産陶磁器の輸入を直接扱う人物がいたらしいこと、また同じSD120から青銅器の鑄造に関わる埴塙が、銅滓などと一緒に出土したことから銅細工に関わる職人が居住していたことも推測され、唐人町には多様な商職人が暮らしていたことが明らかになったが、このガラス製品もそのような人々が交易を通して手に入れ、日常的に使用していたものであろうか。

窯道具 銅細工 しかし、府内にはこの時期教会もあり宣教師も多数居住していた。彼らが本国から直接持ってきた可能性も考えられる。今回出土したガラス器は、八王子城で出土しているレースガラスや、大阪城下町や仙台城から出土したエナメル絵付けを多用した装飾的な高級品とは異なり、あくまで日常的に使用するような（もちろん、日本の当時あっては器の薄さや色の鮮やかさなど耳目を引くのは当然であるが）器であろう。そう考えれば、宣教師の日常使用品が偶々唐人町の人の手に渡り、割れて廃棄されたと考えることが最も可能性が高いように思われる。

茶道具 次に、茶道具についてである。茶碗、風炉、茶入れ、花入れ、水指、香炉、真鍮製の灰匙やなどが確認されている。有機質のものを除いて茶道具としてほぼ一セットをなしているといえる。釜が無いのは土製の羽釜（茶釜）ではなく鉄製の窯が使われていたのであろう。茶碗で圧倒的に多いのが瀬戸美濃産の天目茶碗である。わずかに中国産の天目茶碗が混じる。次に多いのが朝鮮王朝産の茶碗である。いわゆる粉青沙器の印花文の茶碗1点を除けば、いずれも灰釉を掛けた口縁部が直口する斗々屋や蕎麦茶碗などと呼ばれるものである。朝鮮王朝産の茶碗は印象的にはⅡ期の中でも新しい、すなわちSD120が中程まで埋まって以後の方が出土量が多いようである。

灰匙 灰匙としたものは、過去に第5次調査区でも出土している。今回も完形1点のほか、やや破損し

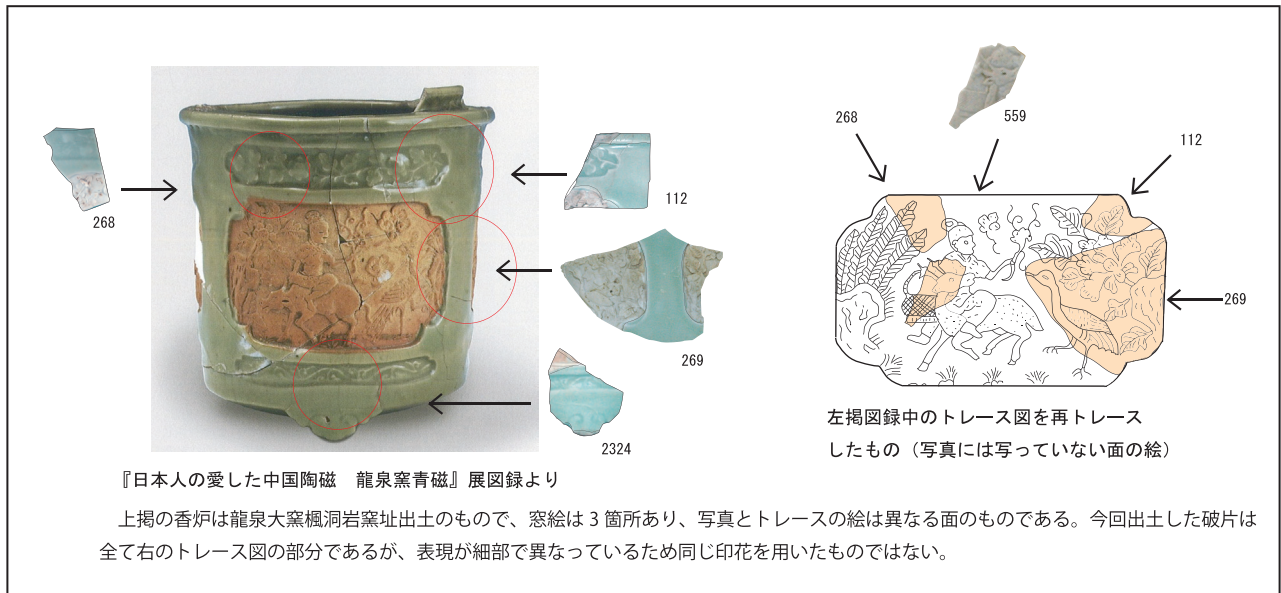
たもの1点と柄の部分1点が出土している。もともと匙は正倉院御物にあるように古代では日本でも一部で使用されていたが、中世には使われなくなり、近世になって再び利用されるようになる。しかし、中世日本でも茶道・香道・医事などでは匙が使用されていた。今回出土した匙を茶道で用いる「灰匙」としたのは、「皿」部が浅く、液体を入れるには適さないことや粉末状のものの量を量るには適さないことによる。また、香道で用いる香匙の可能性もある。材質は真鍮製で（第8章3節参照）、不純物である銀などが少ないことから、真鍮そのものの合金は中国でなされた可能性が指摘されている。技術の必要な真鍮の合金は日本では江戸時代になって作られるようになった、と言われているが、この匙が日本で製作されたものであるとしても、合金そのものは輸入品ということになる。同じ溝から出土した多量の坩堝が、滓や付着金属の分析の結果青銅の製造に使われたことがわかり、今のところ府内町でのこの時期の真鍮の製造は否定的であると言わざるを得ない。

最後に、幾つかの遺構から破片で出土した窓絵を持つ青磁香炉について、類似資料に重ねる形で、出土破片の部位を図示しておく。

真鍮

真鍮の製造

窓絵香炉



第412図 「窓絵」香炉

第7章 中世大友府内町跡第95次調査

第1節 調査の概要

中世大友府内町跡 中世大友府内町跡第95次調査区は大分県大分市錦町3丁目に所在し、標高約5.5mの沖積低地に位置する。当該調査区は『府内古図』のB類にある「称名寺」中央部の西側に相当し、称名寺及びその後の施設等に関わる遺構・遺物が想定される地点であった。

一般国道10号古国府拡幅 本章で報告する第95次調査区（第413図）については、一般国道10号古国府拡幅に伴い、国土交通省大分河川国道事務所からの委託を受け、平成23年8月4日～12月6日まで発掘調査をおこなった。調査は土地買収進捗状況から区域1と区域2を設定し、全調査面積は約180㎡である。

第2節 遺構と遺物

1 遺構の概要と基本層序

一般国道10号古国府拡幅に伴う発掘調査では、調査区を旧日本測地系に合わせ10m四方で区画している。各区画はアルファベットと数字により呼称しており、95次調査区区域1はM2区・M3区・N2区、区域2はL4区・L5区に相当する。

区域1 遺構面 区域1（第414図）は近年の造成工事に伴う客土が1m前後堆積しており、それを除去すると旧地表面が現れる。北壁土層（第416図）の観察から、標高4.4mで近世の遺構面（第1面）、標高4.2mで16世紀（第2面）の遺構面、標高4.0mで同じく16世紀（第3面）の遺構面を確認できる。溝を中心とした遺構が確認できた。

区域2 遺構面 区域2（第415図）も造成工事に伴う客土が1m前後堆積しており、それを除去すると旧地表面が現れる。東壁土層（第417図）の観察から、標高4.3m～4.4mで16世紀（第1面・第2面）の遺構面、標高4.2mで15世紀（第3面）の遺構面、標高3.9m～4.0mで15世紀以前（第4面・第5面）の遺構面をそれぞれ確認できる。第2面からは東西方向の溝、第3面からは建物跡、第5面からは井戸が確認されている。注視すべきは第3面の建物跡で、第11次調査・第80次調査・第88次調査で確認された柱穴列と遺構の方位を同じくすることから、称名寺に関する遺構とも考えられる。

建物跡



第413図 第95次調査区の位置 (1/500)

第4表 第95次調査遺構一覧表1

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP001	S001	柱穴	L5	-		-
SK002	S002	土坑	L4・L5	-	SK060と同じで同遺構として掲載	-
-	S003	-	L5	-	欠番	-
SP004	S004	柱穴	L5	不明	区域2第1面	389
SP005	S005	柱穴	L5	-		-
SP006	S006	柱穴	L5	-		-
-	S007	-	-	-	欠番	-
SK008	S008	土坑	L5	-		-
SP009	S009	柱穴	L5	-		-
-	S010	-	-	-	欠番	-
SP011	S011	柱穴	L5	-		-
SP012	S012	柱穴	L5	-		-
SP013	S013	柱穴	L5	-		-
-	S014	-	-	-	欠番	-
SP015	S015	柱穴	L5	-	SP079・SP116と同じでSP079で掲載	-
SP016	S016	柱穴	L5	-		-
SK017	S017	土坑	L4	15世紀	区域2第1面	370
SP018	S018	柱穴	L5	-		-
SP019	S019	柱穴	L5	-		-
SP020	S020	柱穴	L4・L5	-		-
SP021	S021	柱穴	L4	-		-
SP022	S022	柱穴	L5	-		-
SP023	S023	柱穴	L5	-		-
SP024	S024	柱穴	L5	-		-
SK025	S025	土坑	L5	-		-
SP026	S026	柱穴	L5	-		-
SD027	S027	溝	L5	不明	区域2第2面	380
SD028	S028	溝	L5	16世紀前葉～16世紀中葉	区域2第2面	440
SP029	S029	柱穴	L5	不明	区域2第1面	389
SD030	S030	溝	L5	-	SD035と同じで同遺構で掲載	-
SP031	S031	柱穴	L4	-		-
SP032	S032	柱穴	L4	-		-
SP033	S033	柱穴	L4	-		-
SP034	S034	柱穴	L4	-		-
SD035	S035	溝	L5	16世紀末葉	区域2第2面	377
SP036	S036	柱穴	L5	-		-
SP037	S037	柱穴	L5	不明	区域2第2面	389
SP038	S038	柱穴	L5	-		-
SP039	S039	柱穴	L5	-		-
SP040	S040	柱穴	L5	不明	区域2第1面	389
SP041	S041	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP042	S042	柱穴	L5	-		-
SP043	S043	柱穴	L5	-		-
SK044	S044	土坑	L5	-		-
SP045	S045	柱穴	L5	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
SP046	S046	柱穴	L5	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
SP047	S047	柱穴	L5	-		-
SP048	S048	柱穴	L5	-		-
SD049	S049	溝	L4	16世紀末葉	区域2第2面	372
SP050	S050	柱穴	L5	-		-
SP051	S051	柱穴	L5	不明	SB404にて掲載 区域2第3面	385
SP052	S052	柱穴	L4	-		-
SP053	S053	柱穴	L4	-		-
SP054	S054	柱穴	L4	-		-
SP055	S055	柱穴	L4	-		-

第7章 中世大友府内町跡第95次調査

第5表 第95次調査遺構一覧表2

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP056	S056	柱穴	L4	-		-
SP057	S057	柱穴	L4	不明	SB404にて掲載 区域2第3面	385
SP058	S058	柱穴	L4	-		-
SP059	S059	柱穴	L4	-		-
SK060	S060	土坑	L4・L5	16世紀末葉	区域2第1面	371
SP061	S061	柱穴	L4	不明	SB404にて掲載 区域2第3面	385
SP062	S062	柱穴	L5	-		-
SP063	S063	柱穴	L5	-		-
SP064	S064	柱穴	L5	-		-
SP065	S065	柱穴	L5	-		-
SP066	S066	柱穴	L5	-		-
SP067	S067	柱穴	L5	不明	区域2第2面	389
SP068	S068	柱穴	L4	-		-
SP069	S069	柱穴	L5	-		-
SP070	S070	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP071	S071	柱穴	L5	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
SP072	S072	柱穴	L5	不明	区域2第2面	389
SP073	S073	柱穴	L5	-		-
SK074	S074	土坑	L5	14世紀～15世紀	区域2第3面	380
-	S075	-	-	-	欠番	-
SP076	S076	柱穴	L4	-		-
SP077	S077	柱穴	L4	-		-
SP078	S078	柱穴	L5	-		-
SP079	S079	柱穴	L5	不明	SP015・SP116と同じ 区域2第2面	389
SP080	S080	柱穴	L4	-		-
SP081	S081	柱穴	L5	不明	柱穴列にて掲載 区域2第3面	382
-	S082	-	-	-	欠番	-
SP083	S083	柱穴	L5	-		-
SP084	S084	柱穴	L5	-		-
SP085	S085	柱穴	L5	-		-
SK086	S086	土坑	L5	-		-
SP087	S087	柱穴	L4・L5	-		-
-	S088	-	-	-	欠番	-
SP089	S089	柱穴	L5	14世紀～15世紀	SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP090	S090	柱穴	L5	-		-
SP091	S091	柱穴	L5	不明	SB404にて掲載 区域2第3面	385
SP092	S092	柱穴	L5	-		-
SP093	S093	柱穴	L5	-		-
SP094	S094	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
-	S095	-	-	-	欠番	-
-	S096	-	-	-	欠番	-
-	S097	-	-	-	欠番	-
SP098	S098	柱穴	L5	-		-
SP099	S099	柱穴	L5	-	SP102と同じ	-
-	S100	-	-	-	欠番	-
-	S101	-	-	-	欠番	-
SP102	S102	柱穴	L5	-	SP099と同じ	-
SK103	S103	土坑	L5	-	SK134と同じ	-
-	S104	-	-	-	欠番	-
SP105	S105	柱穴	L5	-		-
SP106	S106	柱穴	L4・L5	-		-
SP107	S107	柱穴	L5	不明	区域2第2面	390
SP108	S108	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP109	S109	柱穴	L5	-		-
SP110	S110	柱穴	L5	-		-

第6表 第95次調査遺構一覧表3

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP111	S111	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP112	S112	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP113	S113	柱穴	L5	-		-
SP114	S114	柱穴	L5	不明	SB404にて掲載 区域2第3面	385
SP115	S115	柱穴	L5	不明	柱穴列にて掲載 区域2第3面	382
SP116	S116	柱穴	L5	-	SP015・SP079と同じでSP079で掲載	-
SP117	S117	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP118	S118	柱穴	L5	-		-
SP119	S119	柱穴	L5	不明	SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP120	S120	柱穴	L5	不明	SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP121	S121	柱穴	L5	不明	SB404にて掲載 区域2第3面	385
SP122	S122	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
-	S123	-	-	-	欠番	-
SP124	S124	柱穴	L5	不明	柱穴列にて掲載 区域2第3面	382
SP125	S125	柱穴	L4	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
SP126	S126	柱穴	L4	-		-
SP127	S127	柱穴	L4	不明	柱穴列にて掲載 区域2第3面	382
-	S128	-	-	-	欠番	-
SP129	S129	柱穴	L5	不明	SB402・SB403にて掲載 区域2第3面	384
SP130	S130	柱穴	L4	不明	SB404にて掲載 区域2第3面	385
SP131	S131	柱穴	L5	-		-
SP132	S132	柱穴	L5	-		-
SD133	S133	溝	L5	14世紀～15世紀	区域2第4面	386
SK134	S134	土坑	L5	-	SK103と同じ	-
SP135	S135	柱穴	L5	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
-	S136	-	-	-	欠番	-
-	S137	-	-	-	欠番	-
-	S138	-	-	-	欠番	-
SP139	S139	柱穴	L5	不明	区域2第4面	390
-	S140	-	-	-	欠番	-
SP141	S141	柱穴	L5	-		-
SP142	S142	柱穴	L5	-		-
-	S143	-	-	-	欠番	-
-	S144	-	-	-	欠番	-
-	S145	-	-	-	欠番	-
-	S146	-	-	-	欠番	-
SP147	S147	柱穴	L5	-	SP117と同じで同遺構で掲載	-
SP148	S148	柱穴	L5	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
-	S149	柱穴	-	-	欠番	-
SP150	S150	柱穴	L5	-		-
SP151	S151	柱穴	L5	-		-
SP152	S152	柱穴	L5	-	SP162と同じ	-
SP153	S153	柱穴	L5	-		-
SP154	S154	柱穴	L4	-		-
SP155	S155	柱穴	L5	-		-
SP156	S156	柱穴	L5	-		-
-	S157	-	-	-	欠番	-
-	S158	-	-	-	欠番	-
SP159	S159	柱穴	L5	-		-
-	S160	-	-	-	欠番	-
SP161	S161	柱穴	L5	-		-
SP162	S162	柱穴	L5	-	SP152と同じ	-
SP163	S163	柱穴	L4	-		-
SP164	S164	柱穴	L4	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
-	S165	柱穴	-	-	欠番	-

第7章 中世大友府内町跡第95次調査

第7表 第95次調査遺構一覧表4

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
-	S166	-	-	-	欠番	-
SP167	S167	柱穴	L5	-		-
SP168	S168	柱穴	L5	-		-
SP169	S169	柱穴	L5	-		-
SP170	S170	柱穴	L5	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
SP171	S171	柱穴	L4	-		-
SP172	S172	柱穴	L4	-		-
SP173	S173	柱穴	L4	-		-
SP174	S174	柱穴	L4	不明	SB401にて掲載 区域2第3面	383
SP175	S175	柱穴	L5	-		-
-	S176	-	-	-	欠番	-
SK177	S177	土坑	L5	15世紀	区域2第4面	386
-	S178	-	-	-	欠番	-
-	S179	-	-	-	欠番	-
SK180	S180	土坑	L5	-		-
SE181	S181	井戸	L5	不明	区域2第5面	387
SE182	S182	井戸	L4	14世紀	区域2第5面	388
SD183	S183	溝	L4・L5	-		-
-	S184	-	-	-	欠番	-
SD185	S185	溝	L4・L5	-		-
SP186	S186	柱穴	L5	-		-
SP187	S187	柱穴	L5	-		-
SP188	S188	柱穴	L5	-		-
-	S189	-	-	-	欠番	-
SP190	S190	柱穴	N2	-		-
SP191	S191	柱穴	N2	-		-
SK192	S192	土坑	N2	-		-
SP193	S193	柱穴	N2	-		-
SP194	S194	柱穴	M2	-		-
SP195	S195	柱穴	M2	-		-
SP196	S196	柱穴	M2	-		-
SP197	S197	柱穴	M2	-		-
-	S198	-	-	-	欠番	-
SP199	S199	柱穴	M2	-		-
SP200	S200	柱穴	M2	-		-
SP201	S201	柱穴	M2	-		-
SP202	S202	柱穴	M2	-		-
SP203	S203	柱穴	M2	-		-
SP204	S204	柱穴	M2	-		-
-	S205	-	-	-	欠番	-
SP206	S206	柱穴	M2	-		-
SP207	S207	柱穴	M2	-		-
SP208	S208	柱穴	M2	-		-
SP209	S209	柱穴	M2	-		-
SP210	S210	柱穴	M2	-		-
SP211	S211	柱穴	M2	-		-
SP212	S212	柱穴	M2	-		-
SK213	S213	土坑	M2	-		-
SP214	S214	柱穴	M2	-		-
SP215	S215	柱穴	M2	-		-
SP216	S216	柱穴	M2	-		-
SK217	S217	土坑	M2	-		-
SP218	S218	柱穴	M2	-		-
SP219	S219	柱穴	M2	-		-
SP220	S220	柱穴	M2	-		-

第8表 第95次調査遺構一覧表5

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP221	S221	柱穴	M2	-		-
SP222	S222	柱穴	M2	-		-
SD223	S223	溝	M2	-		-
SK224	S224	土坑	M2	-		-
SP225	S225	柱穴	M2	-		-
SK226	S226	土坑	M2	-		-
SK227	S227	土坑	M2	-		-
SK228	S228	土坑	M3	-		-
SP229	S229	柱穴	M3	-		-
SD230	S230	溝	N2	-		-
SP231	S231	柱穴	N2	-		-
SP232	S232	柱穴	N2	-		-
SP233	S233	柱穴	M2	-		-
SP234	S234	柱穴	N2	-		-
SK235	S235	土坑	M2	不明	区域1第1面	368
SP236	S236	柱穴	M3	-		-
SP237	S237	柱穴	M3	-		-
SP238	S238	柱穴	M3	-		-
SD239	S239	溝	M3	-		-
SD240	S240	溝	N2	-		-
SD241	S241	溝	N2	不明	区域1第2面	365
SP242	S242	柱穴	N2	-		-
-	S243	-	-	-	欠番	-
-	S244	-	-	-	欠番	-
SP245	S245	柱穴	N2	-		-
SP246	S246	柱穴	N2	-		-
SP247	S247	柱穴	N2	-		-
SP248	S248	柱穴	N2	-		-
SP249	S249	柱穴	N2	-		-
SD250	S250	溝	N2	不明	区域1第2面 SD266→SD250の切り合い	365
SP251	S251	柱穴	N2	-		-
SP252	S252	柱穴	N2	-		-
SP253	S253	柱穴	N2	-		-
SP254	S254	柱穴	N2	-		-
SP255	S255	柱穴	N2	-		-
SP256	S256	柱穴	N2	-		-
SP257	S257	柱穴	N2・M3	-		-
SP258	S258	柱穴	N2	-		-
SP259	S259	柱穴	M2	-		-
SP260	S260	柱穴	M2	-		-
SP261	S261	柱穴	M2	-		-
SP262	S262	柱穴	M2	-		-
SP263	S263	柱穴	M2	-		-
-	S264	-	-	-	欠番	-
-	S265	-	-	-	欠番	-
SD266	S266	溝	N2・M2	不明	区域1第2面 SD266→SD250の切り合い	367
SP267	S267	柱穴	M2	-		-
SP268	S268	柱穴	M2	-		-
SP269	S269	柱穴	M2	-		-
SD270	S270	溝	M2	不明	区域1第2面 SD270→SD295の切り合い	367
SP271	S271	柱穴	M3	-		-
SK272	S272	土坑	M2	-		-
SP273	S273	柱穴	M2	-		-
SP274	S274	柱穴	M2	-		-
SD275	S275	溝	M2・M3	-		-

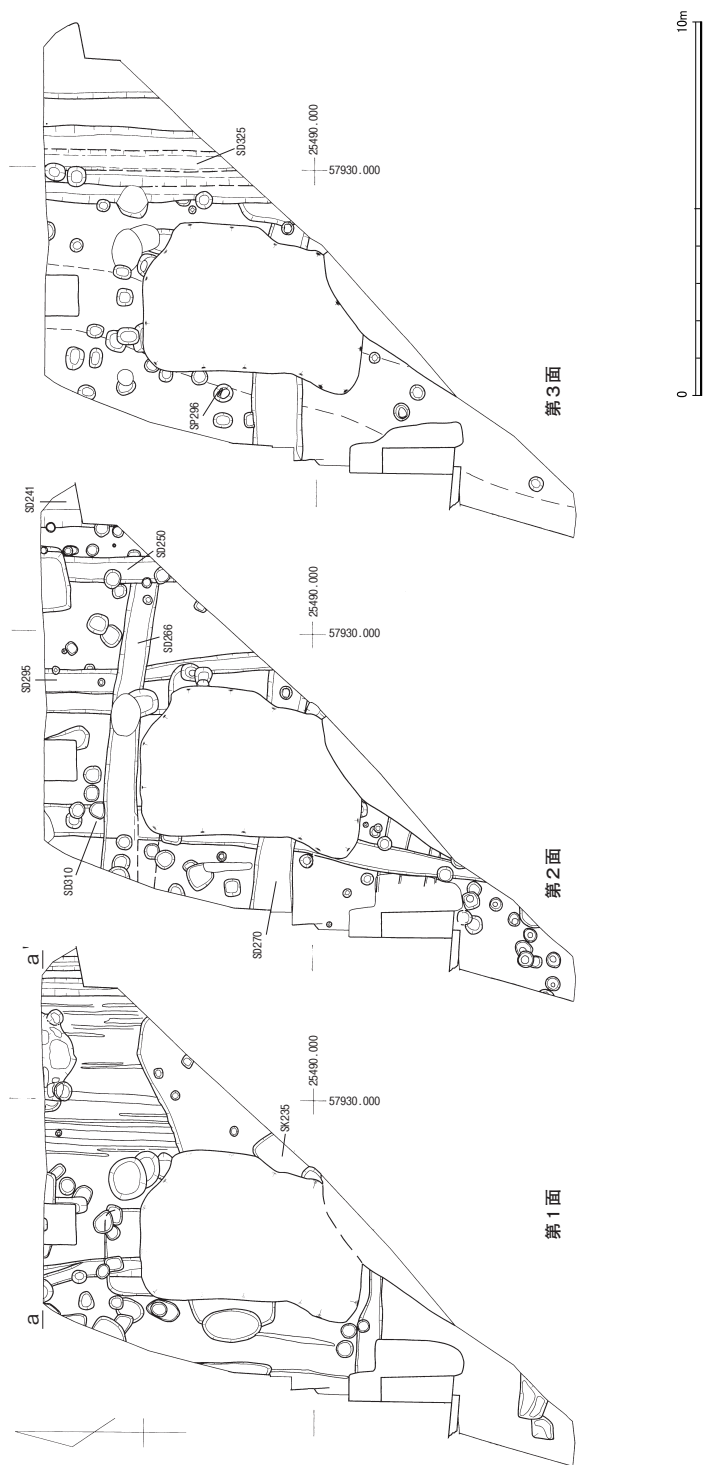
第7章 中世大友府内町跡第95次調査

第9表 第95次調査遺構一覧表6

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP276	S276	柱穴	M2	-		-
SP277	S277	柱穴	M2	-		-
SP278	S278	柱穴	M2	-		-
SP279	S279	柱穴	M2	-		-
SP280	S280	柱穴	M3	-		-
SP281	S281	柱穴	M3	-		-
SP282	S282	柱穴	M3	-		-
SP283	S283	柱穴	M2	-		-
-	S284	-	-	-	欠番	-
SP285	S285	柱穴	M3	-		-
SP286	S286	柱穴	M3	-		-
-	S287	-	-	-	欠番	-
SD288	S288	溝	M2・M3	-		-
SP289	S289	柱穴	M2	-		-
SP290	S290	柱穴	M2	-		-
SP291	S291	柱穴	M2	-	SP292と同じ	-
SP292	S292	柱穴	M2	-	SP291と同じ	-
-	S293	-	-	-	欠番	-
-	S294	-	-	-	欠番	-
SD295	S295	溝	M2	不明	区域1第2面 SD270→SD295→SD266の切り合い	365
SP296	S296	柱穴	M2	不明	区域1第3面	368
SP297	S297	柱穴	M2	-		-
SP298	S298	柱穴	M2	-		-
SP299	S299	柱穴	M3	-		-
SP300	S300	柱穴	M3	-		-
SK301	S301	土坑	M3	-		-
SP302	S302	柱穴	M3	-		-
SP303	S303	柱穴	M3	-		-
SP304	S304	柱穴	M3	-		-
SP305	S305	柱穴	M3	-		-
SP306	S306	柱穴	M3	-		-
-	S307	-	-	-	欠番	-
SP308	S308	柱穴	M3	-		-
SD309	S309	溝	M3	-		-
SD310	S310	溝	M2・M3	不明	区域1第2面 SD310→SD266・SD270の切り合い関係	365
SD311	S311	溝	M3	-		-
SP312	S312	柱穴	M3	-		-
SP313	S313	柱穴	M3	-		-
SP314	S314	柱穴	M3	-		-
SP315	S315	柱穴	M3	-		-
SP316	S316	柱穴	M3	-		-
SP317	S317	柱穴	M2	-		-
SP318	S318	柱穴	M3	-		-
SP319	S319	柱穴	M3	-		-
-	S320	-	-	-	欠番	-
-	S321	-	-	-	欠番	-
SP322	S322	柱穴	M3	-		-
SP323	S323	柱穴	M3	-		-
SP324	S324	柱穴	M2	-		-
SD325	S325	溝	N2・M2	16世紀末葉	区域1第3面	368
-	S326	-	-	-	欠番	-
SP327	S327	柱穴	M2	-		-
SP328	S328	柱穴	M2	-		-
SP329	S329	柱穴	M2	-		-
SP330	S330	柱穴	M2	-		-

第10表 第95次調査遺構一覧表7

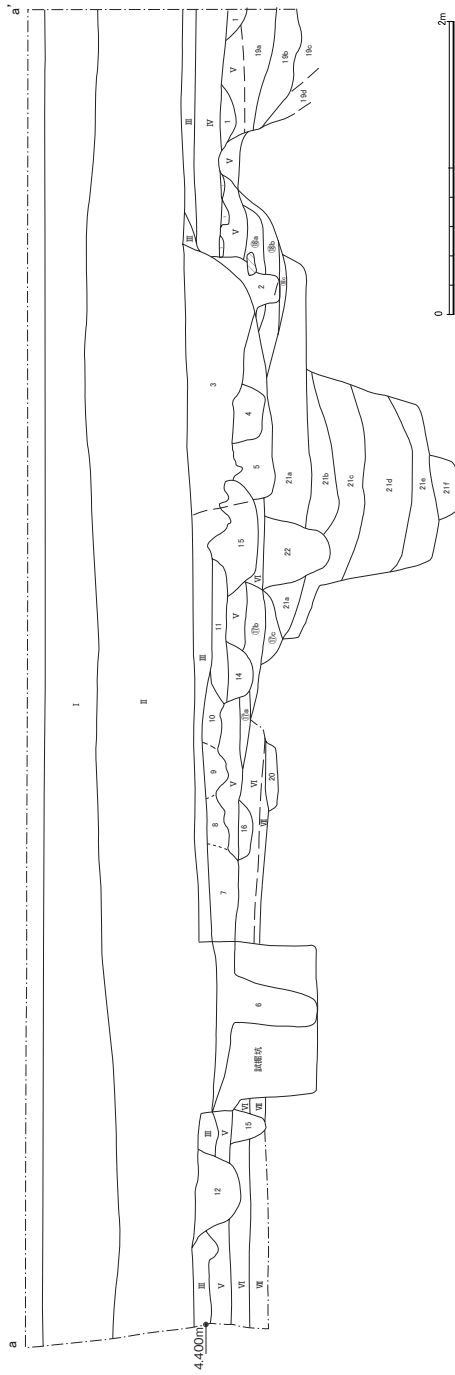
遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP331	S331	柱穴	M2	-		-
SP332	S332	柱穴	M2	-		-
SK333	S333	土坑	M2	-		-
-	S334	-	-	-	欠番	-
SP335	S335	柱穴	M2	-		-
SP336	S336	柱穴	M2	-		-
SP337	S337	柱穴	M2	-		-
SP338	S338	柱穴	M2	-		-
SP339	S339	柱穴	M2	-		-
SP340	S340	柱穴	M2	-		-
-	S341	-	-	-	欠番	-
SP342	S342	柱穴	M2	-		-
-	S343	-	-	-	欠番	-
-	S344	-	-	-	欠番	-
-	S345	-	-	-	欠番	-
-	S346	-	-	-	欠番	-
SP347	S347	柱穴	M2	-		-
-	S348	-	-	-	欠番	-
SP349	S349	柱穴	M2	-		-
SP350	S350	柱穴	M2	-		-
SK351	S351	土坑	M2	-		-
SP352	S352	柱穴	M2	-		-
SP353	S353	柱穴	M2	-		-
SP354	S354	柱穴	M2	-		-
SK355	S355	土坑	M2	-		-
SP356	S356	柱穴	M2	-		-
SP357	S357	柱穴	M2	-		-
SP358	S358	柱穴	M2	-		-
SP359	S359	柱穴	M2	-		-
SP360	S360	柱穴	M2	-		-
SP361	S361	柱穴	M2	-		-
SP362	S362	柱穴	M2	-		-



第414図 中世大友府内町跡第95次発掘調査区 区域1遺構配置図 (1/200)

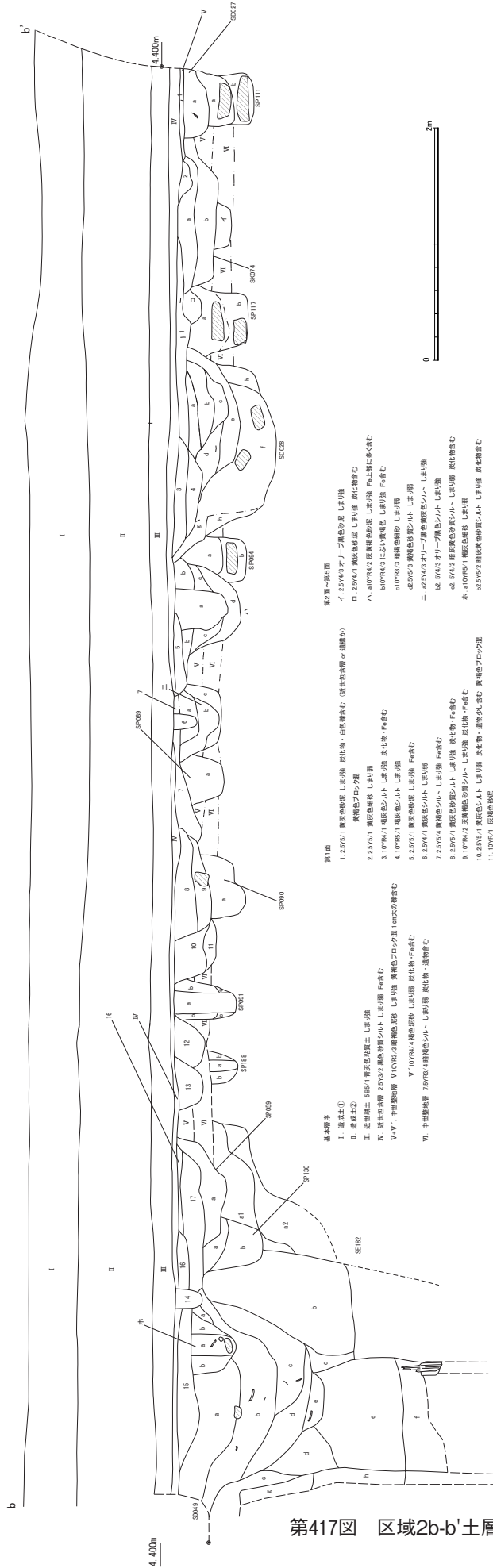


第415図 中世大友府内町跡第95次発掘調査区 区域2遺構配置図 (1/200)



- 基本層序
- I. 造成土①
 - II. 造成土②
 - III. 近世粘土①
 - IV. 近世粘土②
 - V. 近世粘層
 - VI. 中世粘層①
 - VII. 中世粘層②
- 第1面
1. 10YR5/1 褐色色砂質シルト しまり強
 2. 10YR3/2 黒褐色細砂 しまり強 白色細砂層 遺物含む
 3. 2.5Y5/1 黄褐色細砂 しまり強 白色細砂層 しまり強
 4. 10YR3/4 暗褐色細砂 しまり強 褐色細砂層 遺物含む
 5. 2.5Y5/1 黄褐色細砂 しまり強
 6. 10YR7/2 に近い黄褐色砂質シルト～細砂 しまり強
 7. 10YR4/1 褐色色シルト しまり強 褐色細砂層 遺物含む
 8. 10YR4/1 褐色色シルト しまり強 褐色細砂層 遺物含む
 9. 10YR4/1 褐色色シルト しまり強 白色細砂層
 10. 10YR4/1 褐色色シルト しまり強 褐色細砂層 遺物含む
 11. 2.5Y3/2 暗オリーブ褐色細砂 しまり強 褐色細砂層 遺物含む
 12. 2.5Y4/1 黄褐色粘土 しまり強 (SD310)
 13. 消滅土層
- 第2面
14. 10YR3/4 暗褐色細砂 しまり強 (SD395)
 15. 10YR3/4 暗褐色細砂 しまり強 少し赤みを帯びる (黄褐色ブロック面より)
 16. 10YR5/2 灰褐色砂質シルト しまり強
 17. a) 10YR4/2 灰褐色シルト しまり強
b) 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルト しまり強
c) 10YR4/3 に近い黄褐色細砂 しまり強
 18. a) 10YR5/1 褐色色シルト しまり強 褐色細砂層 遺物・鉄分含む
b) 10YR3/1 黒褐色細砂 しまり強
c) 10YR3/1 黒褐色粘土 しまり強 褐色細砂層 遺物
 19. a) 10YR5/2 灰褐色砂質シルト しまり強 (SD241)
b) 10YR3/2 黒褐色細砂 しまり強 褐色細砂層 遺物 (SD241)
c) 10YR3/2 黒褐色粘土 しまり強 (SD241)
d) 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまり強 (SD241)
- 第3面
20. 2.5Y5/2 暗褐色細砂 しまり強
 21. a) 10YR5/2 灰褐色シルト しまり強 褐色細砂層 遺物多く含む (SD325)
b) 2.5Y5/2 暗褐色細砂質シルト しまり強 褐色細砂層 遺物多く含む (SD325)
c) 5Y4/1 灰褐色細砂 しまり強 褐色細砂層 遺物多く含む (SD325)
d) 5Y4/2 灰オリーブ砂質シルト 遺物 (灰多く出土) (SD325)
e) 5Y4/4 暗オリーブ砂質シルト 遺物 (灰多く出土) (SD325)
f) 2.5Y4/1 黄褐色粘土 しまり強 遺物 (灰多く出土) (SD325)
 22. 10YR2/3 黒褐色細砂 しまり強

第416図 区域1a-a'土層図 (1/50)



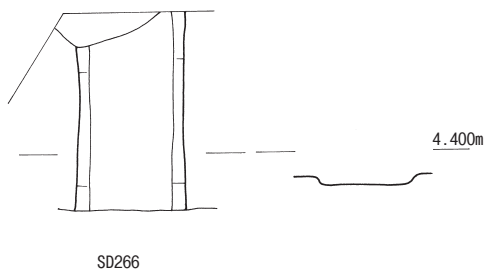
第417図 区域2b-b'土層図 (1/50)

2 区域1第2面の遺構・遺物

(1) 溝

SD310 (第418図)

調査区西側を南北に縦断する溝で、全長11.63m、幅0.82m、深さ0.06mである。遺構はSD266とSD270に切られ、調査区外に続くが、その性格は不明である。



SD241 (第419図)

調査区東端を南北に縦断する溝と考えられ、全長2.01m、幅1.11m以上、深さ0.51m以上である。遺構は調査区が狭小であったため完掘できていない。SD241は調査区外に続くが、土坑等、他の形態の遺構の可能性もある。

出土遺物は第422図に示した。

龍泉窯系瓶

1は龍泉窯系の瓶の底部である。

SD250 (第420図)

調査区東側を南北に縦断する溝と考えられ、全長2.78m、幅0.72m、深さ0.10mである。遺構はSD266を切り、調査区外に続くが、その性格は不明である。

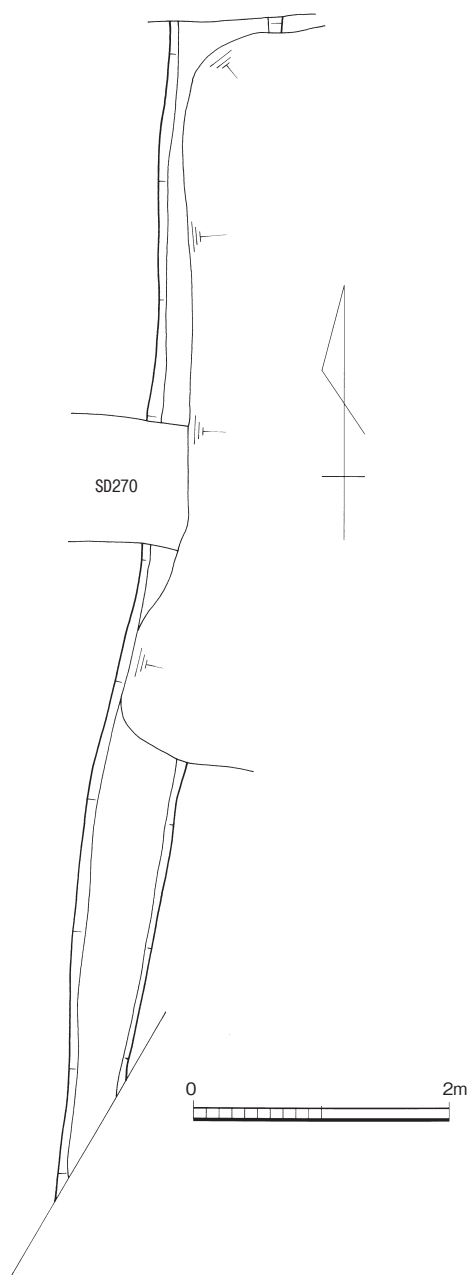
出土遺物は第422図に示した。

備前焼

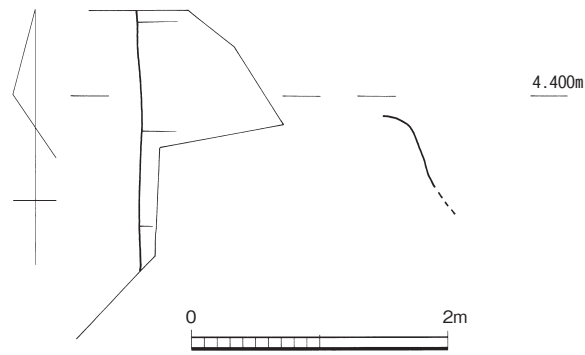
2は備前焼の瓶(徳利)の底部である。3は軒平瓦で、唐草文が確認できる。4は平瓦片で、内外面ともに撫で調整を確認できる。

SD295 (第421図)

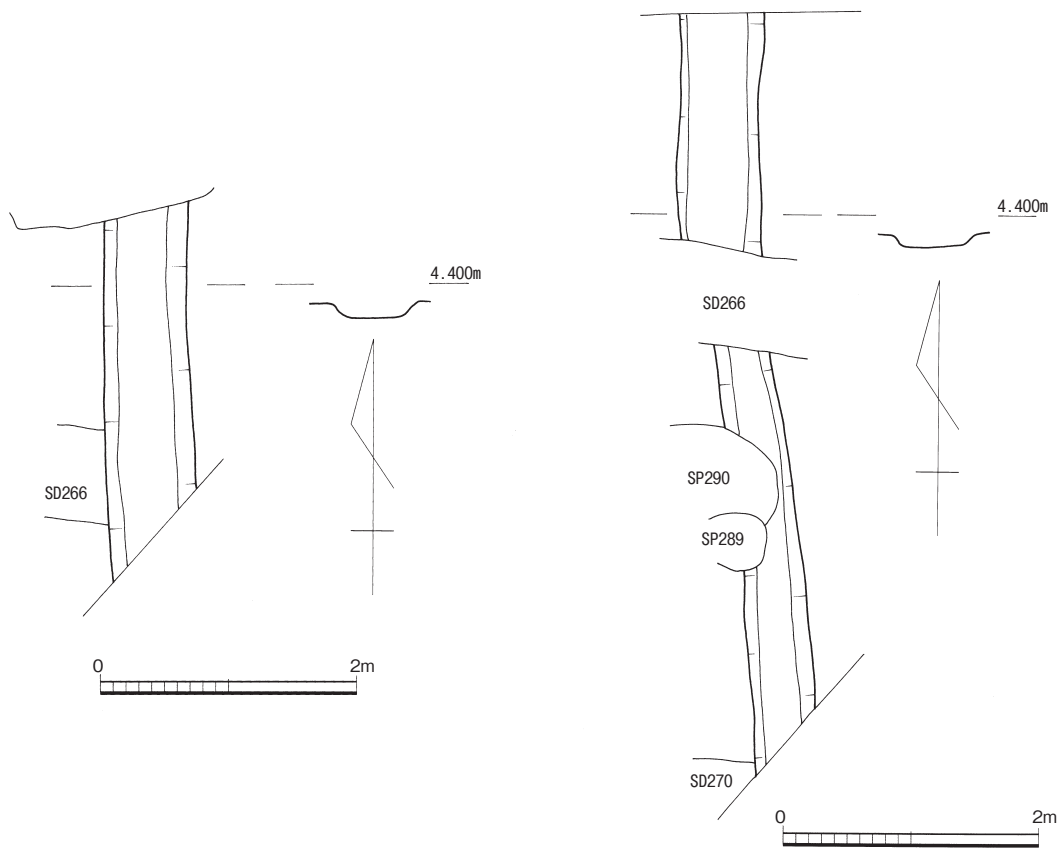
調査区中央を南北に縦断する溝で、全長5.97m、幅0.66m、深さ0.10mである。遺構はSD266・SP289・SP290に切られ、SD270を切り、調査区外に続くが、その性格は不明である。



第418図 SD310実測図(1/60)

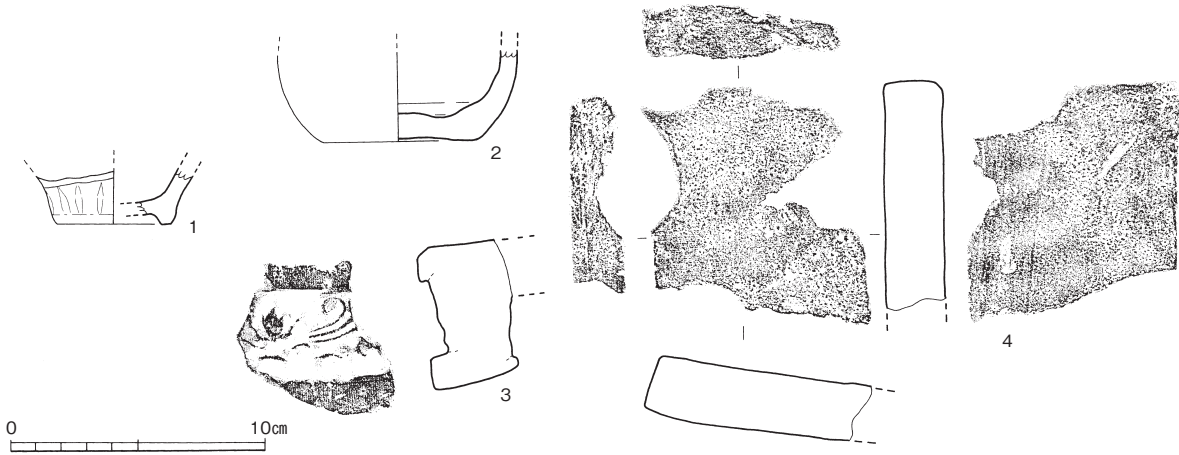


第419図 SD241実測図 (1/60)



第420図 SD250実測図 (1/60)

第421図 SD295実測図 (1/60)



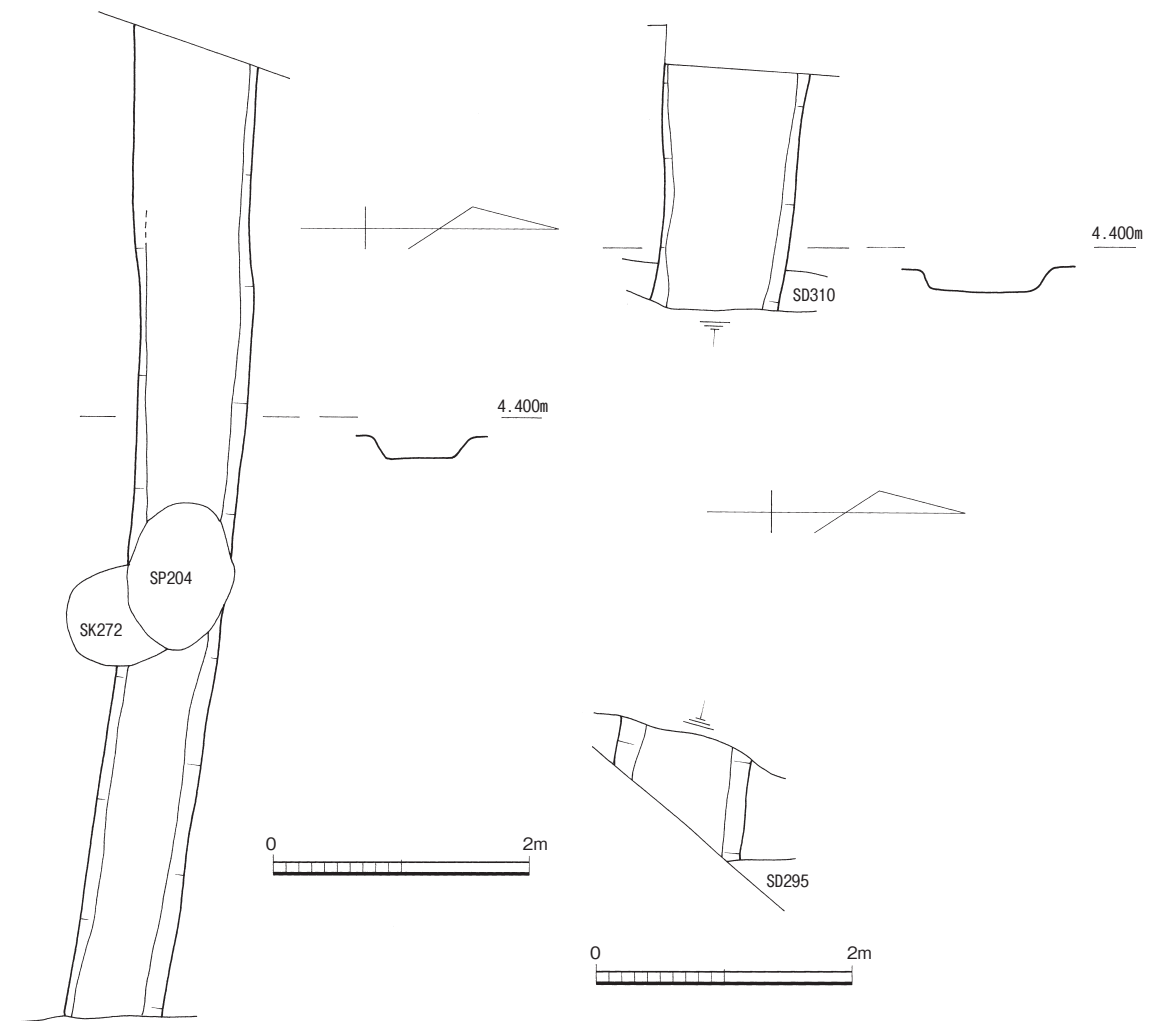
第422図 SD241・SD250出土遺物 (1/3)

SD266(第423図)

調査区北側を東西に横断する溝で、全長7.67m、幅0.90m、深さ0.15mである。遺構はSP204・SK272に切られており、調査区外に続くが、その性格は不明である。

SD270(第424図)

調査区中央を東西に横断する溝で、全長6.07m、幅1.13m、深さ0.19mである。遺構はSD295に切られ、第88次調査SD004につながる可能性があるが、その性格は不明である。



第423図 SD266実測図 (1/60)

第424図 SD270実測図 (1/60)

3 区域1第3面の遺構・遺物

(1) 溝

SD325(第425図)

調査区東側を南北に縦断する溝と考えられ、全長5.71m、幅1.85m、深さ1.21mである。断面の形状は階段状になっているが、土層観察(第416図)から遺構の再掘削の痕跡は確認できない。溝は調査区外に続くが、その性格は不明である。

瀬戸美濃
天目茶碗

出土遺物は第426図に示した。5・6は瀬戸美濃産の天目茶碗である。7は備前焼の播鉢である。8は非ロクロ系の京都系土師器の皿である。9は銅銭で銭貨名は不明である。遺構は出土遺物から、16世紀末葉のものと考えられる。

4 区域1のその他の出土遺物(第427図)

(1) 柱穴

SP296の出土遺物を10で図示した。遺物は古代の移動式竈の焚口部分で、内面には同心円叩きが残る。

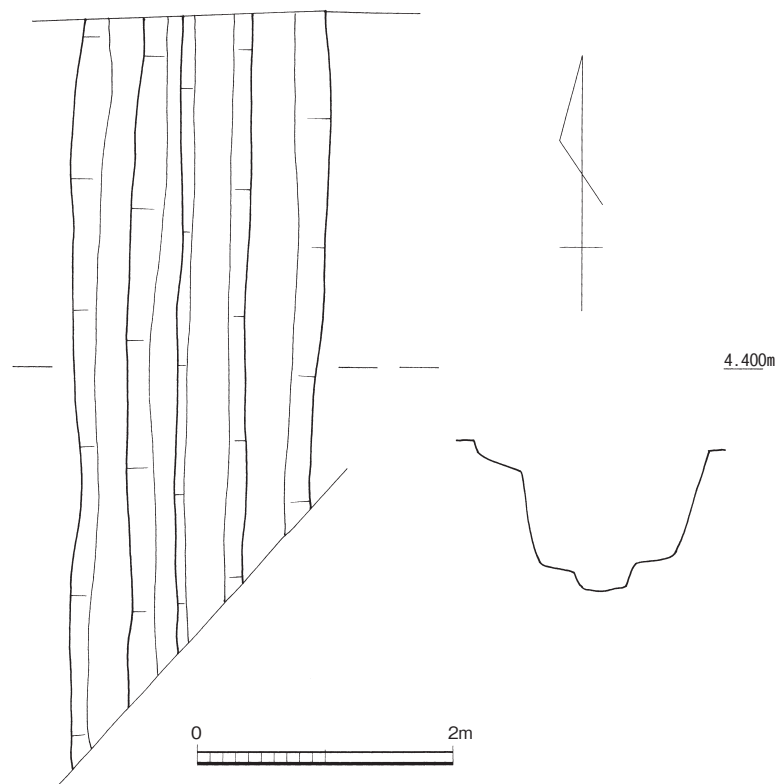
(2) 土坑

青釉陶器

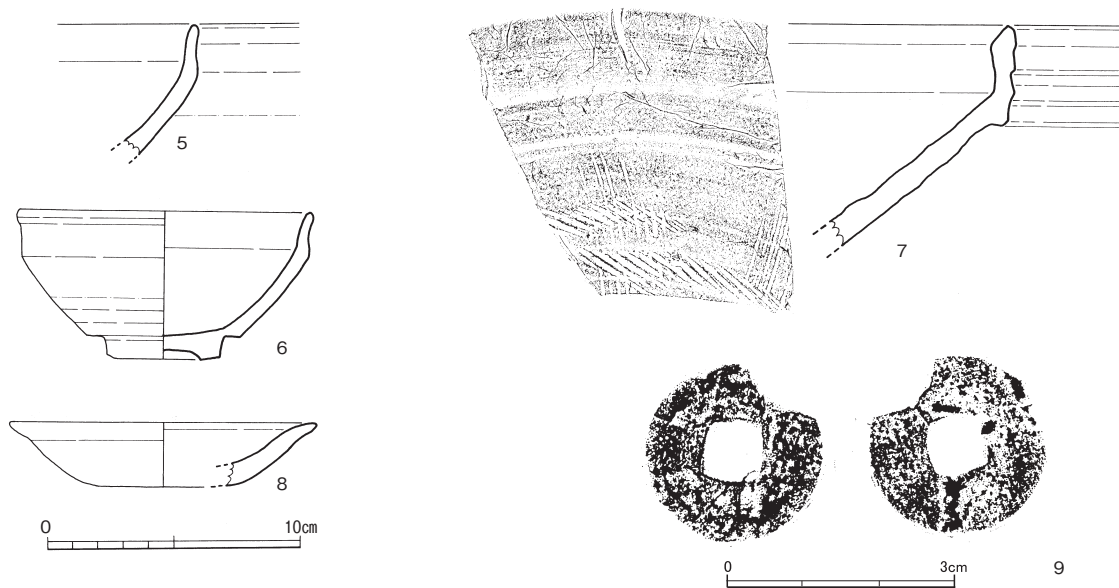
SK235の出土遺物を11で図示した。遺物は中国産の青釉陶器の小皿である。

(3) 包含層

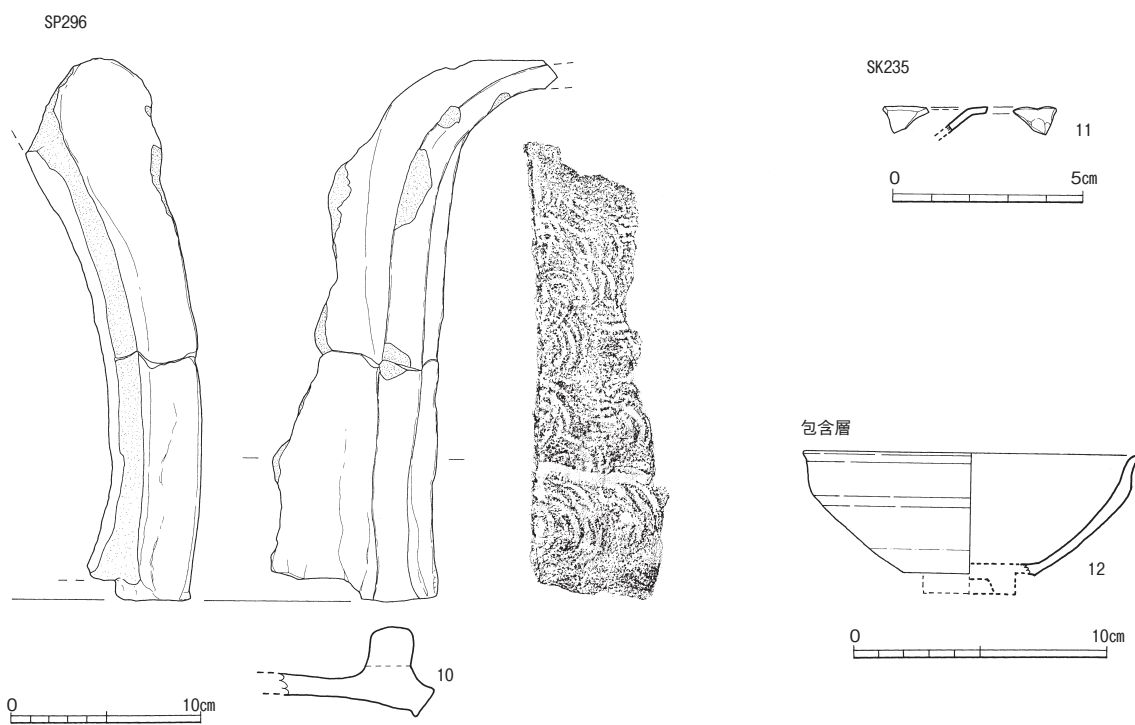
区域1第2面(第417図のVI層)の出土遺物を12で図示した、瀬戸美濃産の天目茶碗である。



第425図 SD325実測図(1/60)



第426図 SD325出土遺物 (1/1, 1/3)



第427図 SP296・SK235出土遺物及び一括出土遺物 (1/2, 1/3, 1/4)

5 区域2第1面・第2面（16世紀）の遺構・遺物

(1) 土坑

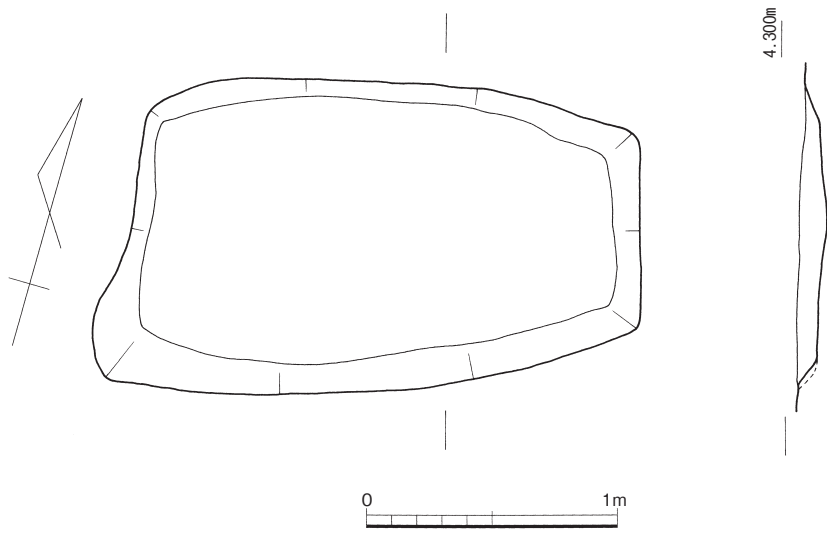
SK017(第428図)

区域2第1面で確認された土坑である。遺構は調査区の北側にあり、平面形態は歪な長方形を呈する。規模は長軸2.11m、短軸1.18m、深さ0.12mである。土坑からは比較的多くの遺物が出土したが、図化できるものは以下の遺物のみである。

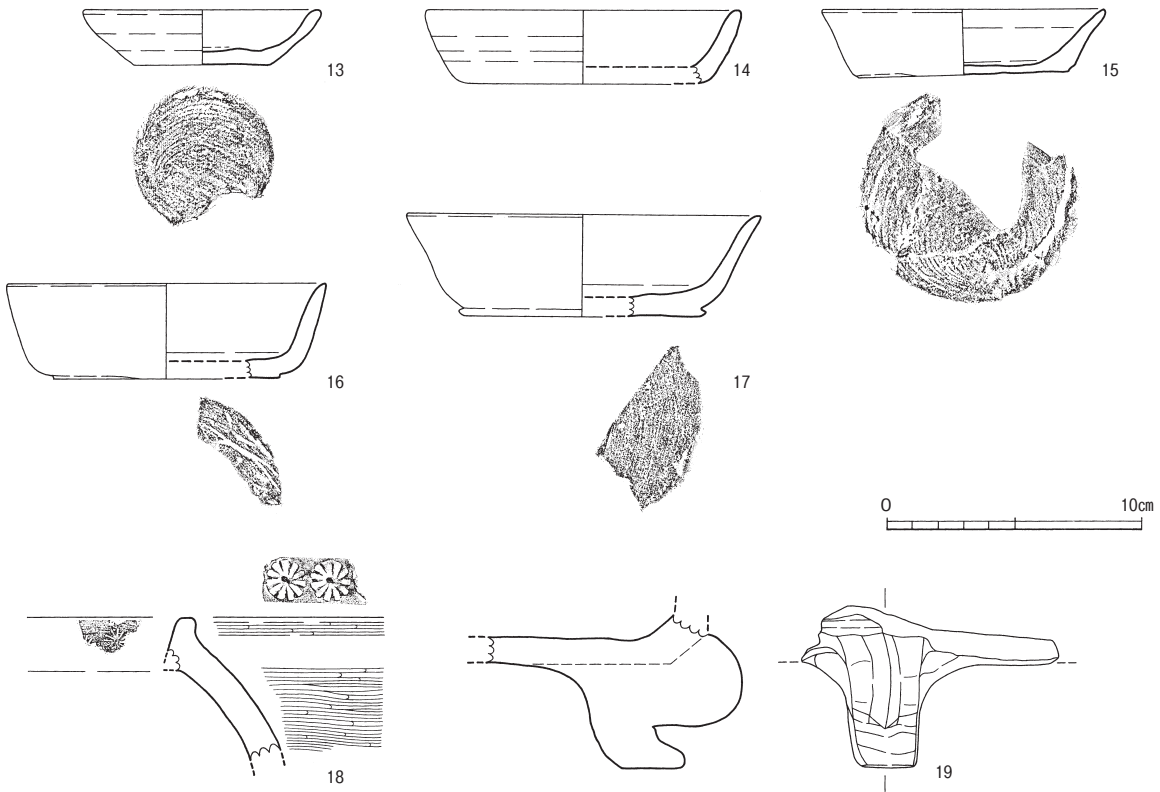
出土遺物は第429図に示した。13~17は在地系土師器の皿と坏である。13の口唇部には煤が厚く付着している。18は瓦質土器の風炉または火鉢で、口唇部に菊花文が押印されている。19は瓦質土器の火鉢の脚で、撫で調整されている。

遺構は出土遺物から、15世紀のものと考えられる。

瓦質土器
風炉



第428図 SK017実測図 (1/40)



第429図 SK017出土遺物 (1/3)

SK060(第430図)

区域2第1面で確認された土坑で、調査区の北西隅にある。平面形態は長楕円形で、規模は長軸6.04m、短軸1.18m、深さ0.82mである。遺構は第88次調査SK100と同一である。

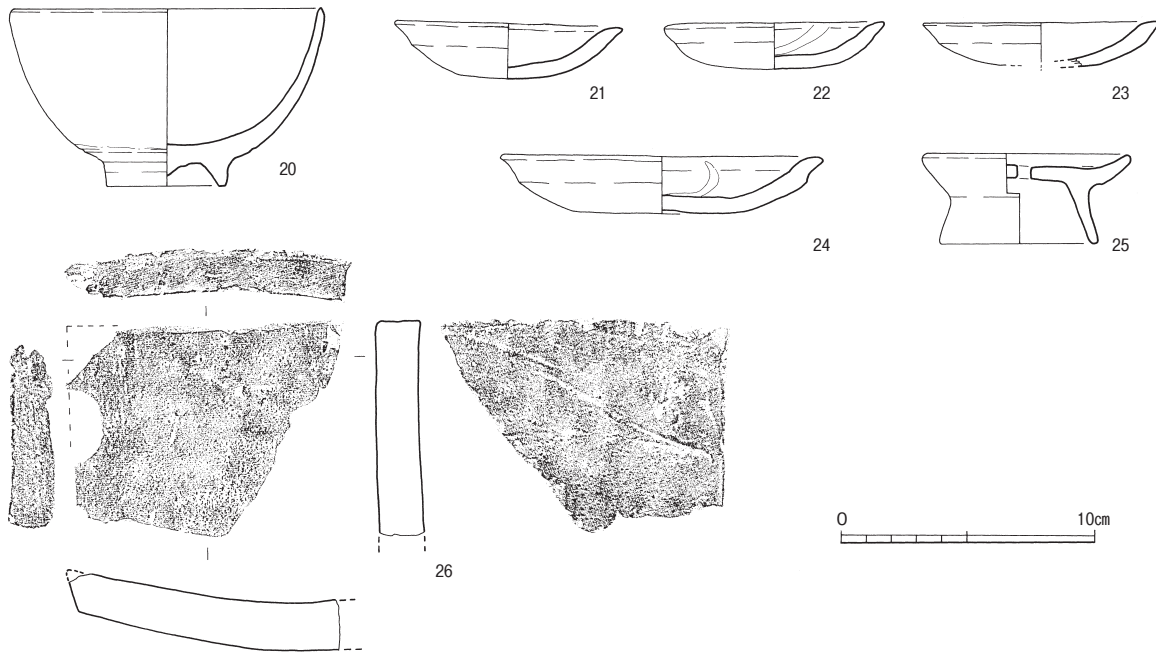


第430図 SK060実測図 (1/30)

唐津焼
燭台

SK060の出土遺物は第431図に示した。土坑からは比較的多くの遺物が出土したが、図化できるものは以下の遺物のみである。20は唐津焼の碗である。21～24は京都系土師器の皿で、21と22の口唇部には数か所にわたり煤の付着がみられる。25は燭台で、内外面ともに撫で調整が確認でき、皿部の底部には穿孔を有する。穿孔部に棒を差し込み、蠟燭を立てる燭台と考えられる。26は平瓦片で、内外面ともに撫で調整が確認できる。

遺構は出土遺物から、16世紀末葉のものと考えられる。



第431図 SK060出土遺物 (1/3)

(2) 溝

SD049(第432図)

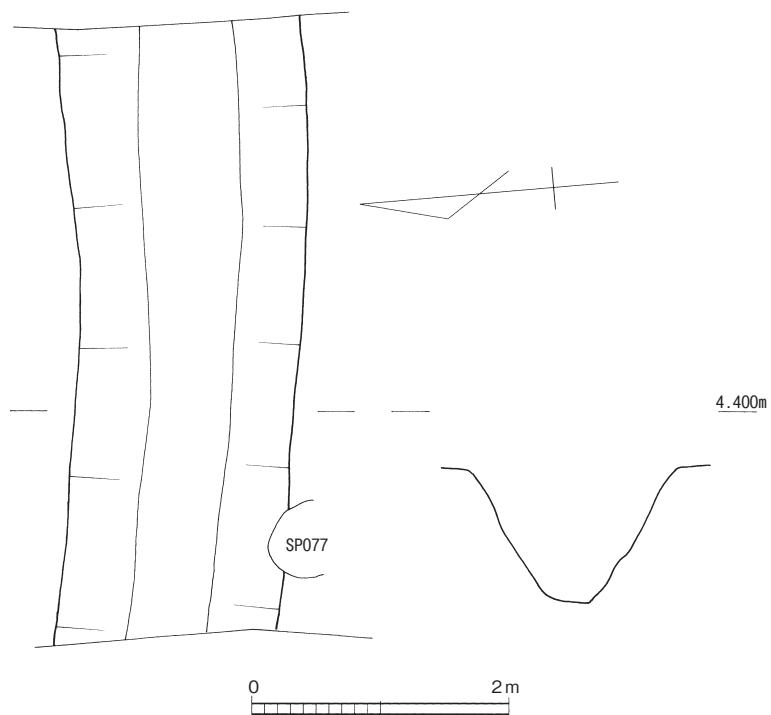
区域2第2面で確認された溝である。調査区北端を東西に横断すると考えられ、SP007に切られる。規模は全長4.75m、幅1.85m、深さ1.03mである。土層観察(第417図)から遺構の明瞭な再掘削の痕跡は確認できない。遺構は第88次調査SD185と同一で、95次調査SD049と88次調査SD185を合わせた全長は約15mとなる。

青磁香炉

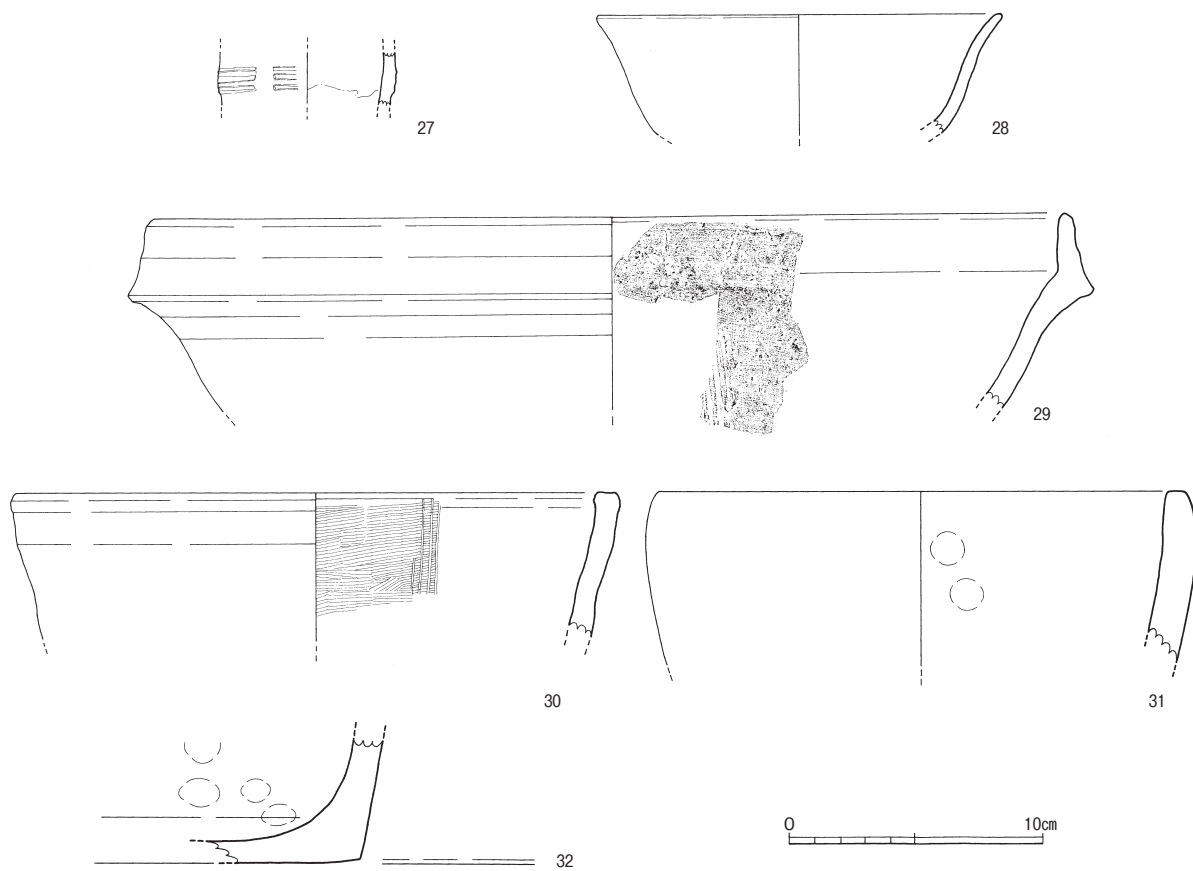
出土遺物は第433図～第436図に示した。27は中国産青磁の香炉の胴部と考えられる。28は中国産の白磁碗である。29は備前焼の播鉢である。30・31は瓦質土器の土鍋である。32は瓦質土器の鉢の底部と考えられる。33～64は在地系土師器で33～37は皿、38～64は坏である。38・39は口径が7cm前後で、40の口径は11cm、他の口径は13cm前後となる。口縁部の形態をみると45などの尖るタイプ、60などの平均的な厚さのタイプ、61などの口縁部が外反するタイプなどがある。在地系土師器が多数出土しているが、SD049北隣の88次調査区内には、同様の在地系土師器を含む遺構が点在することから、これらの遺構からの混入と考えられる。65・66は京都系土師器の皿で、65の口径は12.4cm、66の口径は13.8cm前後である。67は丸瓦で、外面は縄目叩きで調整されており、内面には吊り紐の痕跡が確認できる。68～70は銅銭で、68は北宋の「祥符元寶」(初鑄年1008年)である。69は北宋の「嘉祐通寶」(初鑄年1056年)である。70の銭貨名は不明である。

京都系土師器

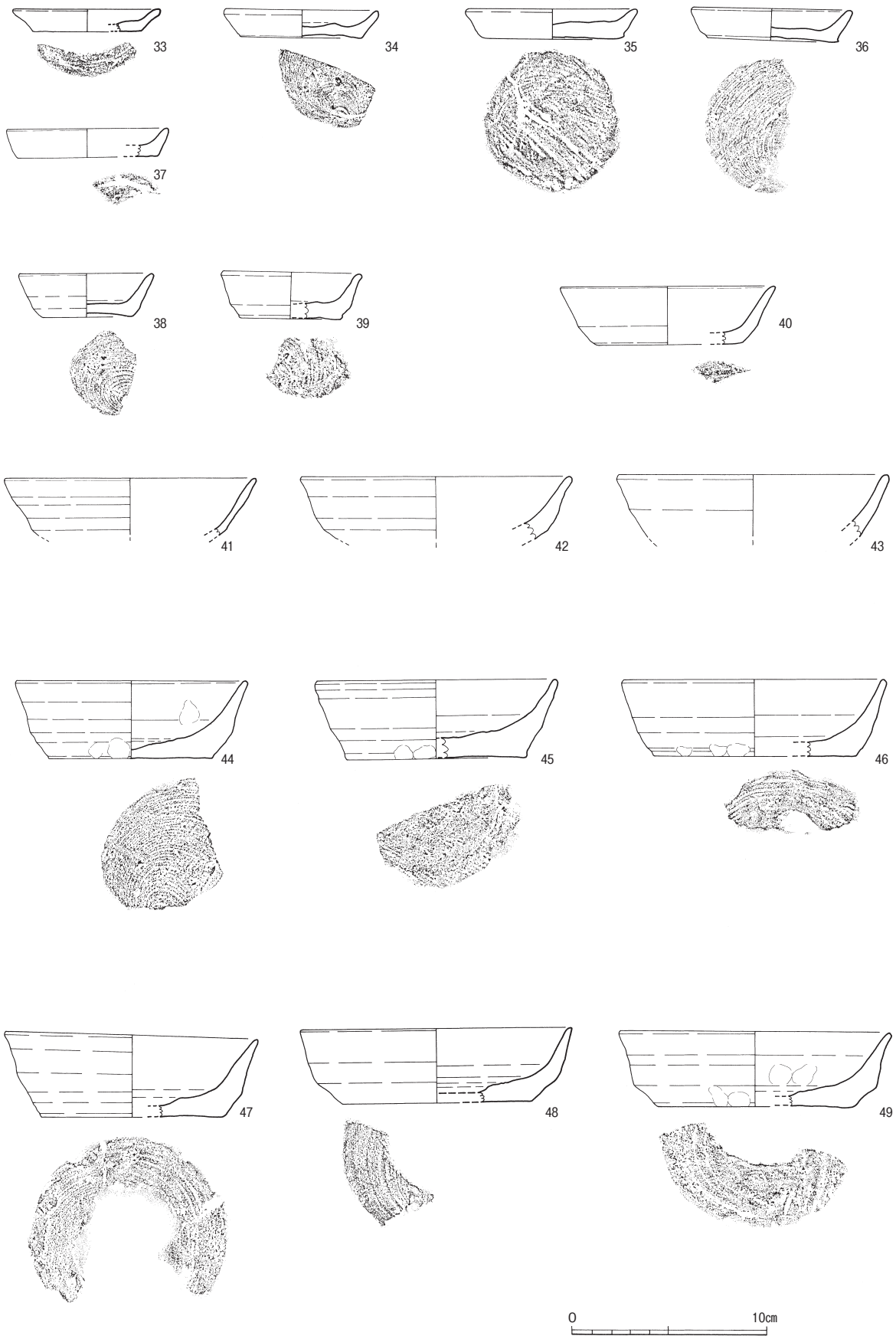
遺構は出土遺物から、16世紀末葉のものと考えられる。



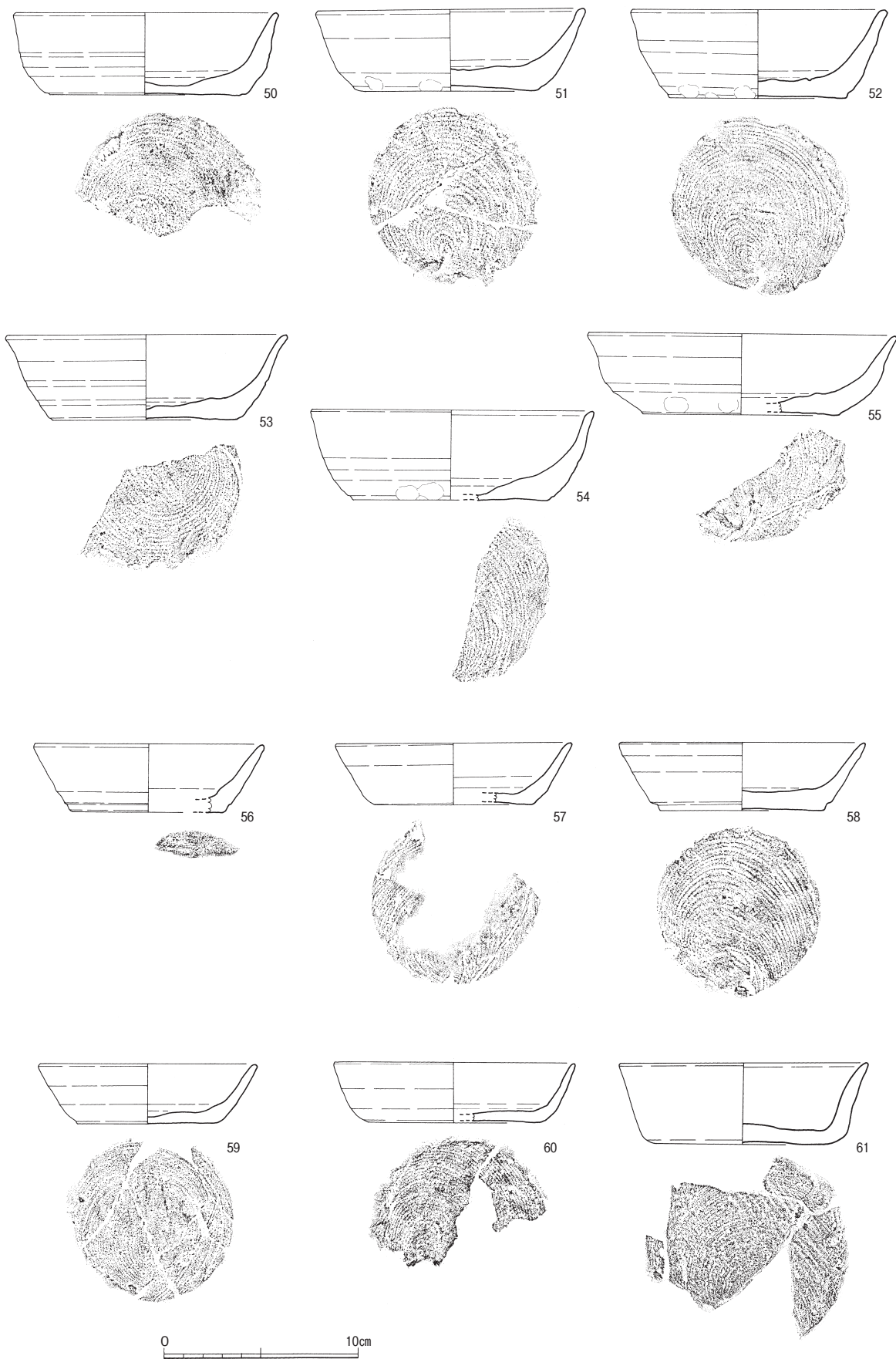
第432図 SD049実測図 (1/60)



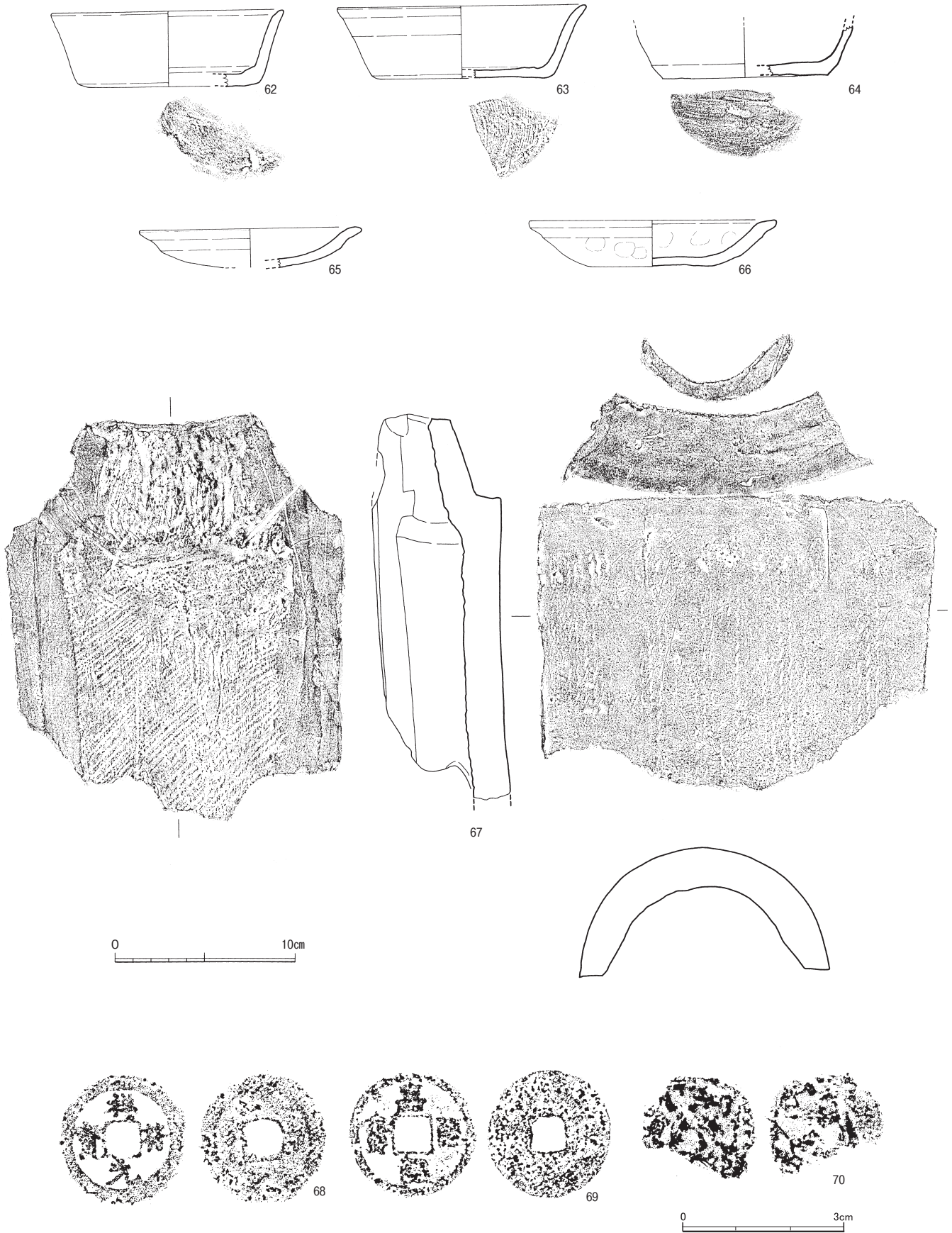
第433図 SK049出土遺物① (1/3)



第434図 SD049出土遺物② (1/3)



第435図 SD049出土遺物③ (1/3)



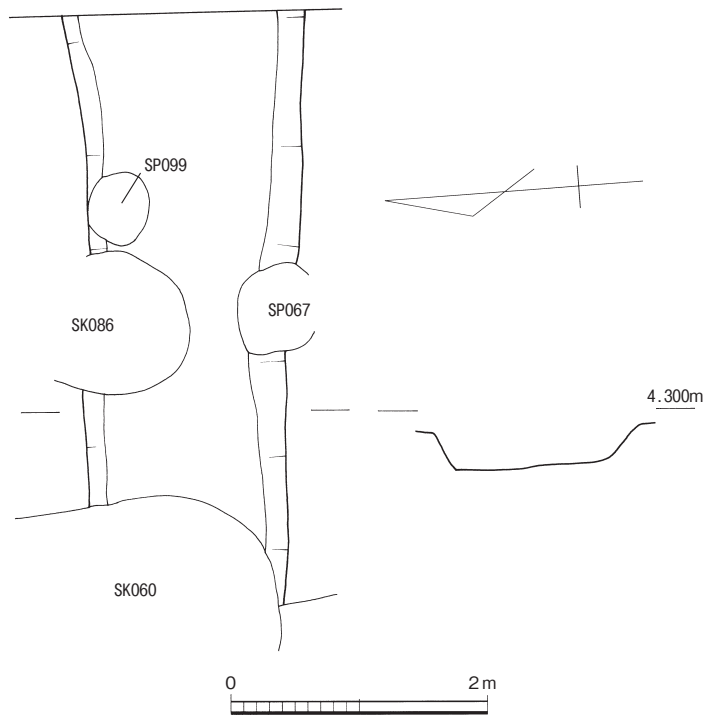
第436図 SD049出土遺物④ (1/1,1/3)

SD035(第437図)

区域2第2面で確認された溝である。調査区中央部を東西に横断すると考えられ、SK060・SP067・SP086・SP009に切られる。規模は全長4.63m、幅1.87m、深さ0.29mである。

出土遺物は第438図・第439図に示した。71は中国産の黒釉陶器の香炉と考えたい。外面は黒色に施釉されるが、外面底部は露胎している。72は瓦質土器の土鍋である。73~75はロクロ目土師器の皿である。76は朝鮮王朝の象嵌青磁の瓶の一部と考えられる。77は備前焼の播鉢である。78は中国産の天目茶碗である。79は瓦質土器の風炉である。80は瓦質土器の播鉢である。81は在地系土師器の皿、82は在地系土師器の坏で、内外面に煤が付着する。83・84は京都系土師器の皿と坏である。

遺構は出土遺物から、16世紀末葉のものと考えられる。

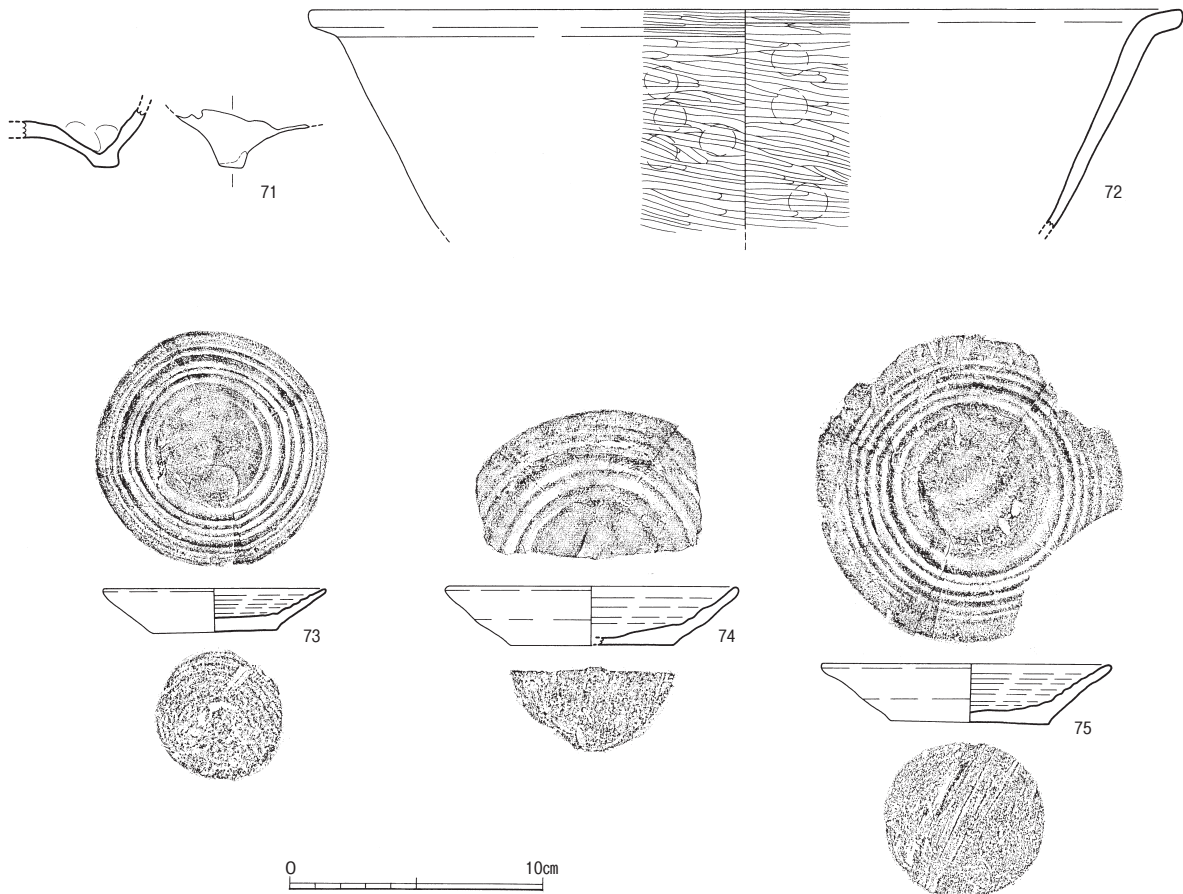


第437図 SD035実測図 (1/60)

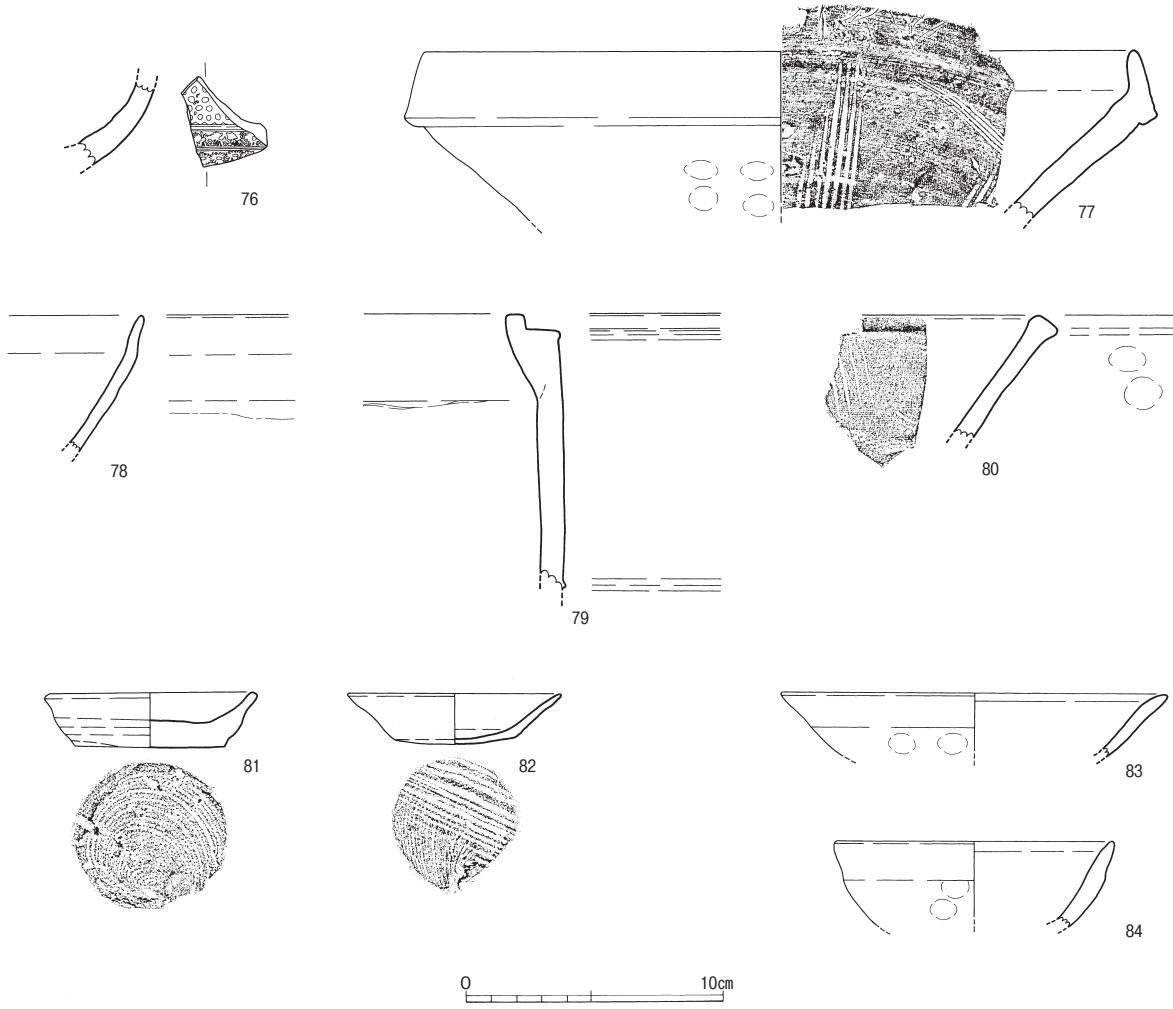
黒釉陶器
香炉

朝鮮王朝
象嵌青磁

瓦質土器
風炉



第438図 SD035出土遺物① (1/3)



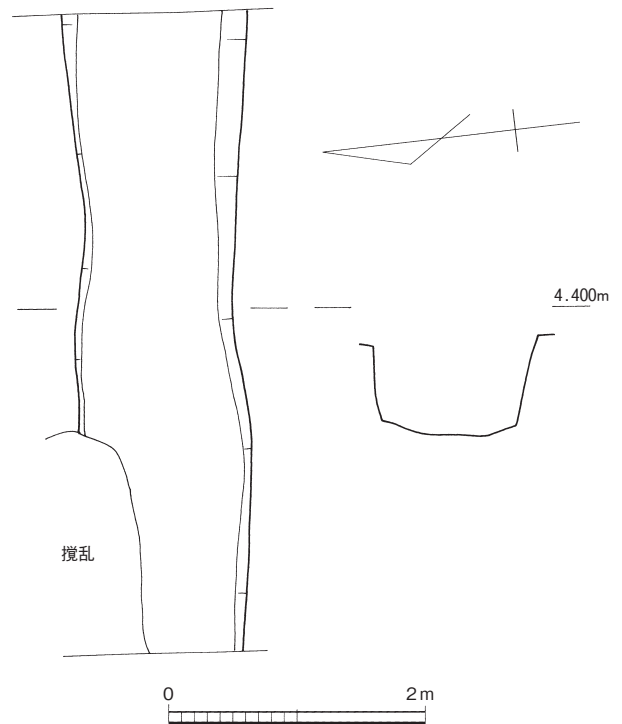
第439図 SD035出土遺物② (1/3)

SD028(第440図)

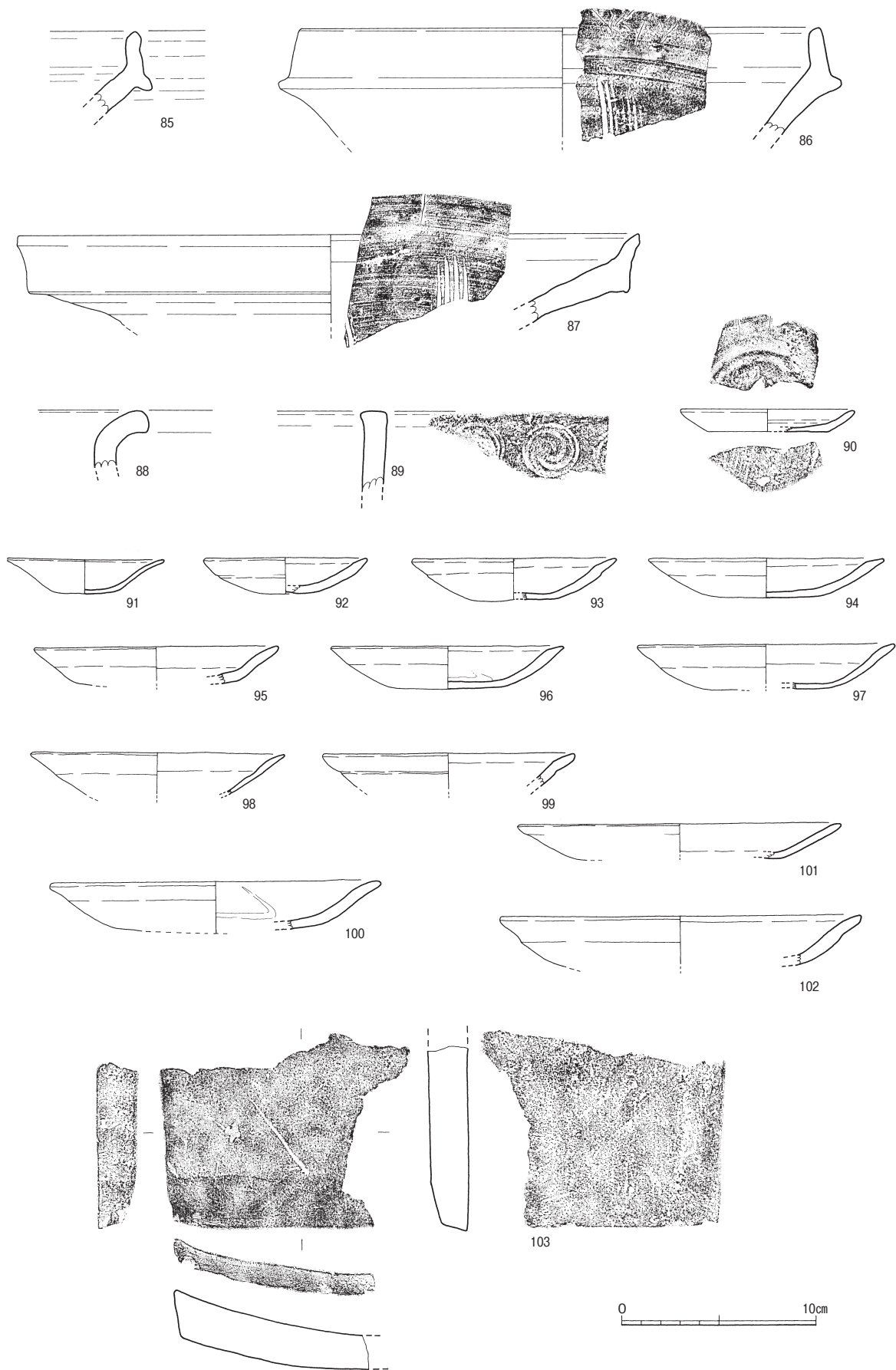
区域2第2面で確認された溝である。調査区南側を東西に横断すると考えられ、SK003に切られる。規模は全長4.94m、幅1.44m、深さ0.82mである。

出土遺物は第441図に示した。85~87は備前焼の播鉢である。88は瓦質土器の甕と考える。89は瓦質土器の火鉢で、巴文がある。90~102は京都系土師器の皿である。90~92の口径は8cm前後、93の口径は10.4cm、94~96の口径は12cm前後、97~99の口径は13cm前後、100・101の口径は16cm前後、102の口径は18.4cmとなる。93の口唇部には煤の付着が確認できる。103は平瓦で、内外面とも撫で調整が確認できる。

遺構は出土遺物から、16世紀前葉から16世紀中葉のものと考えられる。



第440図 SD028実測図 (1/60)

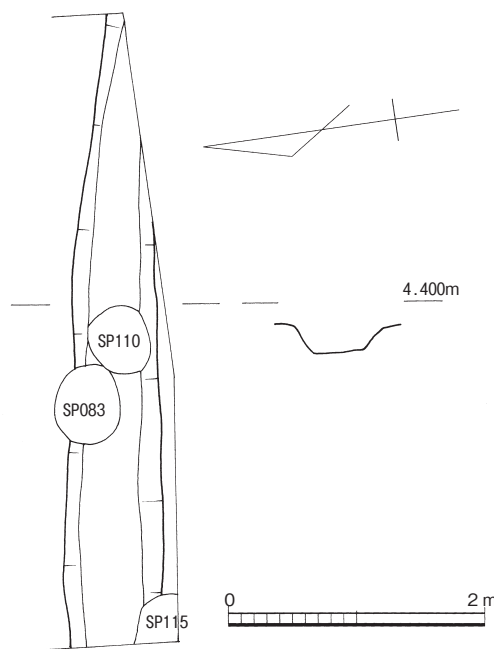


第441図 SD028出土遺物 (1/3)

SD027(第442図)

区域2第2面で確認された溝である。調査区南端を東西に横断すると考えられ、SP083・SP110・SP115に切られる。規模は全長4.82m、幅0.76m、深さ0.22mである。

出土遺物は第443図に示した。104は土師質土器の火鉢である。



第442図 SD027実測図 (1/60)

6 区域2第3面 (15世紀) の遺構・遺物

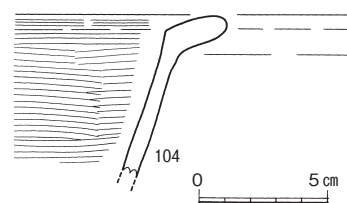
(1) 土坑

SK074(第444図)

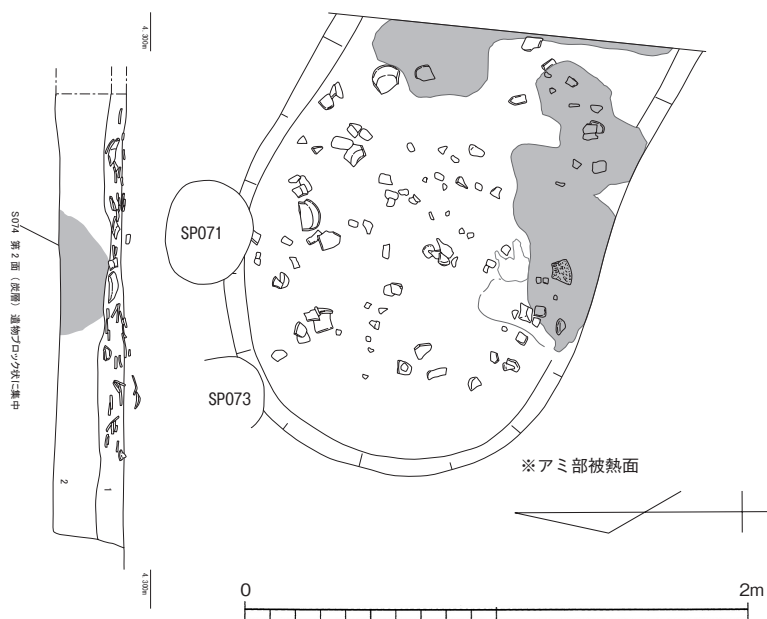
区域2第3面で確認された土坑で、遺構は調査区の南端にある。平面形態は不整形な楕円形を呈し、SP071・SP073に切られる。規模は長軸1.85m以上、短軸1.28m、深さ0.26mである。土坑内には被熱面・焼土ブロック集中部が確認できた。遺構からは比較的多くの遺物が出土したが、図化できるものは以下の遺物のみである。

出土遺物は第445図・第446図に示した。105は瓦質土器の土鍋または火鉢である。106・107は在地系土師器の坏である。107は磨滅が著しい。108～115は在地系土師器の皿である。116～126は在地系土師器の坏である。

遺構は出土遺物から、14世紀から15世紀のものと考えられる。

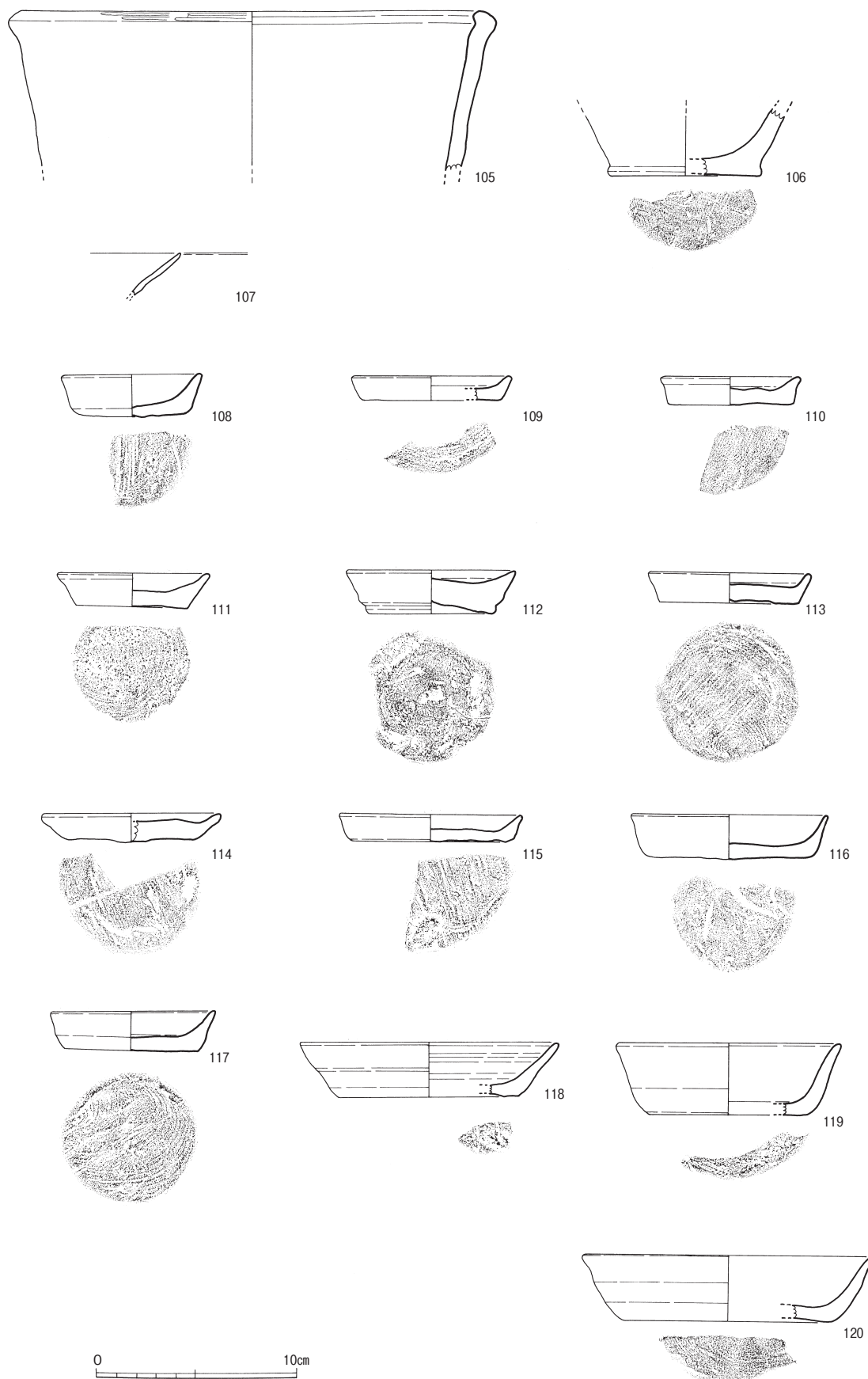


第443図 SD027出土遺物 (1/3)

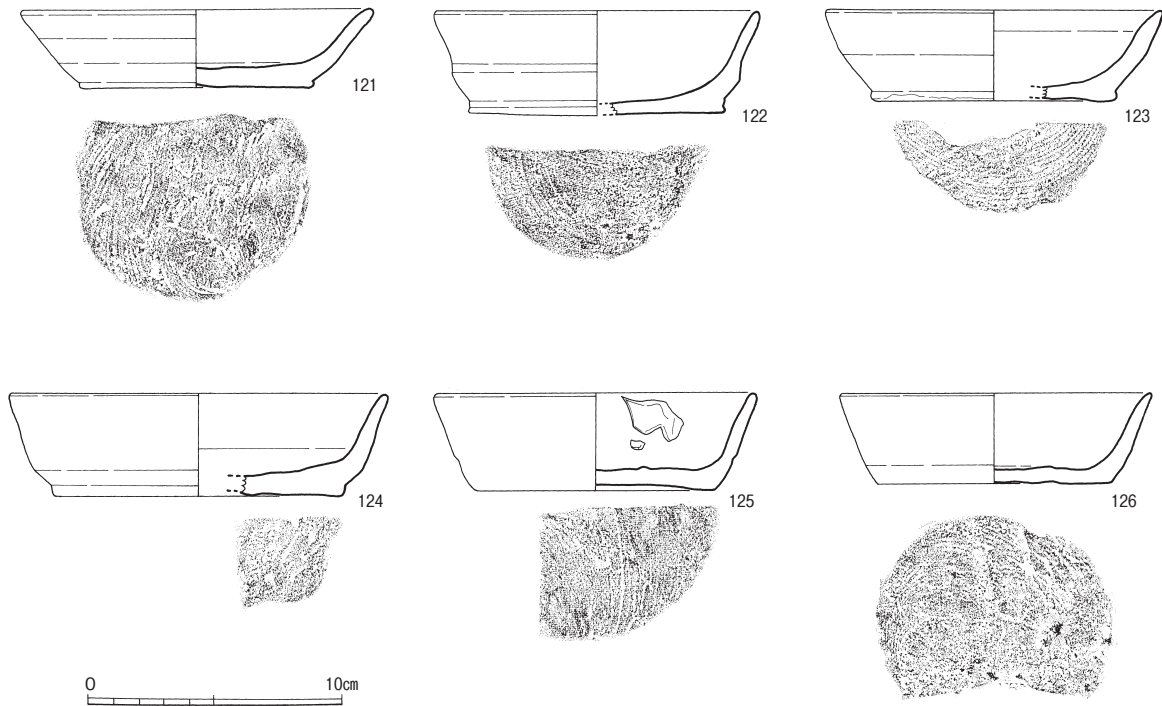


1. 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 しまり強 非常に多く炭化物・土師含む
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥 しまり強 白色礫 1cm 大混 (炭混)

第444図 SK074実測図 (1/30)



第445図 SK074出土遺物① (1/3)

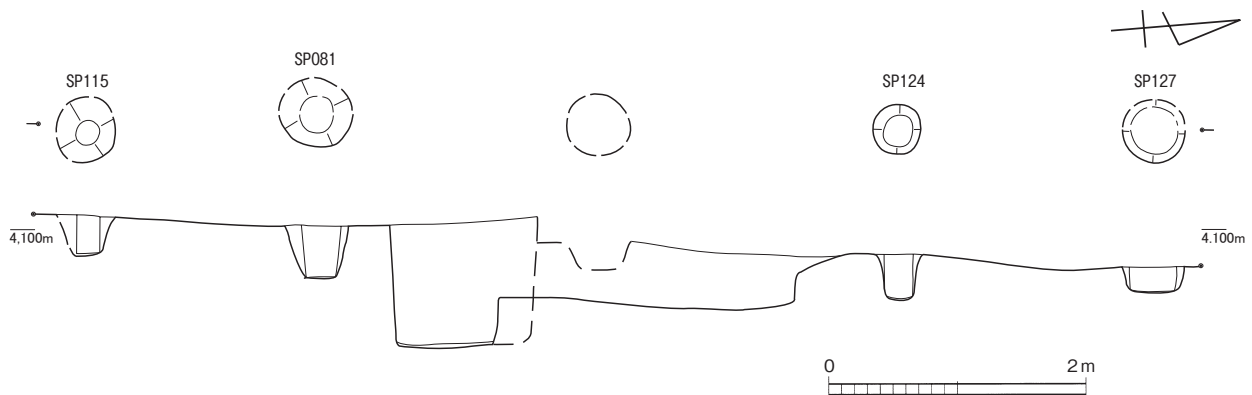


第446図 SK074出土遺物② (1/3)

(2) 柱穴列

SP115・SP081・SP124・SP127(第447図)

区域2第3面で確認された柱穴列で、遺構は調査区の西側にほぼ南北に伸びている。この柱穴列に対応する柱穴は、調査区の東側及び西側の88次調査区でも確認できなかった。柱穴の直径は40～60cm、深さ20～40cmである。SP115とSP081の距離は約1.85m、SP124とSP127の距離は約2.06m、SP081とSP124間は削平を受け、柱穴が1基失われている可能性がある。柱穴列は後述するSB401・SB402・SB403・SB404と遺構の方位を同じくしている。柱穴列内から遺物は出土していない。

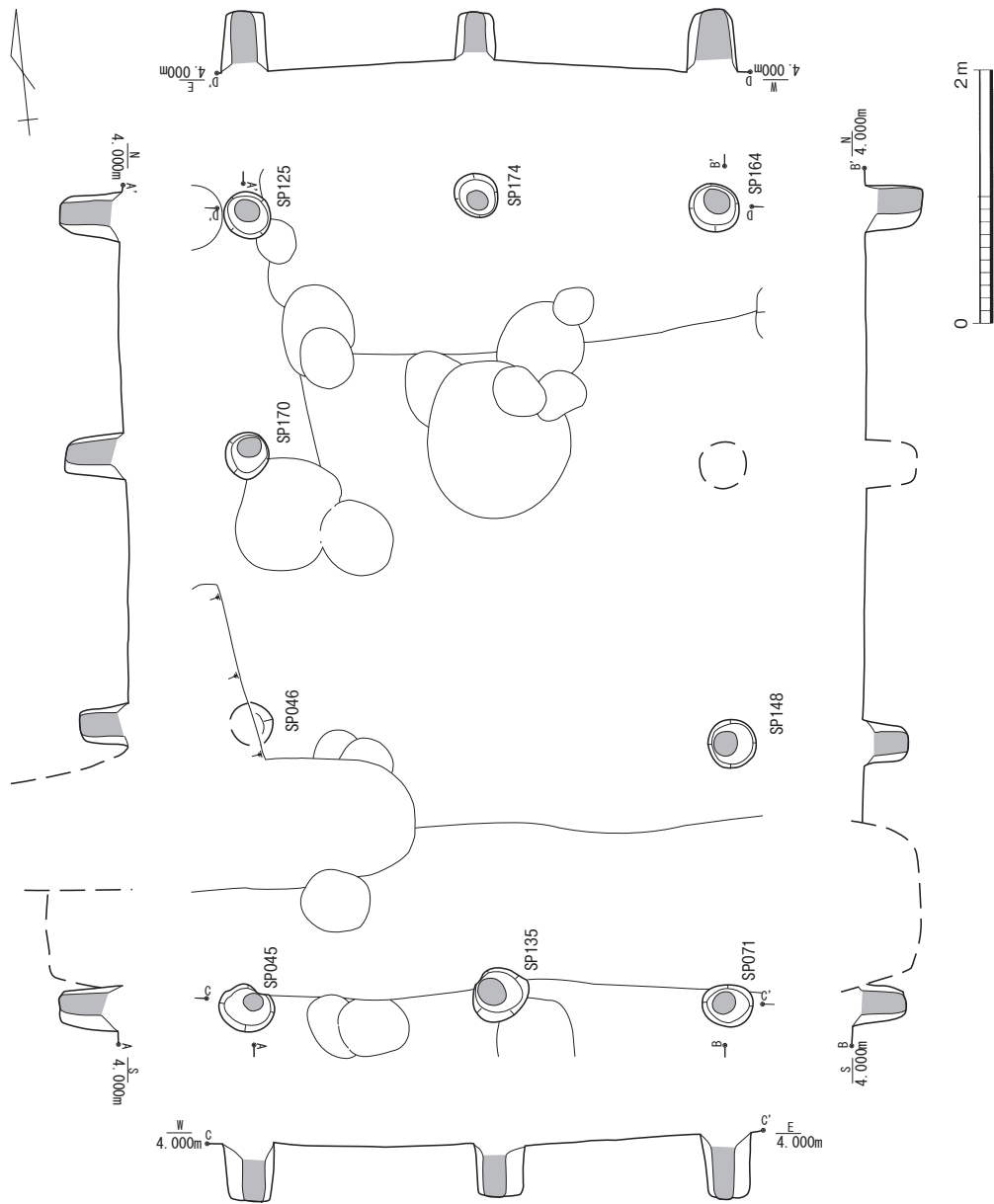


第447図 柱穴列実測図 (1/60)

(3) 掘立柱建物

SB401(第448図)

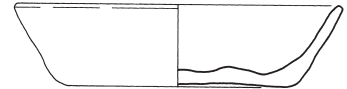
区域2第3面で確認された掘立柱建物で、調査区の中央に位置する。掘立柱建物のある部分は2間×3間遺構が濃密で、建物に伴う柱穴をすべては検出できていない。確認できる規模は2間×3間で、調査区東側に遺構が拡大する可能性もある。東西の柱穴間は約1.85m、南北の柱穴間は1.95m~2.15mと南北方向の柱穴間隔にばらつきがある。柱穴の直径は30~40cm、深さ30~50cmである。柱穴内から遺物は出土していない。



第448図 SB401実測図 (1/60)

SB402(第449図)

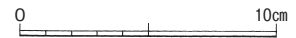
区域2第3面で確認された掘立柱建物で、調査区の南側に位置する。掘立柱建物を構成する柱穴はSP108・SP041・SP094・SP129・SP122・SP117・SP112・SP070・SP111の下層にある礎石に伴うものである。確認できる規模は2間×2間



127

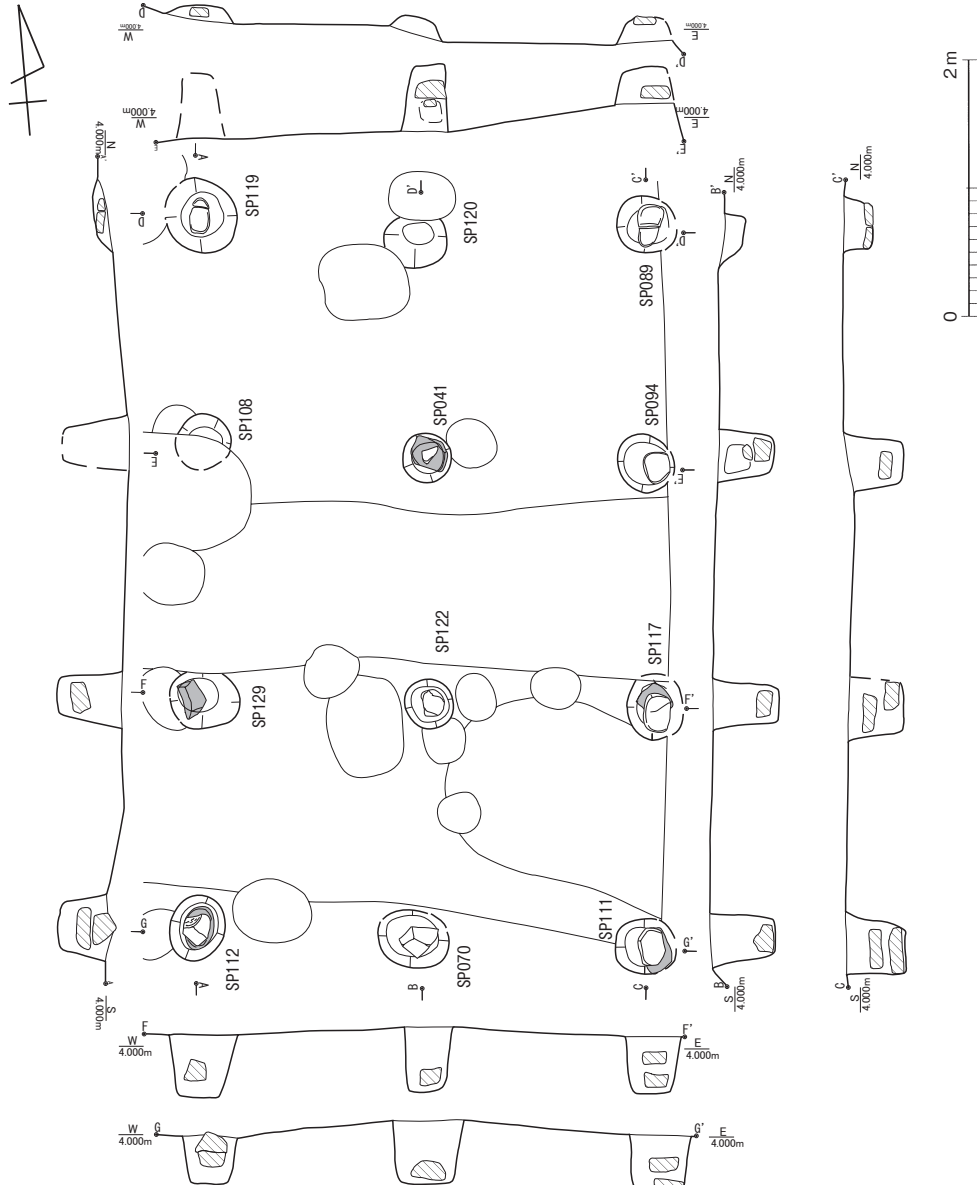
SB403(第449図)

区域2第3面で確認された掘立柱建物で、調査区の中央に位置する。掘立柱建物を構成する柱穴はSP108・SP041・SP094・SP129・SP122・SP117・SP112・SP070・SP111の上層にある礎石に伴うものと礎石を有するSP119・SP120・SP089である。確認できる規模は2間×3間



第450図 SB003(SP089)出土遺物(1/3)

在 地 系 土 師 器 出土遺物は第450図に示した。127はSP089から出土した在地系土師器の坏である。遺物は14世紀～15世紀と考えたい。

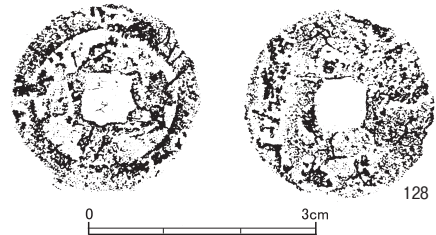


第449図 SB402・SB403実測図 (1/60)

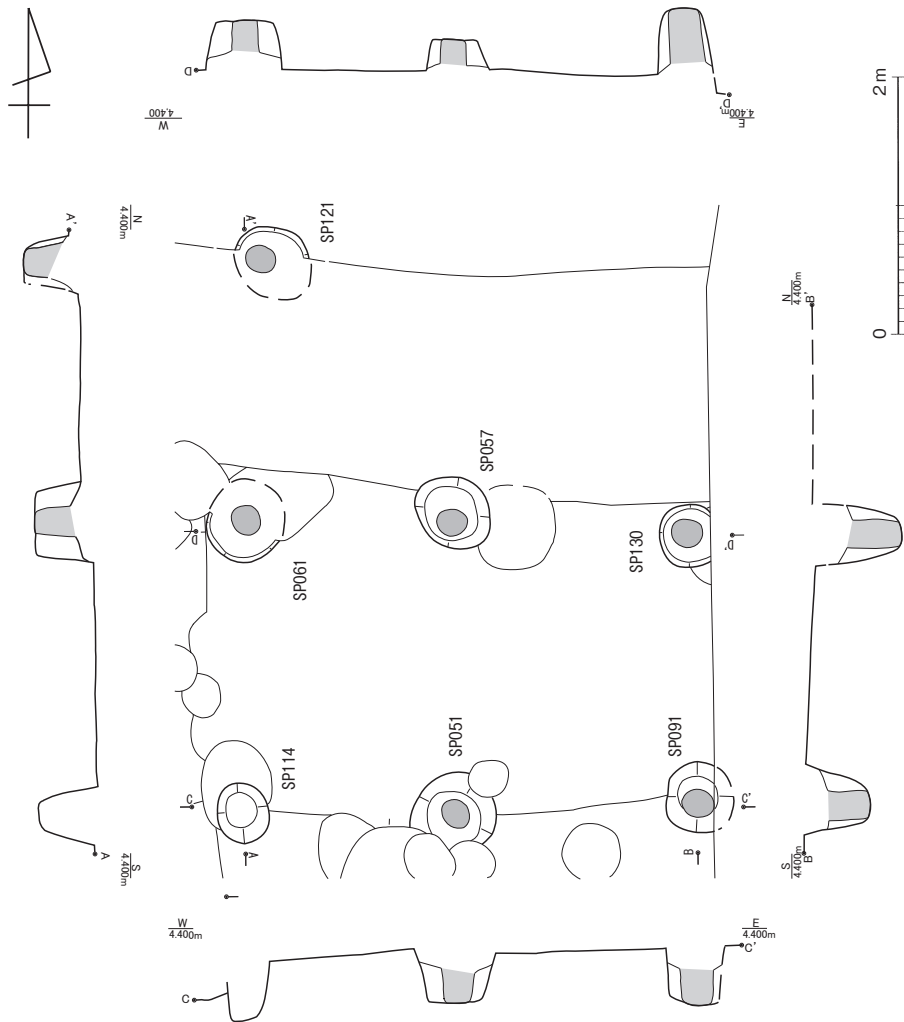
SB404(第451図)

区域2第3面で確認された掘立柱建物で、調査区の北側に位置する。掘立柱建物のある部分は遺構が濃密で、建物に伴う柱穴をすべては検出できていない。確認できる規模は2間×2間で、調査区東側に遺構が拡大する可能性がある。東西の柱穴間は約1.80m、南北の柱穴間は約2.15mである。柱穴の直径は50~60cm、深さ50~60cmである。

出土遺物は第452図に示した。128はSP057から出土した北宋の「元豊通寶」(初鑄年1078年)である。



第452図 SB005(SP057)出土遺物(1/1)



第451図 SB404実測図(1/60)

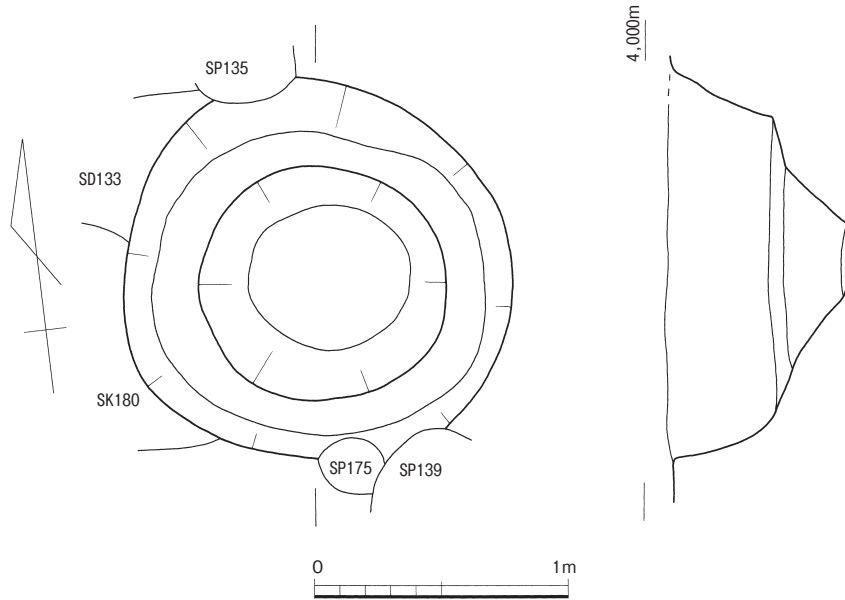
7 区域2第4面・第5面（15世紀以前）の遺構・遺物

(1) 土坑

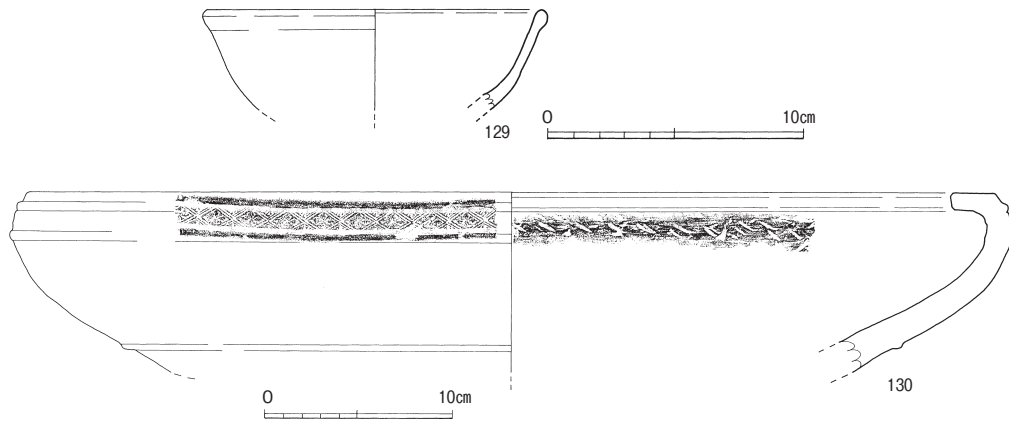
SK177(第453図)

区域2第4面で確認された土坑で調査区の南側にある。平面形態は楕円形を呈し、内部は二段に掘り込まれている。SD133・SP135・SP139・SP175・SK180に切られる。規模は長軸1.50、短軸1.36m、深さ0.69mである。

瓦質土器火鉢 出土遺物は第454図に示した。129は青磁碗である。130は瓦質土器の火鉢で、胴部は浅鉢形の形態を有する。遺構は出土遺物から、15世紀のものと考えられる。



第453図 SK177実測図(1/30)



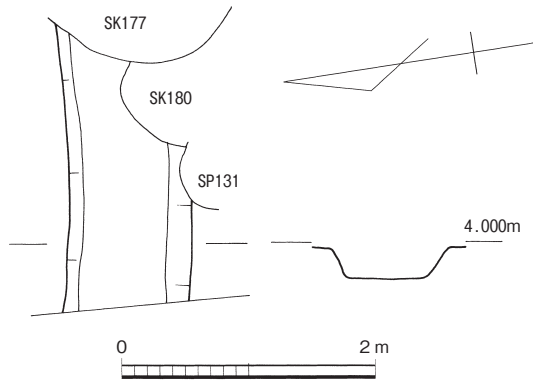
第454図 SK177出土遺物 (1/3,1/4)

(2) 溝

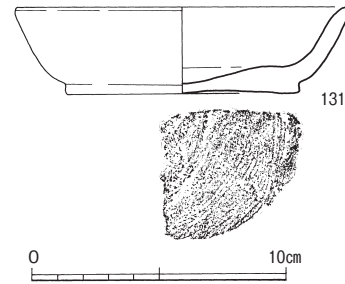
SD133(第455図)

区域2第4面で確認された溝である。調査区南側を東西に横断すると考えられ、SP131・SK177・SK180に切られる。規模は全長2.24m、幅0.97m、深さ0.21mである。

在地系土師器 出土遺物は第456図に示した。131は在地系土師器の坏で、口縁部は回転横撫で、外面底部には回転糸切り痕が確認できる。遺構は出土遺物から、14世紀～15世紀のものと考えられる。



第455図 SD133実測図(1/60)



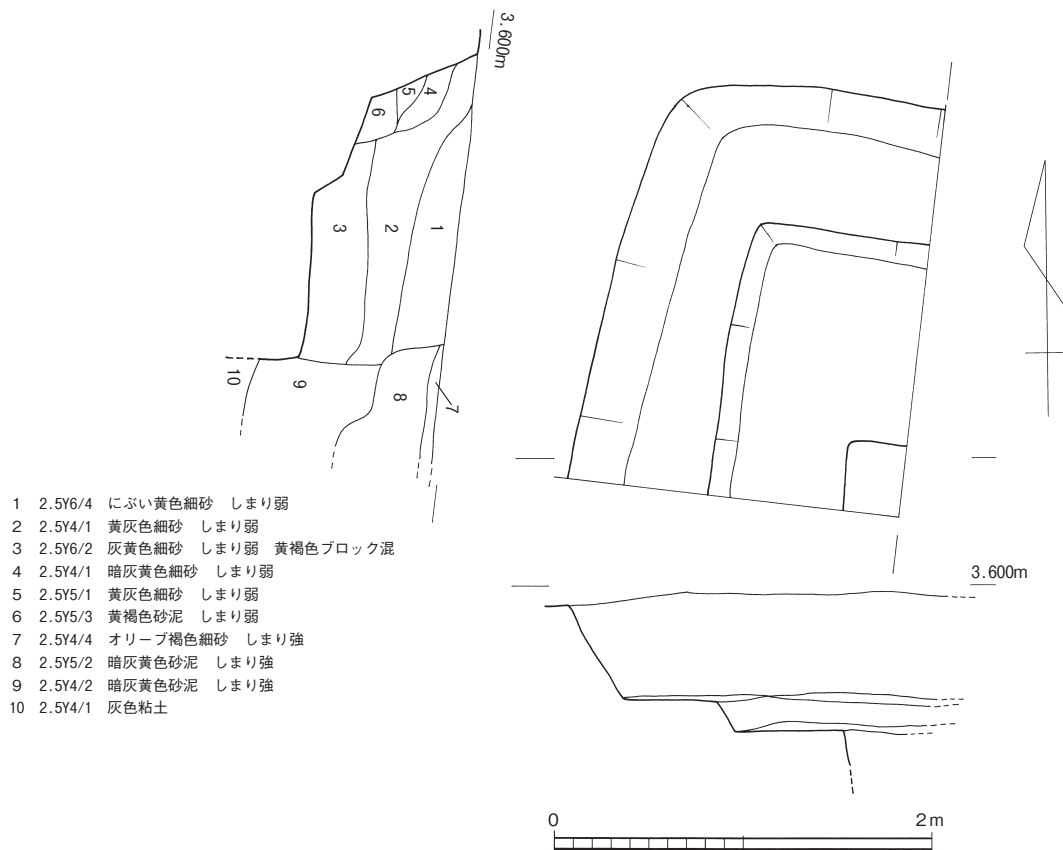
第456図 SD133出土遺物(1/3)

(3) 井戸

SE181(第457図)

区域2第5面で確認された井戸で、調査区の南東端にある。遺構は調査区の南と東に続くものと考えられる。井戸の掘形は隅丸方形と推定され、確認できる規模は2.16m×1.74mで、遺構内は二段に掘り込まれている。検出面から0.70m掘り下げると、0.30m×0.40mの井側の方形の痕跡を確認した。その後、井側を掘り下げたが、狭小な遺構と湧水のため完掘できなかった。井側はその形態から方形縦板組隅柱横棧型の可能性がある。

方形縦板組
隅柱横棧型

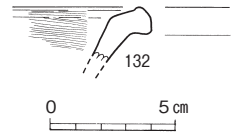


- 1 2.5Y6/4 にぶい黄色細砂 しまり弱
- 2 2.5Y4/1 黄灰色細砂 しまり弱
- 3 2.5Y6/2 灰黄色細砂 しまり弱 黄褐色ブロック混
- 4 2.5Y4/1 暗灰黄色細砂 しまり弱
- 5 2.5Y5/1 黄灰色細砂 しまり弱
- 6 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 しまり弱
- 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色細砂 しまり強
- 8 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥 しまり強
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 しまり強
- 10 2.5Y4/1 灰色粘土

第457図 SE181実測図(1/40)

SE182(第458図)

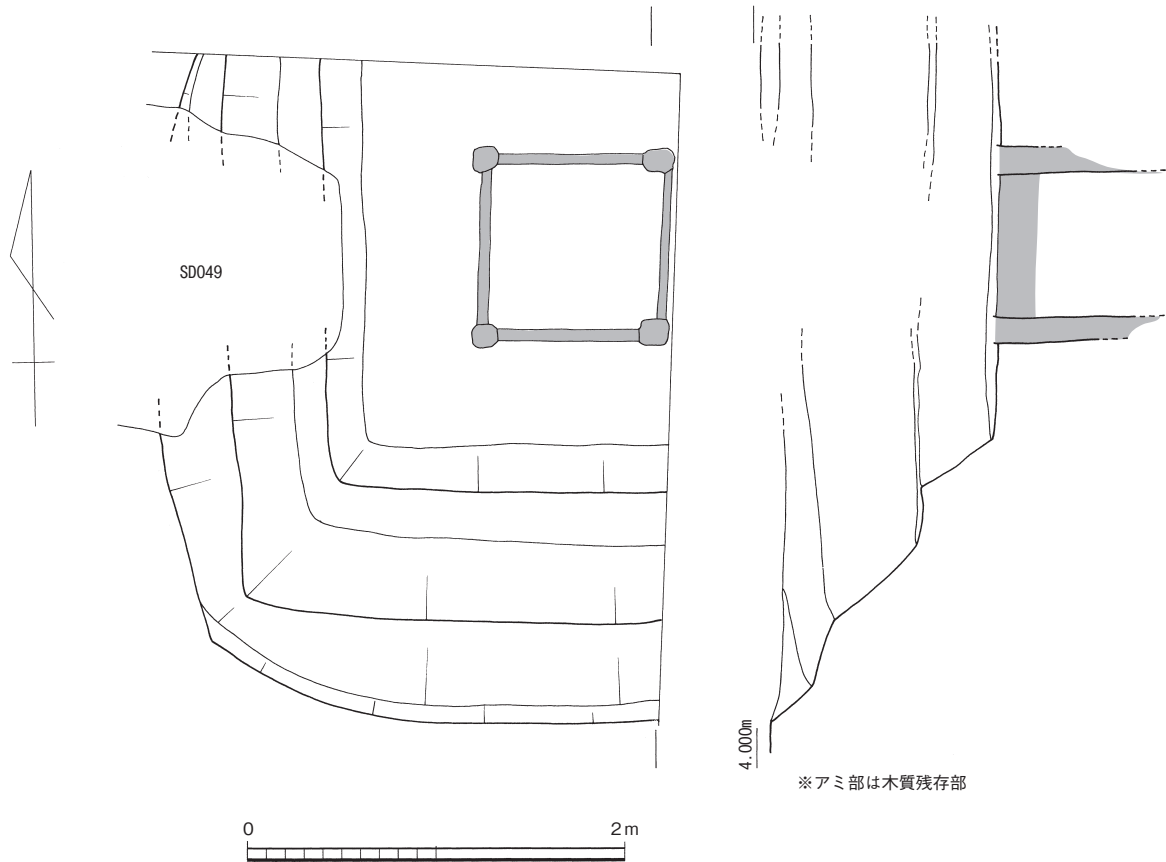
区域2第5面で確認された井戸で、調査区の北端にある。遺構は調査区外に続いており、西側はSD049に切られている。井戸の掘形は隅丸方形と推定され、確認できる規模は3.47m×2.67mで、遺構内は二段に掘り込まれている。検出面から1.15m掘り下げると、1.03m×1.03mの井側の方形の痕跡を確認した。井側には線維化した木質が僅かに残存していた。その後、井側を掘り下げたが、狭小な遺構と湧水のため完掘できなかった。井側はその形態から方形縦板組隅柱横棧型である。



第459図 SE182
出土遺物(1/3)

方形縦板組
隅柱横棧型
土師質土器
土鍋

出土遺物は第459図に示した。132は土師質土器の土鍋で、刷毛及び撫でによる調整が残る。遺構は出土遺物から、14世紀のものと考えられる。



第458図 SE182実測図 (1/40)

8 区域2のその他の出土遺物 (第460図・第461図)

(1) 柱穴

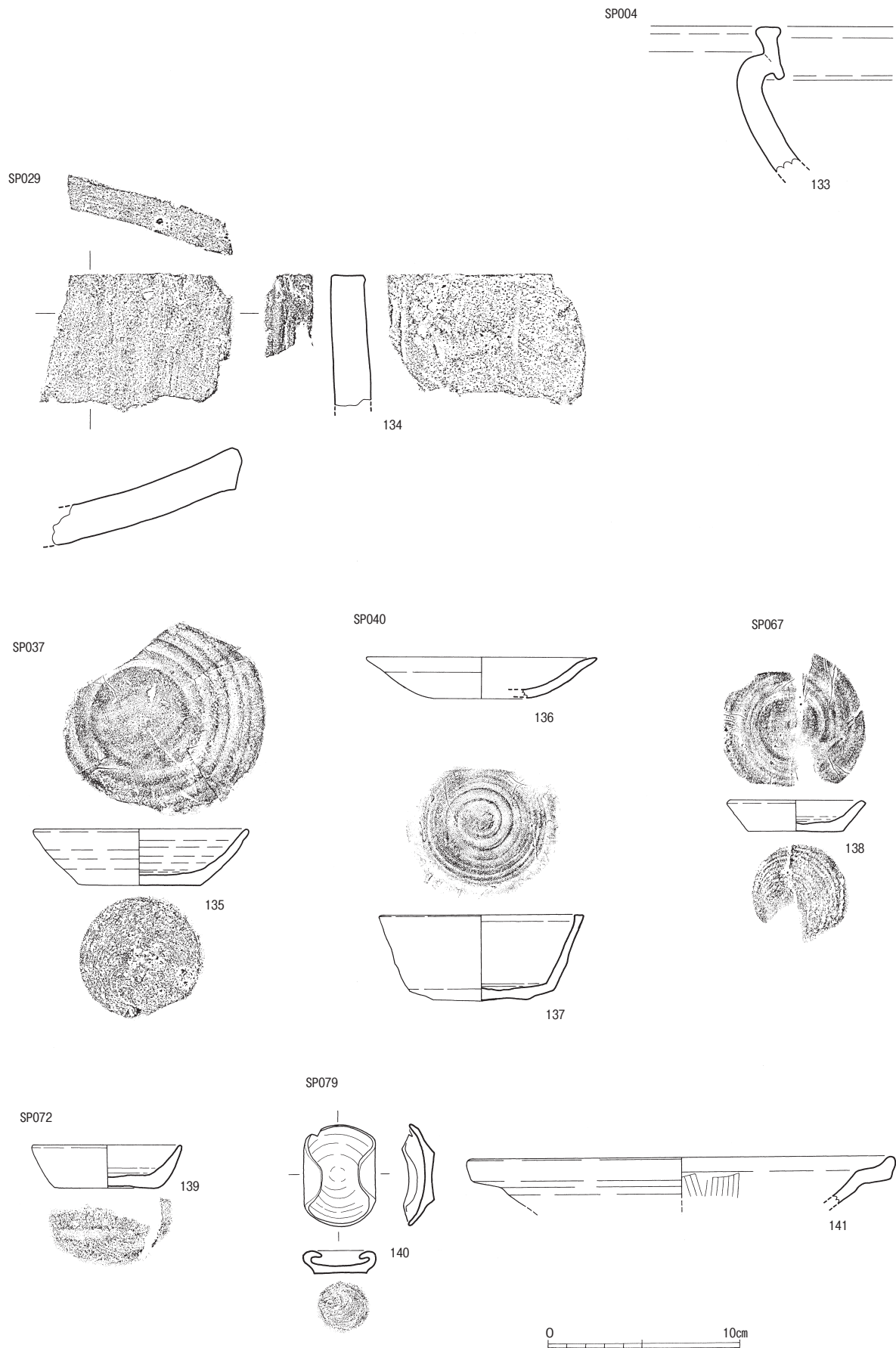
常滑焼

SP404の出土遺物を133で図示した。遺物は常滑焼の甕の口縁部である。SP029の出土遺物を134で図示した。遺物は平瓦で凹面には糸切り痕を残す。SP037の出土遺物を135で図示した。遺物はロクロ目土師器の坏である。SP404の出土遺物を136・137で図示した。136は京都系土師器の坏、137はロクロ目土師器の坏である。SP067の出土遺物を138で図示した。遺物はロクロ目土師器の坏である。SP072の出土遺物を139で図示した。遺物は在地系土師器の坏である。SP079の出土遺物を140・141で図示した。140は耳皿、141は青磁の盤である。SP107の出土遺物を142で図示した。遺物は土師質土器の鉢であろう。SP139の出土遺物を143で図示した。錢貨名は「□□□寶」のみ判読できる。

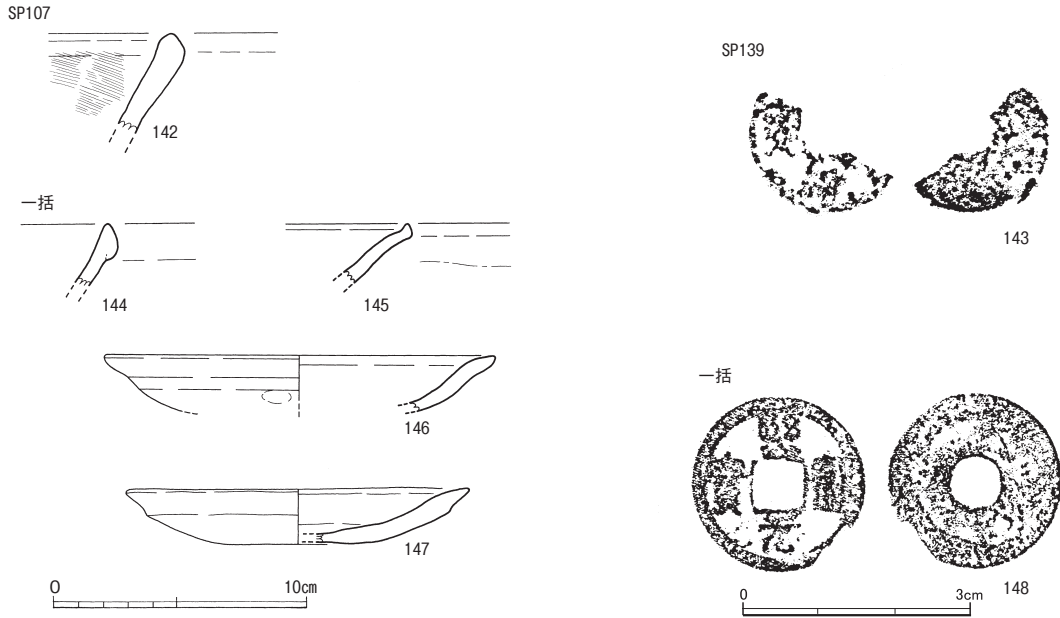
(2) 一括遺物

唐津焼溝縁皿

144は白磁碗で、口縁部は玉縁状になる。145は唐津焼の溝縁皿である。146・147は京都系土師器の皿である。148は北宋の「熙寧元寶」(初铸年1068年)である。



第460図 柱穴出土遺物 (1/3)



第461図 柱穴及び一括出土遺物 (1/1, 1/3)

第3節 小結

第95次調査で検出された遺構の変遷を再確認して小結としたい。

区域1の16世紀末葉の段階で、区域の東側に南北に延びる溝（SD325）が掘削される。その規模・形態から、何らかの区画を意識した遺構と考えられる。

続いて16世紀末葉以降の段階で、東西方向と南北方向に延びる浅く掘り込まれた溝（SD250・SD266・SD270・SD310）が出現する。SD270については第88次調査区のSD004とつながる可能性があり、浅く細長い形態となっている。これらの溝は南北から東西に、あるいは東西から南北に規則的に切り替えられる様子もなく、その性格は不明のまま終わっている。同様の浅く細長い溝は第88次調査区にも存在することから、今後の検討課題のひとつとなる。

井戸 区域2の15世紀以前（第4面・第5面）の遺構と考えられるのは、方形縦板組隅柱横棧型の井戸（SE181・SE182）である。これらの井戸は称名寺創建以前の遺構の可能性もある。同様の形態の井戸は、周辺調査区からも確認されている。

柱穴列 15世紀（第3面）の遺構と考えられるのは、柱穴列（SP115・SP081・SP124・SP127）・掘立柱建物（SB401・SB402・SB403・SB404）・土坑（SK074）である。これらの遺構は第88次調査区には拡大しておらず、遺構の広がりには当該調査区の東側となる。特筆すべきは柱穴列と掘立柱建物で、第11次調査・第80次調査・第88次調査で確認された柱穴列と遺構の方位を同じくすることから、当該建物と第11次調査・第80次調査・第88次調査の柱穴列は初期の称名寺の遺構とも考えられる。掘立柱建物（SB401・SB402・SB403・SB404）は区域2の約50㎡の空間に集中して建て直され、さらに、同位置でSB402からSB403に拡張されるという状態まで看取されており、この空間が特異な場であることが読み取れる。なお、掘立柱建物と第11次調査・第80次調査・第88次調査の柱穴列の詳細な関係については、別冊の第11次調査・第80次調査の報告に譲るものとする。

掘立柱建物の拡張 16世紀（第1面・第2面）の遺構と考えられるのは、土坑（SK060）と東西に延びる溝（SD027・SD028・SD035・SD049）である。SD028と第88次調査区まで延びるSD049については、その規模・形態から、何らかの区画を意識した遺構と考えられる。

以上、各区域・遺構面について報告したが、今回の狭小な調査区から濃密な遺構群が確認され、一定の調査結果と課題を提起できたことを指摘し、章を結ぶことにする。

第8章 自然科学分析

第1節 中世大友府内町跡から出土した動物遺存体

はじめに

万寿寺北側の堀 本報告の主体をなすのは、中世大友府内町跡のなかでも、万寿寺の北側の堀<第20次・第51次調査 (SD001・SD010・SD200)>と、称名寺跡地に建造された大規模施設の西側の堀<第11・第12・第72・第80・第88次調査 (SD044・SD025・SD101・SD120)>；以下称名寺跡地の堀と記す>の2つの大規模な堀から出土した動物遺存体の概要である。これらの万寿寺と称名寺跡地の堀から出土した資料は、いずれも伴出する陶磁器や古文書の記録から、1570年前後から1586年の10数年間に投棄されたと年代付けられる。出土資料は、発掘調査中に手掘りの途上、肉眼で識別して取り上げたもので、総数36,819点を数える。そのうち種類や部位まで同定できたものは、貝類33,231個体、魚類175点、両生類41点、爬虫類28点、鳥類302点、哺乳類3,042点にのぼる(第11表)。

資料の年代

なお、本稿の動物遺存体の整理と同定は、貝類を池田研(大阪歴史博物館)、鳥類を江田真毅(北海道大学総合博物館)、その他を丸山真史(奈良文化財研究所)、小舟みなみ(京都大学大学院、人間・環境学研究所)、萩原育美(奈良教育大学、教育学部)が行い、安定同位体による食性分析を覚張隆史(東京大学総合研究博物館)と米田穰(東京大学総合研究博物館)が行い、松井章の監修のもと記載を分担した。

第11表 種名表

節足動物門 Arthropoda	フトヘナタリ <i>Cerithidea rhizophorarum</i>
甲殻綱 Brachyur	カワアイ <i>Cerithidea djadjariensis</i>
十脚目 Decapoda	オニノツノガイ科 Cerithiidae
イワガニ科 Grapsidae	カニモリガイ <i>Rhinoclavis kochi</i>
モクズガニ <i>Eriocheir japonica</i>	スズメガイ科 Hipponicidae
軟体動物門 Mollusca	キクスズメ <i>Sabia conica</i>
腹足綱 Gastropoda	タマガイ科 Naticidae
古腹足目 Vetigastropoda	ツメタガイ <i>Neverita didyma</i>
ミニガイ科 Haliotidae	新腹足目 Neogastropoda
メカイアワビ <i>Notohaliotis sieboldi</i>	アッキガイ科 Muricidae
クロアワビ <i>Notohaliotis discus</i>	イボニシ <i>Thais clavigera</i>
アワビ属の一種 <i>Haliotis</i> sp.	アカニシ <i>Rapana thomasiana</i>
ニシキウズガイ科 Trochidae	カゴメガイ <i>Bedevina birileffi</i>
イシダタミ <i>Monodonta labio</i>	エゾバイ科 Buccinidae
コシダカガンガラ <i>Omphalius rusticum</i>	バイ <i>Babryonia japonica</i>
クボガイ <i>Chlorostoma lischkei</i>	イトマキボラ科 Fasciolaridae
キサゴ <i>Umbonium costatum</i>	ナガニシ <i>Fusinus perplexus</i>
キサゴ類 <i>Umbonium</i> sp.	テングニシ <i>Pugilina ternatana</i>
サザエ科 Turbinidae	ムシロガイ科 Nassariidae
サザエ <i>Turbo cornutus</i>	ムシロガイ <i>Niotha livescens</i>
スガイ <i>Lunella coronata</i>	アラムシロ <i>Hinia festiva</i>
アマオブネガイ目 Neritimorpha	中腹足目 Mesogastropoda
アマオブネガイ科 <i>Neritida</i>	タニシ科 Viviparidae
イシマキガイ <i>Clithon retropictus</i>	オオタニシ <i>Cipangopaludina japonica</i>
盤足目 Discopoda	マルタニシ <i>Cipangopaludina chinensis</i>
ウミニナ科 Batillariidae	二枚貝綱 Bivalvia
ウミニナ <i>Batillaria multiformis</i>	フネガイ目 Arcoida
ホソウミニナ <i>Batillaria cumingii</i>	フネガイ科 Arcidae
イボウミニナ <i>Batillaria zonalis</i>	サルボウ <i>Anadara subcrenata</i>
ウミニナ科の一種 Potamididae gen. et sp. indet.	フネガイ科の一種 Arcidae gen. et sp. indet.
フトヘナタリ科 Potamididae	イガイ目 Mytiloida

- イガイ科 Mytilidae
イガイ *Mytilus coruscum*
- カキ目 Ostreoida
イタヤガイ科 Pectinidae
イタヤガイ *Pecten albicans*
イタボガキ科 Ostreidae
イタボガキ *Ostrea denselamellosa*
マガキ *Crassostrea gigas*
イタボガキ科の一種 Ostreidae gen. et sp. indet.
- マルスダレガイ目 Veneroida
マルスダレガイ科 Veneridae
ハマグリ *Meretrix lusoria*
マツヤマワスレ *Callista chinensis*
オキシジミ *Cyclina orientalis*
カガミガイ *Dosinia japonica*
アサリ *Tapes japonica*
- バカガイ科 Mactridae
バカガイ *Macra chinensis*
シオフキ *Macra veneriformis*
- ニッコウガイ科 Tellinidae
イチョウシラトリ *Arcopagia diaphana*
- マテガイ科 Solenidae
マテガイ *Solen strictus*
- シジミ科 Corbiculidae
ヤマトシジミ *Corbicula japonica*
- 脊椎動物門 Vertebrata
- 軟骨魚綱 Chondrichthyes
板鰓亜綱の一種 Elasmobranchii, order, fam., gen. et sp. indet.
ネズミザメ目 Lamniformes
ネズミザメ科 Lamnidae
ネズミザメ科の一種 Lamnidae, gen. et sp. indet.
- 硬骨魚綱 Osteichthyes
ウナギ目 Anguilliformes
ハモ科 Muraenesocidae
ハモ属の一種 *Muraenesox* sp.
- ボラ目 Mugiliformes
ボラ科 Mugilidae
ボラ科の一種 Mugilidae gen. et sp. indet.
- スズキ目 Percidae
スズキ科 Percichthyidae
スズキ属の一種 *Lateolabrax* sp.
ハタ科 Serranidae
ハタ科の一種 Serranidae, gen. et sp. indet.
- アジ科 Carangidae
ブリ属の一種 *Seriola* sp.
- タイ科 Sparidae
クロダイ属の一種 *Acanthopagrus* sp.
マダイ *Pagrus major*
タイ科の一種 Sparidae gen. et sp. indet.
- ニベ科 Sciaenidae
ニベ科の一種 Sciaenidae, gen. et sp. indet.
- イシダイ科 Oplegnathidae
イシダイ科の一種 Oplegnathidae gen. et sp. indet.
- サバ科 Scombridae
ソウダカツオ属の一種 *Auxis* sp.
- フグ目 Tetraodonitiformes
フグ科 Tetraodonitidae
フグ科の一種 Tetraodonitidae gen. et sp. indet.
- 両生綱 Amphibia
- 無尾目 Anura
無尾目の一種 Anura fam. gen. et sp. indet.
- 爬虫綱 Reptilia
カメ目 Chlonia
スッポン科 Trionychidae
スッポン *Trionyx sinensis*
- 鳥綱 Aves
キジ目 Galliformes
キジ科 Phasianidae
ニワトリ *Gallus gallus*
キジ科の一種 Phasianidae gen. et sp. indet.
- カモ目 Anseriformes
カモ科 Anatidae
カモ亜科 Anatinae
マガモ属の一種 *Anas* sp.
カモ亜科の一種 Anatinae gen. et sp. indet.
- ペリカン目 Pelecaniformes
サギ科 Ardeidae
サギ科の一種 Ardeidae gen. et sp. indet.
- ツル目 Gruiformes
ツル科 Gruidae
ツル科の一種 Gruidae gen. et sp. indet.
- タカ目 Accipitriformes
タカ科 Accipitridae
タカ科の一種 Accipitridae gen. et sp. indet.
- スズメ目 Passeriformes
カラス科 Corvidae
カラス科の一種 Corvidae gen. et sp. indet.
- 哺乳綱 Mammalia
霊長目 Primates
オナガザル科 Cercopithecidae
ニホンザル *Macaca fuscata*
ヒト科 Hominidae
ヒト *Homo sapiense*
- 食肉目 Carnivora
イヌ科 Canidae
イヌ *Canis familiaris*
タヌキ *Nyctereutes procyonoides*
キツネ *Vulpes vulpes*
イヌ科の一種 Canidae gen. et sp. indet.
- ネコ科 Felidae
ネコ *Felis catus*
- 奇蹄目 Perissodactyla
ウマ科 Equidae
ウマ *Equus caballus*
- 偶蹄目 Artiodactyla
ウシ科 Bovidae
ウシ *Bos Taurus*
イノシシ科 Suidae
イノシシ属の一種 *Sus* sp.
ブタ *Sus scrofa domesticus*
- シカ科 Cervidae
ニホンジカ *Cervus Nippon*
- ウサギ目 Lagomorpha
ウサギ科 Leporidae
ノウサギ *Lepus brachyurus*
- 齧歯目 Rodentia
ネズミ科 Muridae
ネズミ科の一種 Muridae gen. et sp. indet.

1 中世大友府内町跡から出土した貝類について

池田 研

1) 資料の概要

本稿で報告する貝類のほとんどは、称名寺跡地の堀（第11次・第72次・第80次・第88次調査）から出土したものである^(註1)。出土した貝類は第11次調査が計16個体、第72次調査が計2,320個体、第80次調査が計29,725個体、第88次調査が計1,170個体に及ぶ（第12表）^(註2)。この他に第11次調査の攪乱から出土したカワアイ1個体が例外に属す。そのため、以下の記載は称名寺跡地の堀から出土した33,230個体を一括して集計・記載し、その特徴について報告・検討する。

出土貝類の構成

まず、出土貝類の構成は、キサゴおよび、キサゴの可能性が高いが種の同定にまで至らなかった「キサゴ類」の合計が、93.6%と圧倒的多数を占めており、同定できた個体数の少ない第11次調査を除く、調査地点別の貝類の集計でも、常に86.6~94.0%と圧倒的な比率を占める。キサゴ類以外の貝種は、個体数は微量ではあるが、ハマグリ・サザエ・ツメタガイ・スガイの順に多い。これら構成貝種の多くは食用種であるが、イチョウシラトリ・イシダタミ・コシダカガンガラ・クボガイ・スガイ・ウミニナ・ホソウミニナ・イボウミニナ・フトヘナタリなどのように地域や時代によっては食用となる場合があるものの、一般的には市場に流通していた可能性の低いものが含まれている。また、イシマキガイ・キクスズメ・カゴメガイ・ムシロガイ・アラムシロ・カニモリガイ・マツヤマワスレなどは各地の遺跡からの出土状況や近世の料理書、現代の民俗例などから見ても食用とされていた可能性は低く、食用種に混じって捕獲されたものと考えられる。

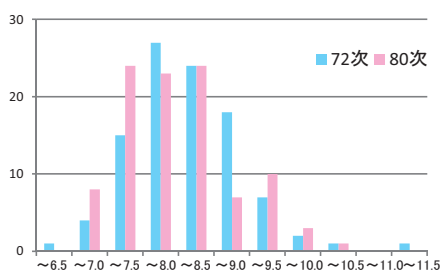
出土貝類の生息域

次に、出土した貝類の生息域は、オオタニシ・マルタニシが淡水性、ヤマトシジミ・イシマキガイ・フトヘナタリがおもに汽水性、その他は圧倒的多数を占めるキサゴ類を含めて鹹水性である。鹹水性種は内湾の湾奥砂泥質干潟群集から沿岸の湾外岩礁・外海岩礁底群集まで（富岡1999）、多様な環境に生息する群集から構成されている。

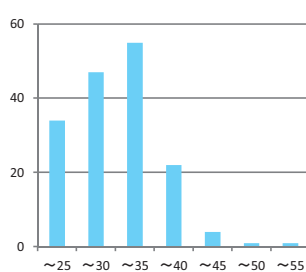
キサゴ

続いて個別の貝種について見ると、キサゴについては縫合下にイボ列が見られる個体が多いが、滑層^(註3)の大きさや形状などの特徴から、イボキサゴではなく、キサゴであると判断した。キサゴの計測値については、第72次資料（計測数100）では殻長が6.4~11.1mm、殻幅が10.4~16.7mmに分布し、ピークは各々7.5~8.0mm、11.5~12.0mmで、第80次資料（計測数100）では殻長が6.7~10.1mm、殻幅が10.3~15.0mmに分布し、ピークは各々7.0~8.5mm、12.5~13.0mmである（第462図）。一方、ハマグリについては第80次資料（計測数164）の殻高が20.1~50.6mmに分布し、ピークは30.0~35.0mmにあり、平均値は30.3mmである（第463図）。サザエについてはすべて無棘型の個体からなる。

ハマグリ
サザエ



第462図 キサゴの殻長分布



第463図 ハマグリの高分布

第12表 出土貝類集計表

巻貝	11次	72次	80次	88次
遺構名	SD044	SD025	SD101	SD120
オオタニシ		1	4	1
マルタニシ			4	
メカイアワビ			1	1
クロアワビ	3		2	
アワビ類		1	9	3
イシダタミ		14	24	2
コシダカガンガラ		2	13	
クボガイ		20	39	2
キサゴ		1896	25792	779
キサゴ類		238	2150	234
ニシキウズガイ科		1		
サザエ	4(2)	13(8)	178(38)	23
スガイ		23(2)	84(11)	2
イシマキガイ			1	
ウミニナ		1	25	1
ホソウミニナ			25	
イホウミニナ		5		
フトヘナタリ			36	1
ウミニナ科		13	29	
カニモリガイ			3	
キクスズメ			1	
ツメタガイ	1	6	123	16
イボニシ			2	1
アカニシ	6	7	18	8(1)
カゴメガイ			4	
バイ			12	2
ナガニシ			1	
テングニシ	1	1	2	
ムシロガイ		3	38	
アラムシロ			1	

二枚貝	11次		72次		80次		88次	
	SD044	SD025	SD101	SD120	SD101	SD120	SD101	SD120
遺構名	左	右	左	右	左	右	左	右
サルボウ					2	2		
フネガイ科								●
イガイ							2	2
イタヤガイ					1			
イタボガキ					5	3		
マガキ					12	2		
イタボガキ科						1		
ハマグリ			24	30	931	961	69	68
マツヤマワスレ						1		
オキシジミ			●		7	5	1	
カガミガイ					2	1	14	16
アサリ					60	63	5	3
バカガイ			2	2	27	17		
シオフキ					10	8		1
イチョウシラトリ						1		
マテガイ			●		●			
ヤマトシジミ			32	43	10	11		

●は殻頂・殻口が出土しておらず個体数は不明であるが、破片から存在が確認されたもの。
巻貝の()は、蓋の数

2) 他遺跡との比較から見た特徴

当遺跡におけるこれまでの調査で、貝類の出土が報告されている例は稀少であるが、34次調査で検出された16世紀後半の万寿寺の堀SD066から出土している（丸山・松井2008）。当該資料はキサゴ類とみられるニシキウズガイ科35個体、ミミガイ科1個体、アカニシ1個体から構成されており、少量ではあるが本例でもキサゴ類が卓越していることがわかる。キサゴ類はヤサラ(ガイ)と呼ばれ、今なお特産の伝統的な食材として珍重されており、中世から現代に連続する、この地の人々のキサゴ類に対する特別な嗜好は、時代を超えた現象と言えよう。さらに大分川を挟んですぐ東側に位置する下郡桑苗遺跡では、弥生時代を中心とする包含層から、ヤマトシジミを筆頭に26種、11,764個体の貝類が出土している（西本1992）。その構成貝種は、サルボウ、ハマグリ、バカガイ、キサゴ類など、この大友府内町跡と共通する貝種が多数含まれており、それぞれ遺跡周辺の近海や、河川下流域で捕獲可能な種類であった可能性が高い。

大阪城下町跡 筆者の手がけてきた大阪城下町跡とその周辺の遺跡では、16世紀後半に出土する貝類の組成が明

第8章 自然科学分析

貝類組成の 変遷	らかになっており、この時期の都市化の進展と、消費された貝種構成との相関関係を比較、検討する上で参考となるであろう。大坂城下町跡は、豊臣氏の城下町として繁栄した1580年から1615年までを豊臣期、それ以降を徳川期と区分されるが、豊臣期以前の中世には大川河口部で採取可能なヤマトシジミを主体とする貝塚が形成されるのに対し、豊臣期・徳川期には鹹水性種を主体として貝類の種類が激増するとともに、商品価値が高いアワビ類や、遠隔地から持ち込まれたとみられる有棘型のサザエ、外洋性のチョウセンハマグリなどが新たに加わる。さらに具体的に述べると、豊臣期はイタボガキ・サザエ・ハマグリ・ヤマトシジミ・アカニシなどが高い比率を占め、徳川期にはハマグリが圧倒的多数を占める。筆者はこのような美味、かつ安価で大量に供給される貝種を主体としつつ、アワビのような商品価値が高い貝種や、遠隔地産の貝種など、多様な貝種が含まれるという構成を「近世都市型」と称する（池田2005・2010a）。
堺環濠都市 貝類の流通	次いで大坂城下町のすぐ南西に位置する堺市の堺環濠都市遺跡は、16世紀には既に「近世都市型」が定着しつつも、本遺跡が立地する大阪湾の地場産と思われるシオフキが主要種の一画を占めるなど、地域内で完結する貝類の自給的物流形態が残存している（池田2010b）。19世紀代に成立した『近世風俗志』に「京阪食用の鮮魚は堺より出るを上品とし、美味とし、価も他に倍す」とあるように、堺産の魚貝類は大坂にも大量に供給されていたことが知られているが、大坂城下町跡におけるシオフキの出土量は僅少であり、大量に捕獲可能な水産物であっても、住民の嗜好によって商品価値が著しく劣る貝種は、流通過程で商業的に淘汰されたことを示す例として注目されよう。 さらにやはり大阪湾に面し、堺環濠都市遺跡から大阪湾岸沿いに23キロ南に位置する泉佐野市の有力者であった食野家邸宅跡では、16世紀後半から17世紀にかけての貝類が出土した。この地は人口規模は小さいながら、現代と同様、良好な漁場と漁港を擁していたと考えられる。ここでは大阪湾に面した近隣の諸都市では稀少種であるアサリが過半を占め、コシダカガンガラ・スガイといった貝種や、アカフジツボなど、都市部には流通していなかった地元産の貝種や甲殻類、さらにそれらの食用種に紛れて持ち込まれたとみられるナミマガシワ・オオヘビガイほかの食用種以外の貝種が含まれている（池田2011）。
都市による 違い	以上のように大坂城下町跡の中世から徳川期にかけて流通・消費された貝類の組成の変化や、近隣の二つの遺跡との違いは、人口規模や商品経済の発達度、食糧の外部依存度など、都市としての発展段階の差異に起因すると考えられる。大坂のような大都市では、整備された物流網によって広範囲な漁場から水産物が流入した結果、その住民の嗜好を反映した貝種構成が成立するとともに、大阪湾岸で多量に捕獲される貝種であっても、商品価値が低い種は流通経路を経る過程で淘汰されている。一方、泉佐野のような臨海部集落では、地域内で完結する自給的物流形態が維持され、産地から消費地＝廃棄現場まで複雑な流通経路を経ずして消費された結果、近隣の漁場で水揚げされた水産物がそのまま反映された構成となったのであろう。
府内町跡の 貝類構成	この大友府内町から出土した貝種を、同様の観点から検討すると、アワビ類・サザエなど、都市住民にとって商品価値の高い種類を含めた多種の貝類から構成されているが、近世都市型の最大の特徴をなす有棘型のサザエや、チョウセンハマグリなど遠隔地からの搬入を明確に示唆する貝種は見当たらない。前述したように、キサゴ類を含めた大半の貝種が、近隣の大分川下流域と別府湾内で採取可能であったと推測され、大都市であれば流通しなかったと推測される商品価値の低い貝種
近郊の漁場	や、混獲された非食用種が一定量含まれる点を考慮すると、本資料は遺跡近郊の漁場とその水揚げ地から、複雑な流通経路を経ずに、消費＝廃棄されたものである可能性が高い。言い換えれば、16世紀後半の大友氏城下町は、大坂城下町のように水産物の供給を広範囲に依存するような成熟した
自給的物流 機能	都市段階に達する以前の、食野家邸宅跡で見たような在地内で完結する水産物の自給的物流機能が大きな役割を果たしていたと想定される。

2 中世大友府内町跡から出土した鳥類について

江田真毅

1) 資料の概要と各分類群の記載

鳥類遺体は万寿寺の北側の堀である第20次調査で7点、第51次調査で18点、称名寺跡地の西側の堀である第11次調査で34点、第72次調査で26点、第80次調査で118点、第88次調査で137点が出土している^(註4)。出土した鳥類のうち、椎骨、肋骨、趾骨は同定対象外とし、種不明として破片数のみ記載した。破損が著しく同定できなかった資料は、同定不能とした。分析の結果、出土した311点(約95%)で科以下を単位とした同定ができた(第11表)。出土鳥類の90%以上はキジ科で、さらにその大部分はニワトリと考えられ、他の分類群はごくわずかであった(第13・14表)。

キジ科

a) キジ科(ニワトリとキジ・ヤマドリを含む)

同定破片数に占める割合は、第11次調査で約97%(31点中30点)、第51次調査で約83%(6点中5点)、第72次調査で100%(24点中24点)、第80次調査で約89%(113点中101点)、第88次調査で約96%(130点中125点)で、上記の各調査で鳥類遺存体の主体をなした。一方で、第20次調査ではまったく確認されなかった(7点中0点)。江田・井上(2011)の基準で大腿骨(大転子含気窩の有無)、脛足根骨(後腓骨頭靭帯付着部の形態)、足根中足骨(内側足底稜の有無)についてキジ科各種の出現率を検討した。その結果、検討可能な大腿骨はすべてニワトリもしくはヤマドリに分類され、キジと同定できるものはなかった。脛足根骨では第80次調査のSD101出土の1点、足根中足骨では第11次調査のSD44出土の1点が、キジもしくはヤマドリのものともみなされ、それ以外の検討可能な資料はすべてニワトリのものと同定した。これらの検討の結果から、キジ科のほとんどはニワトリのものと考えられる。現生骨格標本のキジやヤマドリより、大きな資料がほとんどであることも、この同定結果を支持する。ニワトリの足根中足骨の距突起(蹴爪の基部となる骨体底側面の突起)は、一般的に雄の成鳥にのみ存在するが、各調査地点から出土した例を検討すると、わずかながら雄の方が多くことがわかる(第15表)。

第11次調査のSD044出土のキジ科脛足根骨(右)、第88次調査のSD120出土のニワトリ脛足根骨(右)およびキジ科脛足根骨(左)に、骨髓骨を確認した^(註5)。脛足根骨における骨髓骨の出現率は、第11次調査では髓腔の確認できた2点中1点、第88次調査では同34点中2点、第80次調査では同16点中0点、総計では58点中3点である。骨端未化骨の幼鳥の骨は、第11次調査のSD044と第80次調査のSD101で各3点、第88次調査のSD120で1点含まれる。また骨の表面が粗く、骨端の形成が不完全な若鳥の骨は、第80次調査のSD101と第88次調査のSD120で各5点含まれる。幼鳥もしくは若鳥の骨の出現率が高かった部位は、第11次調査のSD044では大腿骨3点中2点、第80次調査のSD101では大腿骨7点中1点と脛足根骨17点中2点、第88次調査では脛足根骨40点中5点である。

カットマーク
切断痕

カットマークや切断痕は、観察した286点中125点に認められ、その内訳は頭骨4例中1例、胸骨18例中10例、寛骨26例中9例、鎖骨3例中1例、烏口骨15例中10例、上腕骨32例中14例、尺骨21例中9例、大腿骨32例中23例、脛足根骨71例中40例、足根中足骨44例中7例である。遺構や調査地点による明瞭な違いは、認められない。

カットマークは、四肢骨では主に肩関節や股関節、膝関節、足根関節の周辺に見られ、これらの関節の解体に関わる解体痕と考えられる。また、関節とは関わりなく、寛骨を前後方向に離断している例も7例認められ、調理上、あるいは流通上、必要な切断痕と考えられる。胸骨の胸骨吻や竜骨突起周辺、さらには胸骨の臓側面にもカットマークが認められる。これらのカットマークは、解体より除肉の痕跡であったろう。

第13表 鳥類集計表(1)

第11次・SD044

種類	部位	左	右	-
ニワトリ	脛足根骨	w3		
	足根中足骨	w1, sl	w3,p-sl	
キジ/ヤマ	足根中足骨	w1		
ニワ/ヤマ	大腿骨	w2		
キジ科	烏口骨	w1		
	上腕骨	w1	w1,p2,sl	
	尺骨	w1	w1	
	大腿骨		sl	
	脛足根骨		dl,sfr1	
	足根中足骨	w1,s-dl		
	頭骨			1
	胸骨			1
	寛骨			1,fr1
下顎骨			1	
マガモ属	上腕骨	w1		
種不明	椎骨			3

第20次調査SD001・SD010

種類	部位	左	右	-
カモ亜科	烏口骨	w1		
カラス科	橈骨	w1	w1	
	尺骨	w1	w1	

第51次SD200

種類	部位	左	右	-
ニワトリ	足根中足骨	w1		
ニワ/ヤマ	大腿骨		w1	
ツル科	上腕骨		dl	

第72次調査SD025

種類	部位	左	右	-
ニワトリ	足根中足骨		w1, p-sl	
	脛足根骨	w1, p-sl, s-dl	w1, p-s2	
ニワ/ヤマ	大腿骨		w1	
キジ科	烏口骨	s-dl	w1	
	胸骨			1
	肩甲骨	1	1	
	尺骨	w2	w1	
	上腕骨	w3		
	大腿骨		sl	
	頭骨			1
種不明	橈骨			1
	趾骨			1

第80次調査SD101

種類	部位	左	右	-
ニワトリ	脛足根骨	w5,p-sl,sl	W3	
	足根中足骨	w2	w3,sl	
キジ/ヤマ	脛足根骨	w1		

キジ/ヤマ:キジ/ヤマドリ, ニワ/ヤマ:ニワトリ/ヤマドリ

第80次調査SD101つづき

種類	部位	左	右	-
ニワ/ヤマ	大腿骨	w1, pl	w3	
キジ科	烏口骨	w2	w2,sl	
	鎖骨			2
	上腕骨	w5,p-sl,s3	w4,pl,sl, s-dl,dl	
	橈骨	w3,pl	w2,s-d2	
	尺骨	w3,s-d2	w2,p-sl, s-dl	
	手根中手骨	w1		
	大腿骨	s-dl	s-dl	
	脛足根骨	sl,s-d4	sl,dl	
	足根中足骨	w1,dl,sfr1	s-d2	
	胸骨			5,fr2
	寛骨			7,fr6
	下顎骨			fr
	腓骨	2		
カモ亜科	上腕骨	s-dl	sl	
	手根中手骨		w1	
	頭骨			1
タカ科	下顎骨			fr1
	橈骨		w1	
タカ科	尺骨		s-dl	
	上腕骨		w1	
カラス科	尺骨		p-sl	
	大腿骨		w1	
	脛足根骨	w1		
	足根中足骨	w1		
種不明	四肢骨			sfr1
	癒合胸椎			1
	肋骨			1
	趾骨			1
同定不能	四肢骨			sfr1

第88次調査SD120

ニワトリ	脛足根骨	w6,p-s6, s-d2	w7,p-s5	
	足根中足骨	w8, p-s2, s-dl	w7,s-d3	
ニワ/ヤマ	大腿骨	w6,p-sl, s-dl	w6,pl	
キジ科	烏口骨	w2	w3,pl	
	鎖骨			1
	上腕骨	w1	w1,pl,s-dl	
	橈骨		w1	
	尺骨	p-sl,s-dl	w2	
	大腿骨	s-d2	s-dl	
	脛足根骨	w1,s2,s-d3, dl	s2,s-d2	
	頭骨			2
	胸骨			9
	寛骨			8,fr1
下顎骨			1	
腓骨		1		

第14表 鳥類集計表(2)

第88次調査SD120つづき

種類	部位	左	右	-
カモ亜科	鎖骨			1
	寛骨			1
サギ科	脛足根骨	sl		
ツル科	脛足根骨	p-sl		
種不明	癒合胸椎			1
	肋骨			3
	趾骨			2
同定不能	胸骨			1

第88次調査SK61

種類	部位	左	右	-
キジ科	鳥口骨		dl	

第88次調査SD120つづき

種類	部位	左	右	-
ニワトリ	脛足根骨	wl		
キジ科	尺骨	wl	wl	
	脛足根骨		s-dl	

w:完存、p:近位骨端(鳥口骨では胸端)が半分以上残存、d:遠位骨端(鳥口骨では肩端)が半分以上残存、m:骨幹のほぼ中央にある栄養孔が残存、fr:左記の条件に合わない破片。
胸骨では竜骨突起の基部が、寛骨では連合仙椎がそれぞれ半分以上残存している資料を計数し、他はfrとした。

カモ

b) カモ亜科 (マガモ属を含む)

カモ亜科に属する個体は、第11次調査で1点、第20次調査で1点、第80次調査で5点、第88次調査で3点、計10点であった。すべて化石化は完了しており、骨髓骨や解体・加工された痕跡は認められない。第11次調査のSD044から出土している上腕骨(左)は、江田(2005)の基準からマガモ属と同定でき、オナガガモ(EP-4)と同程度の大きさである。第20次調査のSD-01では、カルガモ(EP-84)とオナガガモ(EP-4)の中間程度の大きさの鳥口骨(左)が出土しており、上腕骨関節面から鎖骨関節面にかけて切断痕がみられる。第80次調査のSD101では、頭骨、下顎骨(右)、上腕骨(左・右)、手根中手骨(右)が出土している。上腕骨はオナガガモ(EP-4)と同程度、手根中手骨はオナガガモ(EP-4)とカルガモ(EP-84)の中間程度、頭骨と下顎骨はカルガモ(EP-84)と同程度の大きさである。また、手根中手骨、上腕骨(左)、頭骨にはイヌと考えられる咬痕が認められた。第88次調査のSD120から、オナガガモ(EP-4)と同程度の大きさの寛骨とキンクロハジロ(EP-5)と同程度の大きさの鎖骨、カルガモ(EP-84)と同程度の大きさの尺骨(右)が各1点出土している。鎖骨の右側前面には、カットマークが認められた。カモ亜科の資料中には、マガモを家禽化したアヒルと考えられる試料は認められない。

c) その他の鳥類

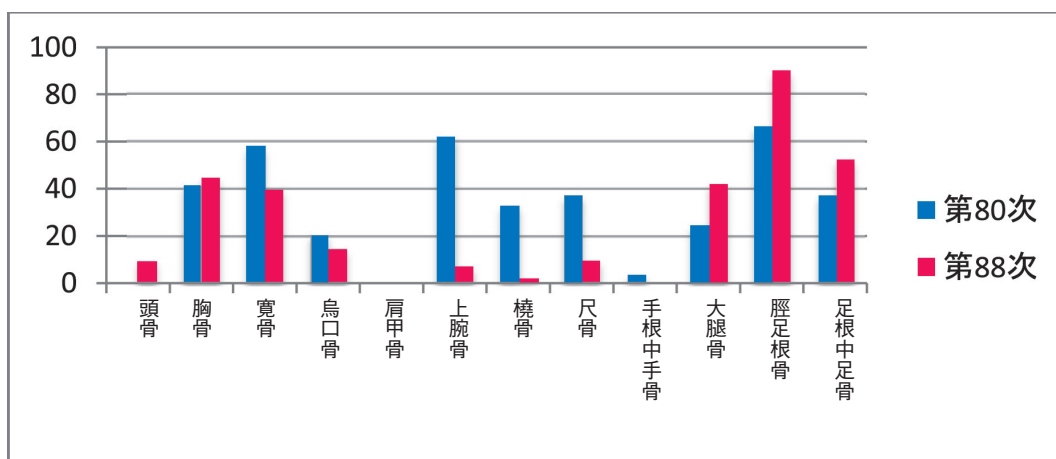
サギ

ツル

タカ

カラス

サギ科は、第88次調査のSD120から、アオサギ(EP-57)より大きな脛足根骨(左)が出土している。ツル科は、ナベヅル♀(EP-99)とほぼ同大の上腕骨(右)が第51次調査のSD200から、マナヅル(EP-100)とほぼ同大の脛足根骨(左)が第88次調査のSD120から出土している。脛足根骨は、内側関節面直下の骨幹後面にカットマークが認められる。タカ科は、第80次調査のSD101で、トビ(EP-3)より少し小さい橈骨(右)と尺骨(右)が出土している。カラス科は、第20次調査のSD-01で、ハシボソガラス(EP-32)程度の大きさの肩甲骨(右)、上腕骨(左)、尺骨(左・右)、橈骨(左・右)の計6点が出土している。これらのうち、尺骨(右)は肘頭が切断されている。また、第80次調査で、ハシブトガラス(EP-13)程度の大きさの上腕骨(右)、尺骨(右)、大腿骨(右)、脛足根骨(左)、足根中足骨(左)が計5点出土している。これらのうち大腿骨を除く4点は、まとめて出土しており、同一個体の可能性がある。脛足根骨と足根中足骨は、骨幹の表面が多孔質の若鳥のものである。上述の特記したものを除くすべての資料で、骨髓骨、解体や加工された痕跡は認められず、化石化は完了している。



第464図 ニワトリの部位別出現頻度

2) 地点別の特徴

万寿寺北側の堀にあたる第20次調査と第51次調査で出土した鳥類遺存体には、大きな違いが認められた。第20次調査地点ではカラス科が優占し、この遺跡で主体をなすニワトリを含むキジ科が出土しないのに対し、第51次調査地点では称名寺跡地の堀の他の地点と同様、ニワトリを主体とするキジ科が大半を占め、他の分類群はほとんど出土していない。既報告の第34次調査の万寿寺の堀 (SD-066) では、カラス科、アビ科、カモ亜科を含みながら、やはりニワトリを含むキジ科が主体であった (丸山・松井2008)。第20次調査ではカラス科の複数の部位が出土しており、同一個体のものであった可能性がある。万寿寺の堀から出土した鳥類遺存体の特徴の相違について、共伴した他の動物遺存体や遺物を考慮し、さらに検討する必要がある。

称名寺跡地の堀から出土した鳥類遺存体は、キジ科を主体としており、その占有率は90%におよぶ。キジ科の骨は、ほぼすべての主要骨格部位が出土しているが、出土量が多い第80次調査のSD101と第88次調査のSD120で部位別出現頻度に大きな違いが認められる (第464図)。SD101では上腕骨～尺骨からなる自由上肢骨が最小個体数の30%以上と比較的多く出土しているのに対して、SD120ではその出現頻度は10%以下と低い。一方、SD120では大腿骨～足根中足骨からなる自由下肢骨が、SD101より出現頻度が高い。上肢骨、下肢骨に対して、頭部、胸骨、寛骨からなる体幹部の出現頻度は、両遺構に大きな違いは認められなかった。両者の部位別出現頻度の違いは、供給上、調理上の相違あるいは調理上の相違に由来すると考えられる。

3 中世大友府内町跡から出土した魚類・両生類・爬虫類・哺乳類について

丸山真史・松井章

1) 種類別の特徴

a) 魚類 (第17表)

万寿寺北側の堀 第20次、第51次での魚類の出土量は少なく、第20次調査のSD-01から、マダイ2点、ツノザメ科あるいはネコザメ科、ブリ属が1点ずつ、計4点、第51次調査のSD200から、マダイとマグロ属が1点ずつ、計2点が出土している。

称名寺跡地の西側の堀 第11次調査のSD044から、マダイ38点、タイ科12点、シイラ4点、スズキ属とヒラメが2点ずつ、ボラ科、フサカサゴ科、コチ科、ハタ科、ヘダイが1点ずつ、計67点が出土している。シイラの主鰓蓋骨・前鰓蓋骨・下鰓蓋骨・間鰓蓋骨は同一個体である。マダイの前

第15表 鳥類計測値(1) 単位:mm

キジ科脛足根骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bp ^(註1)	Bd
11	2	SD044	ニワトリ	左	101.0	11.6	10.1
11	21-1	SD044	ニワトリ	左	112.5		11.1
11	28-1	SD044	ニワトリ	左	118.7	14.1	11.7
51	16	SD200	ニワトリ	右	120.6		11.5
80	20-5	SD101	ニワトリ	右			12.6
80	30	SD101	ニワトリ	右	119.6		11.4
80	31	SD101	ニワトリ	左	105.0		11.4
80	63-1	SD101	ニワトリ	左			11.0
80	86	SD101	ニワトリ	左		18.7	
80	143-1	SD101	ニワトリ	右	146.7	18.3	15.2
80	143-3	SD101	ニワトリ	左	103.3	12.2	10.4
80	198	SD101	ニワトリ	左	118.9	14.1	12.2
80	199	SD101	ニワトリ	左			11.6
88	26-8	SD120	ニワトリ	左		13.4	
88	57-6	SD120	ニワトリ	左	113.7	11.3	11.6
88	57-8	SD120	ニワトリ	右		14.4	13.0
88	63-1	SD120	ニワトリ	右		18.0	15.4
88	63-3	SD120	ニワトリ	右		14.1	
88	65-3	SD120	ニワトリ	左	114.9	13.5	11.6
88	66-2	SD120	ニワトリ	右	126.1	15.1	12.2
88	66-3	SD120	ニワトリ	左		14.8	12.1
88	66-5	SD120	ニワトリ	左			11.9
88	77-4	SD120	ニワトリ	右	104.5	12.2	10.7
88	77-8	SD120	ニワトリ	左	141.9	17.7	13.5
88	78-2	SD120	ニワトリ	右		13.8	
88	78-3	SD120	ニワトリ	右	126.7	16.8	13.1
88	84-1	SD120	ニワトリ	左		15.3	
88	94-3	SD120	ニワトリ	左		14.5	
88	98-1	SD120	ニワトリ	右		11.9	
88	99	SD120	ニワトリ	右	121.1	14.7	12.1
88	106-4	SD160	ニワトリ	左	118.2	13.9	11.8
88	127-3	SD120	ニワトリ	右	98.3	11.6	10.4
88	127-4	SD120	ニワトリ	左	119.7	14.2	12.1
88	127-5	SD120	ニワトリ	左	121.6	15.2	12.7
88	140-8	SD120	ニワトリ	左		11.8	
88	141-1	SD120	ニワトリ	右	106.5	13.1	10.6
88	143-12	SD120	ニワトリ	左			11.7
88	143-13	SD120	ニワトリ	左		23.4	
80	100-1	SD101	キジ/ヤマ	左	111.7	12.9	11.1
11	89-1	SD044	キジ科	右			12.3
80	162-5	SD101	キジ科	右			21.6
80	200	SD101	キジ科	左			11.4
80	201	SD101	キジ科	右			12.3
80	230	SD101	キジ科	左			12.2
88	57-5	SD120	キジ科	左			11.0
88	65-4	SD120	キジ科	左			12.8

キジ科脛足根骨つづき

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bp ^(註1)	Bd
88	66-1	SD120	キジ科	右			12.5
88	66-4	SD120	キジ科	左			12.5
88	77-7	SD120	キジ科	左			13.1
88	78-4	SD120	キジ科	左			12.5
88	106-3	SD160	キジ科	右			13.3
88	140-9	SD120	キジ科	右			12.5

キジ科足根中足骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bp	Bd
11	15-2	SD044	ニワトリ○	右	88.8	16.2	15.5
11	22-1	SD044	ニワトリ○	右			13.5
11	30-2	SD044	ニワトリ○	右	85.6	14.1	13.8
11	42	SD044	ニワトリ	右	89.4	16.0	16.6
11	51	SD044	ニワトリ○	左	82.7	13.6	13.5
51	19	SD200	ニワトリ○	左	82.9	14.4	13.8
80	112	SD101	ニワトリ○	右	86.5	12.8	13.5
80	143-4	SD101	ニワトリ○	右	100.1	18.0	17.7
80	162-1	SD101	ニワトリ○	左	92.2	16.5	16.1
80	197	SD101	ニワトリ	右	87.2	13.3	14.4
80	245	SD101	ニワトリ	左	88.2	15.2	14.8
88	14-8	SD120	ニワトリ○	左	92.9	16.7	16.6
88	14-10	SD120	ニワトリ○	右			15.0
88	17-19	SD120	ニワトリ○	左	81.2	13.6	13.9
88	26-9	SD120	ニワトリ	左	87.7	16.5	17.0
88	49-2	SD120	ニワトリ	左	81.0	14.7	15.1
88	57-3	SD120	ニワトリ	右	78.7	13.0	
88	58-2	SD120	ニワトリ○	右	99.2	19.5	18.7
88	66-7	SD120	ニワトリ	左		13.9	13.0
88	77-2	SD120	ニワトリ○	左	94.8	15.0	14.9
88	77-3	SD120	ニワトリ○	左		15.2	
88	85-1	SD120	ニワトリ	右	87.7	16.6	17.2
88	100-1	SD120	ニワトリ○	左			14.5
88	128-4	SD120	ニワトリ	左	78.6	14.1	13.5
88	140-3	SD120	ニワトリ	右	74.2	12.5	13.5
88	140-4	SD120	ニワトリ○	右			14.0
88	140-5	SD120	ニワトリ	右	71.0	11.9	12.3
88	140-6	SD120	ニワトリ○	左	81.9	14.0	13.9
88	140-7	SD120	ニワトリ○	右	85.5	14.0	14.0
88	143-10	SD120	ニワトリ	右	70.3	11.9	12.1
88	143-11	SD120	ニワトリ○	右	104.8	19.7	19.3
88	143-9	SD120	ニワトリ△	左		11.9	
11	26-3	SD044	キジ/ヤマ○	左	72.9	11.4	12.0
11	146	SD044	キジ科	左			11.1
80	22-1	SD101	キジ科	右			12.5
80	162-2	SD101	キジ科	左	85.1	13.5	13.4

キジ/ヤマ：キジ/ヤマドリ、種名の後の○は距突起あり、△は不明
 註1)脛足根骨では内・外側関節面の最大幅

切断 頭骨3点は、正中線に沿って鋭い刃物により左右に切断され、タイ科とスズキ属の前鰓蓋骨、タイ科の椎骨も切断されている。

第72次のSD025から、マグロ属3点、ボラ科、タイ科、マダイが2点ずつ、コイ科が1点、計10点が出土している。

第80次調査のSD101から、マダイ12点、ハモ属、ブリ属、タイ科、クロダイ属(左)が2点ずつ、ボラ科、ハタ科、スズキ属、ニベ科、イシダイ科、ソウダガツオ属、フグ科が1点ずつ、計27点が出土している。マダイの神経頭蓋^(註6)は、左右の両端が正中方向に切断されており、3分割された中央部である。ブリ属とハタ科の椎骨は切断されている。

第16表 鳥類計測値(2)

単位:mm

キジ科鳥口骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	BF
80	143-5	SD101	キジ科	左	69.1	15.9
80	211-2	SD101	キジ科	左	58.8	13.7
80	211-3	SD101	キジ科	右	58.9	13.9
88	65-5	SD120	キジ科	右		13.4
88	94-2	SD120	キジ科	右		13.6
88	127-1	SD120	キジ科	右	59.2	14.5
88	140-1	SD120	キジ科	左	58.3	13.8
88	143-8	SD120	キジ科	右		13.3
88	144	SD120	キジ科	左	48.2	11.0

キジ科上腕骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bp	Bd
11	101	SD044	キジ科	右		18.0	
11	27-1	SD044	キジ科	右	66.9	18.0	14.1
11	30-3	SD044	キジ科	左		16.5	
51	17	SD200	キジ科	右	75.0	20.2	15.5
72	5	SD025	キジ科	右	80.4	21.9	17.3
72	17	SD025	キジ科	右	80.6	21.6	17.4
72	52	SD025	キジ科	右	80.9	21.1	17.0
80	7	SD101	キジ科	右	73.1	19.2	14.6
80	22-2	SD101	キジ科	右			16.2
80	95-2	SD101	キジ科	左	73.1	19.0	14.7
80	128	SD101	キジ科	左	78.5	20.7	17.2
80	140	SD101	キジ科	右			16.7
80	143-2	SD101	キジ科	左	87.0	25.5	19.5
80	192	SD101	キジ科	右	86.1	24.8	18.9
80	193	SD101	キジ科	左	86.2	23.9	19.2
80	228	SD101	キジ科	左		25.3	
80	229	SD101	キジ科	右	81.3	22.3	17.9
80	244	SD101	キジ科	左	77.1	19.4	15.5
88	52-1	SD120	キジ科	右			14.1
88	94-1	SD120	キジ科	右		20.0	
88	135-1	SD120	キジ科	右	73.5		16.0
88	140-2	SD120	キジ科	左	74.9	19.7	16.0

キジ科橈骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bp	Bd
72	16	SD025	キジ科	左	70.8		8.2
80	63-6	SD101	キジ科	右	58.6		6.5
80	82-6	SD101	キジ科	右			7.6
80	100-3	SD101	キジ科	左	58.9		6.6
80	165-2	SD101	キジ科	左	71.5		8.3
80	165-3	SD101	キジ科	左	78.8		9.2
80	204	SD101	キジ科	右	77.7		9.2
88	101-3	SD120	キジ科	右	55.7		6.2
88	133-2	SD120	キジ科	右	55.7		6.4

その他の鳥類

調査	No.	遺構	種類	部位名	左右	GL	Bp ^(註1)	Bd ^(註2)
11	30-1	SD044	マガモ属	上腕骨	左	91.1	19.9	14.3
20		SD-01	カモ亜科	鳥口骨	左		19.1	
80	162-3	SD101	カモ亜科	上腕骨	左			14.4
80	63-5	SD101	カモ亜科	手根中手骨	右	61.0	13.5	8.0
51	20	SD200	ツル科	上腕骨	右			30.1
88	15-8	SD120	ツル科	脛足根骨	左		26.8	
80	142	SD101	タカ科	橈骨	右	144.9		9.1
80	162-7	SD101	タカ科	尺骨	右			11.8
80	21-1	SD101	カラス科	上腕骨	右	68.6	18.3	15.7
20		SD-10	カラス科	橈骨	右	80.2		
20		SD-10	カラス科	尺骨	右		10.7	10.1
20		SD-10	カラス科	尺骨	左		10.2	10.0
80	21-4	SD101	カラス科	尺骨	右		9.7	
80	63-7	SD101	カラス科	大腿骨	右	65.6		13.6
80	21-3	SD101	カラス科	足根中足骨	左	62.2	10.1	7.8
80	21-2	SD101	カラス科	脛足根骨	左	93.8		9.2

キジ科尺骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bp	Did
11	85-1	SD044	キジ科	左	76.6	10.3	11.2
11	15-1	SD044	キジ科	右			10.3
72	18	SD025	キジ科	右	78.4	10.3	11.1
72	19	SD025	キジ科	左	77.8	9.9	11.0
72	53	SD025	キジ科	右	80.0	10.6	10.7
80	20-6	SD101	キジ科	右			10.7
80	63-2	SD101	キジ科	左	76.5	9.5	10.6
80	63-3	SD101	キジ科	右	63.8	8.9	9.0
80	63-8	SD101	キジ科	左			10.0
80	100-2	SD101	キジ科	左	66.0	9.1	9.9
80	202	SD101	キジ科	右	87.4	12.0	12.6
80	203	SD101	キジ科	左	70.1		10.2
80	213-4	SD101	キジ科	左			11.1
88	77-1	SD120	キジ科	左		13.1	
88	101-2	SD120	キジ科	右			8.8
88	105-1	SD120	キジ科	右			10.5
88	106-1	SD160	キジ科	右	65.9	8.5	9.1
88	133-3	SD120	キジ科	左			9.0
88	133-4	SD120	キジ科	右	61.9	8.4	8.9

キジ科手根中手骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bp	Did
80	97-1	S-101	キジ科	左	37.7	12.6	7.5

キジ科大腿骨

調査	No.	遺構	種類	左右	GL	Bd
51	18	SD200	ニワ/ヤマ	右	83.4	16.0
80	194	SD101	ニワ/ヤマ	右		21.5
80	195	SD101	ニワ/ヤマ	右	72.8	14.5
80	196	SD101	ニワ/ヤマ	左	80.7	16.2
88	26-7	SD120	ニワ/ヤマ	左	94.9	18.8
88	57-1	SD120	ニワ/ヤマ	左		14.8
88	57-4	SD120	ニワ/ヤマ	左		16.0
88	62-1	SD120	ニワ/ヤマ	右	102.3	19.9
88	63-2	SD120	ニワ/ヤマ	左	94.9	20.9
88	65-1	SD120	ニワ/ヤマ	右	110.9	23.4
88	77-9	SD120	ニワ/ヤマ	右	70.8	13.8
88	78-6	SD120	ニワ/ヤマ	右		17.7
88	89	SD120	ニワ/ヤマ	左		17.0
88	127-2	SD120	ニワ/ヤマ	左		16.5
88	133-5	SD120	ニワ/ヤマ	右	81.5	16.1
80	143-8	SD101	キジ科	左		21.2
88	100-2	SD120	キジ科	右		16.3
88	128-3	SD120	キジ科	左		14.8
88	140-11	SD120	キジ科	左		13.6

ニワ/ヤマ：ニワトリ/ヤマドリ

註1) 鳥口骨ではBF、脛足根骨では内・外側関節面の最大幅
 註2) 尺骨と手根中手骨ではDid
 計測法は、Dreisch(1976)に倣う。

第17表 魚類集計表

11次・SD044

種類	部位	左	右	-	計
ボラ科	下鰓蓋骨		1		1
フサカサゴ科	角舌骨+上舌骨		1		1
コチ科	擬鎖骨	1			1
シイラ	主鰓蓋骨	1			1
	前鰓蓋骨	1			1
	下鰓蓋骨	1			1
	間鰓蓋骨	1			1
ハタ科	主鰓蓋骨		1		1
スズキ属	歯骨		1		1
	前鰓蓋骨		2		2
タイ科	角舌骨+上舌骨		1		1
	基後頭骨			1	1
	前鰓蓋骨	1			1
	第1神経間棘			2	2
	椎骨			7	7
マダイ	角骨		1		1
	角舌骨+上舌骨	2			2
	擬鎖骨		1		1
	肩甲骨	1			1
	後側頭骨		1		1
	口蓋骨	3	3		6
	歯骨	2			2
	主上顎骨	3			3
	主鰓蓋骨	1	1		2
	上後頭骨			3	3
	神経頭蓋			2	2
	舌顎骨	2			2
	前頭骨			5	5
	前鰓蓋骨	2	2		4
	椎骨			2	2
	方骨	1			1
ヘダイ	主上顎骨	1			1
ニベ科	椎骨			2	2
ヒラメ	歯骨	1			1
	主上顎骨	2	1		3

20次・SD-01

種類	部位	左	右	-	計
ツノザメ科/ネコザメ科	背鰭棘			1	1
ブリ属	前鰓蓋骨	1			1
マダイ	上後頭骨			1	1
	間鰓蓋骨		1		1

51次・S-200

種類	部位	左	右	-	計
マダイ	上後頭骨			1	1
マグロ属	椎骨			1	1

72次・S-025

種類	部位	左	右	-	計
コイ科	椎骨			1	1
ボラ科	主鰓蓋骨	1			1
	前鰓蓋骨	1			1
タイ科	椎骨			1	1
	上擬鎖骨	1			1
マダイ	椎骨			1	1
	前上顎骨		1		1
マグロ属	椎骨			2	2
	鰓蓋骨	1			1

80次・SD101

種類	部位	左	右	-	計
ハモ属	前上顎骨-篩骨-鋤骨板			1	1
	前頭骨			1	1
ボラ科	下鰓蓋骨		1		1
ハタ科	椎骨			1	1
ブリ属	椎骨			2	2
スズキ属	前鰓蓋骨	1			1
タイ科	椎骨			2	2
クロダイ属	歯骨	1			1
	前上顎骨		1		1
マダイ	角骨		3		3
	主鰓蓋骨		1		1
	上後頭骨			2	2
	神経頭蓋			2	2
	前頭骨			1	1
	前鰓蓋骨		2		2
	副蝶形骨		1		1
ニベ科	前上顎骨	1			1
イシダイ科	前上顎骨		1		1
ソウダカツオ属	椎骨			1	1
フグ科	部位名不明			1	1

88次・S-120

種類	部位	左	右	-	計
エイ・サメ類	椎骨			11	11
サメ類	椎骨			26	26
ネズミザメ科	椎骨			2	2
ハモ属	前上顎骨-篩骨-鋤骨板			1	1
シイラ	椎骨			1	1
スズキ属	歯骨	1			1
ブリ属	歯骨	1			1
	主鰓蓋骨	1			1
	前鰓蓋骨	1			1
	下鰓蓋骨	1			1
	間鰓蓋骨	1			1
	擬鎖骨	1			1
マダイ	神経頭蓋			2	2
	前頭骨			2	2
	上後頭骨			8	8
	副蝶形骨			1	1
	基後頭骨			1	1
	前上顎骨		1		1
	歯骨		1		1
	椎骨			9	9
	主鰓蓋骨	1			1
	前鰓蓋骨	3	2		5
	上擬鎖骨	1			1
	擬鎖骨		1		1
ニベ科	椎骨			1	1
	歯骨		1		1
	前鰓蓋骨		1		1
ソウダカツオ属	主鰓蓋骨		1		1
フグ科	前頭骨	1			1
	前鰓蓋骨	1			1

種類不明の資料は、省略した。

第8章 自然科学分析

第88次のSD120から、エイ・サメ類39点、マダイ33点、ブリ属6点、ニベ科3点、ネズミザメ科、フグ科が2点ずつ、ハモ属、シイラ、スズキ属、ソウダガツオ属が1点ずつ、計87点が出土している。エイ・サメ類には、椎体径10mm以上の大形のサメ類と思われる26点が含まれる。マダイの前頭骨を含む神経頭蓋3点は、正中方向に沿って左右に切断されており、そのうち2点は2分割、他の1点は3分割したと考えられる。マダイの前鰓蓋骨には切傷が、マダイの前鰓蓋骨、ブリ属の主鰓蓋骨、フグ科の主鰓蓋骨、マダイの椎骨は切断されている。また、S-160からマダイの前頭骨、副蝶形骨、歯骨（左）が1点ずつ、計3点、SD223からサメ類の歯が1点、SD310からマダイの角骨（右）1点が出土している。

切断

b) 両生類・爬虫類（第18表）

カエル 万寿寺北側の堀 両生類は、第51次調査のSD200から、トノサマガエルよりやや大きなカエル類が1点出土している。爬虫類は、第20次調査のSD-01からイシガメが3点出土している。

スッポン 称名寺跡地の西側の堀 両生類は、第11次調査のSD044から、ウシガエルと同大のカエル類15点、第72次調査のSD025から、トノサマガエルより小さいカエル類6点、第80次調査のSD101からトノサマガエルより大きなカエル類18点、第88次調査のSD120から、ウシガエルと同大のカエル類が1点出土している。爬虫類は、第80次調査のSD101からスッポン25点が出土している。スッポンの上腕骨3点、大腿骨と肩甲骨・前鳥口骨の1点ずつに切傷が見られ、大腿骨1点は切断されている。

スッポン

c) 哺乳類（表9・10）

哺乳類 万寿寺北側の堀

第20次調査のSD-01（SD-10を含む）から、ニホンジカ15点、ウマ3点、イヌ、タヌキ、ウシ、イルカ類が2点ずつ、イノシシ属^(註7)、ヒトが1点ずつ、計28点が出土している。イノシシ属、ニ

第18表 両生類・爬虫類集計表

11次・SD044

種類	部位	左	右	-	計
カエル	方頬骨	1	1		2
	椎骨			1	1
	尾骨			1	1
	上腕骨		1		1
	橈骨・尺骨	1	1		2
	寛骨	1	1		2
	大腿骨	1	1		2
	脛骨・腓骨		1		1
	踵骨	1	2		3

20次・SD-01

種類	部位	左	右	-	計
イシガメ	腹甲板	1	2		3

51次・SD200

種類	部位	左	右	-	計
カエル	寛骨	1			1

72次・SD025

種類	部位	左	右	-	計
カエル	椎骨			1	1
	前上顎骨	1			1
	下顎骨	1			1
	寛骨	1			1
	脛・腓骨		1	1	2

80次・SD101

種類	部位	左	右	-	計
カエル	頭蓋骨	1		1	2
	椎骨			2	2
	上腕骨		1		1
	寛骨		1		1
	大腿骨	1			1
	脛腓骨		1		1
	距骨・踵骨	1	1		2
	中手骨/中足骨			8	8
	スッポン	背甲板			2
腹甲板		5	4	3	12
鳥口骨		(1)	(1)		2
肩甲骨・前鳥口骨		2(1)	1(1)		5
上腕骨		2	1		3
寛骨			1		1
大腿骨		2		2	

88次・SD120

種類	部位	左	右	-	計
カエル	尺骨	1			1

() は同一個体の鳥口骨と肩甲骨・前鳥口骨

第19表 哺乳類集計表(1)

11次・SD044

種類	部位	左	右	-	計
ウサギ	頭蓋骨			1	1
	下顎骨		1		1
	中手骨	3			3
	脛骨	1			1
	中足骨	1			1
ネズミ科	寛骨	1			1
イヌ	椎骨			4	4
	肩甲骨		1		1
	上腕骨		1		1
	橈骨	1	1		2
	尺骨		3		3
	寛骨	2	1		3
	陰茎骨			1	1
	大腿骨	1	1		2
脛骨		2		2	
ネコ	上腕骨	1			1
ウマ	椎骨			1	1
	橈骨	1			1
	大腿骨	2	1		3
	脛骨	1			1
	中足骨	1			1
	踵骨	1			1
	距骨	1			1
	指骨			2	2
ウシ	頭蓋骨	2	1	総	5
	下顎骨	3			3
	椎骨			6	6
	肋骨	1		2	3
	胸骨			5	5
	肩甲骨	2	1		3
	上腕骨	2	1		3
	橈骨	1(2)	1(2)		6
	尺骨	1(2)	2(2)		7
	手根骨	3	9		12
	中手骨	2	3	1	6
	寛骨	1			1
	仙骨			1	1
	大腿骨	1	4		5
	膝蓋骨		1		1
	脛骨	3	3		6
	顆骨		1		1
	踵骨	2	3		5
	距骨	1	2		3
	足根骨	1	2		3
中足骨	1	3		4	
指骨	12	32		44	
イノシシ属	頭蓋骨	2	5	総	7
	下顎骨	3			5
	遊離歯	3	3	1	7
	椎骨			6	6
	肋骨	7			7
	肩甲骨	1			1
	上腕骨	3	1		4
	尺骨	1			1
	寛骨		1		1
	大腿骨	3	1		4
	脛骨		2		2
	距骨	1			1
	指骨			6	6
	ニホンジカ	枝角	1		1
肩甲骨		1	2		3
上腕骨			1		1
橈骨		1	1		2
尺骨		1			1

11次・SD044つづき

種類	部位	左	右	-	計
ニホンジカ	中手骨		2		2
	大腿骨	1			1
	踵骨	1			1
	中足骨	1			1
モグラ属	肩甲骨	1			1

20次・SD-01・SD-10

種類	部位	左	右	-	計
ヒト	頭蓋骨		1		1
イヌ(SD10)	尺骨		1		1
	橈骨		1		1
タヌキ	寛骨	1	1		2
イノシシ属	橈骨	1			1
ウマ	頸椎			1	1
	遊離歯		1		1
	橈骨		1		1
ウシ	遊離歯	1			1
	大腿骨		1		1
ニホンジカ	肩甲骨	2	1		3
	橈骨	2			2
	尺骨	1	1		2
	中手骨	2			2
	大腿骨	1	1		2
	脛骨	1	2		3
踵骨		1		1	
イルカ	椎骨			2	2

51次・SD200

種類	部位	左	右	-	計
イヌ	頭蓋骨			1	1
	下顎骨	3	1		4
	椎骨			3	3
	橈骨	1			1
イノシシ属	頭蓋骨		1		1
	肩甲骨	1			1
	中足骨		2		2
	踵骨	1			1
ウシ	頭蓋骨			1	1
	遊離歯		1		1
	大腿骨			1	1
	膝蓋骨	1			1
	脛骨	2			2
	踵骨	1			1
	距骨	1			1
	中足骨		1		1
ウマ	遊離歯		1		1
	肩甲骨		1		1
	中手骨	1			1
	脛骨	1			1
	指骨			5	5
ニホンジカ	肩甲骨	1			1
	上腕骨	1			1
	橈骨	2	1		3
	尺骨	1			1
	手根骨	2			2
	大腿骨	1			1
	脛骨		1		1
	踵骨	1			1
距骨	1	1		2	

72次・SD025

種類	部位	左	右	-	計
イヌ	頭蓋骨			1	1
	下顎骨	1	1		2
	椎骨			5	5
	上腕骨		1		1
	橈骨		1		1
	寛骨	1	1		2
	仙骨			1	1
	中足骨	1	1		2
	中手骨/中足骨			1	1
イヌ科	椎骨			1	1
イノシシ属	下顎骨	1	1		2
	遊離歯			2	2
	肩甲骨		1		1
	上腕骨	1	2		3
	橈骨	1	1		2
	尺骨	1	1		2
	手根骨		4		4
	中手骨		2		2
	中手骨/中足骨			1	1
	指骨			2	2
ウシ	頭蓋骨			1	1
	遊離歯			12	12
	椎骨			2	2
	上腕骨		1		1
	橈骨	(1)			1
	尺骨	(1)			1
	大腿骨	1	3		4
	中足骨	1			1
脛骨	1			1	
ウマ	遊離歯		5	4	9
	椎骨			3	3
	上腕骨		1		1
	橈骨	(1)			1
ウマ	尺骨	(1)			1
	大腿骨	1	5		6
	脛骨		2		2
	キツネ	上腕骨	1		
脛骨		1			1
ニホンジカ	上腕骨	1			1
ネコ	脛骨		1		1
ネズミ科	頭蓋骨			1	1
	下顎骨		1		1
	遊離歯		1		1
脛骨	1			1	
マイルカ科	遊離歯			2	2
モグラ	椎骨			1	1
	胸骨			1	1
	肩甲骨	1			1
	上腕骨	1	1		2
	尺骨	1	1		2
	大腿骨	1	1		2
脛骨・腓骨	1			1	

80次・S-101

種類	部位	左	右	-	計
イヌ	下顎骨		1		1
	椎骨			2	2
	肋骨	2	2		4
	上腕骨	1			1
	橈骨	1			1

「結」は、結合状態のものを示す。
 橈骨と尺骨の()の数字は、それぞれが癒合しているものを示す。
 種不明、部位不明の資料は省略した。

第20表 哺乳類集計表(2)

80次・SD101つづき

種類	部位	左	右	-	計
イヌ	尺骨	1			1
	寛骨		1		1
	脛骨	1			1
	踵骨	1			1
イノシシ属	頭蓋骨	6	3	1	10
	下顎骨	6	3	1	10
	遊離歯	4			4
	椎骨			6	6
	肋骨	1			1
	肩甲骨	2	5		7
	上腕骨	3	2		5
	橈骨	3(1)	1(1)		6
	尺骨	4(1)	1(1)		7
	寛骨	3	4		7
	仙骨			2	2
	大腿骨	6	3		9
	脛骨	6	4		10
	腓骨	1	1		2
	踵骨	1	1		2
	距骨	1	1		2
	中足骨	6	1		7
指骨		1		1	
ウサギ	頭蓋骨			1	1
	下顎骨	1			1
ウシ	角芯			1	1
	頭蓋骨		3	3	6
	下顎骨	4	3		7
	遊離歯	12	5		17
	椎骨			8	8
	肋骨	4			4
	肩甲骨	1	2		3
	上腕骨	1			1
	橈骨	1	2		3
	尺骨	1	1		2
	中手骨	1	2		3
	仙骨			1	1
	大腿骨	1	3		4
	膝蓋骨	1			1
	脛骨	2	1		3
	踵骨	1	1		2
	距骨		1		1
指骨	1		7	8	
ウマ	下顎骨	2	3		5
	遊離歯	10	8		25
	椎骨			1	1
	肋骨		1		1
	橈骨	1			1
	手根骨	1			1
	中手骨	1	1		2
	大腿骨		1		1
	脛骨	1			1
	中足骨	1			1
指骨		1	1	2	
ニホンジカ	鹿角			1	1
	頭蓋骨	1			1
	椎骨			5	5
	肩甲骨	2	1		3
	上腕骨	1	1		2
	橈骨	(1)	(1)		2
	尺骨	(1)	(1)		2
	手根骨		2		2
	中手骨		1		1
	大腿骨		2		2
	中足骨		1		1

80次・SD101つづき

種類	部位	左	右	-	計
ニホンジカ	脛骨	2			2
	指骨			1	1
タヌキ	頭蓋骨			2	2
	下顎骨	3	2		5
	椎骨			1	1
	中手骨		1		1
中足骨		3		3	
ニホンザル	椎骨			1	1
ネコ	頭蓋骨			2	2
	下顎骨	1	3		4
	椎骨			1	1
	肋骨		2		2
	肩甲骨	1	1		2
	上腕骨	1	1		2
	橈骨	1	2		3
	尺骨	1	2		3
ネズミ科	中手骨		6		6
	寛骨		1		1
	頭蓋骨			1	1
	下顎骨	1			1
ヒト	寛骨	1			1
	大腿骨	2	1		3
	脛骨	1(1)	1		3
ヒト	腓骨	1			1
	頭蓋骨	1			1
ヒト	踵骨		1		1
	中足骨	1			1

88次・SD120

種類	部位	左	右	-	計
イヌ	頭蓋骨			1	1
	下顎骨	2	1		3
	椎骨			9	9
	肩甲骨	1	1		2
	上腕骨	2	2		4
	橈骨	2	2		4
	尺骨	2	1		3
	寛骨	1	2		3
	大腿骨	1	1		2
	イノシシ属	頭蓋骨	3	6	1
下顎骨		2	3	結	6
遊離歯		3	5		8
椎骨				2	2
肋骨			3		3
肩甲骨		4	1		5
上腕骨		2	3		7
橈骨			2		2
尺骨		1			1
中手骨		1			1
ウシ	寛骨		1		1
	大腿骨	1	4		5
	脛骨	3	1		4
	腓骨	1			1
	中足骨		1		1
	頭蓋骨	1	2	2	5
	下顎骨	1	1		2
	遊離歯		4	2	6
	椎骨			16	16
	肋骨	4		2	6
ウシ	距骨	2	2		4
	肩甲骨	5	4		9
	上腕骨	3	3		6
	橈骨	1(2)	2(2)		7
	尺骨	(2)	1(2)		1

88次・SD120つづき

種類	部位	左	右	-	計
ウシ	手根骨	5			5
	中手骨	4	2		6
	寛骨	1	2		3
	大腿骨	6	2		8
	脛骨	4	4		8
	顆骨	1			1
	踵骨	2	1		3
	足根骨	3	2		5
	中足骨	4	1		5
	指骨	19	3	8	30
ウマ	下顎骨		1		1
	遊離歯		1	2	3
	上腕骨	1			1
	中手骨		1		1
	寛骨		1		1
	大腿骨	1	3		4
	脛骨	1	1		2
	腓骨	1	1		2
ウマ	踵骨	1			1
	中足骨	1			1
	指骨			2	2
	枝角			1	1
	下顎骨		1		1
	肩甲骨	2	2		4
	上腕骨	1	4		5
	橈骨	1	1		2
ニホンジカ	尺骨	1			1
	中手骨	1			1
	大腿骨	1	1		2
	脛骨	2	1		3
	踵骨	1	1		2
	距骨	1			1
	足根骨	1			1
	中足骨	2			2
	指骨	6			6
	ネコ	大腿骨	1		
脛骨			1		1
ネズミ科	遊離歯			1	1

[結] は、結合状態のものを示す。
 橈骨・尺骨、脛骨・腓骨の()の数字は、それぞれが癒合しているものを示す。
 種不明、部位不明の資料は省略した。

ニホンジカ ホンジカの四肢骨には、骨端部が未癒合の幼・若獣が含まれる。ニホンジカの肩甲骨3点には浅く長い切傷が、イルカの椎骨は椎体上部に叩切の痕跡が、ヒトの頭蓋骨には刀創が見られる。

第51次調査のSD200から、ウシ、ニホンジカが計14点ずつ、イヌ10点、イノシシ属5点、ウマ4点、イヌ計47点が出土している。イヌには同一個体の頭蓋骨と下顎骨が含まれており、左上顎骨付近には多

第21表 イヌ頭蓋骨の計測値 (mm)

部分	調査 No. 遺構	51	72	88
		10-1 SD200	188 SD025	82 SD120
最大頭蓋長	i-pr	165.4	-	164.7
基底全長	pr-	156.1	-	157.9
頬骨弓幅	zy-zy	91.0	92.8	
脳頭蓋長	na-i	89.8	-	90.7
頭蓋幅	eu-eu	51.6	-	56.9
頭蓋幅	au-au			
頭蓋高	ho-br	48.3	-	-
バジオンープレグマ高	ba-br	61.8	-	-
最小前頭幅	fs-fs	32.2	-	-
前頭骨頬骨突起端幅	ect-ect	42.9	-	-
後頭三角幅	ot-ot	60.7	57.5	63.0
後頭三角高				
最小眼窩間幅	ent-ent	30.5	-	29.8
顔長	pr-na	80.4	-	79.6
吻長	pr-oa	69.7	-	71.3
吻幅		-	-	32.9
吻高	na-	37.7	-	36.8
鼻骨凹陷深		-	-	5.9±
硬口蓋長	pr-sta	79.3	-	79.8
硬口蓋最大幅		55.1	-	55.8
全歯列長		80.2	-	83.4
頬歯列長		68.4	-	73.2
小白歯列長		42.9	-	44.8
白歯列長		51.6	-	56.5
大白歯列長		9.0	-	14.2
犬歯部長		16.3	-	17.3
歯列弓長		75.8	-	83.1
歯列弓幅		55.5	-	55.9

計測部分は、茂原・松井(1995)、斉藤(1963)に倣う。

第22表 イヌ下顎骨の計測値 (mm)

部分	調査 No. 遺構	51		72		80	88		88		
		10-2,3		11-1	11-2	189,190	147-4	82-3,4		66-10	
		SD200		SD200	SD200	SD025		SD101	SD120		SD120
		左	右	左	左	左	右	右	左	右	
下顎骨全長(1)	id-goc	117.2+	118.6	-	108.7+	117.7	116.8	33.9	121.3	121.6	134.2+
下顎骨全長(2)	id-cmid	117.8+	119.3	-	111.2	115.5	114.9	31.9	122.1	121.9	136.6+
下顎枝高	kr-gov	45.7	45.1	-	38.8+	45.9	44.7	12.5	46.8	44.6	55.6
下顎枝幅	Minimum	28.7	29.2	-	27.3	28.9	28.1	10.2	30.3	29.8	35.9
下顎体高(1)	M2後部	23.4	23.7	23.0	20.4	22.5	23.9	-	23.2	22.2	27.9
下顎体高(2)	M1中央	21.4	22.0	21.9	20.7	21.1	20.9	-	22.1	21.2	23.8
下顎体高(3)	P4とM1の間	20.1	20.7	20.5	21.4	18.2	19.0	-	21.0	20.9	22.0
下顎体厚	M1中央下方	9.4	9.4	10.6	9.9	10.3	10.6	-	10.1	9.9	12.4
咬筋窩深	-	6.6	6.4	6.6	5.5	6.8	6.5	1.1	5.9	5.9	6.9
推定体高		37.8	38.3	-	35.5	36.9	36.7	幼獣/胎児	39.4	39.3	45.8

計測部分は、茂原・松井(1995)、斉藤(1963)に倣う。

第23表 イヌ四肢骨の計測値

部位	調査	No.	遺構	左右	GL	Bp	Bd	SD	同一
上腕骨	11	105-1	SD044	右	159.9	29.8	32.4	12.8	1
	12	8	井戸	右	162.7	29.3	31.7	12.6	3
	72	25	SD025	右			26.1	9.6	
	80	182	SD101	右	149.4		27.6	13.4	
		36-2	SD120	左	140.1	26.6	30.2		
		66-9	SD120	左			27.8	11.2	
橈骨	88	128-6	SD120	左	139.3	27.3	29.2	11.6	
		142-3	SD120	右	147.9	26.7	33.6	12.3	2
	11	69	SD044	左	131.0	14.5	19.4	10.5	
	11	89-1	SD044	右			17.4	12.9	3
	12	9	井戸	右			16.3	11.4	
	51	12	SD200	左	144.2	15.6	20.4	10.9	
尺骨	72	12	SD025	右	148.3	17.1	22.3	13.5	
	80	91	SD101	左	145.7	16.7	22.2	11.8	
	88	15-5	SD120	左	141.6	15.2	21.3	11.6	2
	88	142-4	SD120	左	141.6				
	11	105-2	SD044	右	188.4				1
	88	14-5	SD120	右	160.8				
大腿骨	88	143-1	SD120	左	166.6				2
	11	137	SD044	左			29.2	12.2	
	11	30-23	SD044	右	147.1	(33.7)	27.4	11.9	
	88	17-17	SD120	左			23.4	11.5	
	88	26-3	SD120	右				12.6	
	脛骨	11	31-1	SD044	右	154.9	29.2	19.9	10.3
11		68	SD044	右	173.7	33.7	21.8	13.5	
80		20-2	SD101	左				10.6	

() は癒合中
計測部分は、Dreisch(1976)に倣う。

切傷 数の切傷が見られる。イノシシ属には、幼獣の肩甲骨が含まれる。

称名寺跡地の西側の堀 第11次調査のSD044から、ウシ133点、イノシシ属52点、イヌ19点、ニホンジカ14点、ウマ11点、ウサギ7点、ネズミ科、モグラ属、ネコが1点ずつ、計238点が出土している。ウサギ、イヌ、ウシ、イノシシ属には、同一個体の椎骨や四肢骨などが含まれる。ネコ、ウシ、イノシシ属、ニホンジカの四肢骨には、骨端部が未癒合の幼・若獣が含まれる。ウサギ、イヌ、ウマ、ウシ、イノシシ属、ニホンジカの頭蓋骨、四肢骨などには切傷、叩傷、肉を削いだよう

第24表 イノシシ属下顎臼歯の計測値(mm)・咬耗指数

調査	No.	項目	左					右						
			M3	M2	M1	P4	P3	P2	P2	P3	P4	M1	M2	M3
11	11-7	長	36.0	16.7	12.6	10.3	9.4	8.5	9.2	9.3	12.1	13.4	17.0	32.6
		幅	13.3	13.2	-	8.5	5.8	4.3	4.5	5.6	8.3	-	13.0	14.0
		咬耗	d-e	k	n	f-g					f-g	n	k	d-e
	30-6	長									11.3	11.5	16.3	31.3
幅										8.6	10.1	13.9	15.6	
30-17	長							(6.1)	(8.5)		14.9		未	
	幅							(3.2)	(4.3)		9.1	中?		
163	長	31.6	17.0	13.5	11.4			8.7	9.1	11.8	13.5	16.9	31.4	
	幅	14.6	12.9	10.4	8.4			4.8	6.3	8.6	10.4	12.7	14.2	
72	27	咬耗							(7.6)	(8.7)	(14.9)	13.5		
									(3.4)	(4.0)	(7.5)	9.3		
80	78-1.2	長	-				8.6	8.0						
		幅	12.1				5.9	4.7						
	116	長							(7.1)	(9.2)	(13.9)	13.7		
		幅							(3.5)	(3.8)	(7.0)	9.4		
	135	長										14.2		
		幅										9.3		
148	長	30.2	18.0	13.3	11.6	8.6	8.0							
	幅	13.6	12.0	9.9	8.4	5.9	4.7							
159	長		15.9	11.8	9.5	8.3	6.3							
	幅		11.2	8.7	6.5	5.6	3.2							
275-1	長			13.2	(13.7)	(7.6)	(6.8)							
	幅			9.2	(7.1)	(4.1)	(3.6)							
134	長							7.1			13.1	16.4		
	幅							3.6			9.7	11.9		
88	35	長			14.2	(16.8)	(9.7)	(7.6)	(8.0)	(9.7)	(17.5)	-16.3		
		幅			9.3	(8.1)	(4.7)	(3.6)	(3.4)	(4.7)	(8.4)	-10.3		
	59-1.2	長	未	19.1	15.1	12.9	11.0	9.6					35.6	
		幅		13.9	10.6	8.4	5.4	4.5					15.3	
70-2	長			14.6	13.9	11.2	13.3							
	幅			10.5	9.8	6.6	4.9							
		咬耗			m	e-f								

咬耗指数は、Grant(1982)に倣う。()は乳歯、未は未萌出、中は萌出中。

第25表 イノシシ属上顎臼歯の計測値(mm)

調査	No.	項目	左					右					
			M3	M2	M1	P4	P3	P2	P2	P3	P4	M1	M2
11	1-1	長幅							8.3	8.7	10.9	11.6	未
		幅						5.2	7.7	9.7	11.7		
	5-1~5	長幅			17.2	11.8	11.3		11.1		17.6		
		幅			14.1	11.9	8.3		8.6		14.2		
	37	長幅							(9.7)	(10.6)	14.1	13.9	未
		幅							(6.9)	(9.0)	11.0	14.2	
80	73-1	長幅							10.2	9.8	12.5	18.4	23.8
		幅						8.5	11.2	11.5	14.2	15.3	
	79	長幅			14.1	(10.4)	(9.3)	(7.6)					
		幅			11.1	(9.2)	(7.1)	(4.7)					
	131	長幅			12.5	10.5	8.5	9.8					
		幅			13.9	12.6		5.5					
	150	長幅		18.9	12.0	10.1	10.4						
	幅		14.7	11.5	11.7	8.7							
	160	長幅						(7.8)	(8.6)	(8.9)	11.3		
		幅						(4.9)	(6.6)	(8.4)	10.5		
	273-2,276-5, 281~284	長幅								9.2	12.6		
		幅								10.5	11.4	14.0	
	281	長幅		16.9	11.5	8.8	10.8						
		幅		14.2	11.8	14.2	8.3						
88	59-3	長幅									(12.1)	12.7	15.3
		幅									(8.5)	10.5	12.1
	63-7	長幅		19.0	15.3								
		幅		17.0	13.8								
	135-7	長幅						11.4	12.6	10.4	13.3	17.5	
		幅						6.7	9	13.1	13.1	16.0	
	78-9	長幅	27.5										
		幅	17.7	15.4									

第26表 イノシシ属の四肢骨の計測値(mm)

部位	調査	No.	遺構	左右	GL	Bp	Bd	SD
上腕骨	11	28-2	S44	右	122.3	31.5	28.7	13.1
	11	30-18	S44	左			34.7	
	11	75	S44	左			39.6	
	11	28-2	S44	右	122.3	31.5	28.7	13.1
	11	145	S44	左			42.6	
	72	10	SD025	左			45.1	19.2
	72	142	SD025	右			40.2	
	80	95-1	S101	左				9.7
	80	221	S101	左			50.7	21.1
	80	299	S101	右	146.1	40.1	34.7	17.4
	88	17-14	S120	左				14.3
	88	20-2	S120	右	132.6	35.3	30.8	14.6
	88	79-2	S120	左			42.9	18.3
	88	79-3	S120	右			39.0	16.3
	橈骨	72	26	SD025	左		26.3	
80		20-3	S101	左				17.9
80		156	S101	左				14.0
80		236	S101	左				16.4
80		82-2	S101	左	100.0			17.9
80		238	S101	右				14.3
橈骨	88	16-1	SD120	右				30.0
	88	106-11	SD160	右				126.3 27.9 31.0 16.9
大腿骨	11	90	SD044	左	231.3	61.6	52.6	23.6
	11	9	SD044	右		60.3		
	80	154	SD101	左			35.0	14.1
	80	220	SD101	左	157.0	42.3	37.3	19.5
	80	276-1	SD101	左				20.0
	80	26	SD101	右				46.8
	88	106-12	SD160	右				42.3 17.6
	88	133-12	SD120	左				10.7
脛骨	11	4	SD044	右	200.6	53.6	29.8	21.5
	80	235	SD101	左		56.7		
	80	237	SD101	左			35.0	25.8
	80	279	SD101	左			24.7	
	80	83	SD101	右	128.0		23.4	14.6
	80	87	SD101	右	130.3	38.1	22.1	12.9
	80	94	SD101	右			56.3	
	88	77-17	SD120	左	176.9	43.5	27.0	18.9
88	133-11	SD120	右				16.65	

計測法は、Dreisch(1976)に倣う。

第27表 ウシ四肢骨の計測値(mm)

部位	調査	No.	遺構	左右	GL	Bp	Bd	同一
上腕骨	11	24-2	SD044	左			77.7	1
	11	108-2	SD044	右			77.7	2
	11	150-1	SD044	左			74.9	3?
	80	286	SD101				80.9	4
	88	9-1	SD120	右	283.3	87.0		5
	88	21-1	SD120	左			74.3	
	88	23-1	SD120	左			73.3	6
	88	49-1	SD120	左			79.5	7
	88	136	SD120	右	317.96	104.1	90.5	
橈骨	11	108-3	SD044	右	270.1	76.8	66.9	2
	11	122	SD140	右	271.2	75.4	65.9	
	11	140	SD044	左	245.1	67.7	60.7	
	11	24-1	SD044	左	264.6	75.3	65.6	1
	11	24-4	SD044	右	269.1	86.3	74.5	8
	11	150-2	SD044	左	247.5	72.8	64.3	3?
	11	150-3	SD044	右	248.0	72.5	64.3	3?
	72	207	SD025	左	250.6	71.5	63.9	
	80	285-2	SD101	左		83.8		4
	88	71-1	SD120	右		79.1		
	88	129	SD120	右		85.1		
	88	132-4	SD120	左		<67.8>		
	88	9-2	SD120	右	255.0	73.1	63.7	5
	88	17-2	SD120	右		73.2		
88	23-2	SD120	左	262.6	76.1	65.4	6	
88	49-2	SD120	左	250.4	76.1	69.1	7	
中手骨	11	21-3	SD044	-			49.0	
	11	24-3	SD044	右	179.1	60.7	60.6	8
	11	95-1	SD044	左	188.4	53.6	56.3	
	11	108-5	SD044	右	188.1	53.6	56.7	2
	11	150-4	SD044	左	182.2	49.8	55.5	3?
	11	150-5	SD044	右	182.1	52.8	55.1	3?
	80	68-1	SD101	左		53.8		
	80	123	SD101	右		55.0		
	80	287-1	SD101	右			58.0	
	88	14-1	SD120	左	193.2	56.7	61.0	
	88	23-3	SD120	左	182.4	53.6	58.0	
	88	29	SD120	右		61.6		
	88	48-3	SD120	左	176.2	56.3	57.1	
	88	79-5	SD120	左	178.5	57.1	57.4	
88	127-7	SD120	右		49.1			
大腿骨	11	115	SD044	右	314.9	99.8	76.1+	
	11	116	SD044	右	353.1	116.5	96.3	
	11	123	SD140	左				

部位	調査	No.	遺構	左右	GL	Bp	Bd	同一
大腿骨	11	133	SD044	左			88.0	
	11	165-1	SD044	右			92.5	9
	72	211	SD025	左				
	72	220	SD025	右				
	80	297	SD101	左	302.7	94.5	71.0	10?
	80	290		右	342.7	114.4	93.5	
	80	298		右			75.2	10?
	88	40-1	SD120	左				11
	88	43	SD120	左			96.2	
	88	44	SD120	左			91.5	12
	88	45	SD120	左	348.3	116.3	92.9	
	88	47-1	SD120	左	344.6	104.8	83.7	
	88	132-1	SD120	左	309.3	(96.0)	(78.5)	13
	88	138	SD120	右	360.2	101.0	83.7	
88	139-1	SD120	右	-	91.1	76.4	14	
脛骨	11	131	SD044	右				15?
	11	132	SD044	左	308.1	88.1	55.7	15?
	11	141	SD044	右	327.6	95.1	59.0	
	11	165-3	SD044	右	328.1	90.6	56.9	9
	72	203	SD025	左	325.9	92.3	58.3	
	80	67	SD101	左				
	80	296	SD101	左			59.4	
	80	292	SD101	右	324.6	94.9	59.8	
	88	4	SD120	右	342.7	97.2	61.5	
	88	8-1	SD120	右	334.3	92.5	60.2	
	88	40-2	SD120	左		82.4	51.7	11
	88	47-2	SD120	左	323.4	88.3	57.3	
	88	48-1	SD120	左	323.6	89.8	55.9	12
	88	80-2	SD120	右			47.3	
88	132-2	SD120	左	295.2	(79.4)	53.5	13	
88	139-2	SD120	右	285.0	80.3	56.4	14	
中足骨	11	84	SD044	右	204.0	46.8	51.3	
	11	129	SD044	左	207.6	48.4	49.8	15?
	11	130	SD044	右	207.3	48.4	49.8	15?
	11	165-7	SD044	右	213.6	44.0	51.4	9
	51	50	なし	右	202.6	41.6	47.4	
	72	213	SD-025	左	204.5	46.7	53.9	
	88	5-1	SD120	左	214.5	50.7	58.6	
	88	38	SD120	左	202.9	46.4	55.3	
	88	48-5	SD120	左	214.5	44.3	51.2	12
	88	83-4	SD120	右	211.3	50.5	58.6	
88	127-8	SD120	左	222.1	49.5	53.2		

<>は未癒合、()は癒合中、+は見込み値。計測法は、Dreisch (1976)に倣う。

第28表 ウシ臼歯の計測値(mm):咬耗指数

調査	No.	顎骨	左右部分	左						右					
				M3	M2	M1	P4	P3	P2	P2	P3	P4	M1	M2	M3
11	162	上	長 幅	29.3 24.3	26.3 24.5	19.8 23.8	16.8 21.3				17.7 17.7	17.2 21.8	20.7 24.6	26.3 24.9	30.7 24.9
	163-2	上	長 幅	29.3 24.0	27.1 24.1	21.2 23.4	14.7 20.6	15.2 18.6	15.8 17.4		15.7 17.6	15.0 21.4	20.7 23.2	26.5 23.9	28.7 22.9
80	71-1~6	上 遊離歯	長 幅		23.8 23.8	18.4 23.3	(15.6) (18.8)	(16.8) (15.5)	(15.0) (10.2)						
88	10	上	長 幅		24.3 22.8	19.7 21.7	14.5 18.7	14.5 17.2							
	149-3	上	長 幅	28.1 21.5	24.2 22.3	19.3 22.7	13.5 19.3	16.8 16.6	- -						
11	83	下	長 幅 咬耗	36.7 16.0 j	25.4 16.6 k	20 14.2 l	19.3 11.3 g	15.7 9.8	11.6 7.9						
80	70-1~4	下 遊離歯	長 幅 咬耗								15.1	23.6 12.3 j	19.8 14.3 f~g	25.5 15.5 b	
88	152-1,2	下	長 幅 咬耗	40.7 17.3 h	24.7 17.9 l	20.4 17.1 m	19.9 16.5 g	16.3 14.7	12.0 8.7	11.8 8.7	16.2 12	18.8 14.4 g	22.4 16.3 m	24.5 17.8 l	39.8 17.0 k

咬耗指数は、Grant(1986)に倣う。()は乳歯。

第29表 ウマ臼歯の計測値(mm)

調査	No.	顎骨	左右部分	左						右					
				M3	M2	M1	P4	P3	P2	P2	P3	P4	M1	M2	M3
72	144~151	上	長 幅 高		21.4 21.5 22.8	21.5 -	23.8 22.7 31.2	23.3 22.7 32.2			23.6 22.2 26.8	23.3 22.8 27.9	21.4 21.5 32.7	20.6 -	
80	74,75	下	長 幅	32.4 12.9	22.0 12.6	22.3 14.2	23.8 14.9	25.3 15.4	30.1 13.3	30.1 12.3	27.0 17.8	26.0 17.6	22.4 18.3	24.3 16.5	27.5 13.5
	301~303 304~308 遊離歯	下	長 幅 高				25.2 14.5 54.6	27.5 15.2 48.8	32.1 12.7 31.2	32.3 12.8 31.7	25.9 14.5 47.7	25.7 14.8 54.3	24.5 23.3 42.6		

第30表 ウシ臼歯列長の計測値(mm)

顎骨	調査	No.	左右	前臼歯	後臼歯	全臼歯
上	11	162	左		78.5	
			右		78.8	
	163-2	左	47.7	79.6	125.7	
88	149-3		左	51.1	72.3	117.2
下	11	83	左	46.4	87.5	133.5
	80	64	左		83.1	
	80	125	左	48.9	86.1	137.9+
	80	175	右	51.1	84.3	137.0
	88	152-1	左	48.6	89.6	137.6
	88	152-2	右	48.9	87.5	136.8

第31表 ウマ臼歯列長の計測値(mm)

顎骨	調査	No.	左右	前臼歯	後臼歯	全臼歯
下	80	74	左	82.8	80.2	156.9
		75	右	82.1	74.5	157.6
	301~303	左	84.8			
	304~306	右	82.4			
	300	左	90.6	81.0	165.5	

第30・31表の計測法は、Dreisch(1976)に倣う。

第32表 ウマ四肢骨の計測値(mm)

部位	調査	No.	遺構	左右	GL	Bp	Bd
上腕骨	88	32	SD120	左		77.2	66.5
橈骨	11	118	SD044	左			63.6
	72	208	SD025	左	285.3	65.0	60.8
	80	3-1	SD101	左			64.1
中手骨	51	47	SD200	左			44.9
	88	63-6	SD120	右	200.5	43.8	45.3
大腿骨	11	24-5	SD044	左	333.4	93.4	75.6
	11	117	SD044	左	370.4	100.0	82.6
	11	142	SD044	右	332.1	91.1	78.0
	72	215	SD025	左	353.9	101.8	82.1
	72	202	SD025	右		98.5	
	72	212	SD025	右	345.9	105.0	83.2
	72	214	SD025	右			
	88	13-2	SD120	左			84.3
	88	17-1	SD120	右			80.0
	88	36-1	SD120	右			
	88	137	SD120	右			81.9
	脛骨	11	149	SD044	左	307.8	76.4
72		216	SD025	右	332.2	82.6	61.0
80		291	SD101	左	314.5	85.6	65.5
88		25	SD120	右	281.0	72.7	52.8
88		84-3	SD120	左	282.3	71.4	23.6
中足骨	88	68-1	SD120	左		42.2	

第33表 ネコ四肢骨の計測値(mm)

部位	調査	No.	遺構	左右	GL	Bp	Bd
上腕骨	80	72-1	SD101	右	94.8	16.0	16.5
	80	72-2	SD101	左	94.5	15.5	16.7
橈骨	80	72-3	SD101	左	88.0	7.3	10.9
	80	72-5	SD101	右	88.3	5.6	10.9
	80	275-4	SD101	右			
尺骨	80	72-4	SD101	左	102.7		
	80	72-6	SD101	右	102.1		
大腿骨	88	26-5	SD120	左	95.1	18.1	
脛骨	72	14	SD025	右	106.8	17.5	13.2
	88	85-2	SD120	右	100.0		12.5

第35表 ニホンジカ臼歯の計測値(mm)・咬耗指数

調査	No.	顎骨	左右部分	左					右						
				M3	M2	M1	P4	P3	P2	P2	P3	P4	M1	M2	M3
88	16-2	下	長幅咬耗							8.2	11.6	11.8	14.5	16.0	23.4
										5.6	8.0	9.0	10.4	11.2	11.3
												1	3	2-3	

咬耗指数は、大泰司(1980)に倣う。

第34表 ニホンジカ四肢骨の計測値(mm)

部位	調査	No.	遺構	左右	GL	Bp	Bd
上腕骨	11	138	SD044	右	172.7	42.9	34.3
	51	32	SD200	左			36.5
	51	45	SD533	左			40.5
	80	12	SD101	左			38.2
	88	106-10	SD160	右		33.6	31.8
	88	57-12	SD120	右			
	88	70-1	SD120	右			36.7
	88	14-3	SD120	左	185.4	43.5	38.1
	88	14-4	SD120	右	185.2	43.8	36.8
	橈骨	11	91	SD044	左		
11		92	SD044	右	174.0	32.3	29.0
51		44	SD200	右			32.17
51		33	SD200	左	178.0	35.4	
51		34	SD200	左		36.5	
80		11	SD101	左	183.9	35.1	32.3
80		211-1	SD101	右			28.5
88		77-16	SD120	右	173.3	32.5	27.7
88		36-4	SD120	左		32.5	
中手骨		11	148	SD044	右	174.8	25.0
	11	50	SD044	右			27.6
大腿骨	20	9	SD-01	右			(46.1)
	51	46	SD533	左			44.3
	88	127-6	SD120	右			49.7
脛骨	51	38	SD200	右			29.3
	80	13	SD101	左		50.5	31.7
	80	161	SD101	左			
	88	37-11	SD120	右			34.2
	88	79-1	SD120	左			33.6
中足骨	11	78	SD044	左	181.0	22.3	
	51	42	SD200	左		23.1	
	88	15-6	SD120	右	228.5	26.8	32.2
	88	37-1	SD120	右	204.6	25.9	26.9

() は未癒合
第33~34表の計測法は、Dreisch(1976)に倣う。

な痕跡が見られる。ニホンジカの枝角には鋸で切断された痕跡が見られる。

第72次調査のSD025から、ウシ24点、ウマ23点、イノシシ属21点、イヌ16点、モグラ属10点、ネズミ科4点、キツネ、イルカ類が2点ずつ、イヌ科、ニホンジカ、ネコが1点ずつ、計105点が出土している。イノシシ属の四肢骨には骨端部が未癒合の幼・若獣が含まれる。イヌの椎骨、下顎骨には、切傷や叩傷が見られる。また、イノシシ属の椎骨、四肢骨には切傷が見られ、そのうち同一個体の上腕骨・橈骨・尺骨には、強く刃物を叩きつけた痕跡が見られる。ウシ、ウマの四肢骨には、骨幹部に細かな肉を削いだ痕跡が見られる。

第80次調査のSD101から、イノシシ属98点、ウシ75点、ウマ42点、ネコ26点、ニホンジカ25点、イヌ13点、タヌキ12点、ネズミ科10点、ヒト3点、ウサギ2点、ニホンザル1点、計307点が出土している。イヌ、タヌキ、ネコ、ウマ、ウシ、イノシシ属、ニホンジカの頭蓋骨、下顎骨、四肢骨には同一個体のものが含まれる。ウマの下顎骨は、乳臼歯（dP2～dP4）が植立しており、ウシ、イノシシ属、ニホンジカの四肢骨には骨端部が未癒合の幼・若獣が含まれる。イヌ、ネコ、ウマ、ウシ、イノシシ属、ニホンジカの頭蓋骨、下顎骨、四肢骨などには切傷、叩傷、皮や肉を削いだ痕跡が見られるものが含まれる。鋸で切断されたウマの橈骨の骨幹部は、骨細工の素材と考えられ、叩き切って切断されたニホンジカの中足骨の遠位端、鋸によって切断された鹿角は骨角細工の廃材と考えられる。



第465図 種類・部位不明の骨
(スケールは5cm)

第88次調査のSD120から、ウシ136点、イノシシ属57点、ニホンジカ31点、イヌ29点、ウマ19点、ネコ2点、ネズミ科1点、計275点が出土している。また、保存状態が良く、大型哺乳類のものと推測されるが、種類、部位とも判明しないものが1点出土している（第465図）^(註8)。イヌは同一個体の頭蓋骨、下顎骨、第1～第5頸椎が含まれており、頭蓋骨は頭頂部が打ち割られ、第5頸椎は切断されている。イノシシ属、ウシ、ウマ、ニホンジカには同一個体の椎骨や四肢骨が含まれる。イヌ、イノシシ属、ウシ、ニホンジカの四肢骨には骨端が癒合していない、あるいは癒合中の幼・若獣が含まれる。イヌ、イノシシ属、ウシ、ウマ、ニホンジカの頭蓋骨、下顎骨、椎骨、四肢骨には切傷や叩傷が見られるものが含まれる。また、鋸で切断された鹿角が1点含まれており、角細工の廃材と考えられる。

その他の遺構 第11次調査のSD083からヒトの遊離歯が2点、SD140からイヌの脛骨（右）、イノシシ属の肋骨（右）、ウシの肩甲骨（左）、橈骨（左）、大腿骨（右）、脛骨（左）が1点ずつ、計5点が出土している。ウシの脛骨は鋸で遠位端が切断されおり、骨細工の廃材と考えられ、肩甲骨には切傷が見られる。

第12次調査の井戸（M-13南壁トレンチ暗灰色粘質土層）から、ニホンジカの椎骨7点、イヌの上腕骨（右）など、ウマの遊離歯が2点ずつ、計11点が出土している。ニホンジカの椎骨は、第4頸椎から第3胸椎まで、イヌの上腕骨と橈骨は同一個体のものである。

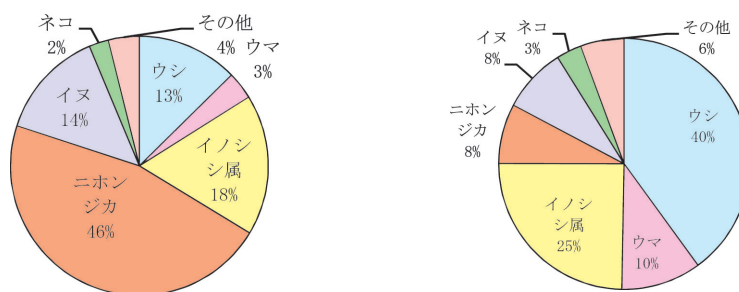
第51次調査のSD363から同一個体と思われるウシの臼歯の細片が16点、SD533からニホンジカの上腕骨（左）、大腿骨（左）が1点ずつ、計2点出土している。

第72次調査のSD017からネコの頭蓋骨と下顎骨が1点ずつ、計2点が出土しており、頭蓋骨が同一個体の可能性がある。

第88次調査のSD160からイノシシ属の頭蓋骨（右）、橈骨（右）、大腿骨（右）、ニホンジカの（右）上腕骨が1点ずつ、計4点が、SD223からウマの遊離歯1点、SK061からウシの遊離歯1点が出土している。

2) 地点別の特徴

万寿寺と称名寺跡地のそれぞれの堀から出土した哺乳類を比較すると、万寿寺でニホンジカの出土比率が高く、称名寺跡地でウシの比率が高いという大きな相違が見られ、イノシシ属は両方で一定の比率を占めるという特徴がある（第465・466図）。称名寺跡地では、第80次調査地でイノシシ



第466図 哺乳類の組成 (万寿寺の堀) 第467図 哺乳類の組成 (称名寺跡地の堀)

解体痕 属が多数を占めるのに対して、第11次、第72次、第88次調査地ではウシが他を圧倒する。また、第80次調査だけでイヌよりネコが多く出土しており、ネコには解体痕が見られる下顎骨や橈骨が含まれている。

イノシシとブタ また、第80次調査で出土したイノシシ属には、形態学的にブタと同定できる下顎骨や四肢骨が出土していることである。当遺跡におけるイノシシとブタの利用について、それらの形態学的な特徴と安定同位体化学分析の結果とをあわせて後述する。

4 中世大友府内町跡から出土した動物遺存体の安定同位体化学分析

覚張隆史・米田穰

1) 試料の概要と方法

ブタ 中世大友府内町跡で出土した動物遺存体の中でも、イノシシ属が数多く出土しており、当時の人々がこれらを食用としていたことがわかる。本遺跡から出土したイノシシ属は、形態的にイノシシと異なるとの情報を得ていたことから、これらのイノシシ属が飼育されたブタである可能性が高い。本分析は、安定同位体分析に基づいて遺跡出土イノシシ属の食性を評価し、大友府内町跡におけるイノシシ属の利用形態の復元を試みた。

試料は、コラーゲン抽出した後に、炭素・窒素安定同位体分析を実施した。東京大学先史人類学研究室において実施されるコラーゲン抽出で使用されるガラス器具類は、マッフル炉において480℃で2時間以上高温燃焼することで外部からの汚染を最小限にするように心がけている。また、試料が直接触れる器具も同様に、外部汚染の影響に対する対策を実施している。酸素安定同位体比測定で使用する実験器具は、1N硝酸で洗浄し、超純水で洗浄したものを用いた。

a) 骨コラーゲン抽出

まず、工学用ドリルを用いて、骨片を採取した。採取した骨の表面はサンドブラスターで土壌物質を除去した。超純水中で超音波洗浄し、表面の微細な汚染を除去した。洗浄した試料は0.2N NaOHに浸し、4℃下で12時間反応させ、表面に付着する有機物汚染の影響を除去した。0.2N NaOHを除去し、超純水で洗浄する。試料を浸した超純水の酸性度が中性になったことを確認し、凍結乾燥器にて12時間乾燥させた。乾燥させた試料は粉碎器具にて粉末化した。粉碎した試料はセルロースチューブ内で1.2N HClに反応させ、炭酸カルシウムを除去した。反応が終わったことを確認し、1.2N HCl内にて4℃下で12時間の脱灰反応を行った。脱灰後は、1.2N HClを除去し、セルロースチューブ内が中性に戻るまで超純水を繰り返し交換した。中性に戻した後に、12時間超純水内に入れた。脱灰後の試料溶液をガラス管に移し、遠心分離して上澄みを凍結保存した。沈殿物に超純

第36表 動物遺存体の安定同位体分析結果

No.	調査	遺構	遺物No.	学名	部位	左右	重量	備考	C%	N%	C/N	Δ13C	Δ15N	Δ18O
1	11	S-44	821	<i>Sus scrofa</i>	下顎	左右	0.2	M3 イノシシ	43.4	15.8	3.2	-19.6	5.2	13.2
2	11	S-44	30-6	<i>Sus scrofa</i>	下顎	右	0.2	M3 イノシシ	44.0	15.9	3.2	-20.0	3.2	14.3
3	80	S101	158	<i>SUS SCROFA</i>	下顎	右	0.2	M3 ブタ	42.0	15.2	3.2	-18.2	8.4	17.5
4	80	S101	273-1	<i>SUS SCROFA</i>	下顎	左	0.1	ブタ	43.1	15.6	3.2	-19.5	9.5	-
5	80	S101	148	<i>SUS SCROFA</i>	下顎	左	0.2	M3 イノシシ	43.8	15.7	3.3	-19.9	5.8	13.7
6	88	S120	59-1	<i>SUS SCROFA</i>	下顎	左	0.3	M2 イノシシ	42.2	15.0	3.3	-18.9	4.1	15.3
7	80	S101	131	<i>SUS SCROFA</i>	上顎	左	0.2	ブタ	43.8	15.7	3.3	-18.3	4.5	-
8	80	S101	73-1	<i>SUS SCROFA</i>	上顎	右	0.1	イノシシ	42.5	15.1	3.3	-19.4	7.6	-
9	11	S-44	10108	<i>CERVUS NIPPON</i>	肩甲骨	右	0.2		43.0	15.6	3.2	-22.3	3.7	-
10	11	S-44	20123	<i>CERVUS NIPPON</i>	橈骨	左	0.1		41.3	14.8	3.3	-20.4	2.0	-
11	88	S-120	44	<i>CERVUS NIPPON</i>	脛骨	右	0.2		44.0	16.0	3.2	-21.8	3.7	-
12	80	S101	161	<i>CERVUS NIPPON</i>	脛骨	左	0.2		41.8	15.0	3.3	-21.7	3.8	-
13	80	S101	173	<i>SUS SCROFA</i>	肩甲骨	右	0.5	イノシシ	35.8	12.0	3.5	-20.4	4.5	-
14	80	S101	220	<i>SUS SCROFA</i>	大腿骨	左	0.1	ブタ	45.1	16.1	3.3	-18.7	9.5	-

重量はグラム

水を加え、ブロックバスにて90℃で12時間の反応を行い、コラーゲンをゼラチン化させた。ガラス管を遠心分離し、上澄みに溶解しているゼラチン化したコラーゲンをガラスフィルターにて濾過した。濾過された試料溶液は2日間凍結乾燥させた。

b) 炭素・窒素安定同位体測定

抽出されたコラーゲンを東京大学先史人類学研究室の元素分析計—安定同位体比質量分析計(EA-IRMS)を用いて $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ および炭素・窒素比(C/N)を測定した。EA-IRMSの測定系は、まず、元素分析計(FLASH2000, Thermo)において試料の燃焼・還元され、生じたガスはキャピラリーガスクロマトグラフによって二酸化炭素・窒素ガスに分離される。分離されたそれぞれのガスを安定同位体比質量分析計(DELTA V, Thermo)に導入するために、ガスの流量を調節するインターフェイス(ConFlo III, Thermo)を接続することで、元素分析計で分離したガスから直接的に安定同位体比の測定が可能になった実験系である。安定同位体比の測定は測定用の精製コラーゲン0.5mgをスズ箔に包み、上述したEA-IRMSで測定を実施した。

測定された安定同位体比は国際標準物質の値を基準に補正した値を後の解析に用いる。炭素同位体比の標準物質はPD層ベレムナイト(PDB)、窒素同位体比は現代大気(AIR)を基準とし、これらの標準物質の同位体比からの差分を千分率(‰:パーミル)で表記する。この値は δ (デルタ)と表記する。安定同位体比の補正計算は式1の通りである。また、本分析における安定同位体比の測定精度は、炭素同位体比は標準偏差 $\pm 0.1\%$ 、窒素同位体比は標準偏差 $\pm 0.1\%$ であった。

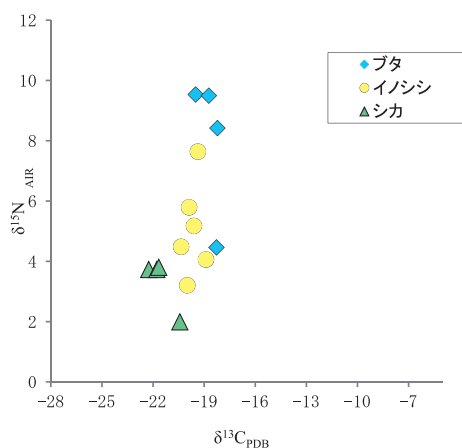
$$\delta^*X = \left[\left(\frac{^*X}{X} \right)_{\text{sample}} / \left(\frac{^*X}{X} \right)_{\text{standard}} - 1 \right] \times 1000 (\text{‰}) \cdots (\text{式1})$$

Xは同位体、 $^*X > X$, (例) $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$

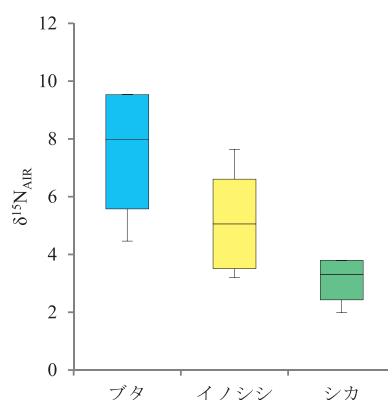
土壌由来の有機物汚染の影響がある分析試料を除外するために、生体のコラーゲンがもつC/N=2.9~3.6の基準から逸脱した試料は、安定同位体比の比較には用いなかった(Deniro 1985)。

c) 酸素安定同位体測定

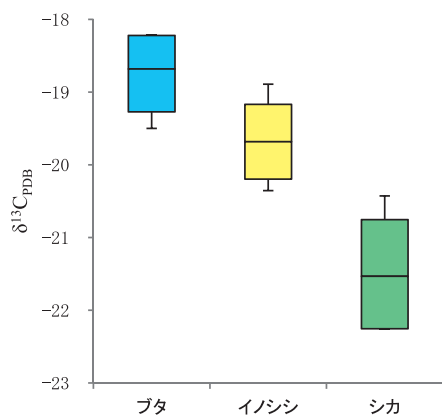
骨コラーゲンを抽出した同一個体の歯エナメル質から工学用ドリルで10mg採取した。採取したエナメル質の粉末を用いて、Vennemann et al. (2002)に基づいてリン酸銀を精製した。測定に用



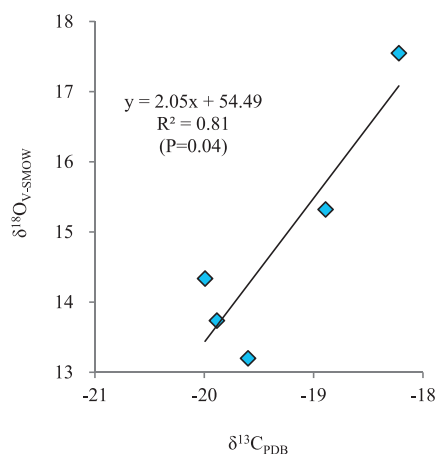
第468図 動物遺存体の炭素・窒素安定同位体比



第469図 動物遺存体の窒素安定同位体比



第470図 動物遺存体の炭素安定同位体比



第471図 イノシシ属の炭素・酸素安定同位体比

いたスタンダードはNBS120c（燐灰石）を用い、測定精度は $21.7 \pm 0.3\%$ であった。酸素同位体比の表記は炭素・窒素安定同位体比と同様に‰で表記し、標準物質はV-SMOW（世界の海水の平均酸素同位体比）で規格化した。

2) 結果および考察

イノシシとブ 本分析は、形態学的な特徴から2つの分類、すなわちイノシシ属をイノシシとブタに区別して
 タの区別 (註9)、安定同位体比の比較を行った（表26、第468図）。イノシシと同定された個体は、炭素同位体
 比は $-19.7\% \pm 0.5$ 、窒素同位体比は $5.1\% \pm 1.5$ であった。ブタと考えられる個体は、炭素同位体比が
 $-18.7\% \pm 0.6$ 、窒素同位体比は $8.0\% \pm 2.4$ であった。また、野生動物と仮定することが妥当な生物種
 であるシカの炭素同位体比は $-21.5\% \pm 0.8$ 、窒素同位体比は $3.3\% \pm 0.9$ であった。イノシシとブタの
 F検定 各同位体比の分散の差を比較するためにF検定を行った結果、両者の間に有意な分散の差はなかつ
 た ($P > 0.05$ 、第469・470図)。また、イノシシとブタの各同位体比の平均値の差を比較するために、
 t検定 t検定を行った結果、両者の間に有意な差があった（炭素同位体比 $P = 0.01$ 、窒素同位体比 $P = 0.02$ ）。
 F検定 また、イノシシとシカの各同位体比の分散の差を比較するためにF検定を行った結果、両者の間に
 有意な分散の差はなかつた ($P > 0.05$)。また、イノシシとシカの各同位体比の平均値の差を比較す
 るために、t検定 t検定を行った結果、両者の間に有意な差があった（炭素同位体比 $P < 0.01$ 、窒素同位体

比 $P = 0.04$)。

食性の差 これらの結果に基づくと、野生のシカとイノシシ属の間に食性の差がある可能性が示唆された。さらに、形態学的にイノシシと同定された個体が、シカと食性が異なることは注目される。Minagawa et al. (2005) は日本列島の遺跡出土イノシシ属の炭素・窒素安定同位体比を測定しているが、縄文時代の遺跡から出土するシカとイノシシ属との間で各安定同位体比の平均値に有意な差がないことが報告されている。これは、縄文時代のイノシシ属は野生状態であった可能性が高いため、シカの食性と近似していたと考えられる。一方、大友府内町跡ではニホンイノシシに類似した人為的な影響 形態ではあるものの、すでに人為的な影響が生じていた可能性が考えられる。人為的な影響は、ヒトからの積極的な給餌だけでなく、イノシシがヒトの農作物を摂取した可能性もある。

ブタ また、ブタと同定された個体は、イノシシよりも両同位体比が明らかに高い値を示した。筆者らは窒素同位体比のみが高いイノシシ属は、水稻で生じる米や粳を給餌されていた可能性を指摘しているが(覚張・米田2012)、本分析結果は炭素同位体比も変動が大きく、先行研究の事例とは異なる挙動を示した。この様な事例は、大坂城下町跡から出土したイノシシ属における試料の安定同位体比の挙動と類似している(覚張・米田2011)。これは、イノシシ属よりも栄養段階が一つ以上うえの肉食哺乳類や魚介類の摂取を想定しないと説明ができない。また、大きく異なる地域では植物 異なる生態系 異なる生態系から移入 異なる生態系から移入された可能性を議論するために、炭素・窒素安定同位体比を測定した同一個体から、酸素同位体比の測定を行った(第471図)。骨に含まれる酸素同位体比は、そのイノシシ属が成育した生態系内の飲み水の酸素同位体比と相関関係がある。一般的に、骨に含まれる酸素同位体比が高いほど気温が高く、低いほど気温が低い。また、C3植物の炭素同位体比は気温と相関関係があり(温度効果)、炭素同位体比が高いほど気温が高く、低いほど気温が低い。この様な背景から、気温が全く異なる生態系間では、炭素同位体比と酸素同位体比がともに異なり、両者の間で正の相関関係を示すことが予想される。その予想に基づいて、出土したイノシシ属の炭素・酸素同位体比を測定し回帰分析を実施した結果、炭素同位体比と酸素同位体比の間で正の相関が示された。つまり、異なる生態系から移入された場合、酸素同位体比が高い個体は、低い個体に比べてより温暖な地域で生息していたと推察される。今後、古代DNA分析などの異なる分析手法を組み合わせることで、酸素同位体比が高い個体がどの地域にいたかを議論することが重要である。

5 中世大友府内町跡における動物利用

丸山真史・池田研・江田真毅・松井章

1) ニワトリの形質とその利用

ニワトリ ニワトリの雌雄を、足根中足骨の距突起(蹴爪の基部となる骨体底側面の突起)の有無で分けると、オスの可能性が高い距突起のある資料の全長(GL)の平均値は89.9mm、メスの可能性が高い距突起のない資料の平均値は81.3mmであった。足根中足骨の全長をプロットすると、距突起のある資料、ない資料ともその内部に明瞭なクラスターは形成されなかった(第472図)。一方で、最大の資料と最小の資料の差は大きく、前者で23.6cm、後者で19.0cmに達した。この差は最小個体の全長のそれぞれ約29.0%と27.0%にあたり、大小さまざまな大きさのニワトリが利用されていたことが伺える。これは、西本・江田(1999)が汐留遺跡で指摘したように、さまざまな品種・系統のニワトリを人為的、自然 人為的、自然 的交配 的交配を人為的、あるいは自然に交配させていた結果の可能性がある。本遺跡出土の足根中足骨の全長を、年代的に近い東京都汐留遺跡(17世紀代遺構出土分、西本・江田1999)、大坂城下町跡OJ04-1次(17世紀中頃、丸山・池田・宮本2010)と比較した。すると、汐留遺跡と大坂城下町跡に比べ、

本遺跡出土資料のサイズの変異は顕著に小さい傾向が認められた。特に汐留遺跡でシャモと同定されているような大型個体が存在しないことが読み取れる。これらのことから、17世紀の江戸や大坂に比べると、中世大友府内町跡では、利用されたニワトリの大きさや品種のバリエーションは少ないことが示唆された。

バリエーションの少なさ

解体痕

解体痕は、肩関節、肘関節、股関節、膝関節、足根関節付近に集中していた。関節付近で、体部と上下肢、さらに上肢は2つに、下肢は3つに切断したのであろう。また、胸骨に見られるカットマークは、肉を取り除いた際に付いたものと考えられる。むね肉、手

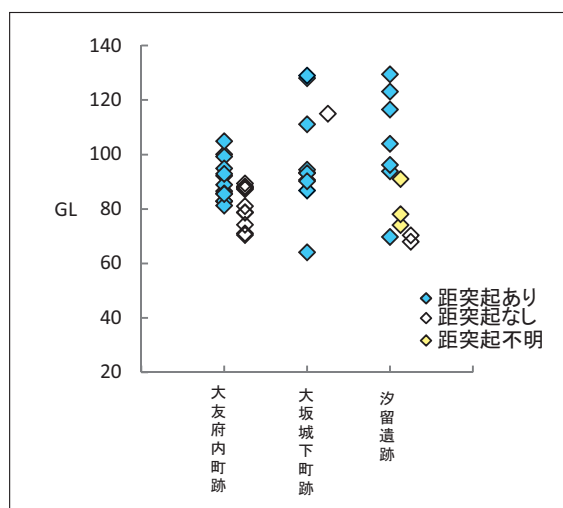
カットマーク

若鳥の骨

羽肉、もも肉が食用に供されたことは明らかである。若鳥の骨が10%程度認められることから、若鳥も利用されていたことが想定される。しかし、その出現頻度は、江田（2008）が若鳥の積極的な利用を論じた17世紀～19世紀の長崎県和蘭商館跡でみられた約35%と比べると、十分に高いとは言えない。また、距突起の有無により推定した雌雄比はわずかに雄が多く、和蘭商館跡でみられたように雌個体が卓越するような傾向（約9：1で雌が多い；江田2008）は認められなかった。雄は若鳥のうちに消費し、雌は産卵のために残しておくようなニワトリの管理はおこなわれていなかったものと考えられる。前述の汐留遺跡や大坂城下町跡でも雌雄比が顕著にオスに偏る傾向が読み取れることから、江戸時代初頭の江戸や大坂でも、このようなニワトリの管理は行われていなかったであろう。また、骨髓骨を含む骨の割合も脛定根骨でも約6%と少なかった。和蘭商館跡で推定したような産卵期を終えた雌鳥をすぐに消費するような管理もなかったものと考えられる。中世大友府内町跡におけるニワトリは、解体痕などがあることから、食用にもなっていたことは明らかであるが、日常的な食料ではなくハレの食事を用いる特別な食材、あるいは闘鶏や愛玩動物としての飼養を一義的な目的とするものであったであろう。

ニワトリの管理

ハレの食事



第472図 ニワトリ足根中足骨の計測値分布

2) イノシシ・ブタの形質とその利用

第80次調査では、形態的に明らかにニホンイノシシとは異なり、家畜ブタと思われる頭蓋骨、下顎骨、四肢骨が出土していたことから、安定同位体分析を行う前に、典型的な「イノシシ」タイプと「ブタ」タイプに分けた上で分析を実施した（p412～415参照）。ブタと思われる個体の形態的特徴は、ニホンイノシシ現生標本（奈良文化財研究所所蔵）と比べると以下のようなものである。

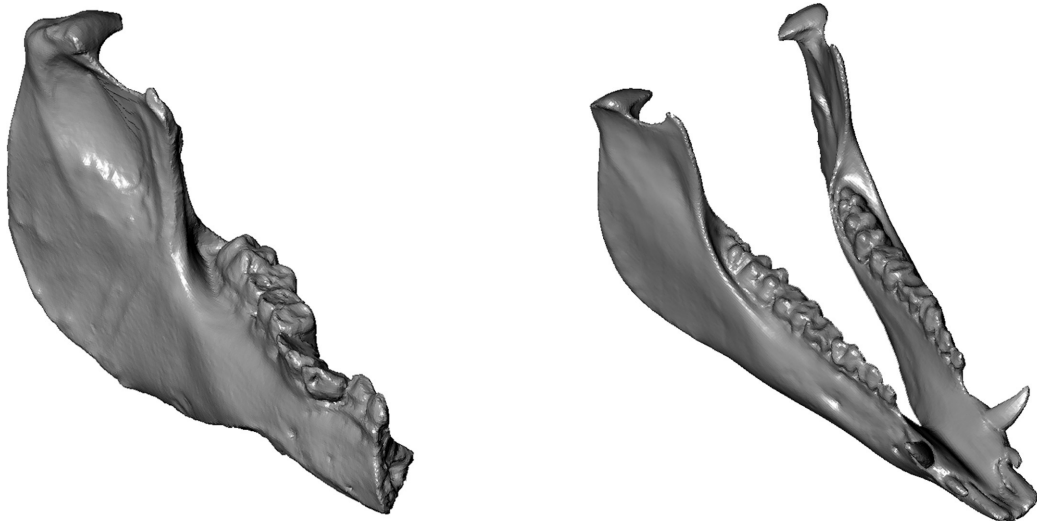
「イノシシ」タイプ
と「ブタ」タイプ
ブタの特徴

下顎骨：安定同位体分析試料No.3（第473・474図）

- (1) 下顎体の歯槽の第3後臼歯後端で、下顎枝が急角度に立ち上がる。
- (2) 歯周病を患って、臼歯列が著しく歪む。
- (3) 第1後臼歯の舌側は、著しく咬耗する。
- (4) 第3後臼歯は咬頭前方（プロトコニッド・パラコニッド）のみ咬耗が進行する。
- (5) 第2前臼歯から第2大臼歯の～M2の頬側には、歯石と思われる白色物が付着する。

下顎骨：安定同位体分析試料No.4（写真144）

- (1) 第3後臼歯は、萌出していない。
- (2) 下顎底から先端部への立ち上がり強い（傾斜角32度、註10）。



第473図 ブタとイノシシの下顎骨（左：試料No.3, 右：現生骨格標本）
 コニカミノルタ製のVIVID910による3次元計測画像



第474図 ブタ（試料No.3）の上面と頬側面

(3) 下顎底は直線的であり、顎骨全体的に丸みを帯びる。

大腿骨：安定同位体分析試料No.14 (写真15-17)。

(1) 近位端（大転子、小転子とも）、遠位端の両方の骨端部の化石化が終了している。

(2) 最大長（GL）が157.0mmと、ニホンイノシシより極端に小さい。

(3) 本資料と第11次調査で出土したほぼ完形のニホンイノシシ類似の大腿骨とを計測値で比較すると、それぞれ近位端最大幅（Bp）42.3mm、61.6mmで、その本資料／イノシシタイプとの比率は69%、骨幹部最小幅（SD）19.5mm、23.6mmで比率は83%、遠位端最大幅（Bd）37.3mm、52.6mmで比率は71%となる。これらの計測値から、本資料が両方の骨端部の幅の比率、70%前後に対して、骨幹部が83%と、骨幹部が太いことを示し、見た目も丸みを帯びる。

上記の3点の安定同位体を測定した結果は、これらが窒素（ $\delta^{15}\text{N}$ ）の高い値を示す個体群となった（第36表・第468図）。一方、ブタタイプに分類した上顎骨で窒素の値が低い個体、イノシシのタイプに分類した頭蓋骨に窒素の値が高い個体もある。それらの特徴は、以下のようである。

上顎骨：安定同位体分析試料 No.7

犬歯～第1後臼歯付近を残す上顎体で、第3前臼歯～第1後臼歯のエナメル質が著しく咬耗する。残存する臼歯の大きさに比較して、犬歯の歯槽が小さいことから、形態上はブタタイプと判別した。ところが、この試料の窒素の値は、ニホンジカよりやや高い値を示すが、上述した個体群と比較す

るとはるかに低い値を示す。

頭蓋骨：安定同位体試料 No. 8

上顎骨も含み、第3後臼歯が萌出しておらず、前頭骨と側頭骨の縫合も完了していない若齢個体である。形態的に丸みを帯びている印象はあったが、若齢のためブタタイプには分類しなかった。しかし、この試料No.8の窒素同位体の値は、上述3点に続く高い値を示した。

窒素の値の有意差
給餌

前項の安定同位体分析の結果、ブタとニホンジカの間だけでなく、イノシシとニホンジカの間でも、窒素の値に有意差が示され、これはMinagawa et al.(2005)の関東地方の縄文貝塚から出土したイノシシとニホンジカの窒素同位体の値が同じ範囲に含まれるという結果と異なる。その要因として、形態でイノシシタイプと分類した個体に、給餌された個体が含まれていた可能性を示している。しかし、この結果は、窒素の値が低い上顎骨 (No.7) をブタに、高い頭蓋骨 (No.8) をイノシシに含めたことで、イノシシとニホンジカの窒素の値に優位差が生じた可能性がある。形態からブタと分類できる個体で、窒素の値が高いものはブタと同定できるであろう。それに対して、形態と安定同位体分析が合致しなかった上顎骨 (No.7) と頭蓋骨 (No.8) は、形態によるイノシシとブタの区別が困難であることを示している。ただし、上顎骨 (No.7) は、炭素 ($\delta^{13}\text{C}$) の値が他より高く、イノシシであるとの即断もできない。また、形態からイノシシと思われる下顎骨 (No.5・6・7) は、ニホンジカより窒素の値が高いものが大部分を占め、給餌された個体が含まれている可能性も指摘される。

小型のブタ

前述した大腿骨 (No.14) は小型のブタと考えられ、それと同様の上腕骨、橈骨・尺骨 (癒合)、脛骨が、第80次調査のSD101から出土している (写真15-1・7・13)。

家畜ブタ

これらの小型のブタと思われる個体は、第11次、第72次、第88次の各調査でも出土している。ところが、前回に報告した第34次と第43次 (丸山・松井2008)、今回の第20次、第51次の万寿寺の堀にあたる各調査では、イノシシ属の下顎骨などの部位が出土しているが、形態観察によってブタと指摘できるものはない。万寿寺の堀からはニホンジカが多く、イノシシ属がそれに次いだ。ブタと思われるものは見られない。それに対して、称名寺跡地の堀ではイノシシ属がニホンジカを上回り、イノシシ属の中には形態観察からブタと判別されるものが少なくなく、炭素・窒素の安定同位体による食性分析によっても、窒素の値が高い家畜ブタの可能性が指摘される。称名寺が16世紀中頃 (永禄年間) に移転し、そこに大規模な堀を伴う施設が建設され、どのような機能を果たし、どのような住民が住んでいたかは明らかでない。しかし、この施設では万寿寺に居住した人々の食生活とは大きく異なり、ブタを含むイノシシ属が盛んに食用とされ、その住民として、より肉食・珍味を好んだ武士か、ポルトガルの商人、宣教師らであった可能性を指摘したい。

肉食・珍味

温暖な地域で
成育

さらに今回の同位体分析で得られた新しい所見は、下顎骨 (No.3) の酸素同位体 ($\delta^{18}\text{O}$) の値が高い現象である。骨に含まれる酸素同位体は、その骨が成育した時の気温を反映することがわかっており、この個体が他のブタタイプやイノシシタイプより、温暖な地域で成育された個体と推測できよう。ジョアン・ロドリゲスが著した『日本教会史』には、日本人は豚、鶏、牛などの家畜を不浄のものと考え、それらの肉は食べないとする記事があるが、船や商船で日本に来るポルトガル人との商取引で、彼らに家畜を売るために飼っており、実際には取引に集まる商人や一部の領主が、菓や珍味という口実によってそれらを食べているという記事が見られる (ロドリゲス著・佐野訳・浜口訳・江馬注・土井訳・注1967)。1775年に出島に来訪したツェンベリーは、8月15日の記録として、「バダビアから毎年当地に運ばれてくる子牛、雄牛、豚、山羊、羊、雄鹿などの家畜が、まず船からおろされた。日本ではこのような家畜を手に入れ屠殺することはできないので、ヨーロッパ人は、相当数を船で運んで来ざるを得ない。」と記した (ツェンベリー著・高橋訳1994)。これはオランダ商船の出島への寄港の記事であるが、ポルトガル人もまた大友府内町に寄港した際、そこで陶磁器

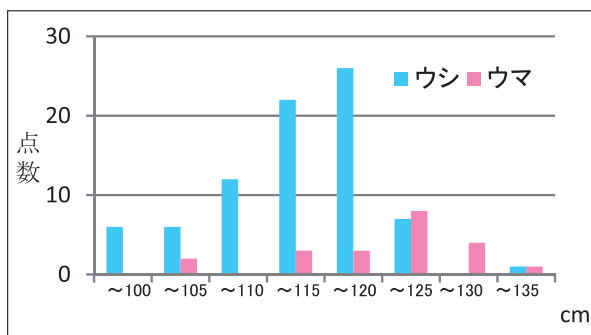
東南アジア産の家畜などの産物と共に、船に積みこんでいた東南アジア産の家畜も陸揚げし、そこで賞味したことが充分考えられよう。実際に南蛮貿易を通じて、東南アジア各地の物産が、大友府内遺跡に盛んに搬入されたことが、タイ、ベトナム、ミャンマー産の陶磁器の出土や、鹿皮などの大量輸入が、さまざまな文字記録から指摘されてきた。1841年(天保12)の石崎融思の筆による『長崎古今集覧名勝図絵』には、「蛮国豚」の図が描かれ、詞書さには、首から背にかけて「怒毛」があり、「和国之豚」より太くて顔が長く、牙があり、全体的に粗毛と記されている。出島に来港していたオランダはバタビアを拠点としていたが、大友宗麟の時代は、陶磁器で見ると、東南アジア各地から産物を持ち込んでいたことが想定され、その中に東南アジア在来ブタも含まれていたことであろう。

3) ウシとウマの形質とその利用

ウシとウマ 称名寺跡地の堀からは、ウシとウマが多く出土しており、両種を比較するとウシが多数を占める。ウシには顎骨から遊離した乳歯を含む下顎臼歯が、ウマには乳歯が残る下顎骨が出土している(写真7・8)。しかし、その他は、すべて咬耗が進行した永久歯が残る、牡齢から老齢の個体ばかりである。西中川駿ら(1991)による体高推定式によると、ウシは体高110~120cmが多いが、100cm以下の小さな個体、130cm前後の大きな個体も含まれる。ウマは体高120~130cmが多いが、100cm程度の小さな個体、130cm程度の大きな個体も含まれる。いずれも日本在来種の範疇に含まれ、臼歯列長から推定した計測値もその範疇におさまる。ウシは出土量が多いこともあり、推定体高で100cm以下から130cm程度までと幅があり、雌雄の両方が含まれていることに起因する可能性もある。

ウシの解体 解体痕 ハツリ傷 脳の摘出 これらの形質の特徴以外に注目されるのは、ウシの出土状況である。第11次、第88次調査地ではウシの前肢、後肢の骨格部位がまとまって出土している。このような出土状況は、ウシを解体して足1本を枝肉として、筋肉と骨を結ぶ腱は断ち切って肉を取り、骨と骨を結ぶ靭帯を残したまま堀に投棄したと考えられる(第476・477図)。解体痕はウシ、ウマの両方に見られ、筋肉が多く付着する上腕骨、橈骨、大腿骨、脛骨の骨幹部には、刃物を滑らせた痕跡、刃物が骨の表面に軽く引っ掛かったハツリ傷が見られ、肉を丁寧に取ったことがわかる。また、ウシの頭蓋骨には頭頂部が破損したものが含まれており、脳を摘出したか、屠殺時の痕跡と推測される。福岡県博多遺跡群でも、中世のウシ、ウマの骨が数多く出土しており、両種に解体痕が見られることから、食用にされたことも指摘されている(富岡ほか2011)。

住友銅吹所跡 骨角細工 大友府内町跡とほぼ同時期で、16世紀後半の大阪府住友銅吹所跡では、大量のウシ、ウマの四肢骨が出土しており、これらの大部分は櫛払いなどの骨細工の加工途中で生じた廃材であり、都市あるいはその周辺で斃れた牛馬の骨角を回収し、素材となる部位だけ都市内に持ち込んだものである(久保1998)。第80次調査のSD101から、ウマの橈骨が出土しており、これは骨製品の素材とするために両端を切断したが、未使用のまま投棄したのであろう。このような骨角細工に関連する資料は、第11次調査のSD140(第2南北街路、16世紀後半)からウシの脛骨のほか、ニホンジカの角、中足骨が称名寺跡地の堀から出土している。しかし、長く扁平な素材が得られ、鎌倉、大坂では主要な骨細工の素材とされたウシ、ウマの橈骨と脛骨の大部分は(丸山・松井2006)、当地では加工されないまま投棄されている。また、第11次、第72次調査でウシの頭蓋骨が3点出土しているが、そのうち2点はいずれも角芯が残り、加工痕が見られない(写真10)。これらのうち2点は、



第475図 ウシ・ウマの体高分布

牛角の利用 角芯が細く、短いため、工芸用などの角鞘の素材には適さなかったのであろう。他の1点は、角芯の基部が残っており、太く、長い角であったことを推測できるが、角鞘を利用するために折り取った痕跡はない。牛角の利用は、中世では大阪府堺環濠都市遺跡や福島県川股城跡などで見られる(松井章2000、久保・松井2001)。未加工のウシ、ウマの骨角、特に骨細工に適した橈骨と脛骨が称名寺跡地の堀から多数出土していることは、大坂のように、牛馬骨を骨細工の素材として流通するシステムが確立されていなかったことや、称名寺跡地付近ではウシ、ウマを食用とするだけで、骨の回収する対象となっていなかったことが考えられる。

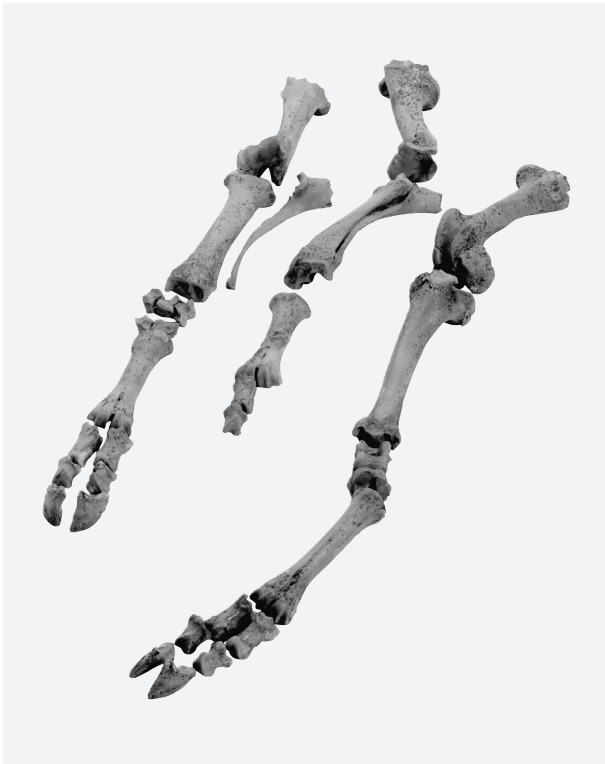
4) 大友府内町住民の食生活

大友府内町跡の堀から出土した動物遺存体の大部分が住民の食料となったもので、ニワトリなどの鳥類、ブタを含むイノシシ属、ウシ、ウマ、さらにイヌ、ネコなどの哺乳類が多い。さらに別府湾に面した立地から、キサゴ類などの貝類、マダイを主体とする魚類が大量に出土している。食用以外と考えられるのは、貝類のイシマキガイ・キクスズメなどの食用貝類と同時に混獲されたと推測されるもの、両生類のカエル類、鳥類のタカ科、哺乳類のネズミ科、モグラ属などである。

貝類の卓越 出土した動物遺存体を数量的に比較すると、貝類が33,233個体と卓越する。これは小さなキサゴが大量に出土したことに起因する。貝類に比較して、魚類は175点に留まり、同定できた魚種はマダイ、ブリ属などの大形魚のものばかりで、イヌなどの死肉あさりによって食われたり、堀の埋土を水洗篩別しなかったため、微細で脆弱な魚骨が採集できなかった可能性がある。実際にはこの大友府内町では、小形魚をはじめとして、はるかに多くの魚類が消費されたことであろう。

キサゴ サザエ アカニシ 淡水魚 兜割 貝類は、アワビ類、サザエなど的高级食材や、キサゴ、ウミニナなどの小型巻貝など多様な貝種が消費されている。鹹水性・汽水性が大部分を占めるが、淡水性のタニシ類が含まれ、いずれも大友府内町跡近辺で採集できたと考えられる。キサゴは、称名寺跡地の堀で、数地点に集中して出土しており、一回の消費量が膨大であったと考えられる。キサゴは肉を賞味するほか、出汁などに利用された可能性もある。キサゴ以外では、ハマグリ、サザエ、ツメタガイを盛んに賞味していたことが窺える。サザエやアカニシには、殻口部付近が割られているものが含まれており、生食するために肉を取りだした痕跡と思われる。魚類は海水魚が卓越し、淡水魚はコイ科が1点に留まる。マダイが最も多く出土しており、頭部を正中線に平行して左右に切断した「兜割」の調理法が見られ、骨から出汁を取ったことや、頭部をあら煮などの料理に利用したと考えられる。椎骨の椎体側面には体軸方向に沿った切断痕の見られるものがあり、包丁で2枚あるいは3枚におろしたものであろう。マダイをはじめ大部分の魚種は、別府湾から豊後水道にかけて漁獲されたであろう。しかし、マグロ属、シイラは外洋性回遊魚であり、豊後水道の南方の沖あいを漁場としたことが推測される。今回の調査では、マグロ属は少数に留まったが、大友府内町跡第34次、第43次調査の万寿寺の堀からも椎骨が出土しており、一般的に食用となっていたことが窺える。爬虫類はスッポンが出土し、その四肢骨には解体痕が見られる。万寿寺の堀からイシガメの腹甲板が3点出土した。山口県町並遺跡55次調査(大内氏の別邸築山跡付近)では、出土したイシガメの甲羅に解体痕が見られ、食用に供されたことが指摘されている(北島2009)。寛永20(1643)年に刊行された料理書、『料理物語』には、「真亀 すひ物、刺身、いしがめも同」と記載されており(吉井1978)、食用であった可能性が高い。

ニワトリ 鳥類は、キジ科が大部分を占め、種の判別ができた部位によると、その大部分がニワトリである。ニワトリは、卵を食用としたり、鬪鶏にも利用された可能性があるが、多くの部位に解体痕が見られることから、最終的には食用にされたことは明らかである。カモ亜科、ツル科、カラス科にも解体痕が見られ、それぞれ食用・薬用であったと考えられる。カモ類は、特に中世遺跡に多く、



第476図 ウシの四肢骨



第477図 第88次調査ウシ出土状況



第478図 イヌの頭部から頸部



第479図 第88次調査イヌ出土状況

ツル 食用として重要であったと考えられる。ツル類は料理書などで高級食材として扱われ、1587年（天正15）、豊臣秀吉が北野天満宮境内で催した茶会で、生鶴の汁物が振る舞われた記録が残る（江後2007）。カラスの尺骨には切断痕が見られることから、食用とされたものであろう。現代ではカラスを食用とする郷土食は、長野県上田市の「烏田楽」、 「ろうそく焼」がよく知られ、韓国では薬用として利用されている。サギ科の出土骨には解体痕が見られないが、室町幕府の執事代を務めた蜷川親元の日記には、青鷺、五位鷺が、美物の贈与の中に含まれており（盛本2008）、当資料も食用とされたものであろう。

哺乳類 哺乳類の出土量は、ウシとブタを含むイノシシ属が特に多く、ニホンジカ、イヌ、ウマ、ネコなどが続く。多くの骨に解体痕や肉を削いだ痕跡が観察でき、いずれも解体、食用とされたものと考えられよう。イノシシ属には、小形で骨病変、歯周病が見られるブタと、ニホンイノシシと同大で、形態も類似する個体が含まれるが、安定同位体による食性分析の結果は、形態から野生イノシシと

判別した個体の中に、ニホンジカと同様の食性を示す個体と、窒素の値が高く、人間によって飼養されていたと考えられる個体の存在が明らかになった。万寿寺の堀では、野生獣のニホンジカが、出土した哺乳類の半数近くを占めるのに対して、称名寺跡地の堀では少数にとどまった。称名寺跡地近郊に居住した人々は、特にウシ、ブタを盛んに賞味したのに対し、万寿寺の堀に食料残渣を投棄した人々は、野生のニホンジカを専ら賞味したことが明らかになった。第51次調査のSD200から出土したイヌには切傷が見られ、皮を剥いだことや、解体したことが考えられる。特筆されるのは、第88次調査のSD120から出土したイヌであり、その頭頂部は打ち割られ、頸椎は切断されている（第478・479図）。頸部を一刀両断にして、脳を摘出したことのほか、頸椎の腹側には細かな切傷が見られ、肉を削ぎ取ったのであろう。他の下顎骨や四肢骨などにも、解体痕は見られる。食犬の風習は、中世では特殊な例ではなく、これまで草戸千軒町遺跡（松井1994）、兵庫県大物遺跡（丸山・藤澤・松井2005）で犬肉が一般的であったこと、兵庫県宮内堀脇遺跡（丸山・橋本・松井2009）では、犬追物を行った後の「犬食い」が行われたことなどを報告してきた。それに比べて、従来、遺跡から出土するネコに解体痕が見られた例は少なく、ネコを盛んに食用にしたという考古学的な証拠は少ないが、ルイス・フロイスの『日欧文化比較』の、イヌ、ネコ、サルなどを食用としていたという記述（岡田章雄訳・注1965）、を裏付けるように、称名寺跡地の堀、第80次調査のSD101からネコの下顎骨の複数の切傷や、尺骨に残された肉を削いだ痕跡から、皮を剥ぎ、その肉を食用にした事実を明らかにできた。同じ堀から出土したニホンザルも、フロイスの記述だけでなく、ロドリゲスが『日本教会史』で、狩猟対象として猪、鹿、野兎、狼、熊、狐、尾のない狒々（ニホンザルのこと）を挙げたように、食用とされたと考えられる。本遺跡から出土したタヌキ、キツネ、ノウサギ、イルカ類もすべて、この大友府内町遺跡を残した人々の食料残渣であったと考えられよう。

5) まとめ

魚貝類の大部分は海産物で、大分川の河口から別府湾を主要な漁場としていた。キサゴに代表される貝類の供給は近距離にとどまり、大坂や京都のような遠距離の流通経路は未発達である。しかし、魚類ではマダイなどの近海物だけでなく、マグロやシイラなどの外洋性の回遊魚種は、豊後水道の南方沖で捕獲され、持ち込まれたと考えられる。貝類の種類構成から見れば、地域内で完結する水産物の自給的物流機能が依然大きな役割を果たしており、今後資料の蓄積が進めば、当地における都市化の進展に伴う貝種構成の時期的変化や、消費された貝種と職種・階層の相関関係など、より微視的な課題についても議論することが可能になると期待される。

鳥類ではニワトリを含むキジ科が大部分を占めており、複数の品種・系統のニワトリを交配した結果として、様々な大きさのニワトリが利用されていたと考えられる。また、雄は若鳥のうちに消費し、雌は産卵のために残したり、産卵期を終えた雌鳥をすぐに食用にするなどの飼育管理は定着していなかったと考えられた。

哺乳類では、形態、安定同位体分析の両方からブタと同定できるものが含まれていることを指摘し、ウシ、ウマといった家畜肉を称名寺跡地の大規模施設で盛んに摂食し、それに対して万寿寺近辺では野生のニホンジカを主体とする肉食が行われていたことを明らかにした。特に称名寺跡地の大規模施設に伴う堀に投棄された動物骨から、様々な野生や家畜の鳥獣類、特にブタを摂食していたことを明らかにでき、この施設の住民が、他の大友府内町で報告してきた以上に肉食に親しみ、南蛮文化の強い影響を受けていたことを指摘できた。

日本人は古代以来、仏教の教義により殺生肉食を忌避し、独特の神道による肉や血によるケガレ意識によって、獣肉食を忌避し、動物性タンパク質を専ら魚貝類に依存してきたと考えられてきた。しかし、近年の中近世遺跡の発掘調査により、日本の都市では牛馬肉だけでなく、犬肉も様々な社

南方地域で生育
 会階層で盛んに行われてきたことが明らかになりつつあった。また、ニホンイノシシとは全く形質の異なる小形のブタの出土も大きな成果である。現在の東アジア各地の在来品種と比較して、中国系より東南アジア系の可能性を指摘でき、酸素同位体の分析からより温暖な南方地域で生育した可能性を指摘できた。この大友府内町遺跡でも、多種多様な魚貝類が消費されただけでなく、フロイス、ロドリゲスらの宣教師が記載したように、さまざまな家畜や家禽、さらに野生哺乳類を食用としていたことを実証できたといえる。

註

1. なお、同定作業にあたっては、手持ちの現生標本と貝類図鑑（吉良1954・波部1961）を利用し、また西宮市貝類館の高田良二氏より貴重なご助言を賜った。
2. 個体数に関して腹足綱は殻口数を、二枚貝綱は原則として左右の殻頂数のうち、多数の方を採用している。
3. 巻貝の底部にある光沢を帯びた部分のこと。
4. 同定には現生骨格標本として筆者（EP）および川上和人氏（森林総合科学研究所）の所蔵標本（KP）を利用した。骨の部位の名称はBaumel et al (1993) および日本獣医解剖学会 (1998) に、分類群名は基本的に日本鳥類目録編集委員会 (2012) に従い、同書で言及されていないカモ科の亜科の分類についてはNorth American Classification Committee (2012) に従った。また骨の計測方法はDriesch (1976) に従った。
5. 鳥類のメスでは、産卵前後の約1か月間のみ、卵の殻を作るカルシウムを蓄えるため、骨の空洞部分（髓腔）に、網状に発達した骨髓骨という骨が形成される。この骨の有無を出土した骨の断面で観察することにより、その個体がメス個体であることと、産卵期に死亡したことを特定できる。
6. 神経頭蓋は、頭蓋骨のうち、脳や嗅覚器官・視覚器官・聴覚器官などを覆う部分であり、当資料は前頭骨・側頭骨・上後頭骨などが結合状態で出土している。
7. 本稿でイノシシ属（*Sus* sp.）とするのは、形態的に明らかにブタと同定できる資料と、ニホンイノシシに類似する資料、いずれとも判別できない資料とを含むことによる。
8. 当資料の同定に茂原信生先生のご協力を得た。現在のところ、サイの腓骨に類似した形態とのご教示を頂いた。
9. 本遺跡に家畜ブタが存在することは、発掘時に現地で松井章が確認し、安定同位体分析を依頼するにあたって丸山真史が現生ニホンイノシシ標本と比較し、「ブタ」タイプと、「イノシシ」タイプを分けて分析した。
10. 西本豊弘 (1991) は、ブタの下顎骨の特徴として、連合部と下顎底の成す角度がイノシシより大きくなることを指摘している。

引用・参考文献

<和文>

- 五十嵐健行・日下宗一郎・兵藤不二夫・片山一道 2009「人骨と動物骨の炭素・窒素安定同位体比測定による食性分析」『江戸時代京都町民の人物像、生命表、病歴などを探る骨考古学的研究』平成20年度科学研究費補助金、基盤研究(C) 研究成果報告書、研究代表者：片山一道、pp.127-137。
- 池田研2005「中・近世における大坂城下町出土の貝類について」『待兼山考古学論集－都出比呂志先生退任記念－』大阪大学考古学研究室編、pp.859-886。
- 池田研2006「大坂城跡（03-1・OKS99）出土の貝類」『大坂城址Ⅲ』大阪府文化財センター、pp.543-552。
- 池田研2010a「堂島蔵屋敷B地点（DJ08-2次）調査出土の貝類について」『堂島蔵屋敷跡Ⅲ』大阪市文化財協会編、pp.78-86。
- 池田研2010b「堺環濠都市遺跡出土の貝類について」『待兼山考古学論集Ⅱ－大阪大学考古学研究室20周年記念論集－』大阪大学考古学研究室編、pp.751-773。
- 池田研2011「食野家邸宅跡出土の貝類について」『食野家邸宅跡（09-1区）』泉佐野市教育委員会編、pp.89-92。
- 石崎融思1975（再刊）『長崎古今集覧名勝図絵—長崎文献叢書、第2集第1巻』
- 江後迪子2007『信長のおもてなし』吉川弘文館、歴史文化ライブラリー240。

第8章 自然科学分析

- 江田真毅2008「出島和蘭商館跡（平成13年度～15年度調査地点）出土の鳥類遺体」『国指定史跡 出島和蘭商館跡－カピタン部 屋跡他西側建造物群発掘調査報告書－ 第二分冊（考察編）』長崎市教育委員会、pp.122-134。
- 江田真毅2005「生活復原資料としての鳥類遺体の研究－カモ亜科遺体の同定とその考古学的意義－」海交史研究会考古学論集刊行会編『海と考古学』、六一書房、pp.387-406。
- 江田真毅・井上貴史2011「非計測形質によるキジ科遺存体の同定基準作成と弥生時代のニワトリの再評価の試み」『動物考古学』第28号、pp.23-33。
- 大泰司紀之1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法」『考古学と自然科学』第13号pp.51-73
- 覚張隆史・米田穰2011「大坂城跡（NW10-4次調査）出土イノシシ類の安定同位体化学分析」『難波宮址の研究 第十八』大阪文化財研究所、pp.161-164。
- 覚張隆史・米田穰印刷中「カラカミ遺跡出土動物遺存体の安定同位体化学分析」『沓岐カラカミ遺跡Ⅳ』九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
- 北島大輔2009「大内氏は何を食べたか－食材としての動物利用－」『動物と中世』小野正敏他編、高志書院、pp.129-154。
- 吉良哲明1954『原色日本貝類図鑑』保育社。
- 久保和士1998「住友銅吹所出土の動物遺体」『住友銅吹所跡発掘調査報告』大阪市文化財協会、pp.339-377。
- 久保和士・松井章2001「角・骨・皮に関する生産」『図解・日本の中世遺跡』小野正敏編、東京大学出版会、pp.122-125。
- 西本豊弘1993「弥生時代のブタの形質について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集、国立歴史民俗博物館、pp.49-70。
- 西本豊弘・江田真毅1997「汐留遺跡出土の動物遺体」『汐留遺跡Ⅰ』汐留地区遺跡調査会編、pp.153-176。
- 斎藤弘吉1963『犬科動物骨格計測法』
- 茂原信生・松井章1995「原の辻遺跡出土の動物遺存体」『原の辻遺跡 幡鉾川流域総合整備計画（圃場整備事業）に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ』長崎県教育委員会pp.189-208
- 富岡直人1999「貝類」『考古学と動物学』西本豊弘・松井章編、同成社、pp.89-117。
- 富岡直人・屋山洋・松井章・丸山真史「動物考古学からみた博多と動物の歴史」『新修 福岡市史』資料編、考古3、福岡市史編集委員会編、pp.221-295
- ツェンベリー、C.P.著、高橋文訳1994『江戸参府随行記』東洋文庫583、平凡社、pp.37-38。
- 西本豊弘1992「下郡桑苗遺跡出土の動物遺体」『下郡桑苗遺跡Ⅱ』大分県教育委員会、pp.92-110。
- 日本獣医解剖学会1998『家禽解剖学用語』日本中央競馬会
- 日本鳥類目録編集委員会2012『日本鳥類目録改訂 第7版』日本鳥学会
- 波部忠重1961、『続原色日本貝類図鑑』保育社。
- 松井章1994「草戸千軒町遺跡第36次調査出土の動物遺存体」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編、pp.343-346。
- 松井章2000「斃牛馬利用の動物考古学的考察 —特に牛角の利用について—」『動物考古学』第14号、pp.11-22。
- 丸山真史・池田研・宮本康治2010「大坂城下町跡出土の動物遺存体-中央区高麗橋3丁目の調査から-」『大阪歴史博物館研究紀要』第8号 大阪歴史博物館pp.37-50
- 丸山真史・橋本裕子・松井章2009「宮内堀脇遺跡から出土した動物遺存体」『宮内堀脇遺跡Ⅰ』兵庫県教育委員会、pp.103-121。
- 丸山真史・藤澤珠織・松井章2005「大物遺跡出土の人骨および動物遺存体について」『尼崎市埋蔵文化財調査年報平成7年度（6）』尼崎市教育委員会、pp.31-59。
- 丸山真史・松井章2006「動物資源の利用と変遷－骨角器と皮革の生産－」『鎌倉時代の考古学』高志書院、pp.281-292。
- 丸山真史・松井章2008「大友城下町跡34次・43次調査出土の動物遺存体」『豊後府内8』大分県教育庁埋蔵文化財センター、pp.259-265。
- 盛本昌広2008『贈答と宴会の中世』吉川弘文館、歴史文化ライブラリー-254。
- 吉井始子1978「料理物語」『翻刻 江戸時代料理本集成』第一巻、臨川書店pp.3-37。
- 米田穰 2002「古人骨の化学分析から見た先史人類集団の生業復元」『国立民族学博物館調査報告』33、国立民族学博物館、pp.

249-255。

フロイス、L. 著、岡田章雄訳・注1965『日欧文化比較』大航海時代叢書XI、岩波書店。

ロドリゲス、J. 著、佐野泰彦訳・浜口乃二雄訳・江馬務注・土井忠生訳・注1967『日本教会史』上、大航海時代叢書IX、岩波書店。

渡部浩二2002「江戸時代の豚とその食用について—近代家畜肉食受容過程の観点から—」『食文化助成研究の報告』12、(財)味の素食の文化センター、pp.1-20。

<英文>

Baumel JJ, King AS, Breazile JE, Evans HE & Berge JCV, 1993. *Handbook of Avian Anatomy: Nomina Anatomica Avium*, Nuttall Ornithological Club, Cambridge.

Deniro M. J. 1985 'Postmortem preservation and alteration of in vivo bone collagen isotope ratios in relation to palaeodietary reconstruction' *Nature*, 317, pp.806-809.

Driesh, Angela von den 1976 *A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites* Peabody Museum of ardaeology and Ethnology Harvard University.

Grant, Annie 1982 'The use of tooth wear as a guide to the age of domestic ungulates.' *Aging and sexing animal bones from archaeological sites*. BAR British Series 109 pp.91-108

Minagawa M., Matsui A., and Ishiguro N. (2005) Carbon and nitrogen isotope analyses for prehistoric *Sus scrofa* bone collagen to discriminate prehistoric boar domestication and inter-islands pig trading across the East China Sea, *Chemical Geology*, 218, pp. 91- 102

Minagawa, M., and Wada, E. 1984 'Stepwise enrichment of ^{15}N along food chains: Further evidence and the relation between $\delta^{15}\text{N}$ and animal ages' *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 48(5), pp.1135-1140.

North American Classification Committee, 2012. Check-list of North American Birds, 7th edition. <http://www.aou.org/checklist/north/>

Vennemann, T. W., Fricke, H. C., Blake, R. E., O'Neil, J. R. and Colman, A. 2002 'Oxygen isotope analysis of phosphates: a comparison of techniques for analysis of Ag_3PO_4 ' *Chemical Geology*, 185, pp.321-336.

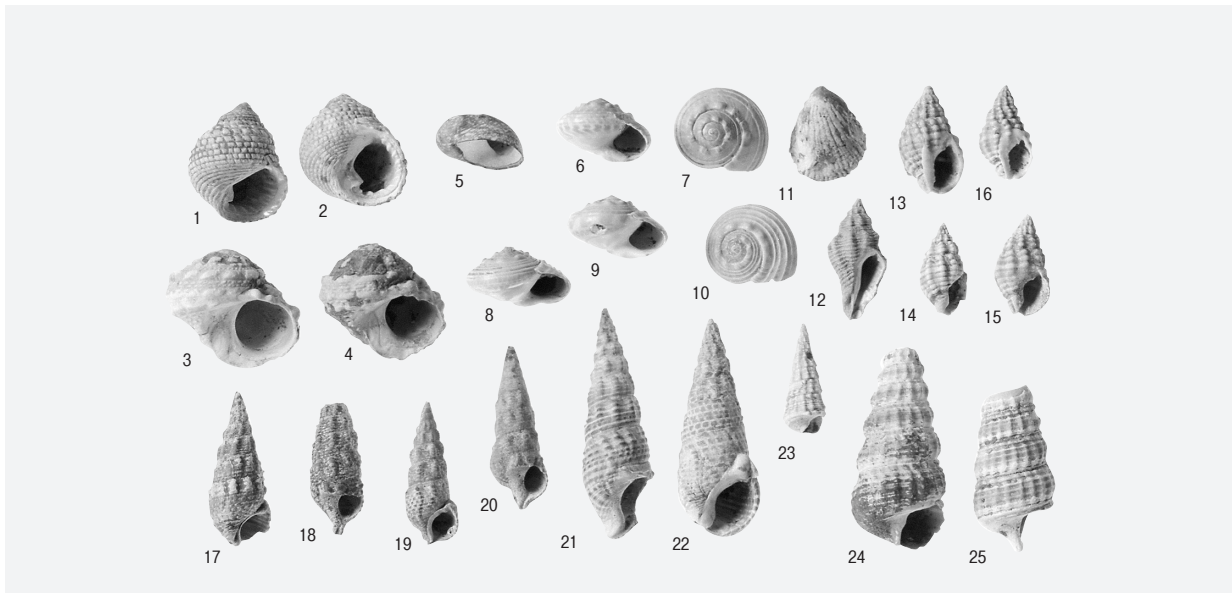


写真1 巻貝(1)

1,2 イシダタミ 3,4 スガイ 5~10 キサゴ 11 キクスズメ 12 カゴメガイ 13~15 ムシロガイ 16 アラムシロ
17,18 イボウミニナ 19,20 ホソウミニナ 21,22 ウミニナ 23 カニモリガイ 24,25 フトヘナタリ



写真2 アカニシ・アワビ類

1~3 アカニシ 4 クロアワビ 5 アワビ類

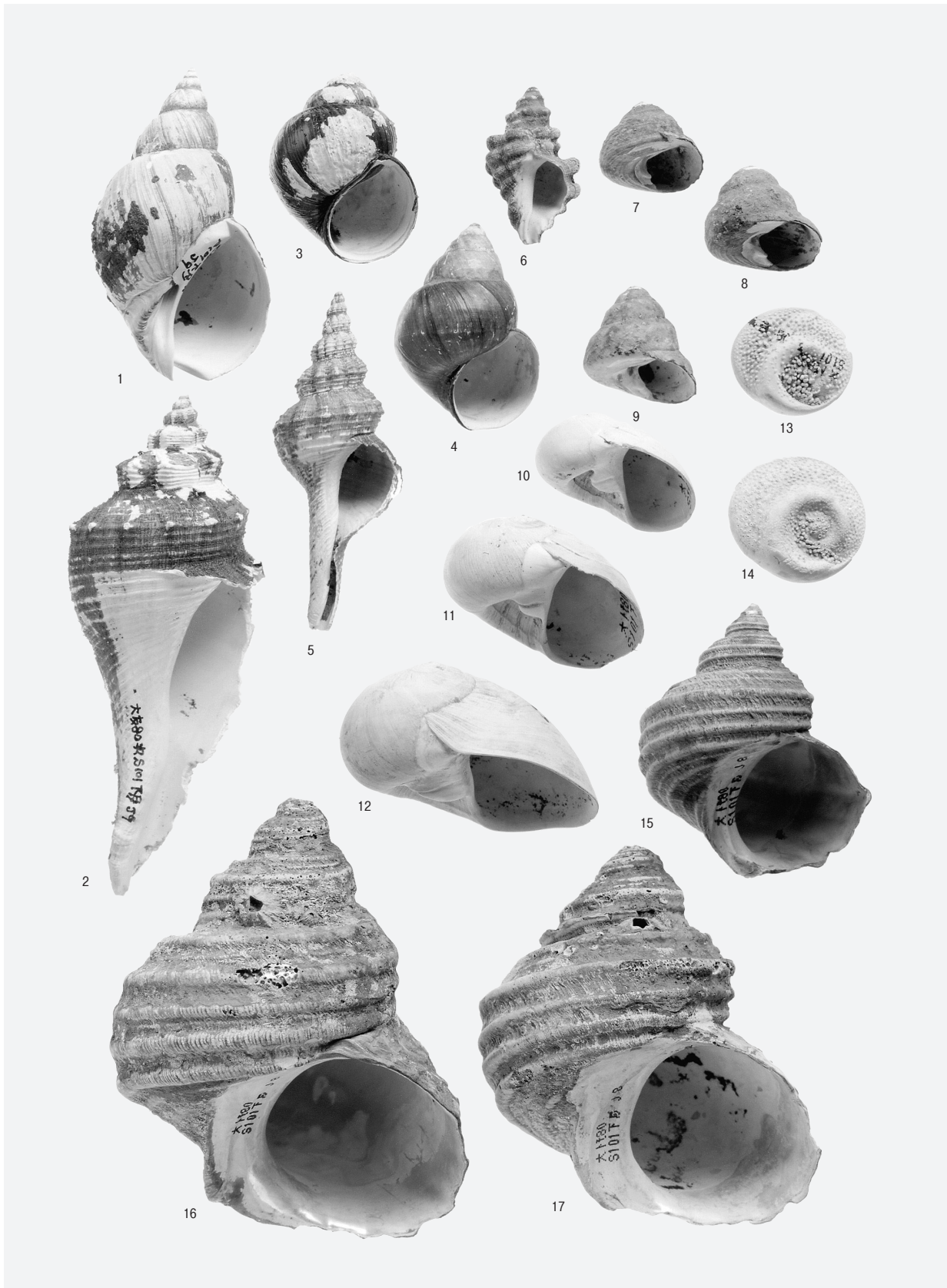


写真3 巻貝 (2)

1 バイ 2 テングニシ 3 マルタニシ 4 オオタニシ 5 ナガニシ 6 イボニシ 7,8 クボガイ 9 コシダカガンガラ 10~12 ツメタガイ 13~17 サザエ

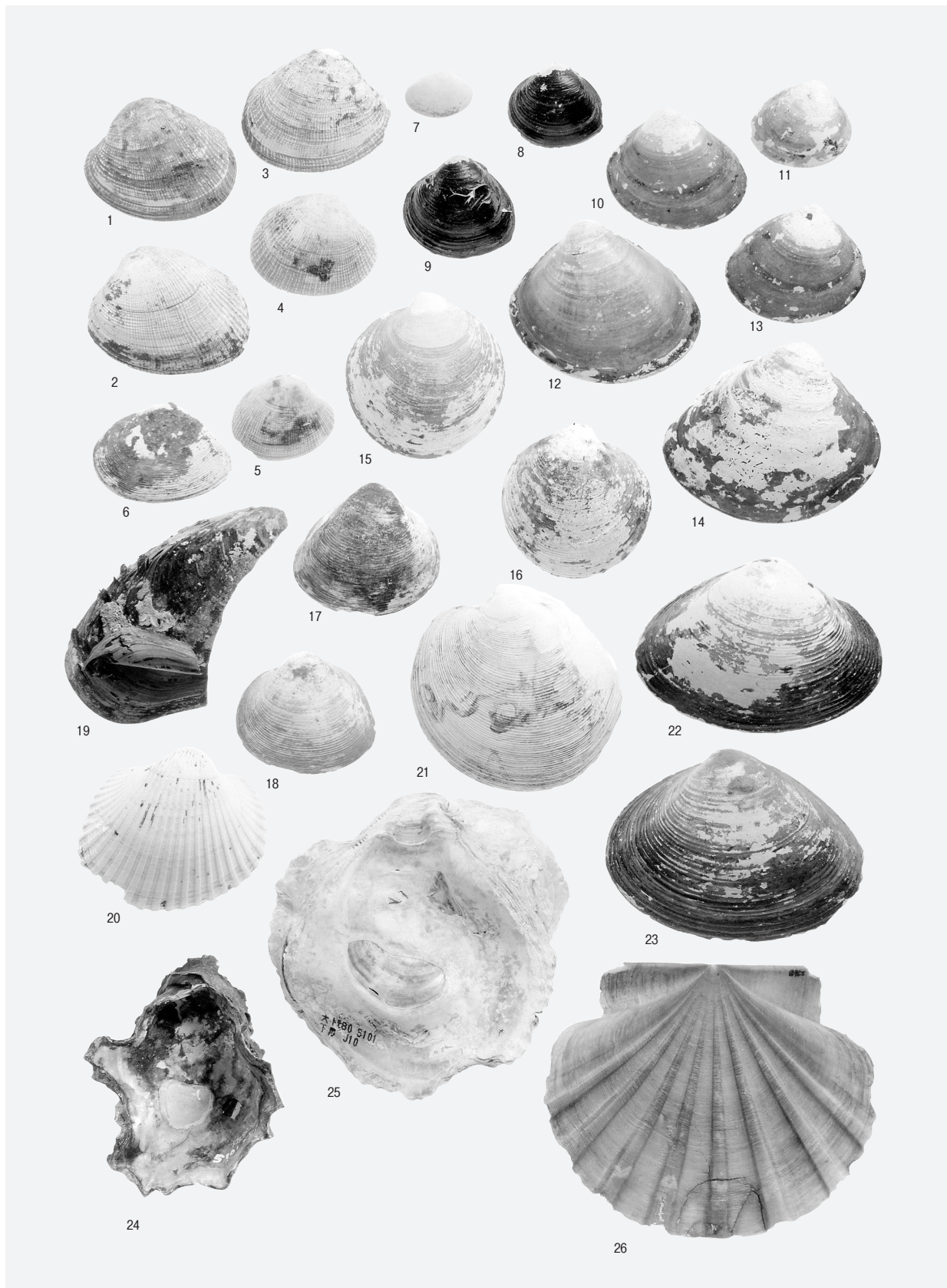


写真4 二枚貝

1~5 アサリ 6 イチョウシラトリ 7 マツヤマワスレ 8,9 ヤマトシジミ 10~14 ハマグリ 15,16 オキシジミ 17,18 シオフキ 19 イガイ 20 サルボウ 21 カガミガイ 22,23 バカガイ 24 マガキ 25 イタボガキ 26 イタヤガイ



写真5 魚類

1~6 マダイ(1 前頭骨, 2 主上顎骨, 3 歯骨, 4 角骨, 5 方骨, 6 前鰓蓋骨) 7 ヘダイ(歯骨) 8 クロダイ属(歯骨)
 9 コチ科(擬鎖骨) 10 フサカサゴ科(角舌骨・上舌骨) 11, 12 ヒラメ(主上顎骨, 歯骨) 13 ソウダガツオ属(主鰓蓋骨)
 14, 15 スズキ属(歯骨) 16~18 ハモ属(前上顎骨-篩骨-鋤骨板, 前頭骨) 19, 20 フグ科(前頭骨, 前鰓蓋骨)
 21 ハタ科(椎骨) 22, 23 ブリ属(歯骨, 擬鎖骨) 24 ツノザメ科/ネコザメ科(背鰭棘) 25 イシダイ属(前上顎骨)
 26~29 ニベ科(主上顎骨, 歯骨, 前鰓蓋骨, 椎骨) 30, 31 マグロ属(椎骨) 32~34 シイラ(主鰓蓋骨, 前鰓蓋骨, 椎骨)
 35, 36 ボラ科(下鰓蓋骨, 主鰓蓋骨)



写真6 鳥類

1,2 ツル科 (1 脛足根骨, 2 上腕骨) 3 サギ科 (脛足根骨) 4 タカ科 (尺骨) 5 ニワトリ/ヤマドリ (頭骨) 7 カモ垂科 (寛骨) 8 マガモ属 (上腕骨) 9 カモ垂科 (手根中手骨) 10,11 カラス科 (10 大腿骨, 11 上腕骨) 12~17 ニワトリ (12 頭骨, 13 上腕骨, 14,15 脛足根骨, 16,17 足根中足骨) 18 キジ科 (上腕骨) 19,20 キジ/ヤマドリ (19 脛足根骨, 20 足根中足骨)



写真7 ウマの下顎骨（乳歯个体・上面）



写真8 ウマの下顎骨（乳歯个体・側面）

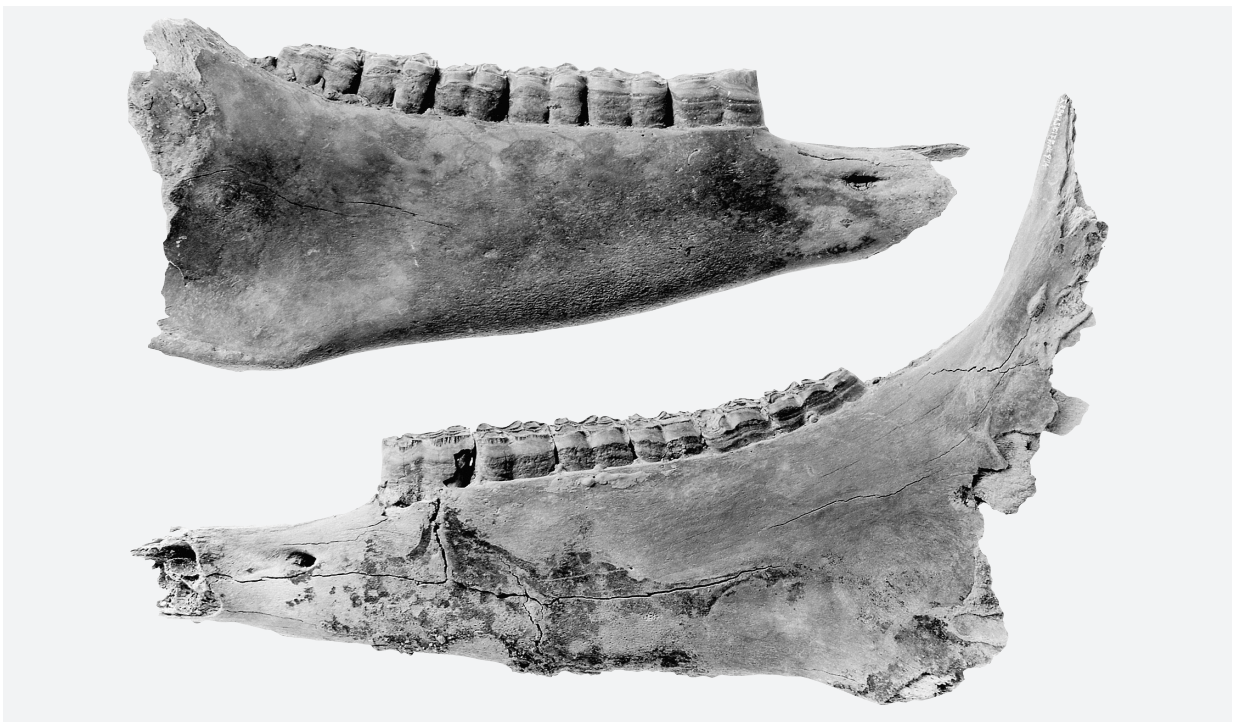


写真9 ウマの下顎骨（成獣）



写真10 ウシの頭蓋骨

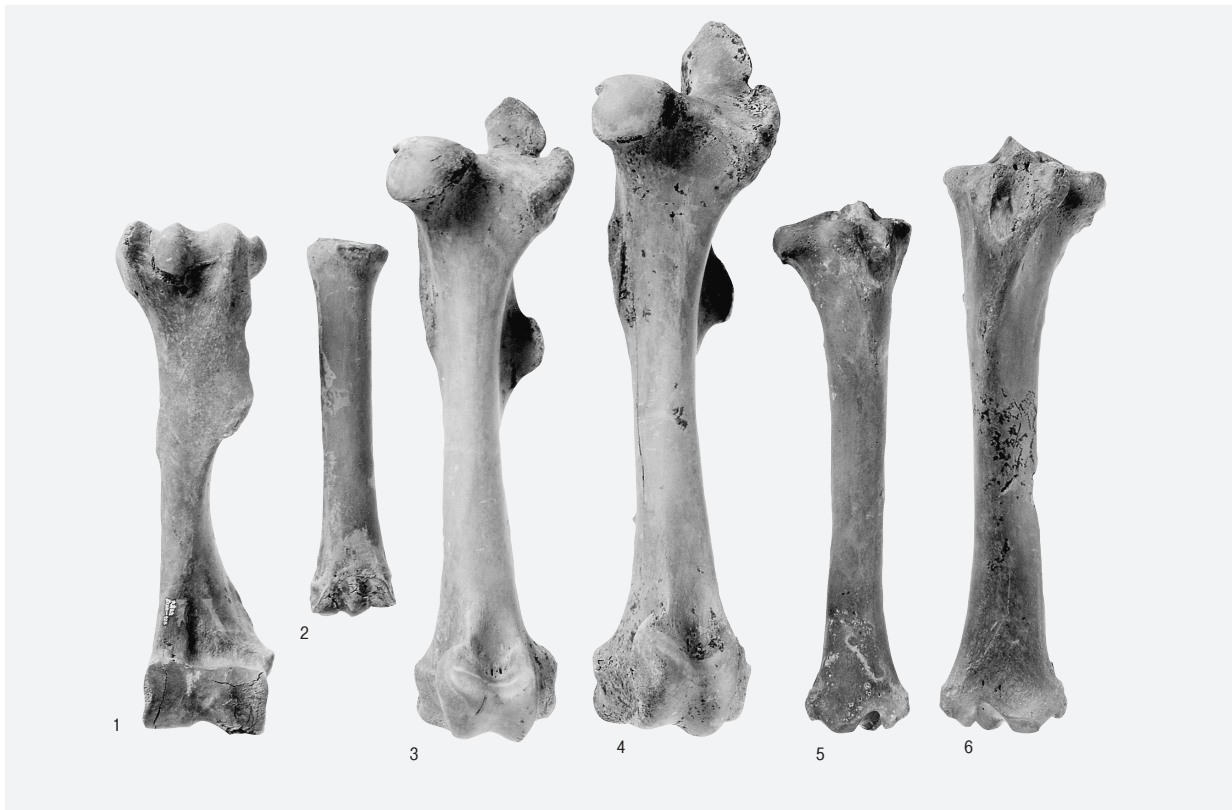


写真11 ウマの四肢骨

1 上腕骨 2 中手骨 3,4 大腿骨 5,6 脛骨

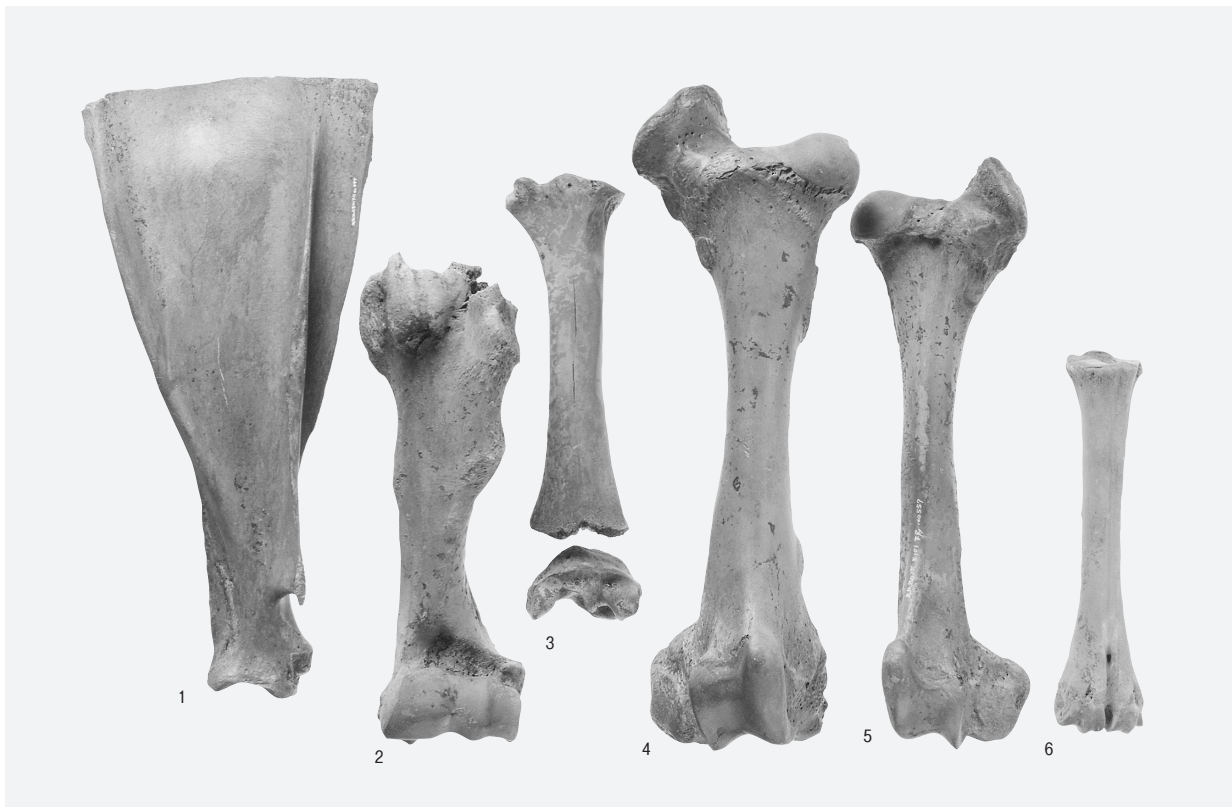


写真12 ウシの四肢骨

1 肩甲骨 2 上腕骨 3 橈骨 4,5 大腿骨 6 中足骨

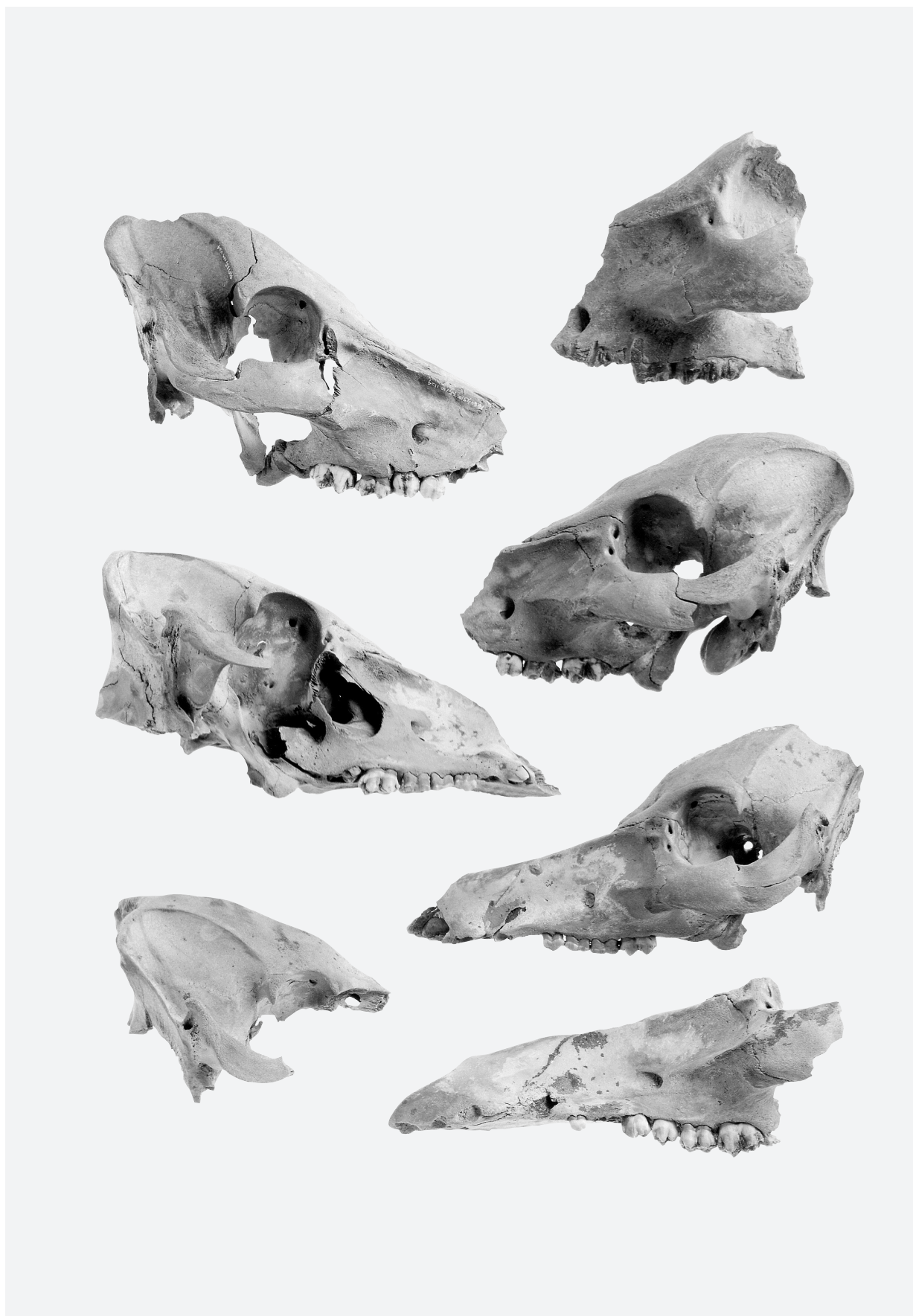


写真13 イノシシ属の頭蓋骨

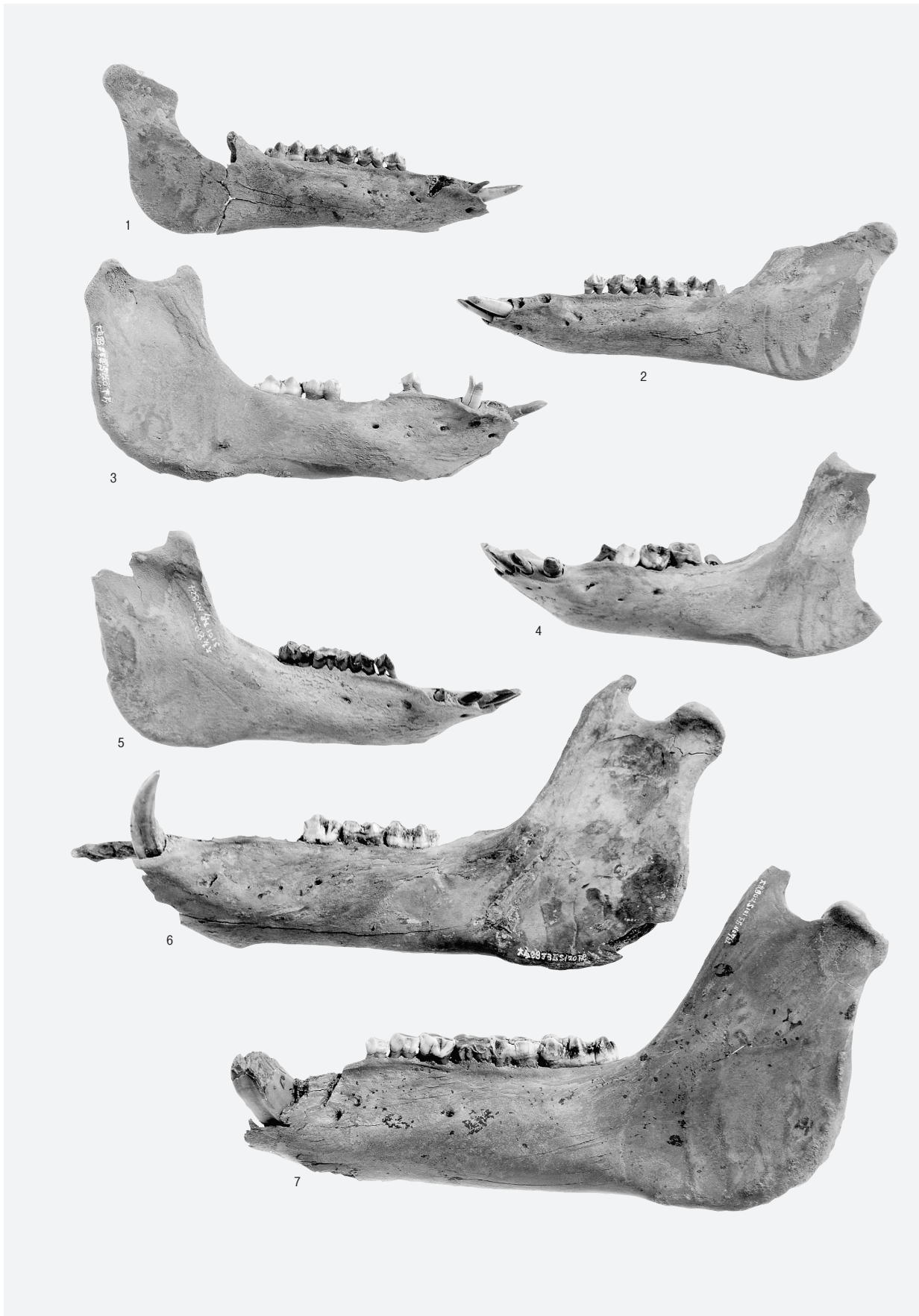


写真14 イノシシ属の下顎骨



写真15 イノシシ属の四肢骨

1~3 上腕骨 4,5 肩甲骨 6 尺骨 7 橈骨・尺骨 8 橈骨 9 寛骨 10,11 踵骨 12 距骨 13,14 脛骨 15~17 大腿骨

第2節 中世大友府内町跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

中世大友府内町跡は、大分県大分市錦町3丁目（北緯33°13'54"、東経131°37'7"）に所在する。測定対象試料は、第88次調査SD120堀跡出土試料（1：IAAA-102709～8：IAAA-102716）、SD142道路側溝跡出土試料（9：IAAA-102717、10：IAAA-102718）、第91次調査土取遺構出土試料（11：IAAA-102719、12：IAAA-102720）の合計12点である（第37表）。

2 測定の意義

堀の埋没年代、道路、土取遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

（1）葉、木片、炭化物、木炭の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と第37表に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

（2）貝殻の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い根・土等の付着物を取り除き、超純水に浸し、超音波洗浄を行う。
 - 2) 試料の表面を1mol/ℓ（1M）の塩酸を用いて約30%溶かし、汚染された可能性のある部分を除去する（Edg）。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。なお、試料が特に少量の場合、塩酸の処理を行わない場合がある（Non）。
 - 3) 試料中の炭酸カルシウム（CaCO₃）を分解し、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- 以下、（1）4）以降と同じ。

4 測定方法

3MVタンデム加速器（NEC Pelletron 9SDH-2）をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- （1） $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第37表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第37表に、補正していない値を参考値として第38表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第37表に、補正していない値を参考値として第38表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第38表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」 (または「cal BP」) という単位で表される。なお、大気中の二酸化炭素とは由来の異なる炭素を含むと考えられる試料について、ここでは暦年較正を行わないこととした。

6 測定結果

第88次調査SD120堀跡出土試料のC年代は、中層1出土の葉1が $350 \pm 30\text{yrBP}$ 、木片2が $370 \pm 30\text{yrBP}$ 、中層2出土の木片3が $360 \pm 30\text{yrBP}$ 、貝殻4が $880 \pm 30\text{yrBP}$ 、木片5が $390 \pm 30\text{yrBP}$ 、中層3出土の貝殻6が $760 \pm 30\text{yrBP}$ 、貝殻7が $790 \pm 30\text{yrBP}$ 、木片8が $360 \pm 30\text{yrBP}$ である。葉と木片について検討すると、中層1出土の1と2、中層2出土の3と5の値は、各々誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり、近い年代を示す。中層3出土の8を加えた5点で見ても同様に値が重なり合っており、中層の中の深度の差による年代差は認められない。貝殻では、中層3出土の6と7の値が誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なる近い年代で、中層2出土の4はこれらよりも古い ^{14}C 年代値である。貝殻については大気中の二酸化炭素とは由来の異なる炭素を含むと考えられるため、比較が難しい面を持ち、葉や木片とは明瞭に異なる値を示している。暦年較正年代 (1σ) は、1が $1485 \sim 1630\text{cal AD}$ 、2が $1459 \sim 1620\text{cal AD}$ 、3が $1468 \sim 1623\text{cal AD}$ 、5が $1448 \sim 1611\text{cal AD}$ 、8が $1468 \sim 1624\text{cal AD}$ の間に各々複数の範囲で示される。貝殻3点の暦年較正は行っていない。

第88次調査SD142道路側溝跡中層1出土試料の ^{14}C 年代は、9が $340 \pm 30\text{yrBP}$ 、10が $370 \pm 30\text{yrBP}$ である。2点の値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり、近い年代を示す。暦年較正年代 (1σ) は、9が $1494 \sim 1632\text{cal AD}$ 、10が $1456 \sim 1618\text{cal AD}$ の間に各々複数の範囲で示される。

第91次調査土取遺構下層出土木片の ^{14}C 年代は、11が $620 \pm 30\text{yrBP}$ 、12が $380 \pm 30\text{yrBP}$ である。2点は同じ遺構の同じ層から出土したが、明瞭に異なる値となっている。暦年較正年代 (1σ) は、11

が1300~1394cal AD、12が1453~1616cal ADの間に各々複数の範囲で示される。
試料の炭素含有率はすべて適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

第37表 ^{13}C 濃度測定値(補正值)一覧表

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-102709	1	第88次 遺構:SD120 層位:中層1	葉	AAA	-29.70±0.69	350±30	95.76±0.33
IAAA-102710	2	第88次 遺構:SD120 層位:中層1	木片	AAA	-25.51±0.57	370±30	95.56±0.32
IAAA-102711	3	第88次 遺構:SD120 層位:中層2	木片	AAA	-31.24±0.55	360±30	95.62±0.32
IAAA-102712	4	第88次 遺構:SD120 層位:中層2	貝殻	Edg	-2.14±0.55	880±30	89.61±0.30
IAAA-102713	5	第88次 遺構:SD120 層位:中層2	木片	AAA	-28.54±0.54	390±30	95.23±0.31
IAAA-102714	6	第88次 遺構:SD120 層位:中層3	貝殻	Edg	-3.40±0.75	760±30	90.96±0.31
IAAA-102715	7	第88次 遺構:SD120 層位:中層3	貝殻	Edg	0.50±0.73	790±30	90.68±0.31
IAAA-102716	8	第88次 遺構:SD120 層位:中層3	木片	AaA	-24.30±0.62	360±30	95.63±0.33
IAAA-102717	9	第88次 遺構:SD142 層位:中層1	炭化物	AaA	-27.63±0.48	340±30	95.89±0.30
IAAA-102718	10	第88次 遺構:SD142 層位:中層1	木炭	AAA	-27.21±0.57	370±30	95.48±0.31
IAAA-102719	11	第91次 遺構:土取遺構 層位:下層	木片	AAA	-26.04±0.47	620±30	92.63±0.30
IAAA-102720	12	第91次 遺構:土取遺構 層位:下層	木片	AAA	-28.53±0.63	380±30	95.39±0.30

[#4084]

第38表 暦年較正年代一覧表(1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-102709	430±30	94.84±0.29	348±27	1485calAD - 1523calAD (27.1%) 1560calAD - 1562calAD (1.5%) 1572calAD - 1630calAD (39.7%)	1461calAD - 1635calAD (95.4%)
IAAA-102710	370±30	95.45±0.30	365±27	1459calAD - 1521calAD (46.8%) 1592calAD - 1620calAD (21.4%)	1450calAD - 1527calAD (53.1%) 1555calAD - 1633calAD (42.3%)
IAAA-102711	460±30	94.40±0.30	359±26	1468calAD - 1522calAD (40.0%) 1575calAD - 1583calAD (4.2%) 1591calAD - 1623calAD (24.0%)	1452calAD - 1529calAD (48.7%) 1544calAD - 1634calAD (46.7%)
IAAA-102712	510±30	93.86±0.30	881±27		
IAAA-102713	450±20	94.54±0.29	392±25	1448calAD - 1491calAD (60.2%) 1603calAD - 1611calAD (8.0%)	1441calAD - 1522calAD (76.7%) 1575calAD - 1584calAD (1.3%) 1590calAD - 1624calAD (17.4%)
IAAA-102714	410±20	95.03±0.29	761±27		
IAAA-102715	370±30	95.49±0.29	785±27		
IAAA-102716	350±30	95.76±0.31	359±27	1468calAD - 1522calAD (39.2%) 1575calAD - 1583calAD (4.7%) 1590calAD - 1624calAD (24.3%)	1451calAD - 1529calAD (48.1%) 1543calAD - 1634calAD (47.3%)
IAAA-102717	380±20	95.38±0.29	336±25	1494calAD - 1526calAD (21.7%) 1556calAD - 1602calAD (33.7%) 1615calAD - 1632calAD (12.8%)	1475calAD - 1640calAD (95.4%)
IAAA-102718	410±20	95.05±0.28	371±25	1456calAD - 1515calAD (50.8%) 1598calAD - 1618calAD (17.4%)	1449calAD - 1524calAD (59.0%) 1558calAD - 1631calAD (36.4%)

第39表 暦年較正年代一覧表(2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	AGE (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-102719	630 ± 30	92.43 ± 0.29	615 ± 26	1300calAD - 1326calAD (28.4%) 1344calAD - 1368calAD (27.1%) 1382calAD - 1394calAD (12.7%)	1295calAD - 1400calAD (95.4%)
IAAA-102720	440 ± 20	94.71 ± 0.27	378 ± 25	1453calAD - 1512calAD (53.9%) 1601calAD - 1616calAD (14.3%)	1446calAD - 1524calAD (65.3%) 1559calAD - 1562calAD (0.5%) 1572calAD - 1630calAD (29.6%)

[参考値]

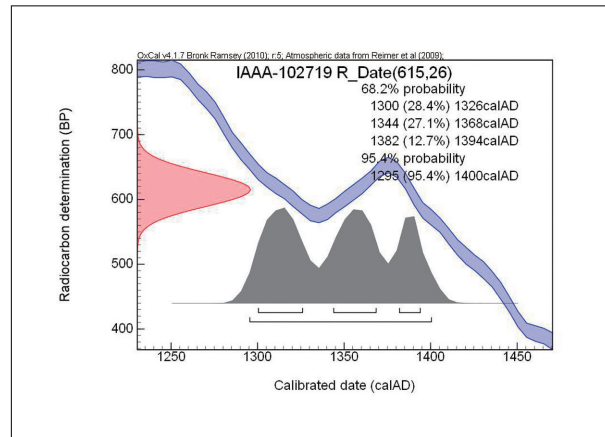
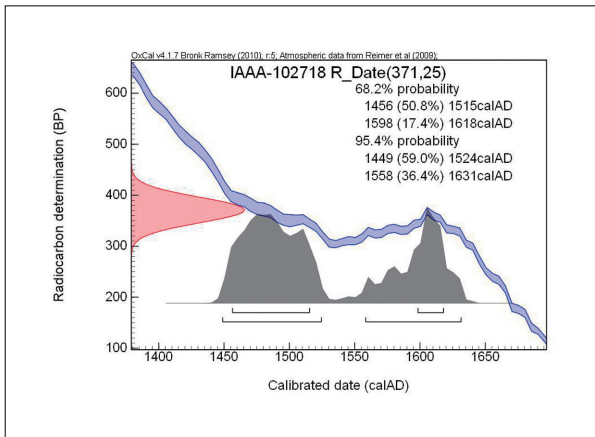
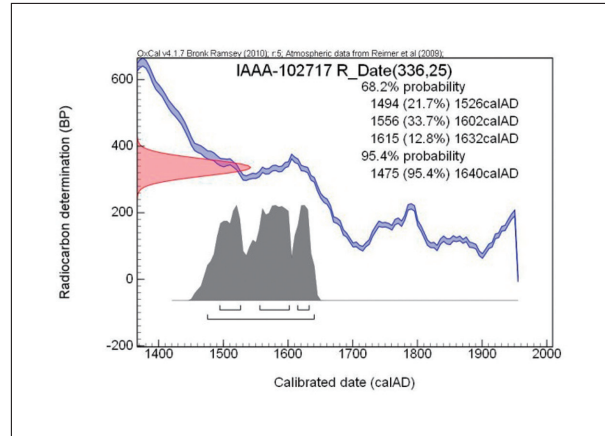
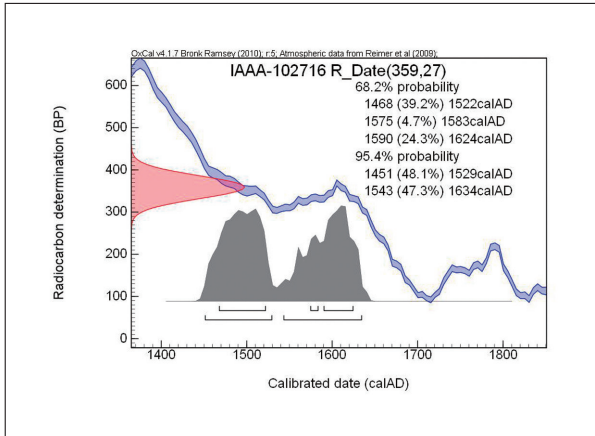
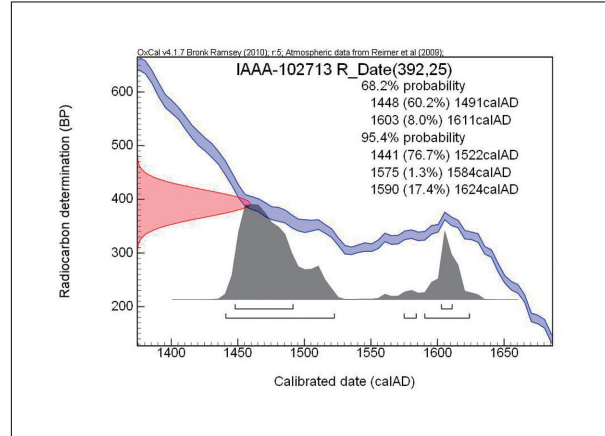
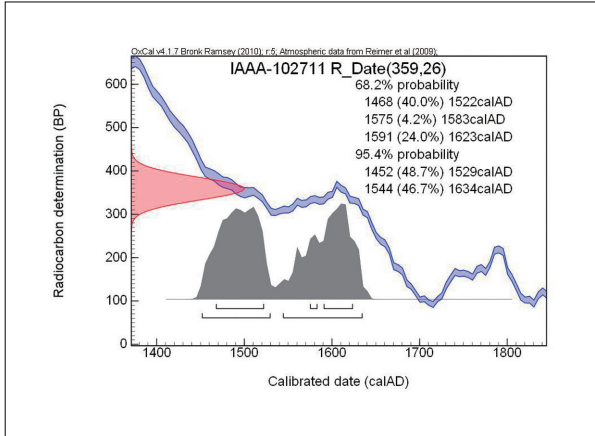
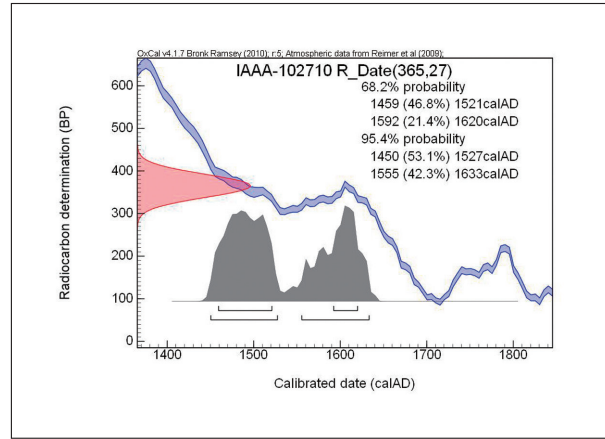
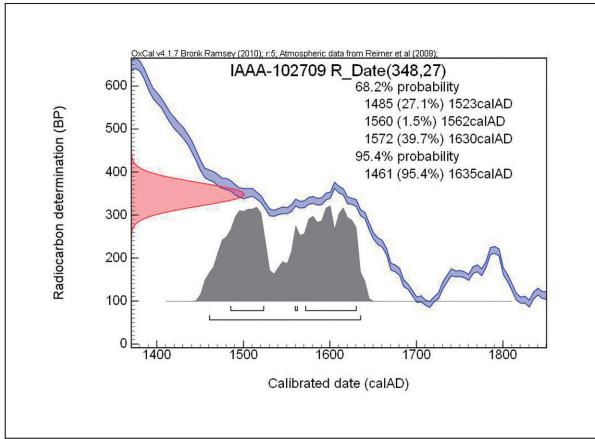
文献

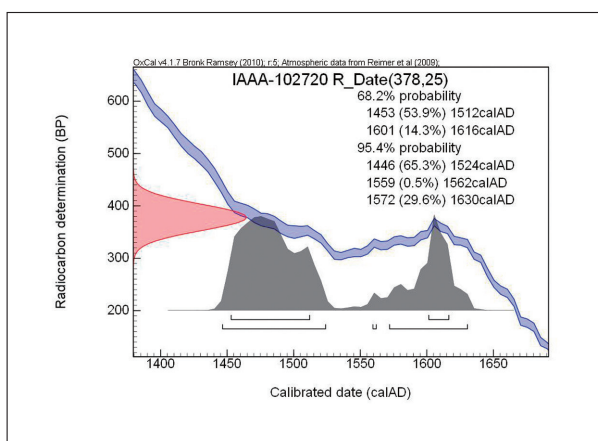
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

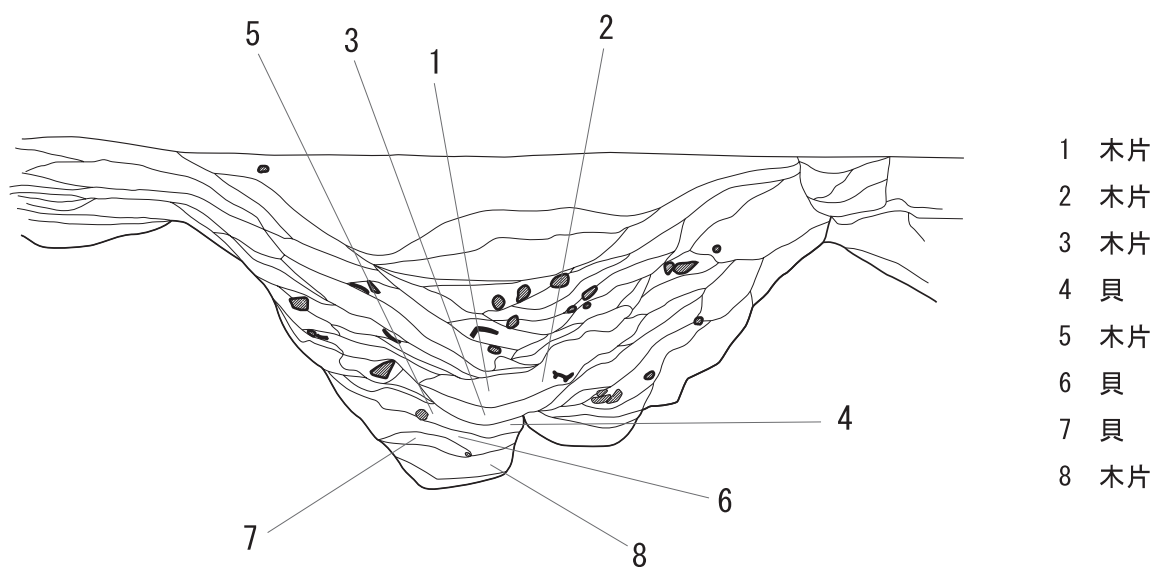
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

第40表 暦年補正グラフ





[参考] 暦年較正年代グラフ



第480図 SD120セクション (c) における資料採取箇所

第3節 中世大友府内町跡第88次調査出土遺物の蛍光X線分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1 金属製品およびガラス製品

(1) はじめに

中世大友府内町跡第88次調査で出土した金属製品およびガラス製品の蛍光X線分析を行い、材質について検討した。

(2) 試料と方法

分析対象は、第41表に示す8点の金属製品と1点のガラス製品で、時期は1570年頃とみられている。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000 μ Aのロジウム（Rh）ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であるが、ナトリウム、マグネシウム（Mg）、アルミニウム（Al）といった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪く、精度が低い。

測定条件は、金属製品は、管電圧50kV、一次フィルタ・測定時間（s）の組み合わせがPb測定用500s・Cd測定用1500sの2条件、管電流自動設定、照射径8mm、試料室内雰囲気真空中に設定した。なお、分析No4については、15kV（一次フィルタ無し1000s）の条件でも測定した。ガラス製品は、管電圧・一次フィルタ・測定時間の組み合わせが15kV（一次フィルタ無し1000s）・50kV（一次フィルタPb測定用500s・Cd測定用1500s）の3条件、管電流自動設定、照射径1mm、試料室内雰囲気真空中に設定した。ガラス製品については、地の緑色の箇所と、文様の黄色の箇所の2ヶ所について測定した。定量分析は、金属製品は単体、ガラス製品は酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。定量値の解釈については、大まかな参考値程度にとどめておくべきである。

第41表 分析対象

分析No.	器種	遺物No.
1	不明金銅製品	1621
2	分銅	1889
3	鞘状製品	1639
4	金箔製品	1623
5	鎖	1616
6	水滴	1890
7	灰匙	1617
8	錠前	1628
9	ガラス器	1614

(3) 分析結果

[金属製品]

得られた半定量値の一覧を第42表に示す。ケイ素、鉄など土砂に多く含まれる元素を除くと、検出された元素は、銅（Cu）、スズ（Sn）、鉛（Pb）、亜鉛（Zn）、ニッケル（Ni）、ヒ素（As）、銀（Ag）、

第42表 金属製品の半定量分析結果（mass%）

分析No.	器種	Cu	Sn	Pb	Zn	Ni	As	Ag	Sb	Bi	Au	Hg	S
1	不明金銅製品	71.97	-	0.26	-	-	-	0.43	-	-	22.96	4.38	-
2	分銅	24.35	25.87	49.09	-	0.02	tr	0.23	0.17	0.26	-	-	-
3	鞘状製品	0.30	83.28	15.74	-	-	-	-	0.39	0.29	-	-	-
4	金箔製品	0.36	-	-	-	-	-	1.27	-	-	47.01	28.65	22.71
5	鎖	70.59	-	3.83	25.56	-	-	0.02	tr	-	-	-	-
6	水滴	81.74	0.07	17.70	-	-	0.37	0.10	0.02	-	-	-	-
7	灰匙	72.91	0.01	0.82	26.25	-	-	tr	tr	-	-	-	-
8	錠前	79.38	0.36	15.83	4.33	-	-	0.05	0.05	-	-	-	-

※tr:痕跡量

アンチモン (Sb)、ビスマス (Bi)、金 (Au)、水銀 (Hg) の計11元素である。なお、分析No.4からは、硫黄 (S) の含有も確認した。

[ガラス製品]

得られた半定量値の一覧を第43表に示す。検出された元素は、ナトリウム (Na₂O)、マグネシウム (MgO)、アルミニウム (Al₂O₃)、ケイ素 (SiO₂)、リン (P₂O₅)、硫黄 (SO₃)、カリウム (K₂O)、カルシウム (CaO)、チタン (TiO₂)、クロム (Cr₂O₃)、マンガン (MnO)、鉄 (Fe₂O₃)、銅 (CuO)、亜鉛 (ZnO)、ルビジウム (Rb₂O)、ストロンチウム (SrO)、ジルコニウム (ZrO₂)、スズ (SnO₂)、バリウム (BaO)、鉛 (PbO) の計20元素である。

第43表 ガラス製品の半定量分析結果 (mass%)

分析No.	位置	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Cr ₂ O ₃	MnO	Fe ₂ O ₃	CuO	ZnO	Rb ₂ O	SrO	ZrO ₂	SnO ₂	BaO	PbO
9	地 (緑)	9.37	1.62	3.66	69.96	0.61	0.77	4.65	1.57	0.40	0.07	0.34	2.20	4.18	0.02	0.01	0.02	0.04	0.06	0.03	0.43
	模様 (黄)	3.99	1.03	7.26	69.67	0.89	-	5.66	0.93	0.35	0.10	0.20	1.64	0.65	0.01	-	0.01	0.04	1.03	0.03	6.51

(4) 考察

[金属製品]

No.1 分析No.1の不明金銅製品からは、スズや鉛などはほとんど検出されなかった。金および水銀が多く検出されており、ほぼ純銅製の板に金アマルガムによる鍍金が施されていると考えられる。いわゆる金銅製品といえる。

No.2 分析No.2の分銅からは、銅、スズ、鉛が多く検出された。Cu-Sn-Pbの青銅製品と考えられる。

No.3 分析No.3の鞘状製品からは、スズが極めて多く、次いで鉛が多く検出された。Sn-Pbの合金製と考えられる。Sn-Pbの合金は、はんだとも呼ばれ、低融点での鑲接材料、すなわち軟鑲としての利用が最も一般的である。スズ含有量が20~95%の範囲で、共晶温度である183℃で融け始める。分析No.3は鞘状に成形されており、鑲接材料ではなく製品と考えられる。

No.4 分析No.4の金箔製品からは、金が主に検出された。金箔と考えられる。なお、水銀も多く検出されたが、下地が赤く、硫黄が同時に多く検出されており、水銀朱の併用によるものと考えられる。また、銀や銅も検出されており、これらは金箔中に少量含まれていると考えられる。

No.5 分析No.5の鎖からは、銅と亜鉛が多く検出された。真鍮製品と考えられる。後述する分析No.7と比較すると、鉛がやや多く含まれていた。

No.6 分析No.6の水滴からは、銅と鉛が多く検出された。Cu-Pbの銅合金製品と考えられる。

No.7 分析No.7の灰匙からは、銅と亜鉛が多く検出された。真鍮製品と考えられる。

No.8 分析No.8の錠前からは、銅と鉛が多く検出された。また、亜鉛もやや多かった。Cu-Pb-Znの銅合金製品と考えられる。

金属製品については、分析No.3、No.4以外は、いずれも銅あるいは銅合金製品であった。これら銅製品中の銀などの微量成分に着目すると、分析No.5とNo.7の真鍮製品は銀などの含有量が少ないのに対し、分析No.2やNo.6はやや多い。当時は、銅中の銀などの分離抽出技術（いわゆる南蛮吹き）が日本にはまだ導入されていなかったといわれる時期であり、これら微量元素の含有量と産地との関係が注目される。真鍮については、日本においては17世紀前半に亜鉛が輸入された記録が残っており、遅くとも17世紀前半には真鍮の製造が行われていたと推定されているが、それ以前の日本での製造は不明である。分析No.8は銅、鉛を中心とした組成であったが、亜鉛もかなり含まれており、やや特異な組成であった。

真鍮の製造

[ガラス製品]

分析No.9は、ナトリウムが多い点が特徴的な珪酸塩ガラスであった。鉄、銅が含まれており、鉄イオン、銅イオンが緑の着色に大きく影響していると考えられる。一方、黄色である文様の箇所は、スズと鉛が多く、スズ酸鉛による着色と考えられる。

当時の中国で生産されていたガラスは、カリウム鉛ガラスと呼ばれる、鉛とカリウムが多い組成であり、分析No.9とは異なる。また、北西ヨーロッパで生産された、ヴァルトガラスと呼ばれるガラス製品は、カリ石灰ガラスに分類され、これも分析No.9とは組成が異なる。分析No.9からは、ナトリウムのほかに、マグネシウム、カリウムがある程度検出されており、カルシウムが少ないものの、植物灰ガラスに分類されることが考えられる。植物灰ガラスは、ヴェネツィアを含む南ヨーロッパなどで生産されており、分析No.9も南ヨーロッパなどで生産されたものと推定される。

(5) おわりに

中世大友府内町跡第88次調査で出土した金属製品およびガラス製品の蛍光X線分析を行った。その結果、金属製品のうち、分析No.1の不明金銅製品は銅板に鍍金の金銅製品、分析No.2の分銅はCu-Sn-Pbの青銅製品、分析No.3の鞘状製品はSn-Pbの合金製品、分析No.4の金箔製品は金箔および水銀朱、分析No.5の鎖はCu-Zn-Pbの真鍮製品、分析No.6の水滴はCu-Pbの銅合金製品、No.7の灰匙はCu-Znの真鍮製品、No.8の錠前はCu-Pb-Znの銅合金製品であると判明した。

一方、ガラス製品（分析No.9）は、ナトリウムを多く含む珪酸塩ガラスであると判明した。植物灰ガラスに分類される可能性が高い。また、黄色の文様部はスズと鉛が多く検出され、スズ酸鉛による着色と考えられる。

引用・参考文献

- 原祐一・小泉好延・伊藤博之・寺島孝一（1999）東京大学本郷構内の遺跡（旧加賀藩邸）から出土したキセルの材質分析。日本文化財科学会第16回大会研究発表要旨集，118-119.
- 桐山太志（2008）近代日本の伸銅業—水車から生まれた金属加工—。356p，産業新聞社。
- 北田正弘（2001）金属および合金の性質。平尾良光編「古代東アジア青銅の流通」：321-338，鶴山堂。
- 肥塚隆保編（2007）中世・近世のガラス。作花済夫ほか編「ガラスの百科事典」：59-94，朝倉書店。
- 黒川高明（2005）ガラスの技術史。342P，アグネ技術センター。
- 黒川高明（2009）ガラスの文明史。343p，春風社。
- 村上 隆（2003）金工技術。日本の美術，443，98p，至文堂。
- 中井 泉編（2005）蛍光X線分析の実際。242p，朝倉書店。
- 大阪市文化財協会編（1998）住友銅吹所跡発掘調査報告。608p，大阪市文化財協会。

2 埴塙

(1) はじめに

中世大友府内町跡第88次調査で出土した埴塙に付着する金属およびガラス質滓について蛍光X線分析を行い、加工されていた金属の組成について検討した。

(2) 試料と方法

分析対象は、直径約8cm、高さ約10cmほどの埴塙15点で、時期は1570年頃とみられている。いずれも赤色や黒色、緑色を呈するガラス質滓が付着し、緑青錆も析出していた。分析は、まず緑青錆

の様子から金属が残存していそうな箇所を探し、ミニルーターで採取、または緑青錆を除去して直接、金属あるいは亜酸化銅部分を測定した。また、外面に付着する赤、黒、緑のガラス質滓については、直接測定した。第44表に試料と分析箇所の一覧を、図版1、2に測定位置を示す。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000 μ Aのロジウム（Rh）ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であるが、ナトリウム、マグネシウム（Mg）、アルミニウム（Al）といった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪く、精度が低い。

測定条件は、管電圧50kV、一次フィルタと測定時間（s）の組み合わせがPb測定用500s・Cd測定用1500sの2条件、管電流自動設定、照射径1mm、試料室内雰囲気大気に設定した。定量分析は、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。定量値の解釈については、大まかな参考値程度にとどめておくべきである。

(3) 分析結果

得られた半定量値の一覧を第45表に示す。ケイ素、鉄など土砂および埴埴胎土に多く含まれる元素を除くと、検出された元素は、銅（Cu）、スズ（Sn）、鉛（Pb）、ニッケル（Ni）、亜鉛（Zn）、ヒ素（As）、銀（Ag）、アンチモン（Sb）、金（Au）、ビスマス（Bi）の計10元素である。

(4) 考察

埴埴に付着する金属およびガラス質滓は、いずれも銅、スズ、鉛を中心とする組成であった。これら埴埴は、Cu-Sn-Pbの銅合金、いわゆる青銅の加工に利用されていたと考えられる。

また、いずれも銀が微量含まれていたのが特徴的であった。これは、銅中の銀を分離する工程を経っていないことを意味している。いわゆる南蛮吹きと呼ばれる、銅中の銀などの分離抽出技術が日本に導入されたのは、16世紀末～17世紀初め頃といわれているが、今回分析した埴埴内の銅は、銀の分離抽出が行われていない材料である。

(5) おわりに

中世大友府内町跡第88次調査で出土した埴埴付着物に付着する金属およびガラス質滓について蛍光X線分析を行った結果、いずれの埴埴付着物も銅、スズ、鉛を中心とした組成であった。埴埴は、Cu-Sn-Pbの青銅の加工に利用されていたと考えられる。

引用・参考文献

- 桐山太志（2008）近代日本の伸銅業—水車から生まれた金属加工—。356p。産業新聞社。
 村上 隆（2003）金工技術。日本の美術，443，98p，至文堂。
 中井 泉編（2005）蛍光X線分析の実際。242p，朝倉書店。
 大阪市文化財協会編（1998）住友銅吹所跡発掘調査報告。608p，大阪市文化財協会。

第44表 分析対象

分析No.	遺物No.	分析箇所
1	1572	金属、黒、赤
2	1569	金属、赤
3	1570	金属、赤
4	1571	金属、黒
5	1573	亜酸化銅、黒
6	1575	金属、赤
7	1589	金属、赤
8	1575	金属、黒
9	1576	金属、赤
10	1577	黒、赤、緑
11	1578	金属、赤
12	1580	金属、黒
13	1581	金属、黒
14	1583	金属、緑
15	1585	金属、緑

第45表 坩堝付着物の半定量分析結果 (mass%)

分析No.	分析箇所	Cu	Sn	Pb	Ni	Zn	As	Ag	Sb	Au	Bi
1	金属	69.57	2.50	27.62	-	-	tr	0.23	0.08	-	-
	黒	27.17	64.66	7.87	-	0.29	-	-	-	-	-
	赤	46.30	25.92	27.20	tr	-	tr	0.28	0.29	-	-
2	金属	84.00	2.59	13.12	-	-	tr	0.21	0.08	-	-
	赤	34.16	31.43	34.40	-	-	tr	-	-	-	-
3	金属	88.30	1.35	10.13	0.05	-	tr	0.11	0.05	-	-
	赤	66.26	10.75	22.59	-	-	-	0.40	-	-	-
4	金属	69.05	4.66	25.95	-	-	tr	0.25	0.10	-	-
	黒	39.40	34.31	26.29	tr	-	-	-	tr	-	-
5	亜酸化銅	87.10	2.64	9.94	-	-	tr	0.19	0.13	-	-
	黒	79.66	7.49	12.51	tr	-	-	0.07	0.26	-	-
6	金属	83.11	2.85	13.78	-	-	tr	0.18	0.06	-	-
	赤	54.30	18.14	27.21	-	-	-	0.34	-	-	-
7	金属	58.04	1.75	40.05	-	-	tr	0.13	0.04	-	-
	赤	27.40	31.46	40.88	tr	-	-	0.08	0.18	-	-
8	金属	92.63	0.80	5.97	0.04	-	0.35	0.14	0.07	-	-
	黒	76.63	9.20	14.17	-	-	tr	-	-	-	-
9	金属	70.58	1.47	27.71	-	-	tr	0.15	0.09	-	-
	赤	24.22	9.41	65.63	tr	0.18	-	0.13	0.42	-	-
10	黒	69.52	10.51	19.97	tr	-	-	-	-	-	-
	赤	64.12	17.20	18.36	-	0.31	-	-	-	-	-
	緑	75.08	12.97	11.74	-	-	tr	0.20	-	-	-
11	金属	99.25	-	0.30	-	-	0.04	0.38	tr	0.03	tr
	赤	79.94	6.69	13.37	-	-	tr	-	-	-	-
12	金属	77.95	1.96	19.59	0.07	-	0.21	0.17	0.06	-	-
	黒	64.92	11.05	23.51	-	-	-	0.19	0.33	-	-
13	金属	72.78	6.39	20.48	0.04	-	tr	0.22	0.08	-	-
	黒	72.08	12.87	14.75	0.11	-	tr	-	0.19	-	-
14	金属	71.28	0.20	28.08	-	-	tr	0.37	0.07	-	-
	緑	69.64	13.41	16.42	-	-	tr	0.28	0.25	-	-
15	金属	68.24	2.11	29.53	-	-	tr	0.08	0.03	-	-
	緑	63.82	8.95	26.20	-	0.99	-	0.05	-	-	-

※tr:痕跡量

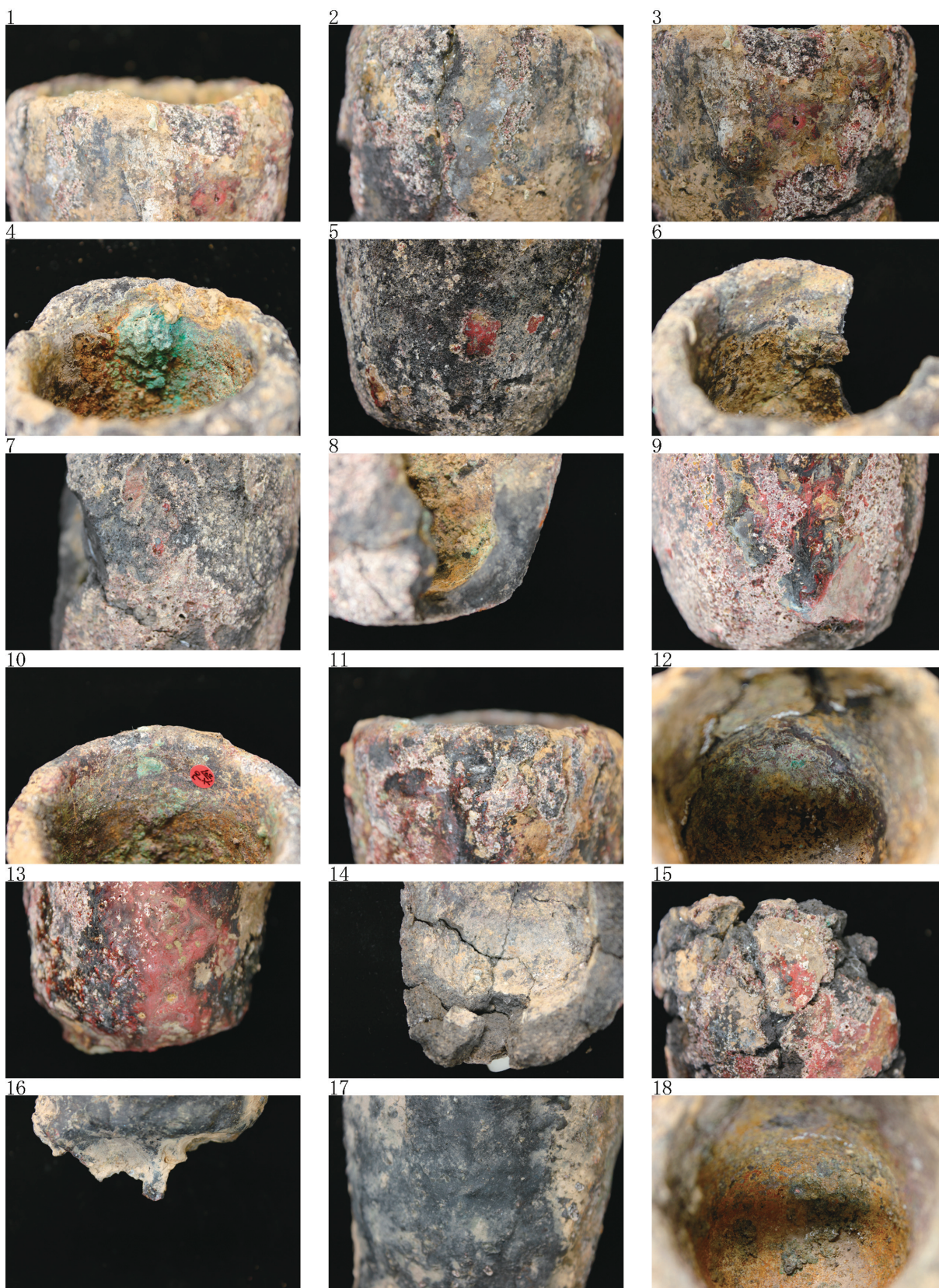


写真1 埴塙の蛍光X線分析測定位置 (1) (写真中央を測定)

1. 分析No.1 金属 2. 同黒 3. 同赤 4. 分析No.2 金属 5. 同赤 6. 分析No.3 金属 7. 同赤 8. 分析No.4 金属
9. 同黒 10. 分析No.5 亜酸化銅 11. 同黒 12. 分析No.6 金属 13. 同赤 14. 分析No.7 金属 15. 同赤
16. 分析No.8 金属 17. 同黒 18. 分析No.9 金属

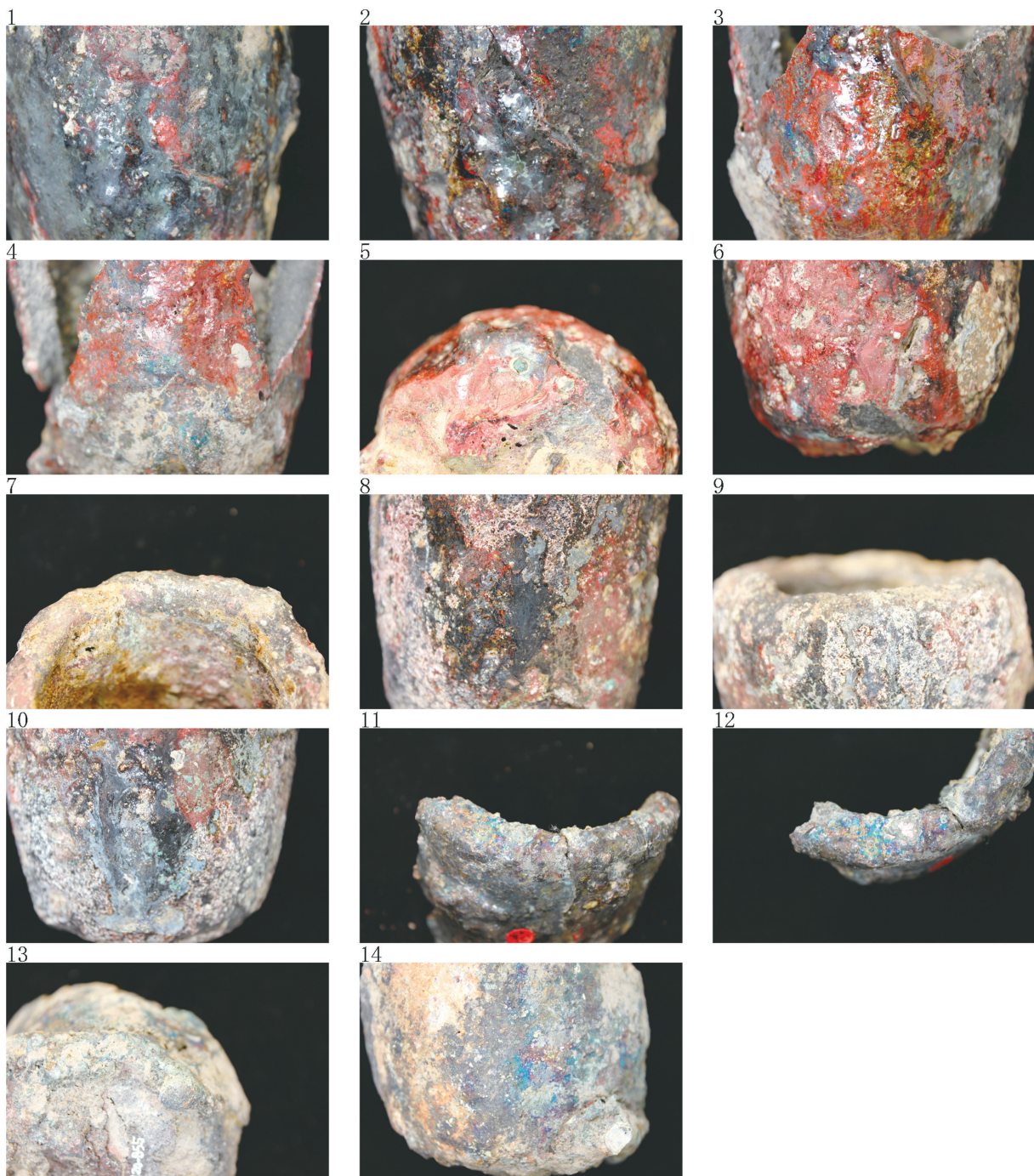


写真2 坩堝の蛍光X線分析測定位置 (2) (写真中央を測定)

1. 分析No.9 赤 2. 分析No.10 黒 3. 同赤 4. 同緑 5. 分析No.11 金属 6. 同赤 7. 分析No.12 金属 8. 同黒
9. 分析No.13 金属 10. 同黒 11. 分析No.14 金属 12. 同緑 13. 分析No.15 金属 14. 同緑

第9章 総括

はじめに

本報告書『豊後府内17』は二分冊となっており、第11次、第72次、第76次、第80次、第88次、第95次の調査成果を掲載している。これら6箇所¹の調査区は調査年次は異なるものの連続しており、「府内古図」において「称名寺」と記載のある区画の中の南西部を占めている。

他阿真教

称名寺は時宗寺院として、1341(暦応4)年に府内に建立されたとされる。この称名寺が、「府内古図」に記載のある称名寺そのものであるとの証拠は無いが、今回の発掘調査によって、14世紀代の遺構が少ないながらも確認されたことは、この場所が当初から称名寺であったとしても矛盾は無いといえる。15世紀代になると、瓦が出土する遺構や区画溝と考えられる遺構も形成されるなど、寺院であったことが遺跡の面からも窺えるようになる。特に第88次のSD160、第11次のSD051、第80次のSD200は一連の溝であるが、この溝が一つの街区を囲むように形成されたことは、大きな画期と言って良い。15世紀後半の室町時代のことである。

16世紀になると、前記した溝は埋まるが、新たにやや内側に溝(第88次のSD225と一連の遺構)が掘られ、引き続き施設が維持されていたことが窺える(第481図)。

このように、今回報告する調査箇所が寺院跡であったことは確実になったといえよう。「府内古図」の信憑性がまた高まったことになる。しかし、天正14年の島津侵攻直前の様子を描いたとされる「府内古図」を仔細に見ると、実は最も古相を持つとされるA類には「称名寺」の記載はなく、B類やC類にあるのみである。このことは偶々A類の絵図に記載が漏れた、ということも考えられるが、「称名寺」の歴史を詳細に見ていくと、別な解釈の成り立つ余地があることがわかる。そこで、まず称名寺の歴史について簡単に触れておきたい。

称名寺の歴史

称名寺は時宗の寺院で、寺伝(『寛永一八辛巳年ヨリ正徳二壬辰歳過去帳』)によると、その創建は1341(暦応4)年である。豊後府内では万寿寺に次いで、敷地面積で第2の規模を誇る大規模な寺院であった。創建時は豊後府内名ヶ小路(名号小路とも)町に所在していたが、16世紀後葉になって異変が起こる。寺伝には「永禄ノ頃事故アリテ府主ノ命ニ依テ、名ヶ小路町ヨリ沖浜ニ移ル」とあり、称名寺は「府主ノ命」によって名ヶ小路町から沖の浜に移転させられるのである。近世以降の史料であるため、この記述の扱いについては慎重さが必要であろうし、「府主ノ命」によるという移転理由も明記されていないが、寺伝が正しい事象を伝えているとすると、16世紀後葉の段階において称名寺は名ヶ小路町の地にはなく、沖の浜に移転していたことになる。「沖の浜」とは豊後府内の外港として発達した港町で、別府湾に注ぐ大分川北西の河口沖に存在したといわれている。鄭舜功の『日本一鑑』やルイス・フロイスの『日本史』、イエズス会宣教師の書簡類にも貿易港として発展した様子が記されており、戦国時代の豊後府内を描いた「府内古図」にも、府内の町の北西に沖の浜の町が表現されている。

「府主ノ命」

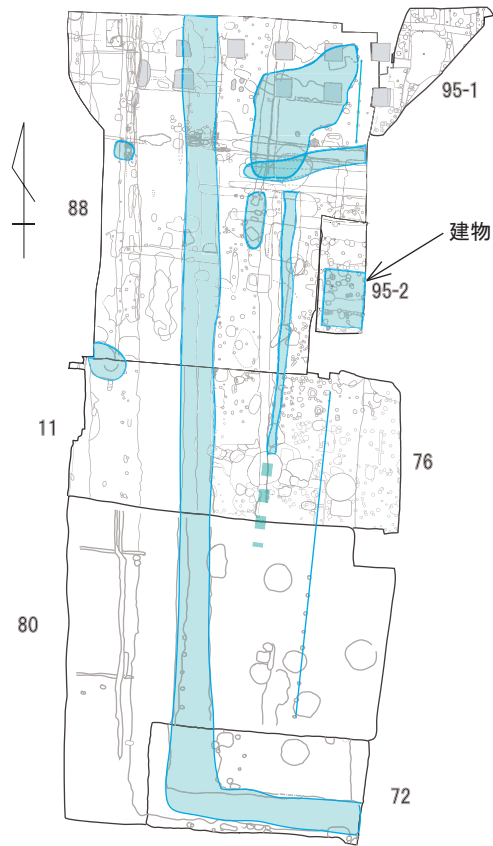
沖の浜

『日本一鑑』

島津勝久

「嶋勝久墓」

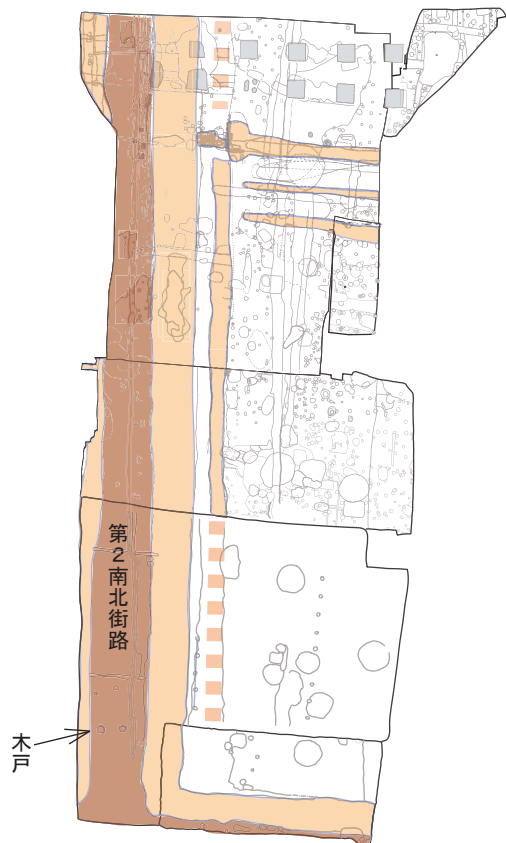
称名寺は沖の浜移転時に、天正元年に逝去した島津勝久の菩提寺になったという。島津勝久〔文亀3(1503)年～天正元(1573)年〕は薩摩島津家第14代当主で、父は第11代当主島津忠昌、母は豊後大友家第16代当主大友政親の女である。島津家の家督争いに敗れた勝久は、母の出身である大友家を頼って薩摩から豊後沖の浜に移住し、沖の浜の地で死去した。府内古図には沖の浜移転後の称名寺の位置を明示するものはないが、「府内古図」C類に描かれた沖の浜に「嶋勝久墓」という記載が認められるものがある。憶測を重ねることになるが、称名寺の移転と移転時に島津勝久の菩提寺になったという事象が事実であるとするならば、「嶋勝久墓」の記載地点付近が、沖の浜移転後



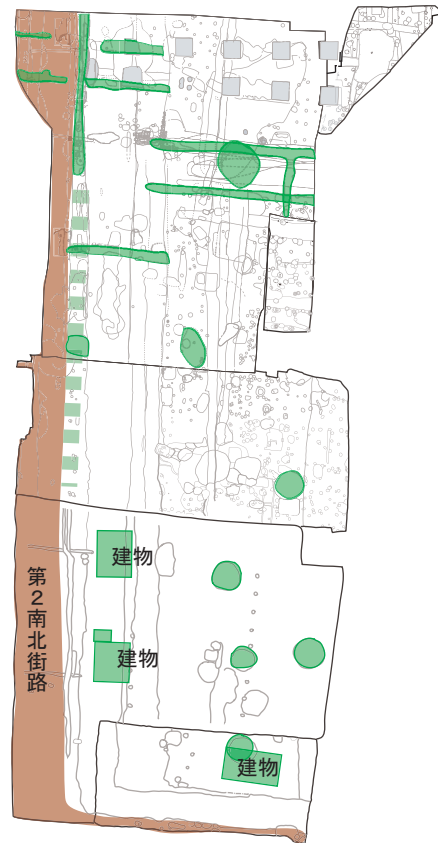
14～15世紀



16世紀（第3四半期まで）



1570年頃～1586年



1586年以降

第481図 遺構の変遷

0 40m

第9章 総括

の称名寺の位置を示唆するものなのかもしれない。

称名寺其阿 また、この時期に相当する永禄から天正年間にかけて、「称名寺其阿」という時宗僧の名前が史料上に登場する。「其阿」は『上井覚兼日記』の天正12（1584）年8月16日の項や詫磨文書・平村文書中の「段米等徴符并請取状」〔天正18（1590）年〕など同時代史料にもみえる実在の人物で、大友氏の使僧や段銭徴収の奉行的役割を担ったとされる。この段階の称名寺は沖の浜に所在していたことになるから、当然、其阿の活動拠点は名ヶ小路町の称名寺でなく、沖の浜の称名寺となるはずである。

慶長の大地震 1596（慶長元）年には、豊後の別府湾岸を中心とした地域に大地震が勃発した。この地震で大津波が発生し、沖の浜は海中に沈んだといわれている。寺伝では「慶長元年ノ大變二寺地没入ス、（中略）名号小路ノ旧地ニ再ビ移」とあり、大地震の後、称名寺は沖の浜から再び名ヶ小路町のもとの寺地に移転したという。

円通山善巧寺 その後、1601（慶長6）年には時宗から浄土真宗に改宗し、最終的には浄土真宗寺院である円通山善巧寺（現大分市大道町）の塔頭たっちゅうのひとつとなる。善巧寺の創建年代は諸書によって小異があるが、1580（天正8）年から1588（天正16）年の間とされ、創建時は豊後府内古河町に位置していた。1602（慶長7）年には府内城主竹中重利により近世城下町への集団移転政策が実施されており、それに伴って善巧寺も近世府内城下のひとつである長池町に移転している。現在の太田市大道町に移転したのは近年（昭和時代）になってからである。

名ヶ小路町の旧地に戻った称名寺が、善巧寺の塔頭として吸収された時期ははっきりしないが、少なくとも称名寺が新設された近世城下町に移転した形跡はない。従って、17世紀初頭には称名寺は三度移転し、名ヶ小路町から善巧寺の寺地（近世府内の長池町）に移動したのであろう。

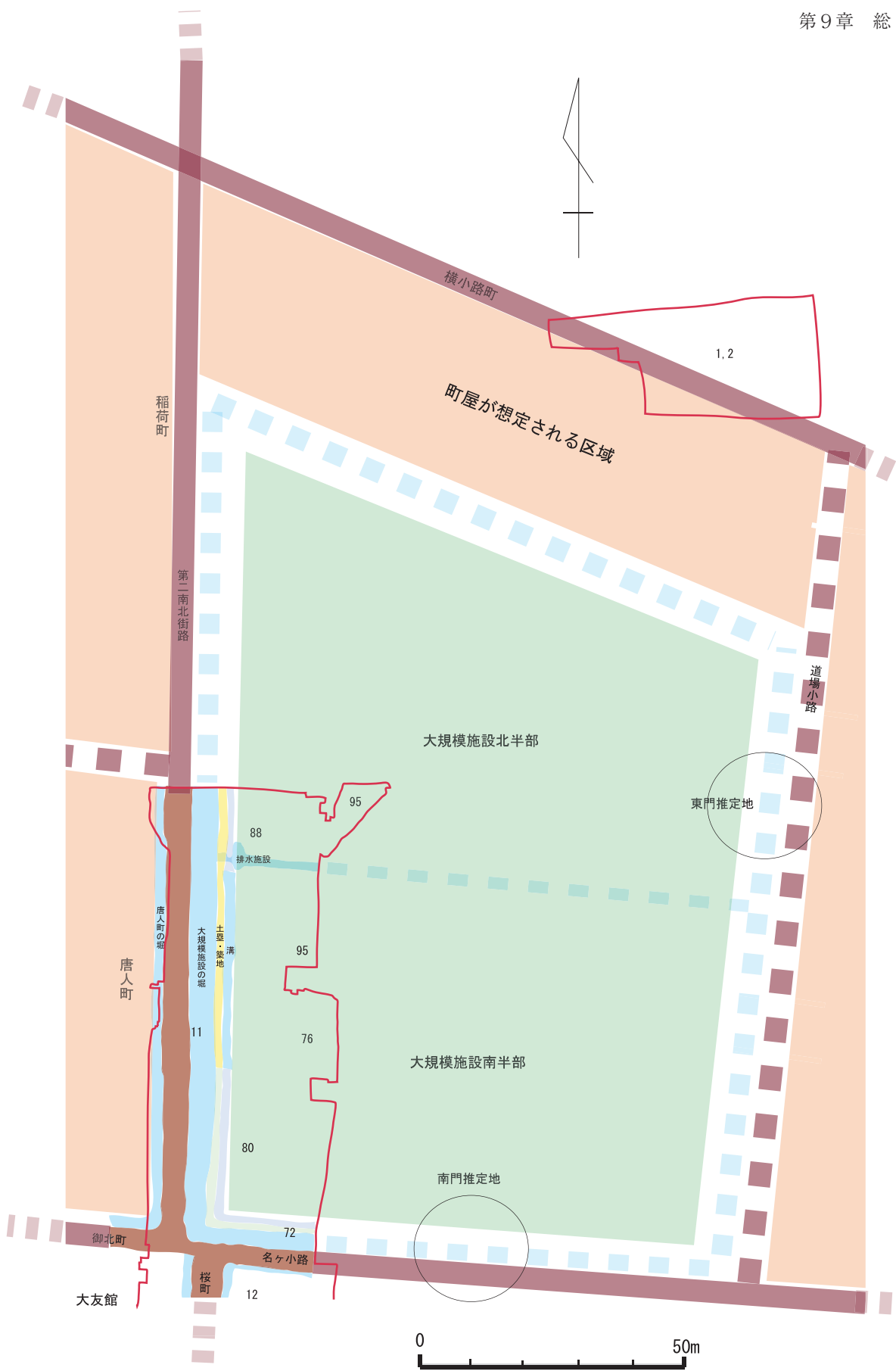
以上、紆余曲折を経た称名寺の所在地の歴史を簡単にまとめると、下記ようになる。

- ・1341（暦応4）年：豊後府内名ヶ小路町に時宗寺院として創建。
- ・永禄年間（1558～1570）：「府主ノ命」により、名ヶ小路町から沖の浜へ移転。
- ・1596（慶長元）年：慶長大地震にて被災。沖の浜から名ヶ小路町の旧地に再び移転。
- ・1601（慶長6）年または1602（同7）年：浄土真宗改宗または竹中重利の近世城下町移転政策に伴い、円通山善巧寺の塔頭となる。

「称名寺」と大規模施設

今回の報告で明らかになったように、この調査個所では島津侵攻（天正14年）直前に、大規模な堀（第80次SD101や第88次SD120）が掘削され、そして短期間で埋められている。前項で述べたように幾つかの資料から、当該時期には「称名寺」は沖の浜に移転していた可能性が高い。では、称名寺跡に造られた大規模な堀は、どのような施設であったのか、という疑問が生じる。先記したように、「府内古図」A類にはその名称が記されていないので記録類でそれを確かめる術はない。そこでまず、今回の発掘調査で得られた資料を基に、大規模な堀で囲まれた施設の推定範囲を考えてみよう。

道場小路 「府内古図」や現地割り等から復元した「大規模施設」が第482図である。東を限る「道場小路」は、道そのものがまだ発掘調査で確認されておらず、あくまで字境等からの推定のラインである。また、横小路町 北については、「横小路町」が「府内古図」によると両側町になっているため、「大規模施設」の北限ラインは町屋との背割り線ということになり、これも推定ラインである。西と南についてはそれぞれ第2南北街路と「名ヶ小路」で確定である。そうすると、堀の外側で測ると東西で約110m、南北で125mから156mほどの台形状を呈することになる。そこで、この「大規模施設」の歴史的位置を探るため、同様な大規模な堀を持った万寿寺も視野に入れながら考えて見たい。



赤のラインは発掘調査を行った範囲
数字は、調査回数

第482図 「大規模施設」の推定範囲

第9章 総括

万寿寺 柴田礼能 その万寿寺については、次のよく知られた史料がある。1582（天正10）年に大友義統が府内の町奉行的な地位にあった柴田礼能に対し、「万寿寺築地之内并西之屋敷」を所望したことを記した文書である⁽¹⁾。義統は1576（天正4）年に家督を継ぎ、1580（天正8）年には臼杵から府内に一時的に政庁を移しているため、1582年には府内にいたことになる。その義統が所望した「万寿寺築地之内」は、前年の火災により焼失し、禅宗寺院としての機能を失っていた「万寿寺」跡である。

求めた時期は異なるものの、宗麟が移転を命じた「称名寺」跡と義統が所望した「万寿寺」跡が、いずれもほぼ同時期に大規模な堀を掘削し短期間で埋められていることは、何らかの共通した要因が背後に存在したことを示している。両寺院は宗派は異なるものの府内の町で1番目と2番目の規模を有する大寺院であった。すぐに堀が埋められていることを考えれば、寺院としての再建などではなかったはずである。

「もりをか」 ところで、ほぼ同時期の1581（天正9）年には、「もりをか」（大分市守岡）において義統の命で「御屋敷之堀」の掘削が行われた⁽²⁾。「もりをか」は、府内から南へ3kmほど大分川を遡った右岸（府内は左岸）にある比高差55mの独立残蝕丘陵である。南から府内を伺う敵が、大分川を越えるまさに最後の砦の位置にある。発掘調査によって丘陵上で幅2.5m、深さ2mの直線的な堀が建物を囲むように見つかっている⁽³⁾、その堀が「御屋敷之堀」と考えられる。つまり、大友氏は戦国期後半の緊張の高まった時期に、府内の防御を固めるためにピンポイントで屋敷を圍繞する堀の掘削を行ったのである。

「大府内」 ところで府内では町を囲む堀は無く、「大友館」にも天正年間の大規模な堀は今のところ確認されていない。このことから、坪根氏は府内を「防御性の薄い、経済優先の商業都市」と考え、その防御のために府内の周辺に「大府内」とでも呼べる防御ラインを構築した、と考えている⁽⁴⁾。前記した「もりをか」もまさにその一環であり、その防御ラインの存在については首肯できる。しかし、この時期は在地において国人クラスから在地領主クラスまで、大規模な堀と土塁を持った館城に居住し、山城は一部で畝状堅堀や横堀等によってラインで守る意識を高めていた時期である⁽⁵⁾。「大友館」の北東の斜向かいの「称名寺」と、南東の斜向かいの万寿寺の堀が大規模に掘削されるのはまさにこの時期である。「大友館」のみにこだわっていると見えてこないが、府内の町中の要所要所では防御を高めた施設も存在したのである。もちろん、惣構えは構築せず、武家地と商職人居住区が混在するなど、町そのものの防御という点で都市計画が存在したとは思えないが、だからこそ逆にピンポイントで大規模な堀を持った施設の位置付けは重要となる。

土囲廻堀 称名寺跡と万寿寺跡が、公的空間としての政庁や大友氏の私的空間であったかどうかはわからない。しかし、堀を付帯させない「土囲廻堀」で囲まれているとされる「大友館」に比べ、戦に備えたより実戦的な施設であったことは確かである。しかし、義統が再び臼杵へ戻る1583年頃には⁽⁶⁾、万寿寺と称名寺跡の堀が急に埋められるのは、やはり義統の動向と無関係ではないことを示唆しているように見える。

(1) 「大友松野文書7」『大分県史料25』 1964

(2) 三重野誠「大友宗麟・義統の十六世紀末における動向」『戦国大名大友氏と豊後府内』 高志書院 2008

(3) 『守岡遺跡』(昭和50 51年度発掘調査概報) 大分市教育委員会 1979

(4) 坪根伸也「大友館の変遷と府内周辺の方形館」『戦国大名大友氏と豊後府内』 高志書院 2008

(5) 小柳和宏「城館に見る大友氏の領国防衛戦略」『戦国大名大友氏と豊後府内』 高志書院 2008

(6) 三重野(2)文献および八木直樹下記文献で16世紀後半における大友宗麟と義統の動向が詳しく検討されている。

八木直樹「十六世紀後半における豊後府内・臼杵と大友氏～城下町移転に関する再検討から」『ヒストリア』第204号 大阪歴史学会2007

また、称名寺跡と万寿寺跡とではおそらくその利用目的は異なっていたらと推測される。称名寺の移転が永禄期のことであれば、宗麟はかなり早くから跡地の利用を考えていたことになる。後に家督を継ぐことになる義統が生まれたのが1558（永禄元）年であるので、そのことと関連性があるであろう。宗麟は比較的早い段階で臼杵から府内へ戻る、あるいは府内と臼杵との棲み分けを視野に入れていた可能性が高い。さらに1573（天正元）年には「土圀廻堀」のことがある。宗麟と義統が係わって造作を行わせた施設が、この称名寺跡や万寿寺跡であっても年代的には矛盾しない。今回の報告書で記したように1570年代には堀が掘削されて、称名寺跡では低平な土塁が廻ることも確認されている。

土圀廻堀

一方の万寿寺は前記したように1581（天正9）年に焼失する。このことはイエズス会日本通信⁽⁷⁾によると「殿は密かに、府内の町において主要な僧院であり、（豊後の）国中でもっとも著名な寺院である万寿寺に放火するよう命じた」と報告されている。そして、それは万寿寺の莫大な収入を戦の際の論功行賞に充てるためであったという。さらにフロイスの『日本史』によると⁽⁸⁾万寿寺の地所は「一人のキリシタンの貴人に授与した」という。この「一人の貴人」こそ前記した柴田礼能である。つまり、翌1582（天正10）年には早くも義統は礼能に対し、「万寿寺築地之内」の返還を求めたことになる⁽⁹⁾。その理由については判らないが、万寿寺だけのことではなく、府内の町をあらためて再整備しようという意思が働いたものであると理解したい。「もりをか」の整備ももちろんその一環であったが、しかし、翌天正10年、または11年には義統は臼杵へ戻っているのである。そのことは城と城下町といった関係の中で、大友氏が府内より臼杵を選択したということであろう。同年父である宗麟は臼杵を出て津久見にて隠棲を始めることを考えれば、当初は府内と臼杵という二頭体制を考えていた可能性が高いのではないかと。

万寿寺の火災

そして、府主のいなくなった府内の町は3年後の災禍を予見することなく、依然として華やかな生活が続いていたことが第2南北街路の側溝（第88次のSD142、第80次のSD090）に捨てられた遺物から判明する。そして、1586（天正14）年の島津侵攻が、そのような府内の繁栄を一瞬の内に壊滅させたであろうことは、それまでの遺構面を覆う焼土層によっても明らかである。

島津侵攻

おわりに

今回報告した「称名寺」とその跡に造られた大規模施設は、府内町内における時宗の展開を考える上で、そして政庁または大友氏に関わる施設の展開を考える上でも重要な意味を持つものであることが明らかになったといえる。また、大規模施設の堀に捨てられた多くの遺物が、1570年頃から1580年代の前半までという極めて限られた年代に属する遺物群であることも、今後の当該期の資料を比較検討する上で不可欠な一括資料となるであろうことを指摘することができる。さらには、中国明代の鎗金の唐枕そうきん からまくら、ヨーロッパ産吹きガラスの器、真鍮製灰匙、真鍮製のチェーンなど華やかで異国趣味的な生活ぶりを彷彿とさせる遺物群や、遊びや衣食住などの日常生活の一面を垣間見させてくれる多くの有機質の資料も、陶磁器論や土器論に陥りがちな当該時期の遺物研究に一石を投じるものとなるだろう。

一方、発掘調査では多くの資料を得ることができたことと引き替えに、重複する多くの遺構を掘り進めた結果、新設された国道10号の下からは府内町の遺構の多くは消え去った。しかし、幸いな

(7) 村上直次郎訳『イエズス会日本通信下』 新異国叢書2 雄松堂出版 1969

(8) 松田毅一・川崎桃太訳 『完訳フロイス日本史8』 中公文庫 2000

(9) 「第5章 総括」『豊後府内8』 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008

第9章 総括

保護対策

ことに遺構検出レベルが現地表面からマイナス約1.3~1.5mという深度であったために、遺構の最終面は工事による破壊を免れ大部分残されている。さらには、「府内古図」にも描かれている街路の辻に立つ木戸跡（第80次）など重要と判断した部分については、掘り下げを行わずに遺構に砂を入れて保護する対策も講じた。また、国史跡である大友氏館に接する部分については発掘を最小限にして、多くをそのまま残す措置も講じている。

国道10号の拡幅という現代都市の利便性の向上と引き替えに得られた今回の資料群が、中世都市府内の歴史を活写するための資料となることを期してまとめたい。

遺物一覽表

遺物一覧表 1
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
7	1	青磁	碗	中国	1.5	(5.2)	SD002			
	2	陶器	褐釉壺	中国	3.8	(10.4)	SD003			
8	3	陶器	播鉢	国産			SD003B			
	5	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	2.7	SD003			
	6	京都系土師器	皿	在地	(9.2)	2.6	SD003			
10	7	陶器	織部			2.7	SD004	胴部に折れあり		
	8	陶器	長胴壺	ベトナム			SD004			
12	9	瓦質土器	鉢または鍋	在地			SD004			
	10	青磁	香炉	中国(龍泉窯)			SD031			
	11	青磁	皿	中国(龍泉窯)			SD031	菊花皿		
	12	青磁	皿	中国(龍泉窯)			SD031	口折皿		
	13	磁器 青花	小鉢	中国(景德鎮)	(7.9)	4.2	SD031	外面に「寿」		
	14	瓦質土器	火鉢	在地			SD031	突帯間に菊花スタンプ文		
13	15	瓦質土器	火鉢	在地			SD031			
	16	土師器	小皿	在地	(7.0)	2.5	5.1	SD031	灯明皿として利用	
	19	青磁	碗	中国(龍泉窯)			SD032	口折皿		
	20	青磁	碗	中国(龍泉窯)			SD032			
	21	白磁	碗	中国		2.8	(4.0)	SD032		
	22	磁器 青花	小鉢	中国(景德鎮窯)	(9.3)	2.0	(4.4)	SD032		
	23	華南三彩	水注の注ぎ口	中国				SD032		
	24	陶器	碗	朝鮮王朝		2.7	5.7	SD032、SK101	見込みに目跡	
	25	陶器	天目茶碗	志戸呂(静岡県)	11.3			SD032		166
	26	陶器	不明	瀬戸美濃		2.2+ <i>a</i>		SD032		
	27	陶器	水屋甕	備前		9.5		SD032		
	28	須恵質	播鉢	東播系?				SD032		
	15	29	瓦質土器	鉢	在地			SD032、SE070		
30		京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0	SD032			
32		磁器 青花	皿	中国(漳州窯)			(6.2)	SD034		
33		瓦質土器	鉢	在地	(36.0)	10.3	(28.8)	SD034、SD073		
17	34	京都系土師器	皿	在地		2.0		SD034		
	35	白磁	皿	中国		3.05+ <i>a</i>		SD043		
20	36	陶器	播鉢	備前				SD043		
	37	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)				SD073		
	38	磁器 青花	碗	中国(漳州窯)		1.2+ <i>a</i>	5.0	SD073		
	39	陶器	甕	備前				SD073		
	40	京都系土師器	皿	在地		2.2		SD073		
	41	京都系土師器	皿	在地		2.1		SD073		
	42	瓦質土器	鉢	在地	(36.0)	10.3	(28.8)	SD034、SD073		
22	43	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.8)	(6.9)	(5.4)	SK008		
	44	白磁	皿	朝鮮王朝		2.3	(6.6)	SK008		
	45	磁器 青花	皿?	中国(漳州窯)		1.7		SK008		
	46	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(8.2)	3.0		SK008、SD060B	内面にソギあり	
	47	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	2.4		SK008		
24	48	京都系土師器	皿	在地	(9.4)	1.8		SK008		
	51	陶器	碗	中国				SK009		
26	52	白磁	小杯	近世				SK009		
	53	京都系土師器	皿	在地		2.0		SK011		
30	54	陶器	四耳壺	タイ(メナムノイ窯)	19.8+ <i>a</i>	12.3		SD160、SK093、SK069、道路跡第2面検出時		
	55	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)				SK075		
	56	陶器	おろし皿	瀬戸美濃				SK075		
	57	京都系土師器	皿	在地				SK075		
32	58	京都系土師器	皿	在地				SK075		
	61	青磁	皿	中国南部	11.6	1.6+ <i>a</i>		SK093	菊花皿	
34	62	焼締陶器	四耳壺	タイ(メナムノイ窯)				SD120上層、SK093		
	63	青磁	香炉	中国(景德鎮窯)				SK094		
	64	陶器	甕	備前				SK094		
	65	陶器	播鉢	備前				SK094、包含層		
36	66	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	2.2		SK094		
	68	陶器	水屋甕	備前	(18.2)			SD120上層、SK093、SK116、包含層		
39	69	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.2)	2.9+ <i>a</i>		SK098		
	70	陶器	播鉢	備前				SK098		
40	71	陶器	壺	備前				SK098、SK099	72と同一個体	
	72	陶器	壺	備前				SK098、SK099	71と同一個体	
42	73	青磁	香炉	中国(景德鎮窯)				SK100		
	74	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(10.8)	(6.2)	(4.3)	SK100		
	75	京都系土師器	皿	在地	(13.2)	2.0		SK100		

遺物一覧表 2
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
44	78	瓦質土器	火鉢	在地			SK111			
	79	陶器	小型天目茶碗	瀬戸美濃	(7.0)		SK116			
46	80	陶器	壺	備前			SK116			
	81	焼締陶器	四耳壺	タイ (メナムノイ窯)			SD120上層、SK116			
	82	陶器	水屋甕	備前	(18.2)		SD120上層、SK093、SK116、包含層			
	83	瓦質土器	火鉢	在地		9.0	SK116			
	84	京都系土師器	坏	在地	15.4	2.0	9.0	SK116		
	88	白磁	皿	中国		2.3	(8.2)	SK131		
49	89	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(12.3)	(6.0)	(4.3)	SK131		
	90	青磁	折縁皿	瀬戸美濃				SK131		
	91	陶器	梅瓶	瀬戸美濃				SK131、SE070		
	92	陶器	搦鉢	備前				SK131		
	93	陶器	搦鉢	備前				SK131		
	94	陶器	浅鉢	備前		5.4		SK131		
	95	瓦質土器	塊	在地		5.0		SK131		
	96	瓦質土器	搦鉢	在地	9.0	2.0		SK131		
	97	京都系土師器	皿	在地	8.1	1.9		SK131		
	98	京都系土師器	皿	在地	7.7	1.8	4.2	SK131	轆轤目顕著	
	99	土師器	碗	在地		1.8	5.9	SK131	ミガキあり	
101	弥生土器	高杯	在地		4.1		SK131			
51	102	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)			SK147			
53	103	陶器	碗	朝鮮王朝	14.7	4.8	5.1	SK150	目跡あり	
	104	土師器	皿	在地	12.3	3.5	8.0	SK150		
55	105	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.8+ a		SE070下層		
	106	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.7+ a	6.2+ a	SE070		
	107	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		3.4+ a	6.0+ a	SE070下層		
	108	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	21.8	2.9+ a		SE070		
	109	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		3.0+ a		SE070		
	110	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		4.2+ a		SE070		
	111	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	(10.8)	1.9+ a		SE070		
	112	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)				SE070、包含層	268、269、559、2324と同一個体か	166
	113	青磁	水注注ぎ口	中国 (龍泉窯)		4.6+ a	1.9	SE070		
	114	白磁	坏	中国	9.4+ a	2.5+ a		SE070		
115	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)	13.0	5.5		SE070			
116	磁器 青花	皿または盤	中国 (景德鎮窯)				SE070			
117	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	(9.2)	2.0	(2.0)	SE070南部			
118	磁器 青花	瓶	中国 (漳州窯)	(6.6)	5.9		SE070			
56	119	華南三彩	動物形置物	中国				SE070	前脚、後ろ脚、敷物の表現あり	168
	120	褐釉陶器	壺	中国				SE070		
	121	陶器	耳壺	中国				SE070		
	122	陶器	高台	中国	(10.3)	3.4		SE070、包含層		
	123	焼締陶器	瓶	中国		2.2		SE070		
	124	陶器	壺	中国				SE070	肩部にスタンプ文	
	125	焼締陶器	甕	中国?		15.2+ a	20.6	SE070、SD071、SD120下層、包含層		
	126	陶器	梅瓶	瀬戸美濃			12.8	SE070下層、SK101		
127	陶器	皿	瀬戸美濃	9.6	2.2	5.2	SE070	井戸底出土		
128	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.8)			SE070、SD174			
129	陶器	碗	唐津				SE070、包含層			
130	陶器	皿	唐津	140.6+ a	3.3	4.4	SE070、包含層			
131	陶器	皿	唐津	11.0	3.1	4.8	SE070			
132	軟質施釉陶器	碗	(関西)				SE070		166	
57	133	陶器	甕	備前				SE070南側西半	線刻あり	
	134	陶器	大甕	備前		9.9		SE070		
	135	陶器	甕	備前		6.7		SE070		
	136	陶器	搦鉢	備前				SE070南西		
	137	陶器	搦鉢	備前			(14.4)	SE070、包含層		
	138	陶器	搦鉢	備前				SE070		
	139	陶器	水指	備前	(12.0)	10.2		SE070		
	140	陶器	小壺	備前				SE070		
	141	陶器	瓶	備前	3.6	1.7		SE070		
	142	陶器	甕	常滑				SE070		
	143	瓦質土器	塊	在地	(11.4)			SE070下層		
	144	瓦質土器	花瓶?	在地		4.7		SE070		
	145	瓦質土器	花瓶?	在地		5.3		SE070		

遺物一覽表 3
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
58	146	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	147	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	148	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	149	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	150	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	151	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	152	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	153	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	154	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	155	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	156	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	157	瓦質土器	火鉢	在地				SE070	
	158	瓦質土器	鉢	在地				SD032、SE070	
	159	瓦質土器	こね鉢	在地				SE070	
160	瓦質土器	鍋	在地				SE070		
161	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.35	5.9	SE070		
162	土師器	小皿	在地				SE070		
163	土師器	小皿	在地	7.0	1.6	4.2	SE070		
63	191	白磁	碗	中国				SX178	
	192	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			(8.0)	SX178	
	193	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	10.2+ a	2.25	5.1+ a	SX178	
	194	陶器	德利	備前		1.4+ a	5.5+ a	SX178	
	195	陶器	德利	備前				SX178	
	196	陶器	甕	備前				SX178	
	197	瓦質土器	火鉢	在地				SX178北東	
	198	瓦質土器	甕	在地	47.8			SX178	
74	259	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			5.6	包含層	
	260	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			6.1	包含層	
	261	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			5.2+ a	包含層	
	262	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				包含層	
	263	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	6.4+ a			包含層	
	264	青磁	瓶	中国 (龍泉窯)				包含層	
	265	青磁	碗	中国 (景德鎮窯)				包含層	
	266	青磁	盤	中国 (龍泉窯)				包含層	
	267	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)	12.5+ a			包含層	
	268	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)				包含層	112、269、559、2324と同一個体か
	269	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)				包含層	112、268、559、2324と同一個体か
	270	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)				包含層	脚部
	271	青磁	置物?	中国 (龍泉窯)				包含層	
	272	白磁	碗?	中国				包含層	
273	白磁	碗	中国				包含層		
274	白磁	皿	中国				包含層	暗文	
275	白磁	合子の蓋	中国	6.9+ a	1.1		包含層		
276	白磁	皿	中国	(14.0)	2.6	(7.8)	包含層		
277	白磁	皿	中国	10.1+ a	2.5	5.5+ a	包含層		
278	白磁	不明	中国				包含層		
279	磁器	碗	中国				包含層		
280	磁器	鉢	中国				包含層		
75	281	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)		4.3	(4.6)	包含層	方形格子目文
	282	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)		1.1	7.2	包含層	「洪武年造」銘
	283	磁器 青花	花瓶	中国 (景德鎮窯)	6.2	7.4		包含層	
	284	磁器 青花	輪花皿	中国 (景德鎮窯)				包含層	
	285	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)				包含層	
	286	磁器 青花	大皿	中国 (漳州窯)		2.7	12.8	包含層	
	287	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	13.0	3.9	6.4	包含層	
	288	華南三彩	盤	中国 (磁竈窯)				包含層	
	289	華南三彩	水注の注ぎ口	中国				包含層	
	290	華南三彩	不明	中国				包含層	
	291	華南三彩	不明	中国				包含層	
	292	華南三彩	不明	中国				包含層	
	293	陶器	小皿	中国			(3.6)	包含層	翡翠釉
	294	陶器	菊花皿	中国				包含層	紅釉
76	295	陶器	天目茶碗	中国	12.2			包含層	
	296	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	11.7			包含層	釉薬を2度掛けし菊花文を作る(菊花天目)
	297	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃			5.0	包含層	

遺物一覧表 4
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
76	298	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃			4.5	包含層		
	299	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃			4.3	包含層		
	300	陶器	小皿	瀬戸美濃	(9.5)	2.4	(4.3)	包含層		
	301	陶器	小皿	瀬戸美濃	10.0	2.0	5.5	包含層		
	302	陶器	折縁ソギ皿	瀬戸美濃	(11.5)	2.8	(6.5)	包含層		
	303	陶器	小皿	瀬戸美濃		2.15	(4.9)	包含層		
	304	陶器	小皿	瀬戸美濃	(10.9)	1.9		包含層		
	305	陶器	小皿	瀬戸美濃	(10.7)	2.1		包含層		
	306	陶器		瀬戸美濃				包含層		
	307	陶器	天目茶碗	志戸呂(静岡県)	11.3			包含層	166	
	308	陶器	壺	中国	(10.0)	2.4		包含層		
	309	陶器	鉢					包含層		
	310	陶器	四耳壺	中国				包含層		
	311	陶器	壺	備前				包含層		
312	陶器	水屋甕	備前				包含層			
77	313	陶器	長胴瓶	ベトナム	(12.2)			包含層		
	314	陶器	碗	唐津		5.6		包含層		
	315	瓦質土器	壺	東播系	(17.2)			包含層		
	316	瓦質土器	碗	在地			(4.4)	包含層		
	317	瓦質土器	碗	在地				包含層		
	318	瓦質土器	風炉	在地	(17.5)			包含層		
	319	瓦質土器	火鉢	在地	(18.8)			包含層		
	320	瓦質土器	火鉢	在地				包含層		
	321	瓦質土器	火鉢	在地	(18.0)			包含層		
	322	瓦質土器	風炉	在地				包含層		
	323	瓦質土器	風炉	在地				包含層		
	324	瓦質土器	深鉢	在地				包含層		
	325	瓦質土器	深鉢	在地				包含層		
	326	瓦質土器	火鉢	在地				包含層		
327	瓦質土器	鉢		長さ	5.7	横	包含層			
78	328	陶器	香炉	中国				包含層		
	329	瓦質土器	花瓶?	在地		3.7		包含層		
	330	瓦質土器	香炉	在地				包含層	梅花スタンプ文	
	331	瓦質土器	播鉢	在地	(30.0)			包含層		
	332	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.9	4.0	包含層	灯明皿として利用	
	333	土師器	小坏	在地	3.2	1.4	2.0	包含層	ミニチュアか?	
83	414	白磁	皿	中国	(10.7)	2.6	(5.9)	道路跡		
	415	白磁	皿	中国	(11.6)	(6.7)	(2.7)	道路跡第5面		
	416	白磁	皿	中国(景德鎮窯)				道路跡第3面		
	417	白磁		中国		2.7		道路跡第1面検出時		
	418	白磁	つまみ	中国	1.3	0.9		道路跡第1面		
	419	青白磁	梅瓶	中国				道路跡第4面		
	420	青磁	碗	中国(龍泉窯)			5.2+a	道路跡第4面		
	421	青磁	皿	中国(南方系)	10.6+a	2.5	5.4+a	道路跡第3面・ 道路跡第4面検出時		
	422	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		2.4	(4.8)	SX310・道路跡第4面	「富貴佳器」銘	
	423	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		3.05	(6.3)	道路跡第4面	「萬福攸同」銘	
	424	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			5.1	道路跡第4面	「富貴佳器」銘	
	425	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		1.8	(3.65)	道路跡第4面検出時		
	426	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.8)	3.3		道路跡		
	427	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.2)			道路跡第4面		
	428	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.9)			道路跡第4面、SD193		
	429	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			4.6	道路跡第4面		
	430	磁器 青花	碗	中国(漳州窯)	(17.8)			道路跡第4面		
	431	磁器 青花	碗	中国(漳州窯)	(13.2)			道路跡第4面		
	84	432	磁器 青花	碗	中国(漳州窯)	(12.2)			道路跡第3面	
		433	磁器 青花	碗	中国(漳州窯)	(12.6)			道路跡第4面	
434		磁器 青花	花碗	中国(漳州窯)	(13.6)	3.5	(7.6)	道路跡第4面		
435		磁器 青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.7)	2.35	(5.6)	道路跡第4面検出時	「富貴佳器」銘	
436		磁器 青花	皿	中国(景德鎮窯)		3.8		道路跡第3面検出時		
437		磁器 青花	皿	中国(景德鎮窯)				道路跡第4面		
438		磁器 青花	皿	中国(漳州窯)			5.1	道路跡第3面		
439		磁器 青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.5)	(2.4)	(5.8)	道路跡第5面	「福」銘か?	
440		磁器 青花	皿	中国(景德鎮窯)			(6.2)	道路跡第4面	方形格子目文か?	
441		磁器 青花	皿	中国(景德鎮窯)				道路跡第4面	「福」銘	
442		磁器 青花	皿	中国(漳州窯)	(10.3)	2.5	(3.3)	道路跡		
443		磁器 青花	皿	中国(漳州窯)			3.7	道路跡第3面	碁笥底	
444		磁器 青花	皿	中国(漳州窯)		1.25	(3.6)	道路跡第5面	碁笥底	

遺物一覽表 5
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
84	445	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)			道路跡第3面	碁笥底	
	446	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)		5.4	道路跡第2面		
	447	磁器 五彩	碗小皿	中国			道路跡第5面		
	448	磁器 五彩	碗小皿	中国			道路跡第5面		
	449	褐釉磁器		中国			道路跡第3面		
85	450	陶器	菊花皿	中国	(6.4)	1.1	3.8	道路跡第3面	翡翠釉
	451	華南三彩	鶴形水注	中国				道路跡第4面	
	452	華南三彩	水注	中国				道路跡第4面	
	453	陶器	壺	中国				道路跡第5面	
	454	陶器	壺	中国				道路跡第2面	
	455	陶器	鉢	中国	(26.2)			SD120中層・道路跡第5面	
	456	陶器	甕または壺	中国			(14.4)	道路跡第5面	
	457	陶器	鉢	朝鮮王朝				道路跡第3面	
	458	陶器	舟徳利	朝鮮王朝	(8.4)			道路跡第4面	
	459	陶器	舟徳利	朝鮮王朝	(6.0)			道路跡第5面	
	460	陶器	碗	朝鮮王朝	14.8	5.9	5.6	道路跡第1面	
	461	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	10.8			包含層、道路跡第3面	
	462	陶器	茶入れ	瀬戸美濃			3.4	道路跡第4面	
	463	陶器	皿	唐津			4.2+ a	道路跡第2面	
464	緑釉陶器	壺?					道路跡第4面		
86	465	陶器	壺	備前	頸部 2.4	胴部 9.7		道路跡第1面-3面 最下層	
	466	陶器	壺	備前	(9.0)	5.0		SD142、道路跡第3面検出 時	
	467	陶器	壺	備前		7.2		SD142上層、SD142、道路跡 第2面・道路跡第3面検出 時	
	468	陶器	壺	備前				道路跡第3面	
	469	陶器	鉢	備前				道路跡第2面	
	470	陶器	鉢	備前				道路跡第2面	
	471	陶器	播鉢	備前				道路跡第4面	
	472	陶器	播鉢	備前	(22.6)	9.8	9.4	道路跡第3面・包含層下	
	473	陶器	播鉢	備前				道路跡第3面	
	474	須恵質土器	播鉢	備前				道路跡第5面	
	475	陶器	甕	備前				道路跡第2面	
	476	陶器	甕	備前				道路跡第3面、包含層	
	477	陶器	甕	備前				道路跡第2面	
	478	陶器	甕	備前		(42.0)	12.4	SD142、SX310、道路跡第3 面	
479	陶器	甕	常滑				道路跡第5面		
87	480	瓦質土器	深鉢	在地				道路跡第3面	
	481	瓦質土器	深鉢	在地				道路跡第5面	
	482	瓦質土器	深鉢	在地		3.3		SD223上層、道路跡第5面	
	483	瓦質土器	深鉢	在地				道路跡第3面・道路跡第4 面	
	484	瓦質土器	深鉢	在地				道路跡第4面	
	485	瓦質土器	深鉢	在地				道路跡掘方	
	486	瓦質土器	火鉢	在地				道路跡第4面	
	487	瓦質土器	鉢	在地				道路跡第5面検出時	
	488	瓦質土器	鉢	在地	31.8	11.2	22.0	SD142・道路3面	
	489	瓦質土器	鉢	在地	25.0+ a	10.3	17.7+ a	SD120上層・中層、道路跡 第3面・道路跡第3面検出 時	
	490	瓦質土器	播鉢	在地	(29.6)	11.5	(12.0)	道路跡第3面上面	
88	491	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.7		道路跡	
	492	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.2		道路跡第4面検出時	灯明皿として利用
	493	京都系土師器	皿	在地	10.5	2.0	3.9	道路跡第4面検出時	灯明皿として利用
	494	京都系土師器	皿	在地				道路跡第3面検出時	灯明皿として利用
	495	京都系土師器	小皿		8.7	2.2		道路跡	灯明皿として利用
	496	京都系土師器	皿	在地	9.0	1.9		道路跡第4面検出時	灯明皿として利用
	497	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9		道路跡第4面	灯明皿として利用
	498	京都系土師器	小皿		8.1	2.0		道路跡第2面	
	499	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	3.5		道路跡第4面検出時	
	500	京都系土師器	皿	在地	(5.1)	1.5		道路跡第4面検出時	
	501	素焼き	焼塩壺	在地				道路跡第3面	
89	515	須恵器	坏身				SD120下層、道路跡第4面 検出時		
	516	弥生土器	甕	在地		5.0	(7.0)	道路跡第4面検出時	

遺物一覧表 6
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
92	552	磁器 青花	皿	中国			SD033	碁笥底	
	553	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(14.0)		SD033		
	554	瓦質土器	火鉢	在地			SD033上面		
93	556	青磁	水注	中国 (龍泉窯)		10.0	(8.5)	SD033A, SE070下層	
	557	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		1.9+ a	10.0+ a	SE070、包含層、SD033A	
	558	青磁	瓶	中国 (龍泉窯)				SD033A, SE070南東、SD174	
	559	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)				SD033A	112、268、269、2324と同一個体か
	560	青磁	不明	中国 (龍泉窯)				SD033A	
	561	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.9	5.5	SD033A	
	562	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		3.0	5.3	SD033A	
	563	白磁	壺	中国		3.2	(7.0)	SD033A、包含層	
	564	白磁	坏	中国		1.3	3.2	SD033A	
	565	磁器 五彩	碗	中国		2.3		SD033A上層	
94	566	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		2.3	6.1	SD033A	
	567	褐釉陶器	壺	中国				SE070、SD033A、SD120	
	568	褐釉陶器	壺	中国			(13.0)	SD033A、包含層	
	569	陶器	褐釉壺	中国		3.0	13.6	SD033A	
	570	褐釉陶器	壺	中国		4.0	6.2	SD033A	
	571	焼締陶器	壺	備前?		3.7	(7.4)	SD033A	
	572	陶器	皿	瀬戸美濃	(11.1)	2.2	5.6	SD033A、包含層、SD120上層	
	573	陶器	壺	備前		9.5		SD033A	
	574	陶器	壺	備前		2.6		SD033A	
	575	陶器	搦鉢	備前				SD033A	
95	576	陶器	搦鉢	備前	29.3	8.8+ a		SD033A, SD185	
	577	陶器	搦鉢	備前				SD033A	
	578	陶器	搦鉢	備前		7.2+ a	14.0	SD033A上層、SD156	
	579	陶器	搦鉢	備前	29.3+ a	8.3+ a		SD033A, SD160	
	580	陶器	搦鉢	備前				SD033A	
	581	瓦質土器	鉢	在地				SD031、SD033A	
	582	瓦質土器	碗	在地	(10.0)	3.6	(5.9)	SD033A	
	583	瓦質土器	鍋	在地				SD033A	
	584	瓦質土器	鍋	在地				SD033A上層	
	585	瓦質土器	花瓶	在地	(5.4)			SD033A	
103	586	瓦質土器	火鉢	在地				SD033A	
	587	瓦質土器	火鉢	在地				SD033A	
	588	瓦質土器	火鉢	在地				SD033A	
	589	瓦質土器	火鉢	在地				SD033A	
	590	瓦質土器	火鉢	在地				SD033A上層	
	591	瓦質土器	火鉢	在地				SD033A	
	592	瓦質土器	火鉢	在地		14.3	31.6	SE070、SK101、SD156、SD033A	
	593	土師器	坏	在地	(10.8)	3.1	7.4	SD033A	
	594	土師器	皿	在地	(9.0)	2.2	5.0	SD033A	灯明皿として利用
	595	土師器	皿	在地	7.2	2.1	5.2	SD033A	
105	596	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	3.5		SD033A	
	597	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.3		SD033A	灯明皿として利用
	641	青磁	輪花皿	中国		1.2		SD035	
	642	青磁		中国				SD035	
	643	磁器 青花		中国 (景德鎮窯)		1.7	5.05	SD035	
	644	陶器	搦鉢	備前				SD035	
	645	陶器	水屋甕	備前	(10.3)	(6.5)	(1.2)	SD035	
	646	瓦質土器	火鉢	在地				SD035	
	647	京都系土師器	皿	在地	8.0	1.9		SD035	灯明皿として利用
	648	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.3		SD035	
105	649	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD035	灯明皿として利用
	655	青磁	盤	中国 (龍泉窯)	23.6	4.3		SD071	
	656	青磁	皿?			2.6+ a		SD071	
	657	青磁	瓶	中国	8.0+ a	2.3+ a		SD071上層	
	658	青磁	皿		14.0	2.6+ a		SD071	
	659	青磁	菊花皿	中国 (龍泉窯)	(11.4)			SD071、SD033A上層	
	660	白磁	皿	中国				SD071	
	661	白磁	皿	中国				SD071	
	662	白磁	碗	中国	(11.8)	4.7		SD071上層	「富貴長命」銘
	663	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			(15.6)	SD071上層	
664	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)				SD071		
665	華南三彩	不明	中国				SD071		

遺物一覧表 7
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
105	666	陶器	德利	朝鮮王朝			SD071		
	667	陶器	瓶	ベトナム	(12.0)	19.6	SD071上層、包含層、 SK093、SD120上層・中層		
	668	陶器	瓶	ベトナム		14.0	(13.8) SD120、SD071、道路3面・包 含層		
	669	褐釉陶器	壺	中国			SD071上層、SD120上層		
106	670	陶器	壺	中国		9.3	SD156、SD071		
	671	陶器	四耳壺	タイ			SD120上層、SD071		
	672	焼締土器	甕	タイ		15.2+ <i>a</i>	20.6 SE070南側西半、SD071、 SD120下層、包含層		
	673	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(12.2)		SD071		
	674	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃			SD071上層		
	675	陶器	皿	瀬戸美濃	(13.2)	2.7	SD071、包含層		
	676	陶器		瀬戸美濃		5.3	SD071、包含層		
	677	陶器	壺	瀬戸美濃			SD071 SK061		
	678	陶器	壺	備前	(5.6)	4.2	SD071、包含層		
	679	陶器	茶入れ	備前	(7.4)		SD071上層		
	680	陶器	船德利	備前			SD071		
	107	681	陶器	搦鉢	備前			SD071	
682		陶器	搦鉢	備前	(28.2)	10.7	(11.2) SD071、SD120下層		
683		陶器	搦鉢	備前			SD071		
684		陶器	壺	備前			SD071		
685		陶器	壺	備前			SD071		
686		焼締土器	壺	備前			SD071		
687		陶器	壺	備前			SD071		
688		陶器	壺	備前			SD120、SD071		
689		陶器	甕	備前			SD071		
690		陶器	甕	備前			SD071		
691		瓦質土器	鉢	在地	27.3+ <i>a</i>	6.0+ <i>a</i>	SD071		
692		瓦質土器	鉢	在地			SD071		
693		瓦質土器	鉢	在地			SD071		
694		瓦質土器	鉢	在地			SD071		
695		瓦質土器	鉢	在地			SD071		
696		瓦質土器	火鉢	在地			SD071		
697		瓦質土器	火鉢	在地			SD071		
698		瓦質土器	甕?	在地			SD071		
699		瓦質土器	火鉢?	在地			SD071上層		
700		土師器	小皿	在地	7.4	2.5	5.4 SD071		
701	土師器	小皿	在地	6.9	1.9	4.1 SD071	灯明皿として利用		
702	土師器	小皿	在地	6.6	1.6	3.9 SD071	灯明皿として利用		
118	719	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	11.0+ <i>a</i>	5.1	4.4 SD120		
	720	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			SD120下層		
	721	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			5.6 SD120瓦溜		
	722	青磁	碗	中国 (南方系)	(11.0)	5.4	4.0 SD120		
	723	青磁	盤	中国		3.5	(8.6) SD120瓦溜		
	724	青磁	皿?	中国 (龍泉窯)		2.7	6.2 SD120		
	725	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	(14.0)	2.6	SD120中層・瓦溜		
	726	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		2.6	SD120		
	727	青磁	不明	中国 (龍泉窯)			SD120上層		
	728	青白磁	香炉	中国		3.9	SD120下層		
	729	磁器	香炉	中国			SD120		
	730	青磁	開香炉	中国 (景德鎮窯)	6.7	5.4	6.7 SD120下層		
	731	青磁	開香炉	中国 (龍泉窯)		7.9	5.2 SD120	内面に墨書	176
	732	青磁	花瓶	中国 (龍泉窯)	(4.8)	5.0	SD120中層		176
119	733	青磁	皿	中国 (南方系)	11.4	2.5	5.4 SD120		
	734	青磁	皿	中国 (福建省付近)	(11.4)	2.3	(5.3) SD120瓦溜・SD120		
	735	青磁	皿	中国 (南方系)			5.9 SD120瓦溜		
	736	青磁	皿	中国 (景德鎮窯)	(11.4)	3.0	(5.8) SD120		
	737	青磁	皿	中国 (景德鎮窯)	12.2+ <i>a</i>		6.4+ <i>a</i> SD120		
	738	青磁	菊花皿	中国 (景德鎮窯)	(8.6)	2.6	(3.8) SD120		
	739	青磁	菊花皿	中国 (景德鎮窯)	8.8	3.1	4.0 SD120		
	740	青磁	菊花皿	中国 (景德鎮窯)	(11.2)	2.9	5.9 SD120上層・中層・SD120		
	741	青磁	菊花皿	中国 (景德鎮窯)	11.4	3.2	6.0 SD120		
	742	青磁	掛花入	中国 (景德鎮窯)		9.1	4.9 SD120中層・SD120		
120	743	白磁	碗	中国			SD120		
	744	白磁	碗	中国	(12.0)		SD120		
	745	白磁	碗	中国		4.7	SD120下層		
	746	白磁	碗	中国		2.1	(6.2) SD120上層		

遺物一覧表 8
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
120	747	白磁	碗	中国			(6.4)	SD120中層・瓦溜	
	748	白磁	碗	中国			5.2+ <i>a</i>	SD120中層・下層	
	749	白磁	碗	中国?			5.0	SD120下層	
	750	白磁	碗	中国		(2.5)	(4.8)	SD120	
	751	白磁	碗	中国			6.4	SD120下層	
	752	白磁	皿	中国			6.2+ <i>a</i>	SD120上層	
	753	白磁	皿	朝鮮王朝		2.7	(6.6)	SD120	
	754	白磁	碗	中国	10.5	3.0	3.0	SD120中層・下層	
	755	白磁	壺?	中国			5.6	SD120上層	
	756	白磁	小皿	中国	(7.6)	(2.7)	(2.8)	SD120下層	
	757	白磁	香炉	中国		1.6	4.6	SD120	
	758	白磁	切り高台	中国		2.5	4.4	SD120下層	
	759	磁器	皿	中国				SD120	
760	白磁	碗	中国	7.4			SD120下層		
121	761	白磁	皿	中国			11.7+ <i>a</i>	SD120上層・中層・中層・瓦溜	
	762	白磁	皿	中国	19.0+ <i>a</i>	4.0	11.5+ <i>a</i>	SD120上層	
	763	白磁	皿	中国		3.2		SD120上層	
	764	白磁	輪花皿	中国		1.6		SD120中層	
	765	白磁	皿	中国	(14.0)	3.2	(7.8)	SD120上層	
	766	白磁	折縁皿	中国	(16.1)	2.65	8.1+ <i>a</i>	SD120	
	767	白磁	皿	中国	(12.8)	3.2	(5.8)	SD120	
	768	白磁	皿	中国	19.5+ <i>a</i>	3.7	10.6+ <i>a</i>	SD120上層	
	769	白磁	皿	中国	(12.2)	3.1	(6.6)	SD120	
	770	白磁	皿	中国	(11.0)	2.5	(6.0)	SD120下層	
	771	白磁	皿	中国	(10.8)	2.5	6.0	SD120中層	
	772	白磁	皿	中国	(10.4)			SD120上層	
	773	白磁	皿	中国	(11.3)	(5.9)	(3.0)	SD120	
	774	白磁	皿	中国	(11.2)	2.3	(6.3)	SD120	
122	775	白磁	皿	中国	14.9			SD120下層	
	776	白磁	皿	中国	(10.2)	2.3	(5.0)	SD120	
	777	白磁	皿	中国				SD120下層	
	778	白磁	皿	中国	10.6	2.6	6.2	SD120下層	「富貴佳器」銘か?
	779	青花	皿	中国	(12.8)	2.3	(7.4)	SD120下層・瓦溜・包含層	方形格子目文か?
	780	白磁	皿	中国	11.8	2.5	7.4	SD120中層	
	781	白磁	皿	中国	(15.8)	2.6	(7.8)	SD120	
	123	782	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	18.7	9.4	6.9	SD120
783		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.6)	5.2	4.2	SD120	底に銘あり
784		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.6)	5.9	4.4	SD120	「大明年造」銘
785		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.6)	4.6	3.7	SD120	
786		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		3.2	4.7	SD120	「富貴長命」銘
787		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		1.6	5.4	SD120	底に銘あり
788		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		2.1	4.6	SD120中層	「大明年造」銘
789		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		2.0	6.8	SD120	「萬福攸同」銘
790		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		3.05+ <i>a</i>	4.7	SD120	「福」銘
791		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			(4.4)	SD120	方形格子目文
792		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		1.6	(4.9)	SD120下層	方形格子目文
793		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			4.3+ <i>a</i>	SD120上層	方形格子目文か?
794		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		2.4	5.0+ <i>a</i>	SD120	底に銘あり
795		磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		1.4	3.7	SD120中層	「富貴佳器」銘
124	796	磁器 青花	碗?	中国(景德鎮窯)		4.0		SD120	「萬福攸同」銘
	797	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			3.9	SD120	方形格子目文
	798	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			4.4	SD120上層	「富貴佳器」銘か?
	799	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	15.2	6.9	5.5	SD120	「富貴佳器」銘
	800	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			4.1	SD120	「萬福攸同」銘
	801	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			4.8	SD120瓦溜	「大明年造」銘
	802	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	11.8	5.5	4.5	SD120下層・J2区道路跡第4面検出時・J5区道路第4面・J6区道路第5面・SX310	「富貴佳器」銘か?
	803	磁器	碗	中国(景德鎮窯)	10.8	5.35	3.9	SD120中層・SD120	底に銘あり
	804	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.6)	6.1	(4.6)	SD120・SK420	
	805	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		4.0	(5.2)	SD120中層	底に銘あり
125	806	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.6+ <i>a</i>	6.2	5.1	SD120下層	方形格子目文
	807	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.2)	5.4	4.3	SD120上層	「富貴佳器」銘か?
	808	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)			4.8	SD120瓦溜	「富貴佳器」銘
	809	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	11.8	5.9	4.5	SD120	方形格子目文
	810	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)		1.7	4.1	SD120	「富貴佳器」銘
	811	磁器 青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.4)	6.4	4.4	SD120中層	「富貴長命」銘

遺物一覽表 9
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
125	812	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)			(3.6)	SD120	饅頭心、「萬福攸同」銘	
	813	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮)		2.9	(3.4)	SD120中層		
	814	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)			(4.6)	SD120	太極図、「萬福攸同」銘	
126	815	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)		4.5	(5.4)	SD120	「福」銘	
	816	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(12.4)	4.7		SD120中層		
	817	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(11.9)			SD120		
	818	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(13.8)	(5.8)		SD120上層・SD120		
	819	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)				SD120下層		
	820	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	10.8			SD120下層		
	821	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(13.5)	4.7		SD120		
	822	磁器 青花 碗	中国 (漳州窯)	(14.0)	5.3		SD120上層・中層・SD120		
	823	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(10.0)			SD120		
	824	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(13.8)	4.6		SD120下層		
	825	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(14.4)	4.9		SD120中層・下層		
	826	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(12.0)	5.8		SD120		
	827	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	14.8	8.2	6.0	SD120	底に銘あり	166
	828	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮)		3.0	(3.2)	SD120中層		
	829	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)			(4.3)	SD120	「天下太平」銘	
830	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)			3.6	SD120中層瓦溜	「萬福攸同」銘		
831	磁器 青花 碗	中国 (景德鎮窯)	(11.6)	5.5	4.9	SD120中層			
127	832	磁器 青花 日輪鳳凰文皿	中国 (景德鎮窯)	19.2	3.8	10.8	SD120	「精製」銘	
	833	磁器 青花 日輪鳳凰文皿	中国 (景德鎮窯)	19.2	3.8	10.7	SD120	「精製」銘	
	834	磁器 青花 日輪鳳凰文皿	中国 (景德鎮窯)	(19.2)	(3.6)	(10.7)	SD120		
	835	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	14.6	3.1	4.6	SD120	方形枠内に「富貴佳器」銘	
	836	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(13.5)	(2.9)	(7.4)	SD120	底に銘あり	
	837	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	14.2	3.25	7.6	SD120		
128	838	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(19.6)	3.4	(11.8)	SD120		
	839	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(13.2)	2.9	7.4	SD120中層・SD120		
	840	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	14.8	3.0	9.0	SD120中層・瓦溜		
	841	磁器 青花 皿	中国 (漳州窯)	12.4	2.9	6.6	SD120中層・SD120	「富貴佳器」銘	
	842	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮)	11.08+ <i>a</i>	2.4	5.8+ <i>a</i>	SD120下層・SD120	「福」銘か?	
	843	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(10.2)	(2.3)	(5.9)	SD120	底に銘あり	
	844	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮)	10.6+ <i>a</i>	2.5	5.6+ <i>a</i>	SD120	「福」銘	
	845	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(13.2)	3.1	(7.6)	SD120		
	846	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(12.2)	2.8	(16.8)	SD120中層		
	847	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	12.4	2.6	7.0	SD120	「洪武年造」銘	
	848	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	11.8+ <i>a</i>	2.6	6.6+ <i>a</i>	SD120	「富貴佳器」銘	
849	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(13.9)	2.5	(7.4)	SD120下層・中層			
129	850	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮)	(9.8)	2.2	(5.4)	SD120下層	「正」銘	
	851	磁器 青花 皿	中国	(9.8)	2.2	(5.4)	SD120中層・下層	「福」銘	
	852	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮)	(9.8)	2.2	(5.4)	SD120下層	「福」銘	
	853	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(13.2)	2.6	7.2	SD120・道路跡第4面・SD437		
	854	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	12.1+ <i>a</i>	3.2	(7.5)	SD120	「精製」銘	
	855	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	12.5	2.4	7.5	SD120下層・中層		
	856	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	12.7+ <i>a</i>	2.9	7.8+ <i>a</i>	SD120上層・上層・中層	「福」銘か?	
	857	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(10.4)	2.4	(5.7)	SD120	「精製」銘	
	858	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	10.4	2.7	5.9	SD120		
	859	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	13.4	3.1	7.5	SD120中層		
	860	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮)	11.8+ <i>a</i>	2.9	7.0+ <i>a</i>	SD120	「富貴佳器」銘	
	861	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮)	(13.0)	2.3		SD120中層		
	862	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	12.1+ <i>a</i>	2.55+ <i>a</i>		S126瓦溜		
	863	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)		2.0	6.1	SD120	「大明年造」銘	
130	864	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	13.0	2.7	6.8	SD120		
	865	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	13.2	3.0	7.4	SD120瓦溜・SD120		
	866	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	14.5	2.7	8.3	SD120・SD437		
	867	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(13.5)	(3.0)	(7.6)	SD120		
	868	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(13.6)	2.9	(7.4)	SD120下層・瓦溜・道路跡第4面		
	869	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(16.4)	2.6	(9.2)	SD120下層		
	870	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(10.4)	2.3	5.4	SD120上層	「富貴佳器」銘	
	871	磁器 青花 大皿	中国 (景德鎮窯)		2.5	(12.3)	SD120	「富貴長命」銘か?	
131	872	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(29.8)	4.1		SD120下層		
	873	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)			10.2+ <i>a</i>	SD120上層		
	874	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	18.8	3.7	9.8	SD120		
	875	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)	(19.0)	3.1	(10.4)	SD120	底に銘あり	
	876	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)			9.9+ <i>a</i>	SD120上層	「富貴佳器」銘	
	877	磁器 青花 皿	中国 (景德鎮窯)			7.2	SD120	「萬福攸同」銘	

遺物一覧表10
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
131	878	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)		2.8	(11.8)	SD120		
	879	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			7.2	SD120中層	方形格子目文	
	880	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)		1.2	7.2	SD120	方形格子目文	
	881	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮)		1.6+ a	7.8+ a	SD120		
	882	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			(7.2)	SD120	「福」銘	
	883	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮)		1.1	(6.2)	SD120下層	「福」銘	
	884	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮)		1.9	(6.2)	SD120下層	「福」銘	
	885	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			(8.4)	SD120	「大明嘉靖年製」銘	
	886	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			(7.8)	SD120上層	方形格子目文	
	887	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮)		1.5	(7.8)	SD120中層	「萬福攸同」銘	
132	888	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			(6.0)	SD120	「福」銘	
	889	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)		1.5	(5.8)	SD120下層	「萬福攸同」銘	
	890	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)		7.1	3.8	2.5	SD120	見込みに「寿」、底裏に「福」銘
	891	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮)		(7.0)	3.7	(3.0)	SD120下層	見込みに「寿」、底裏に「福」銘
	892	磁器 青花	小坏	中国 (漳州窯)		5.9	3.3	2.7	SD120	底に銘あり
	893	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)		5.8	3.5	2.1	SD120下層	底に銘あり
	894	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮)		(5.8)	3.4	(2.6)	SD120	底に銘あり
	895	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)		5.8	3.4	2.4	SD120	「福」銘
	896	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)		6.7	3.5	2.6	SD120中層	「大明年造」銘
	897	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮)		(5.2)	3.1	(2.2)	SD120下層・中層	「福」銘
133	898	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)		6.0			SD120中層	中層
	899	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)		7.1			SD120中層	
	900	磁器 青花	小坏	中国 (漳州窯)		14.5			SD120下層・上層	
	901	磁器 青花	合子の蓋	中国 (景德鎮窯)		(10.4)			SD120上層	
	902	磁器 青花	瓶壺	中国 (景德鎮窯)				(8.6)	SD120中層・瓦溜	
	903	磁器 青花	水注	中国 (景德鎮窯)		10.0+ a			SD120上層	六角形?
	904	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮)			4.8		SD120中層	
	905	磁器 青花?	皿	中国 (景德鎮窯)		12.7+ a			SD120上層	釉着している
	906	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(13.0)	6.1	4.9	SD120上層	
	907	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		11.8	5.8	4.7	SD120瓦溜	
134	908	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(13.6)	5.8	4.7	SD120中層・瓦溜・上層・下層	
	909	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(12.3)	(5.7)	(3.7)	SD120	
	910	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		12.5	5.9	5.0	SD120上層・中層・SD120	
	911	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		12.8	4.9	4.7	SD120瓦溜・中層・道路第3面検出時	
	912	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		12.2+ a	5.2	4.6+ a	SD120中層・上層	
	913	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(13.4)	4.0		SD120	
135	914	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		14.0+ a	5.7	4.6+ a	SD120中層・上層・SD120	
	915	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		13.4+ a	4.9	4.2	SD120下層	
	916	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		12.9+ a	5.1	4.8	SD120下層	
	917	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		12.8+ a			SD120中層・上層	
	918	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)		(11.4)	3.9		SD120中層	
	919	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		13.8+ a	5.4	5.6	SD120上層・中層・下層	
	920	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(12.9)	5.0	5.2	SD120中層・SD120	
	921	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(17.0)	4.6		SD120下層	
	922	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(14.2)			SD120	
136	923	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		(12.4)	4.05	4.7	SD120	
	924	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		13.6	4.6	4.8	SD120中層・下層	
	925	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		13.4	5.0	5.4	SD120中層・下層・SD120	
	926	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		14.4	4.5	5.3	SD120	
	927	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		10.3	5.0	3.4	SD120	
	928	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)				4.6	SD120瓦溜	
	929	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯) ?		6.3			SD120下層	
	930	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		12.5			SD120瓦溜	釉着あり
	931	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		12.0			SD120下層	
	932	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)				4.9	SD120	
	933	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)				5.4	SD120	
137	934	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		2.2	4.6		SD120	
	935	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)				4.4	SD120中層	
	936	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		2.7	5.1+ a		SD120	
	937	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)				5.0	SD120瓦溜	
	938	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)				4.8	SD120中層・瓦溜	
	939	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		2.1	4.9		SD120	
	940	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		2.2	5.2		SD120中層・瓦溜	
	941	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)				5.2	SD120中層・瓦溜	

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
137	942	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		1.5	6.0	SD120		
	943	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		1.8	5.0	SD120		
138	944	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	13.8	3.3	6.5	SD120		
	945	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	9.8	2.6	6.0	SD120	完形	
	946	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	9.5	2.0	4.0	SD120上層・SD120		
	947	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	10.2+ α	2.7	5.0+ α	SD120下層・SD120		
	948	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	(10.3)	(2.7)	(5.4)	SD120		
	949	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	(15.6)	3.2	8.6	SD120下層・SD120		
	950	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	10.8	3.0	4.6	SD120瓦溜	完形	
	951	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	(13.2)	(2.8)	(7.3)	SD120		
	952	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	9.3	2.1	4.0	SD120下層		
	953	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	12.8			SD120下層		
139	954	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	12.6	3.4	6.3	SD120		
	955	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	9.7	2.5	3.8	SD120		
	956	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	10.4	2.2	4.2	SD120瓦溜・中層・下層		
	957	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)			3.5	SD120中層		
	958	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)	6.8	3.4	1.9	SD120		
	959	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)		3.1	(10.0)	SD120		
	960	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)		3.6	6.0	SD120		
	961	磁器 青花	皿	中国 (漳州窯)				SD120		
140	962	磁器 青花	香炉	中国 (漳州窯)	9.3	5.9	(5.8)	SD120中層・瓦溜・SD120		
	963	磁器 五彩	碗	中国	(11.2)			SD120	金襴手	166
	964	磁器 五彩	碗	中国	(12.0)			SD120中層	金襴手	
	965	磁器 五彩	碗	中国	(12.0)			SD120	金襴手	166
	966	磁器 五彩	小坏	中国			2.6	SD120中層	「福」銘	
	967	磁器 五彩	碗	中国				SD120中層		
	968	磁器 五彩	碗	中国				SD120		
	969	磁器 五彩	皿	中国				SD120	底に銘あり	
	970	磁器 五彩	皿	中国			(11.6)	SD120中層		
	971	磁器	褐彩碗	中国 (景德鎮窯)			4.1+ α	SD120		
	972	磁器	壺?	中国		(2.2)	(6.8)	SD120下層		
	973	陶器	皿	中国			(6.8)	SD120、道路4面	翡翠釉	
	974	陶器	菊花皿	中国	(5.8)	0.9	(3.4)	SD120中層	翡翠釉	
	975	陶器	菊花皿	中国	(5.8)	1.0	(3.6)	SD120	翡翠釉	
141	976	陶器	菊花皿	中国				SD120中層	翡翠釉	
	977	陶器	菊花皿	中国				SD120	翡翠釉	
	978	陶器	菊花皿	中国				SD120中層	翡翠釉	
	979	華南三彩	不明	中国				SD120		
	980	華南三彩	不明	中国				SD120瓦溜		
	981	陶器	碗	朝鮮王朝	(13.2)	5.5	(6.2)	SD120中層・瓦溜・SD120		
	982	陶器	碗	朝鮮王朝	(15.0)	5.6	(5.4)	SD120		
	983	陶器	碗	朝鮮王朝	15.0	4.9	5.5	SD120		
	984	陶器	碗	朝鮮王朝	(13.8)	4.8	(5.4)	SD120		
	985	陶器	碗	朝鮮王朝	(15.8)	(4.8)	(5.1)	SD120		
142	986	陶器	碗	朝鮮王朝	(13.6)	4.3	5.0	SD120上層・SD120		
	987	陶器	碗	朝鮮王朝	(13.8)	(4.6)	(4.8)	SD120		
	988	陶器	碗	朝鮮王朝		3.3	(5.2)	SD120		
	989	陶器	碗	朝鮮王朝		4.8		SD120		
	990	陶器	舟德利	朝鮮王朝	5.8			SD120		
	991	陶器	舟德利	朝鮮王朝			21.3+ α	SD120、SD003、道路跡第3面・4面		
	992	陶器	舟德利底部	朝鮮王朝				SD120中層		
	993	焼締陶器	四耳壺	タイ (メナムノイ窯)				SD120上層、SK093		
	994	焼締陶器	四耳壺	タイ (メナムノイ窯)				SD120上層、SK116		
	995	陶器	四耳壺	タイ (メナムノイ窯)				SD120上層		
143	996	陶器	四耳壺	タイ				SD120上層		
	997	陶器	四耳壺	タイ				SD120上層		
	998	陶器	四耳壺	タイ				SD120		
	999	陶器	四耳壺	タイ				SD120上層、SD071		
	1000	陶器	長胴壺	ベトナム	(12.0)	19.6		SD071上層、包含層、SK093、SD120上層・中層		
	1001	陶器	長胴壺	ベトナム	(13.2)	(11.0)		SD120上層・瓦溜		
143	1002	陶器	長胴壺	ベトナム	(12.4)	4.3		SD142、SD120中層		
	1003	陶器	長胴壺	ベトナム	12.3			SD120		
	1004	陶器	長胴壺	ベトナム	12.7+ α	12.3+ α		SD120上層		
	1005	陶器	長胴壺	ベトナム				SD120上層、SD073、SK116、包含層		
	1006	陶器	長胴壺	ベトナム				SD120中層、包含層		

遺物一覧表12
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
143	1007	陶器	長胴壺	ベトナム		14.0	(13.8)	SD120、SD071、道路3面、包含層	
144	1008	陶器	黒釉皿	中国南部		0.9	4.0	SD120上層	内底面に朱書きの「福」銘
	1009	褐釉陶器	德利	中国				SD120、道路2面・3面	
	1010	褐釉陶器	德利	中国				SD120上層	
	1011	陶器	四耳壺	中国		5.8		SD120上層	褐釉
	1012	褐釉陶器	四耳壺	中国	(10.0)			SD120上層	
	1013	黒釉陶器	四耳壺		(9.4)			SD120下層	
	1014	陶器	四耳壺	中国	(9.4)	11.6		SD120	
	1015	陶器	四耳壺	中国		6.0		SD120中層・下層	
145	1016	陶器	四耳壺	中国				SD120	
	1017	陶器	壺	中国				SD120上層	
	1018	焼締土器		中国?				SD120上層	
	1019	褐釉陶器	壺	中国				SD120上層	
	1020	陶器	壺	中国				SD142、SD120上層、道路跡第3面上面	
	1021	陶器	壺	中国		13.7		SD120下層・SD120	褐釉
	1022	褐釉陶器	壺	中国				SD120中層・下層、道路3面	
	1023	褐釉陶器	壺	中国				SD071上層	
146	1024	褐釉陶器	壺	中国				SD120上層	
	1025	褐釉陶器	壺	中国				SE070、SD033A、SD120	
	1026	褐釉陶器		中国				SD120上層	
	1027	褐釉陶器	壺	中国		(10.3)		SD120中層・下層、道路4面	
	1028	褐釉陶器	壺	中国		(10.6)		SD120	
	1029	陶器	壺	中国		8.1	(11.6)	SD120	褐釉
	1030	陶器	甕	中国?		15.2+ <i>a</i>	20.6	SE070、SD071、SD120下層、包含層	
	147	1031	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(12.4)	6.5	(4.2)	SD120
1032		陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.0)	5.7	(4.4)	SD120	
1033		陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.4)	5.0	(4.7)	SD120	
1034		陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.8)	5.5	(4.4)	SD120、道路跡第5面検出時	
1035		陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.6)	6.0	4.4	SD120上層	
1036		陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.2)	6.0	4.0	SD120上層	
1037		陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.4)	(6.5)	(4.3)	SD120、SX310	
1038		陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(12.0)	5.0		SD120	
1039		陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.6)	4.8		SD120中層	
1040		陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.0)	5.1		SD120中層	
148	1041	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.6)	5.95	(4.6)	SD120瓦溜・中層	
	1042	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.4)	6.6	4.0	SD120下層	
	1043	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(12.0)	6.0	(4.5)	SD120中層・瓦溜	
	1044	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.0)	5.9	4.2	SD120中層・下層	
	1045	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.8)	4.8		SD120瓦溜	
	1046	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(12.0)	5.3		SD120	
	1047	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.2)	5.6	4.3	SD120中層、SX310	
	1048	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	11.3	(6.3)	4.0	SD120中層・下層、SD120	
	1049	陶器	ミニチュア天目茶碗	瀬戸美濃	(7.0)	2.6		SD120瓦溜	
	1050	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃				SD120中層	
149	1051	陶器	碗	瀬戸美濃	10.9	6.1	3.9	SD120瓦溜	
	1052	陶器	碗	瀬戸美濃	11.0	5.2		SD120瓦溜・中層	
	1053	陶器	碗	瀬戸美濃			6.4	SD120	
	1054	陶器	皿	瀬戸美濃	(11.1)	2.2	5.6	SD033A、包含層、SD120上層	
	1055	陶器	花瓶	瀬戸美濃		6.1	3.1	SD120	
	1056	陶器	碗	唐津	12.4+ <i>a</i>	5.3	5.2+ <i>a</i>	SD120	
	1057	陶器	碗	唐津			5.2	SD120上層	
150	1058	陶器	掛花入	備前	(9.4)	15.0	(7.8)	SD120・SD120下層	
	1059	陶器	壺	備前	(8.0)	9.7		SD120	
	1060	陶器	無頸壺	備前	(6.6)	6.8	(5.2)	SD120	
	1061	陶器	鉢	備前	(15.8)	4.4	(10.6)	SD120下層	
	1062	陶器	小壺	備前	(7.4)			SD120上層	
	1063	陶器	舟德利	備前	(5.2)			SD120下層	
	1064	陶器	德利	備前		2.3+ <i>a</i>	10.0+ <i>a</i>	SD120瓦溜	
	1065	陶器	鉢	備前				SD120瓦溜	
	1066	陶器		備前				SD120瓦溜	
	1067	陶器	壺	備前				SD120瓦溜	
1068	陶器	壺	備前		7.4+ <i>a</i>		SD120上層・中層		

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
150	1069	陶器	壺	備前	(12.2)	22.2		SD120上層・SD142、SX310 北西	
	1070	陶器	短頸壺	備前	(16.8)			SD120中層・下層	
	1071	陶器	壺	備前				SD120中層	
151	1072	陶器	水屋甕	備前		15.7		SD120中層・上層・SD120	
	1073	陶器	甕	備前				SD120瓦溜・下層	
	1074	陶器	甕	備前				SD120中層	
	1075	陶器	大甕	備前				SD120上層	
	1076	陶器	甕	備前				SD120	文字あり
	1077	陶器	壺	備前				SD120、SD071	
	1078	陶器	甕	備前				SD120	
	1079	須恵質土器	播鉢	東播系				SD120下層	
	152	1080	陶器	播鉢	備前	31.2	14.7	12.0	SD120下層
1081		陶器	播鉢	備前	(28.2)	10.7	(11.2)	S71・SD120下層	
1082		陶器	播鉢	備前	31.6+ <i>a</i>	11.0	11.6+ <i>a</i>	SD120	
153	1083	陶器	播鉢	備前	29.0	13.4	14.0	SD120中層・下層・S195、 道路跡第4面、道路跡5面 検出時	
	1084	陶器	播鉢	備前	24.0	9.4	12.0	SD120中層	
	1085	陶器	播鉢	備前		10.1+ <i>a</i>	12.0+ <i>a</i>	SD120上層・下層・SD120	
154	1086	陶器	播鉢	備前	27.9	13.4	12.6	SD120	
	1087	陶器	播鉢	備前				SD120上層	
	1088	陶器	播鉢	備前				SD120中層	
	1089	陶器	播鉢	備前	(12.2)			SD120下層	
	1090	陶器	播鉢	備前	26.8+ <i>a</i>	13.5+ <i>a</i>	11.0+ <i>a</i>	SD120下層・中層・SD120、 SD160、SD033A、道路跡第4 面検出時	
155	1091	陶器	播鉢	備前	23.0	10.2	11.0	SD120	
	1092	須恵質土器	播鉢		21.5			SD120上層	
	1093	陶器	播鉢	備前	22.0	10.3	11.0	SD120上層	
	1094	陶器	播鉢	備前	(25.4)	12.0	14.1	SD120	
156	1095	陶器	播鉢	備前	(28.0)	10.0		SD120上層、道路跡第5面 検出時	
	1096	陶器	播鉢	備前				SD120中層	
	1097	陶器	播鉢	備前	27.0			SD120中層	
	1098	陶器	播鉢	備前				SD120上層	
	1099	陶器	播鉢	備前				SD120上層	
	1100	陶器	播鉢	備前	29.0+ <i>a</i>	9.4+ <i>a</i>		SD120	
	1101	陶器	播鉢	備前				SD120	
	1102	陶器	播鉢	備前	(31.3)			SD120下層	
	1103	陶器	播鉢	備前				SD120	
	1104	陶器	播鉢	備前				SD120	
157	1105	陶器	播鉢	備前				SD120瓦溜	
	1106	陶器	播鉢	備前				SD120下層、道路跡第5面 検出時	
	1107	陶器	播鉢	備前				SD120下層	
	1108	陶器	播鉢	備前				SD120下層	
	1109	陶器	播鉢	備前				SD120中層	
158	1110	瓦質土器	甕	在地	25.0+ <i>a</i>	10.3	17.7+ <i>a</i>	SD120上層・中層、道路跡 第3面	
	1111	瓦質土器	鉢	在地	(22.0)	3.9		SD120中層	
	1112	瓦質土器	鉢	在地	(20.0)	4.5		SD120	
	1113	瓦質土器	火鉢	在地	(30.0)	11.2+ <i>a</i>		SD120中層・SX310	
	1114	瓦質土器	火鉢	在地	33.3			SD120中層	
	1115	瓦質土器	火鉢					SD162	
	1116	瓦質土器	火鉢	在地				SD120上層	巴文スタンプ
	1117	瓦質土器	火鉢	在地				SD120瓦溜	
	1118	瓦質土器	火鉢	在地				SD120上層	
159	1119	瓦質土器	播鉢	在地	21.6	8.9	11.6	SD120下層	
	1120	瓦質土器	播鉢	在地	(22.4)	9.7	12.2	SD120	
	1121	土師質?	香炉	在地	12.9	5.1	9.6	SD120上層	
	1122	瓦質土器	香炉	在地	11.1	4.7	9.2	SD120	
	1123	瓦質土器	香炉	在地	(12.6)	3.8		SD120	
	1124	瓦質土器	香炉	在地	(11.0)	3.0		SD120上面、SD142	
	1125	瓦質土器	香炉	在地	14.0+ <i>a</i>	10.4		SD120	脚に獅子頭
	1126	瓦質土器	皿	在地				SD120上層	
160	1127	土師器	坏	在地	12.8	4.0	9.0	SD120下層	
	1128	土師器	坏	在地	13.0	3.9	9.0	SD120	

遺物一覧表14
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
160	1129	土師器	坏	在地	(11.6)	3.2	(9.8)	SD120下層、SD181		
	1130	土師器	坏	在地	11.3	3.0	6.2	SD120		
	1131	土師器	皿	在地	11.1	3.7	6.5	SD120	灯明皿として利用	
	1132	土師器	坏	在地	10.7	2.7	6.0	SD120		
	1133	土師器	坏	在地	10.8	2.3	7.0	SD120		
	1134	土師器	坏	在地	11.3	2.7	6.6	SD120		
	1135	土師器	皿	在地	8.8	2.4		SD120		
	1136	土師器	皿	在地	8.3	1.4	7.0	SD120		
	1137	土師器	皿	在地	8.6	1.6	6.8	SD120下層		
	1138	土師器	皿	在地	7.8	1.8	4.5	SD120		
	1139	土師器	皿	在地	7.7	2.0	4.8	SD120		
	1140	土師器	坏	在地	9.0	2.2	5.1	SD120		
	1141	土師器	皿	在地	6.8	2.2	5.4	SD120	灯明皿として利用	
	1142	土師器	皿	在地	6.6	5.3	2.3	SD120中層、SD181		
	1143	土師器	坏	在地	8.0	2.4	5.6	SD120		
	1144	土師器	皿	在地	9.0	2.1	4.6	SD120		
	1145	土師器	皿	在地	7.8	1.9	4.9	SD120		
	1146	土師器	皿	在地	8.6	2.0	5.0	SD120		
	1147	土師器	皿	在地	7.5	1.9	4.2	SD120下層		
	1148	土師器	坏	在地	8.8	2.3	5.2	SD120		
	1149	土師器	皿	在地	7.6	2.4	4.0	SD120		
	1150	土師器	皿	在地	7.3	2.1	4.4	SD120		
	1151	土師器	皿	在地	7.0	2.0	4.5	SD120		
1152	土師器	皿	在地	7.7	2.2	4.2	SD120			
1153	土師器	皿	在地	7.0	2.0	4.1	SD120			
161	1154	土師器	皿	在地	9.1	2.2	5.0	SD120		
	1155	土師器	坏	在地	8.8	2.1	4.6	SD120		
	1156	土師器	皿	在地	8.9	2.5		SD120		
	1157	土師器	坏	在地	8.6	2.3	4.9	SD120		
	1158	土師器	小皿	在地	7.8	2.0	4.7	SD120		
	1159	土師器	皿	在地	8.8	4.8	2.1	SD120		
	1160	土師器	皿	在地	8.8	2.3	4.8	SD120		
	1161	土師器	皿	在地	8.6	2.3		SD120		
	1162	土師器	皿	在地	8.6	2.2	5.2	SD120		
	1163	土師器	皿	在地	8.2	2.1	5.0	SD120		
	1164	土師器	皿	在地	8.6	2.2	3.9	SD120		
	1165	土師器	皿	在地	8.3	2.3	4.3	SD120		
	1166	土師器	皿	在地	8.1	2.2	4.3	SD120		
	1167	土師器	皿	在地	7.2	2.1	4.2	SD120		
	1168	土師器	坏	在地	7.6	2.3	4.7	SD120		
	1169	土師器	皿	在地	7.2	2.0	4.3	SD120		
	1170	土師器	坏	在地	8.7	4.6	4.6	SD120		
	1171	土師器	皿	在地	8.6	2.0	5.0	SD120		
	1172	土師器	皿	在地	7.3	1.9	5.0	SD120		
	1173	土師器	皿	在地	8.2	2.0	4.5	SD120		
	1174	土師器	皿	在地	8.6	2.0	4.2	SD120		
	1175	土師器	皿	在地	8.3	1.9	4.8	SD120	灯明皿として利用	
	1176	土師器	皿	在地	7.4	2.1	4.1	SD120		
1177	土師器	皿	在地	7.1	1.9	4.2	SD120下層			
162	1178	京都系土師器	皿	在地	16.6	3.3		SD120下層		
	1179	京都系土師器	皿	在地	(15.4)	2.4		SD120下層		
	1180	京都系土師器	皿	在地	14.4	2.6		SD120		
	1181	京都系土師器	皿	在地	14.1	2.5		SD120中層		
	1182	京都系土師器	皿	在地	13.2	1.9		SD120	灯明皿として利用	
	1183	京都系土師器	皿	在地	12.4- 12.9	2.1-2.5		SD120		
	1184	京都系土師器	皿	在地	12.3	2.2		SD120		
	1185	京都系土師器	皿	在地	12.5	2.3		SD120		
	1186	京都系土師器	皿	在地	12.7	2.5		SD120		
	1187	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.3		SD120		
	1188	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.1		SD120		
	1189	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.4		SD120		
	1190	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.2		SD120		
	1191	京都系土師器	皿	在地	12.1	2.5		SD120		
	1192	京都系土師器	皿	在地	12.1	2.6		SD120		
	1193	京都系土師器	皿	在地	11.9	2.4		SD120	灯明皿として利用	
	1194	京都系土師器	皿	在地	12.4	2.5		SD120		
	1195	京都系土師器	皿	在地	11.7	2.5		SD120		

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
162	1196	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.5		SD120	
	1197	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.2		SD120	
	1198	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.3		SD120	
	1199	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.5		SD120	
	1200	京都系土師器	皿	在地	11.9	2.5		SD120	
	1201	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.5		SD120	
	1202	京都系土師器	皿	在地	12.5	2.1		SD120	
	1203	京都系土師器	皿	在地	11.7	2.4		S226	
	1204	京都系土師器	皿	在地	12.4	2.4		SD120下層	
	1205	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.4		SD120下層	
	1206	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.2		SD120	灯明皿として利用
	1207	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.4		SD120上層	
	1208	京都系土師器	皿	在地	12.3	2.3-2.6		SD120	
	1209	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.3		SD120	
	1210	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.3		SD120	灯明皿として利用
	1211	京都系土師器	皿	在地	11.9	2.5		SD120	
	1212	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.4		SD120	
	1213	京都系土師器	皿	在地	12.4	2.5		SD120	灯明皿として利用
	1214	京都系土師器	皿	在地	11.5	2.3		SD120	灯明皿として利用
	1215	京都系土師器	皿	在地	12.4	2.7		SD120	
	1216	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.4		SD120	灯明皿として利用
1217	京都系土師器	皿	在地	11.9	2.5		SD120		
1218	京都系土師器	皿	在地	11.7	2.5		SD120	灯明皿として利用	
1219	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.3		SD120		
163	1220	京都系土師器	皿	在地	11.5	2.3		SD120	
	1221	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.4		SD120	灯明皿として利用
	1222	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.3		SD120	
	1223	京都系土師器	皿	在地	11.5	2.8		SD120	
	1224	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.2		SD120	
	1225	京都系土師器	皿	在地	12.5	2.4		SD120	
	1226	京都系土師器	皿	在地	12.1	2.4		SD120	
	1227	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.6-2.4		SD120	灯明皿として利用
	1228	京都系土師器	皿	在地	11.9	2.4		SD120	
	1229	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.3		SD120	灯明皿として利用
	1230	京都系土師器	皿	在地	10.8	2.1		SD120	
	1231	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.3		SD120	
	1232	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.5		SD120	
	1233	京都系土師器	皿	在地	12.4	2.4		SD120	
	1234	京都系土師器	皿	在地	11.3	2.4		SD120	灯明皿として利用
	1235	京都系土師器	皿	在地	11.8	2.4		SD120	
	1236	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.2		SD120	灯明皿として利用
	1237	京都系土師器	皿	在地	10.6	2.2		SD120	
	1238	京都系土師器	皿	在地	10.4	2.1		SD120	
	1239	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.4		SD120	
	1240	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1241	京都系土師器	皿	在地	11.6	2.3		SD120	
	1242	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.0		SD120	
	1243	京都系土師器	皿	在地	10.6	2.3		SD120	
	1244	京都系土師器	皿	在地	10.4	2.2		SD120	
	1245	京都系土師器	皿	在地	10.6	2.2		SD120	
	1246	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.2		SD120	
	1247	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.2		SD120	
	1248	京都系土師器	皿	在地	11.3	2.4		SD120	
	1249	京都系土師器	皿	在地	10.1	2.2		SD120下層	
	1250	京都系土師器	皿	在地	10.4	2.1		SD120	灯明皿として利用
	1251	京都系土師器	皿	在地	10.5	1.7		SD120	
	1252	京都系土師器	皿	在地	10.8	2.2		SD120	
	1253	京都系土師器	皿	在地	10.5	2.1		SD120	
	1254	京都系土師器	皿	在地	10.1	2.1		SD120	
	1255	京都系土師器	皿	在地	10.2	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1256	京都系土師器	皿	在地	10.1	2.1		SD120	
1257	京都系土師器	皿	在地	10.4	1.9		SD120		
1258	京都系土師器	皿	在地	10.4	2.1		SD120		
1259	京都系土師器	皿	在地	11.5	2.2		SD120		
1260	京都系土師器	皿	在地	10.3	2.1		SD120		
1261	京都系土師器	皿	在地	11.5	2.5		SD120		
164	1262	京都系土師器	皿	在地	10.2	1.8		SD120	
	1263	京都系土師器	皿	在地	10.4	2.2		SD120	灯明皿として利用

遺物一覧表16
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
164	1264	京都系土師器	皿	在地	12.5	2.4		SD120	灯明皿として利用	
	1265	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.2		SD120		
	1266	京都系土師器	皿	在地	12.3	2.7		SD120	灯明皿として利用	
	1267	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.0		SD120		
	1268	京都系土師器	皿	在地	11.5	2.3		SD120		
	1269	京都系土師器	皿	在地	12.6	2.7		SD120		
	1270	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.2		SD120		
	1271	京都系土師器	皿	在地	10.2	2.2		SD120	灯明皿として利用	
	1272	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.4		SD120		
	1273	京都系土師器	皿	在地	10.2	2.3		SD120	灯明皿として利用	
	1274	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.4		SD120		
	1275	京都系土師器	皿	在地	10.6	3.3		SD120		
	1276	京都系土師器	皿	在地	10.7	3.5	5.8	SD120		
	1277	京都系土師器	皿	在地	10.4	3.5		SD120		
	1278	京都系土師器	皿	在地	11.5	3.5		SD120	灯明皿として利用	
	1279	京都系土師器	皿	在地	11.4	3.3		SD120		
	1280	京都系土師器	皿	在地	10.8	3.2	5.5	SD120下層		
	1281	京都系土師器	皿	在地	11.4	3.3		SD120	灯明皿として利用	
	1282	京都系土師器	皿	不明	10.8	3.3		SD120		
	1283	京都系土師器	皿	在地	10.7	3.3	5.5	SD120瓦溜		
	1284	京都系土師器	皿	在地	10.8	3.2		SD120		
	1285	京都系土師器	皿	在地	11.6	3.6		SD120		
	1286	京都系土師器	皿	在地	11.2	3.0		SD120		
	1287	京都系土師器	皿	在地	10.2	3.3		SD120		
	1288	京都系土師器	皿	在地	10.5	3.2		SD120		
	1289	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.1		SD120		
	1290	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.0		SD120		
	1291	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.3		SD120		
	1292	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.2		SD120		
	1293	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120	灯明皿として利用	
	1294	京都系土師器	皿	在地	8.0	2.0		SD120		
	1295	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.1		SD120瓦溜		
	1296	京都系土師器	皿	在地	(9.0)	2.3		SD120	灯明皿として利用	
1297	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD120			
1298	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.7		SD120	灯明皿として利用		
1299	京都系土師器	皿	在地	(8.8)	2.0		SD120			
1300	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1301	京都系土師器	皿	在地	9.1	2.0	1.7	SD120			
1302	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120瓦溜	灯明皿として利用		
1303	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.2		SD120	灯明皿として利用		
1304	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1305	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.3		SD120	灯明皿として利用		
1306	京都系土師器	皿	在地	8.5	1.9		SD120			
1307	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.2	3.2	SD120			
1308	京都系土師器	皿	在地	9.2	2.2		SD120	灯明皿として利用		
1309	京都系土師器	皿	在地	8.2	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1310	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.1		SD120			
1311	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.0		SD120			
1312	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1313	京都系土師器	皿	在地	8.2	1.8		SD120			
1314	京都系土師器	皿	在地	7.8	2.0		SD120			
1315	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD120			
1316	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.2		SD120			
1317	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1318	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.0		SD120			
1319	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.9		SD120	灯明皿として利用		
1320	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120			
1321	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.05	2.8	SD120			
1322	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.7		SD120			
1323	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.1		SD120			
1324	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD120			
1325	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120			
1326	京都系土師器	皿	在地	9.2	2.0		SD120			
1327	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.2		SD120	灯明皿として利用		
1328	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.0	2.8	SD120			
1329	京都系土師器	皿	在地	8.0	1.9		SD120			
1330	京都系土師器	皿	在地	8.1	2.2		SD120			
1331	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.9		SD120			

遺物一覧表17
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
165	1332	京都系土師器	皿	在地	9.0	1.9		SD120	灯明皿として利用	
	1333	京都系土師器	皿	在地	9.1	1.9		SD120		
	1334	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120		
	1335	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.9		SD120	灯明皿として利用	
	1336	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.1		SD120		
	1337	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120	灯明皿として利用	
	1338	京都系土師器	皿	在地	8.2	2.0		SD120		
	1339	京都系土師器	皿	在地	8.2	1.9		SD120上層・中層	灯明皿として利用	
	1340	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD120	灯明皿として利用	
	1341	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.1		SD120	灯明皿として利用	
	1342	京都系土師器	皿	在地	8.5	1.8		SD120	灯明皿として利用	
	1343	京都系土師器	皿	在地	9.1	2.2		SD120		
	1344	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120		
	1345	京都系土師器	皿	在地	9.2	1.8		SD120	灯明皿として利用	
	1346	京都系土師器	皿	在地	8.9	1.8		SD120	灯明皿として利用	
	1347	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120		
	1348	京都系土師器	皿	在地	8.8	1.7		SD120	灯明皿として利用	
	1349	京都系土師器	皿	在地	9.0	1.7		SD120		
1350	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.1		SD120			
1351	京都系土師器	皿	在地	8.1	2.0		SD120			
1352	京都系土師器	皿	在地	7.9	1.9		SD120			
1353	京都系土師器	皿	在地	9.1	2.0		SD120			
1354	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1355	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.1		SD120	灯明皿として利用		
1356	京都系土師器	皿	在地	9.1	1.9		SD120			
1357	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.2		SD120			
1358	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.3		SD120	灯明皿として利用		
1359	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.3		SD120			
1360	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.2		SD120			
1361	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.3		SD120			
1362	京都系土師器	皿	在地	8.0-8.5	2.3		SD120			
1363	京都系土師器	皿	在地	8.2	2.2		SD120	灯明皿として利用		
1364	京都系土師器	皿	在地	8.2	1.3		SD120上層			
1365	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1366	京都系土師器	皿	在地	9.1	1.9		SD120中層	灯明皿として利用		
1367	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.2		SD120	灯明皿として利用		
1368	京都系土師器	皿	在地	8.3	2.0		SD120下層			
1369	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.8		SD120中層	灯明皿として利用		
1370	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120			
1371	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120			
1372	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1373	京都系土師器	皿	在地	9.4	2.0		SD120			
1374	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.1		SD120			
1375	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.7		SD120	灯明皿として利用		
1376	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1377	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.1		SD120	灯明皿として利用		
1378	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.8		SD120			
1379	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1380	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1381	京都系土師器	皿	在地	9.4	2.0		SD120			
1382	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.9		SD120	灯明皿として利用		
1383	京都系土師器	皿	在地	9.2	2.0		SD120			
1384	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.9		SD120	灯明皿として利用		
1385	京都系土師器	皿	在地	8.9	1.8		SD120			
1386	京都系土師器	皿	在地	8.1	2.1		SD120	灯明皿として利用		
1387	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1388	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.0		SD120	灯明皿として利用		
1389	京都系土師器	皿	在地	8.5	1.7		SD120			
1390	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.9		SD120			
1391	京都系土師器	皿	在地	8.7	1.9		SD120			
1392	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120			
1393	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120			
1394	京都系土師器	皿	在地	9.2	2.1		SD120	灯明皿として利用		
1395	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD120			
1396	京都系土師器	皿	在地	9.5	2.3		SD120	灯明皿として利用		
1397	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9		SD120			
1398	京都系土師器	皿	在地	8.7	1.9		SD120			
1399	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.0		SD120			

遺物一覧表18
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
166	1400	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.1		SD120瓦溜	
	1401	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1402	京都系土師器	皿	在地	9.2	2.0		SD120	
	1403	京都系土師器	皿	在地	8.2	2.1		SD120	
	1404	京都系土師器	皿	在地	8.2	2.1		SD120	
	1405	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.9		SD120	
	1406	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.1		SD120	灯明皿として利用
	1407	京都系土師器	皿	在地	8.2	1.7		SD120	
	1408	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.7		SD120	灯明皿として利用
	1409	京都系土師器	皿	在地	8.1	2.0		SD120	
1410	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120	灯明皿として利用	
1411	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120		
1412	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.8		SD120		
1413	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.9		SD120		
1414	京都系土師器	皿	在地	7.7	1.8		SD120		
1415	京都系土師器	皿	在地	8.7			SD120	灯明皿として利用	
1416	京都系土師器	皿	在地	8.5	1.8		SD120	灯明皿として利用	
1417	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.2		SD120		
1418	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.1		SD120		
1419	京都系土師器	皿	在地	9.0	1.9		SD120		
1420	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9		SD120		
1421	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD120		
1422	京都系土師器	皿	在地	8.9	1.9		SD120		
1423	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.3		SD120		
1424	京都系土師器	皿	在地	8.2	2.0		SD120		
1425	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.0		SD120		
1426	京都系土師器	皿	在地	8.2	2.0		SD120		
1427	京都系土師器	皿	在地	10.2	2.0	4.0	SD120		
1428	京都系土師器	皿	在地	8.0	1.6		SD120		
1429	京都系土師器	皿	在地	8.1	2.2		SD120		
1430	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.9		SD120		
1431	京都系土師器	皿	在地	9.0	2.0		SD120		
1432	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120	灯明皿として利用	
1433	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.2		SD120		
1434	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9	2.8	SD120		
1435	京都系土師器	皿	在地	8.3	1.6	3.3	SD120		
167	1436	京都系土師器	皿	在地	8.5	1.7	3.1	SD120	
	1437	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.85	4.1	SD120	灯明皿として利用
	1438	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.8	2.0	SD120	
	1439	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9	3.1	SD120	灯明皿として利用
	1440	京都系土師器	皿	在地	8.3	2.1	3.2	SD120	
	1441	京都系土師器	皿	在地	8.9	1.9	3.7	SD120	灯明皿として利用
	1442	京都系土師器	皿	在地	7.9	2.0	2.15	SD120	
	1443	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.1	3.2	SD120	
	1444	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.0		SD120	
	1445	京都系土師器	皿	在地	8.8	1.9		SD120	灯明皿として利用
	1446	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9		SD120	
	1447	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.1		SD120	灯明皿として利用
	1448	京都系土師器	皿	在地	9.2	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1449	京都系土師器	皿	在地	9.3	2.1		SD120	
	1450	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9		SD120	
	1451	京都系土師器	皿	在地	8.5	1.9		SD120	灯明皿として利用
	1452	京都系土師器	皿	在地	8.4	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1453	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.1		SD120	
	1454	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1455	京都系土師器	皿	在地	9.1	2.1		SD120	灯明皿として利用
	1456	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.1		SD120	
	1457	京都系土師器	皿	在地	9.1	2.1		SD120	
	1458	京都系土師器	皿	在地	8.2	1.9		SD120中層・上層	灯明皿として利用
	1459	京都系土師器	皿	在地	(9.4)	2.1		SD120	灯明皿として利用
	1460	京都系土師器	皿	在地	(8.6)	1.7		SD120	
	1461	京都系土師器	皿	在地	8.8	1.9		SD120	
	1462	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1463	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.0		SD120	
	1464	京都系土師器	皿	在地	8.4	1.8		SD120	
	1465	京都系土師器	皿	在地	8.8	1.5-2.0		SD120	
1466	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120		
1467	京都系土師器	皿	在地	8.9	2.0		SD120		

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
167	1468	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9		SD120	
	1469	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.9		SD120	灯明皿として利用
	1470	京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD120	
	1471	京都系土師器	皿	在地	8.7	2.0		SD120	
	1472	京都系土師器	皿	在地	9.1	2.0		SD120	
	1473	京都系土師器	皿	在地	8.5	2.0		SD120	灯明皿として利用
	1474	京都系土師器	皿	在地	8.3	2.0		SD120	
181	1543	製塩土器	不明	在地				SD120上層	
	1547	土師質土器	焼塩壺の蓋	在地	5.4	1.6	2.0	SD120下層	
	1548	土師質	焼塩壺の蓋	在地	6.0	2.1		SD120	灯明皿として利用?
	1549	土師質土器	焼塩壺	在地	3.8	8.1	5.2	SD120中層	
202	1784	弥生	甕	在地	(16.2)			SD120	
	1785	須恵器	坏身					SD120下層、道路跡第4面 検出時	
	1786	土師器	埴	在地			6.9	SD120上層	古代
205	1810	青磁	盤	中国 (龍泉窯)				SD142	
	1811	青磁	盤	中国 (龍泉窯)				SD142	
	1812	青磁	菊花皿?	中国 (景德鎮窯)				SD142	
	1813	白磁	皿	中国	10.9	2.3	6.2	SD142	
	1814	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)	12.2+ a	6.2	5.0+ a	SD142	
	1815	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)			5.2+ a	SD142	
	1816	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)			4.8	SD142	
	1817	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)			6.0	SD142	
	1818	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)	11.8			SD142	
	1819	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)	10.1+ a			SD142上層	
	1820	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)			4.2+ a	SD142	「大明嘉靖年製」銘銘
	1821	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)	(12.7)	5.05	(4.6)	SD142、道路跡第4面	
	1822	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)			5.8	SD142	
	1823	磁器 青花	大皿	中国 (景德鎮窯)			15.4	SD142	
	1824	磁器 青花	大皿	中国 (景德鎮窯)	19.3	2.9	11.4	SD142	
206	1825	磁器 青花	大皿	中国 (景德鎮窯)			15.8+ a	SD142	
	1826	磁器 青花	大皿	中国 (漳州窯)			12.6	SD142、SD167	
	1827	磁器 青花	大皿	中国 (漳州窯)			12.0	SD142	
	1828	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	10.2	2.4	6.0	SD142	
	1829	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	10.0+ a	2.6	6.1+ a	SD142	
	1830	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	14.0			SD142	
	1831	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			6.0	SD142	「大明年造」銘
	1832	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			6.4	SD142	
	1833	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)			8.4+ a	SD142	
	1834	磁器 青花	鏝皿	中国 (景德鎮窯)				SD142	
	1835	磁器 青花	鏝皿	中国 (漳州窯)				SD142	
	1836	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)			2.4	SD142	
	1837	磁器 青花	合子	中国 (景德鎮窯)	(8.0)	2.6		SX310、SD142	
	207	1838	陶器	碗	朝鮮王朝	(16.7)	(6.9)	(6.0)	SD142
1839		陶器	碗	朝鮮王朝	(13.5)	(6.9)	(5.7)	SD142	
1840		陶器	碗	朝鮮王朝	(13.8)	(6.0)	(5.8)	SD142	
1841		陶器	德利	朝鮮王朝			(12.8)	SD142	
1842		陶器	德利	朝鮮王朝	(6.1)			SD142	
1843		陶器	黒釉陶器	中国	(10.2)	6.4		SD142	
1844		陶器	壺	中国				SD142	
1845		陶器	不明	中国		3.9	(10.8)	SD142	
1846		陶器	壺	中国				SD142、SD120上層、道路跡 第3面上面	
1847		陶器	四耳壺	中国		10.0		SD142、SD120上層、SD120	
208	1848	陶器	長胴壺	ベトナム	(12.4)	4.3		SD142、SD120中層	
	1849	陶器	長胴壺	ベトナム				SD142	
	1850	陶器	長頸壺	備前	(6.0)	5.6		SD142	
	1851	陶器	壺	備前				SD142、道路跡第3面	
	1852	陶器	壺	備前	(9.0)	5.0		SD142、道路跡第3面検出 時	
	1853	陶器	壺	備前		4.8		SD142	
	1854	陶器	壺	備前		5.5		SD142	
	1855	陶器	壺または甕	備前		7.2		SD142上層・SD142、-道路 跡第2面・道路跡第3面検 出時	
	1856	陶器	壺または甕	備前		8.3	(8.6)	SD142	
	1857	陶器	水指	備前	(24.4)	19.9		SD142	

遺物一覧表20
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
208	1858	陶器	水指	備前	23.4	16.3	13.9	SD142上層、道路跡第2・3面	
	1859	陶器	水指	備前	(24.4)	9.9		SD142	
	1860	陶器	播鉢	備前				SD142	
	1861	陶器	甕	備前		7.2		SD142	
209	1862	陶器	甕	備前		(42.0)	12.4	SD142、SX310、道路跡第3面	
	1863	陶器	甕	備前				SD142	ヘラ記号あり
	1864	瓦質土器	火鉢	在地				SD142上層	
	1865	瓦質土器	鉢	在地	(31.4)		(23.1)	SD142	
	1866	瓦質土器	火鉢	在地	31.8	11.2	22.0	SD142、道路3面	
	1867	瓦質土器	火鉢	在地				SD142	
	1868	瓦質土器	香炉	在地	(11.0)	3.0		SD120上面、SD142・SD142上層	
	1869	瓦質土器	花瓶	在地	31.8	11.2	22.0	SD142、道路3面	
210	1870	京都系土師器	皿	在地	11.2	3.5		SD142	
	1871	京都系土師器	皿	在地	12.2	2.4		SD142	
	1872	京都系土師器	皿	在地	10.7	2.3		SD142	
	1873	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	2.0		SD142	
	1874	京都系土師器	皿	在地	(8.6)	2.1		SD142	灯明皿として利用
	1875	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.2		SD142	灯明皿として利用
	1876	京都系土師器	皿	在地	8.8	1.9		SD142	灯明皿として利用
	1877	京都系土師器	皿	在地	8.6	1.6		SD142	灯明皿として利用
	1878	京都系土師器	皿	在地	8.8	1.9		SD142	灯明皿として利用
213	1891	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	9.6	2.3	5.6	SD159	「福」銘
215	1892	磁器 青花	大皿	中国 (漳州窯)			12.6	SD142、SD167	
217	1893	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)	(15.1)			SD161	
	1894	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)				SD161	
	1895	磁器	碗	中国 (漳州窯)			4.0	SD161	
	1896	京都系土師器	小皿	在地	8.7	2.1	3.6	SD161	
	1901	青磁	香炉	中国			8.1	SD174、包含層	
219	1902	青磁	水注	中国 (龍泉窯)				SD033A、SE070南東、SD174	
	1903	陶器 翡翠釉		中国				SD174	
	1904	白磁	皿	中国			(12.0)	SD174	
	1905	陶器	播鉢	備前				SD174	
	1906	陶器	播鉢	備前				SD174	
	1907	陶器	鉢	備前				SD174	
	1908	陶器	鉢?	不明				SK207、SD174、SE070	
	1909	瓦質土器	碗	在地			(6.0)	SD174	
	1910	瓦質土器	碗	在地				SD174	
	1911	瓦質土器	火鉢	在地				SD174	
	1912	瓦質土器	火鉢	在地	31.4			SD174、包含層	
	1913	瓦質土器	深鉢	在地				SD174	
	1914	瓦質土器	火鉢	在地				SD174	
	1915	瓦質土器	火鉢	在地				SD174	
	1916	瓦質土器	甕	在地				SD174	
	220	1917	土師器	坏		12.6+ <i>a</i>	3.3	9.4+ <i>a</i>	SD174
1918		京都系土師器	皿	在地	9.9	2.0		SD174	灯明皿として利用
1919		京都系土師器	皿	在地	8.6	2.0		SD174	灯明皿として利用
1920		京都系土師器	皿	在地	8.3	2.3		SD174	灯明皿として利用
1921		京都系土師器	皿	在地	8.7	1.9-2.4		SD174	
1922		京都系土師器	皿	在地	8.2	2.1-2.3		SD174	
1923		京都系土師器	皿	在地	8.1+ <i>a</i>	2.4		SD174	灯明皿として利用
221	1927	白磁	皿	中国				SD185	
	1928	焼締陶器	鉢	中国南部	(23.0)			SD185	
	1929	白磁	皿	中国				SD185	
	1930	陶器	甕	中国		8.2	12.8	SD185、包含層、SK061	
	1931	陶器	播鉢	備前	29.3	8.8+ <i>a</i>		SD033A、SD185	
	1932	陶器	播鉢	備前				SD185	
	1933	陶器	甕	備前				SD185	
	1934	陶器	壺	備前	(12.0)	21.2		A60A、SD160、SD185、SD225、包含層、SE070、SD033A、SD071	
	1935	瓦質土器	鉢	在地				SD185、S171	
	1936	瓦質土器	鉢	在地				SD185	
	1937	瓦質土器	鉢	在地				SD185	
	1938	土師器	小皿	在地	7.3	2.5	3.9	SD185	灯明皿として利用?
1939	土師器	焼塩壺の蓋	在地	4.7+ <i>a</i>	1.9		SD185		

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
223	1942	白磁	壺	中国		(7.0)	S193			
	1943	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)	(12.3)		S193			
	1944	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)		(4.3)	S193			
	1945	陶器	播鉢	備前	24.4+ a	5.0+ a		S193		
225	1946	白磁	皿	中国	(12.3)	2.5	SD223			
	1947	磁器	合子	中国	(8.8)	1.8	SD223上層			
	1948	磁器 五彩	皿	中国			SD223			
	1949	磁器 五彩	碗小皿	中国			SD223			
	1950	磁器 青花	小坏	中国 (景德鎮窯)		0.8	2.6	SD223上層		
	1951	磁器	皿	中国 (漳州窯)		1.8	(6.8)	SD223上層		
	1952	磁器	碗	中国 (漳州窯)				SD223上層		
	1953	陶器	灯明皿	中国	(8.6)	1.7		SD223上層	蓋の転用	
	1954	陶器	播鉢	備前				SD223下層		
	1955	陶器	播鉢	備前		4.3	11.8+ a	SD223		
	1956	陶器	播鉢	備前				SD223		
	1957	陶器	大甕	備前?				SD223上層		
	1958	陶器	壺	備前?	47.6+ a			SD223上層		
	226	1959	瓦質土器	火鉢	在地	(31.0)	21.3		SD223	
1960		瓦質土器	火鉢	在地		3.0		SD223		
1961		瓦質土器	甕	在地		10.3		SD223		
1962		瓦質土器	鉢	在地	(34.0)	4.8		SD223		
1964		土師器	不明	在地		1.6	7.2	SD223		
1965		土師質土器	焼塩壺の蓋	在地	(5.4)	1.8		SD223上層		
1966		土師質土器	耳皿	在地		1.9		SD223上層		
228		1971	白磁	皿	中国		(6.3)	SD352		
	1972	白磁	碗	中国 (龍泉窯)			SD352			
	1973	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮)	(11.6)	3.9		SD352		
	1974	磁器 青花	皿	中国	(10.0)	2.6	(5.7)	SD352		
	1975	京都系土師器	皿	在地	8.4		1.9	SD352	灯明皿として利用	
	1976	陶器	四日壺	中国				SD382		
230	1977	京都系土師器	皿	在地	12.4	2.4		SD382		
	1978	京都系土師器	皿	在地	10.8	3.0		SD382		
	1980	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	10.4	2.5	5.8	SD120 下層、SD383		
231	1981	陶器 翡翠釉	菊花皿	中国				SD383		
	1982	青磁	皿	中国南方系	11.0	2.4	5.2	SD437		
233	1983	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	(13.2)	2.6	7.2	SD120、道路跡第4面、SD437		
	1984	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)	14.5	2.7	8.3	SD120、SD437		
	1985	焼締土器	鉢	タイ (メナムノイ窯)	(34.0)	12.7	18.0	SD437		
	1987	陶器	播鉢	備前	(27.8)	(14.2)	(12.7)	SK015、SD035		
237	1990	素焼き	製塩土器	在地		2.2		SK149		
238	1991	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SK207		
	1992	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)				SK207		
	1993	陶器	播鉢	備前				SK207		
	1994	須恵質土器	鉢	東播系				SK207		
	1995	陶器	鉢?	不明				SK207、SD174、SE070		
	1996	瓦質土器	甕	在地	(37.6)			SK207		
	1997	瓦質土器	鉢	在地	(25.4)			SK207		
	1998	土師器	坏	在地	11.0	2.7	6.6	SK207	轆轤目顕著	
242	2006	青磁		中国 (龍泉窯)				SK220		
244	2007	陶器	鉢	備前	(15.2)	4.5		SK320		
	2008	京都系土師器	皿	在地	8.8	2.1		SK320		
246	2009	京都系土師器	皿	在地	(9.0)	1.8		S321		
248	2010	土師器	皿	在地	(10.0)	2.7		S322		
250	2011	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	2.0		S347		
252	2012	瓦質土器		在地		4.0		S400	上下方向に孔貫通	
	2013	京都系土師器	皿	在地	12.4	2.8		S400		
	2014	京都系土師器	皿	在地	12.7	2.9		S400		
	2015	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)	(11.6)	6.1	(4.6)	SD120、SK420		
254	2016	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)				SK420		
	2017	陶器	鉢	備前	(15.2)	4.1		SK420		
	2018	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	2.5		SK420		
	2019	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SX206石組A暗梁内埋土		
259	2020	瓦質土器	火鉢	在地		4.4		SX206		
	2037	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	18.9+ a			SX208		
263	2041	青磁	輪花皿	中国 (景德鎮窯)	11.8+ a	3.2	6.5+ a	SX310		
	2042	青磁	輪花皿	中国 (景德鎮窯)			6.1+ a	SX310		
	2043	青磁	陵花皿	中国 (景德鎮窯)				SX310		

遺物一覧表22
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
263	2044	白磁	碗	中国			SX310		
	2045	白磁	皿	中国		1.0	(8.0)	SX310	
	2046	白磁	皿	中国		1.5	(7.2)	SX310	
	2047	磁器	花瓶?	不明	6.1+a			SX310	
	2048	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)		1.8	(3.8)	SX310	方形格子目文
	2049	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)		2.5	(4.8)	SX310	底に銘あり
	2050	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮)		1.8	(4.6)	SX310	底に銘あり
	2051	磁器		中国 (景德鎮窯)		2.4	(4.8)	SX310、道路跡第4面	「富貴佳器」銘
	2052	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)		2.2	5.2	SX310	底に銘あり
	2053	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		2.2	(4.8)	SX310	
	2054	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		1.9	(4.8)	SX310	
2055	磁器 青花	皿	中国 (龍泉窯)	(11.6)	1.4	(7.0)	SX310	「精製」銘	
264	2056	磁器 青花	大皿	中国 (漳州窯)		2.5	(15.8)	SX310	
	2057	磁器 青花	大皿	中国 (漳州窯)		5.0		SX310	
	2058	褐釉磁器						SX310	
	2059	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(11.2)	5.6	4.3	SD120中層、SX310	
	2060	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(7.4)			SX310	
	2061	陶器	播鉢	備前				SX310	
	2062	陶器	播鉢	備前				SX310	
	2063	陶器	壺	備前	(12.2)	22.2		SD120上層、D142、SX310北西	
265	2064	焼締陶器	甕			14.0	(21.0)	SX310	
	2065	瓦質土器	花瓶	在地				SD142、SX310南半	
	2066	瓦質土器		在地		4.3		SX310	
	2067	瓦質土器	甕	在地		10.0	(22.0)	SX310、SD120	
269	2088	不明	脚部?				SX310南側		
271	2091	青磁	碗	中国 (同安窯)				SD033B	
	2092	白磁?	碗	中国?		1.4	(5.2)	SD033B	
	2093	陶器	皿	中国	(9.1)	2.15	(4.6)	SD033B	胎土目跡
	2094	瓦質土器	坑	在地	(16.0)			SD033B	
	2095	瓦質土器	風炉	在地	(31.0)			SD033B	
	2096	瓦質土器	火鉢	在地				SD033B上層	
	2097	瓦質土器	風炉	在地				SD033B上層	
	2098	土師器	耳土器	在地		1.6	4.0	SD033B	
273	2102	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				S060	
	2103	瓦質土器	鍋	在地				S060上層	
	2104	瓦質土器	火鉢	在地				S060上層	
	2105	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SD033A、SD060A	
274	2106	磁器 青花		中国		3.1	6.2	SD060A	
	2107	磁器 青花		中国				SD060A	
	2108	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD060A	
	2109	青磁	香炉	中国	(10.6)			SD060A	
	2110	焼締陶器	鉢	中国南部		4.3		SD060A	
	2111	陶器	播鉢	中国				SD060A上面	
	2112	焼締陶器	鉢			4.0		SD060A	
	2113	陶器	播鉢	備前				SD033A、SD060A、包含層、道路跡第2面検出時	
	2114	陶器	播鉢	備前				SD060A	
	2115	陶器	甕	備前		9.5		SD060A	
	2116	陶器	壺	備前	(12.0)	21.2		SD060A、SD160、SD185、SD225、包含層、SE070、SD033A、SD071	
	2117	瓦質	香炉					SD060A、SD033A	
275	2118	瓦質土器	碗	在地	(11.0)			SD060A、SD162	
	2119	瓦質	火鉢					SK061、SD060A、SD060B	
	2120	瓦質	火鉢					SD060A	
	2121	瓦質	火鉢					SD060A下層	
	2122	瓦質土器	火鉢	在地				SD060A	
	2123	土師器	皿	在地	(6.9)	1.6	4.8	SD060A	灯明皿として利用
	2124	京都系土師器	皿	在地	(9.0)	2.5		SD060A	灯明皿として利用
	2125	土師器	鍋?	在地				SD060A下層	
278	2138	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.9+a	3.6	SD060B	
	2139	磁器	盤	中国 (龍泉窯)				SD060B	
	2140	磁器 青花	水注の一部?	中国 (景德鎮窯)	(1.3)	1.3	(1.8)	SD060B	
	2141	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)		1.6	2.8	SD060B	碁笥底
	2142	陶器	浅鉢	備前		5.2		SD060B	
	2143	陶器	播鉢	備前				SD060B	
	2144	瓦質土器	火鉢	在地				SD060B	

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
278	2145	瓦質土器	火鉢	在地			SD060B		
	2146	京都系土師器	皿	在地	8.2	1.6	SD060B		
	2147	京都系土師器	皿	在地	(8.6)	1.8	SD060B		
280	2149	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		4.0	5.4	SD156、包含層	
	2150	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SD156	
	2151	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		2.4	(6.0)	SD156	
	2152	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.6	6.6+a	SD156	
	2153	青磁	皿	中国 (龍泉窯)			6.4	SD156	
	2154	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.6	(6.6)	SD156	
	2155	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SD156	
	2156	青磁	鉢	中国 (龍泉窯)		2.7	(5.2)	SD156	
	2157	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD156	
	2158	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD156	
	2159	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD156	
	2160	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD156	
	2161	青磁	鉢	中国 (龍泉窯)		3.1	(8.2)	SD156	
	2162	青磁	器台	中国 (龍泉窯)				SD156	
	2163	白磁	皿	中国?			5.4	SD156	
	2164	白磁	小坏	中国			(3.6)	SD156	
	2165	青磁	象嵌長胴壺	朝鮮王朝				SD156、包含層	
	2166	陶器	壺	中国		9.3		SD156、SD071	
	2167	陶器	壺	中国		8.0		SD156	
	2168	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃				SD156、SD120中層	混入か
281	2169	陶器	搦鉢	備前				SD156	
	2170	陶器	搦鉢	備前				SD156	
	2171	陶器	搦鉢	備前	(29.2)	9.2		SD156	
	2172	陶器	搦鉢	備前				SD156	
	2173	須恵質土器	鉢					SD156	
	2174	陶器	搦鉢	備前				SD156	
	2175	陶器	搦鉢	備前				SD156	
	2176	陶器	搦鉢	備前	(29.9)	12.7	(14.0)	SD156、SD162	
	2177	陶器	搦鉢	備前		7.2+a	14.0	SD033A上層、SD156	
	2178	陶器	搦鉢	備前	(30.0)	10.5	(16.0)	S176、SD156	
282	2179	陶器	壺	備前				SD156	
	2180	陶器	甕	備前				SD156	
	2181	陶器	甕	常滑				SD156	
	2182	瓦質土器	坏	在地	(14.0)	3.0		SD156	
	2183	瓦質土器	碗	在地	(11.7)	6.8	5.4	SD156	
	2184	瓦質土器	香炉	在地	(10.8)	5.0	(9.4)	SD156	
	2185	瓦質土器	火鉢	在地				SD156	
	2186	瓦質土器	鉢	在地	8.0+a			SD156	
	2187	瓦質土器	香炉	在地				SD156	
	2188	瓦質土器	風炉	在地	(34.0)	6.1		SD156	
	2189	瓦質土器	風炉	在地	21.0	4.8		SD156	
	2190	瓦質土器	風炉	在地				SD156	
	2191	瓦質土器	火鉢	在地	(42.7)	(13.0)	(33.6)	SD156	
	2192	瓦質土器	火鉢	在地	(43.6)	(46.4)		SD156	
283	2193	瓦質土器	鉢	在地				SD156上層、包含層	
	2194	瓦質土器	火鉢	在地		2.4		SD156	
	2195	瓦質土器	火鉢	在地		5.7		SD156	
	2196	瓦質土器	風炉	在地				SD160、SD156	
	2197	瓦質土器	火鉢	在地		9.0		SD156	
	2198	瓦質土器	火鉢	在地		4.6		SD156	
	2199	瓦質土器	火鉢	在地		4.3		SD156	
	2200	瓦質土器	風炉	在地				SD156	
	2201	瓦質土器	火鉢	在地		4.3		SD156	
	2202	瓦質土器	鉢	在地				SD156	
	2203	瓦質土器	不明	在地		5.0		SD156	
	2204	瓦質土器	火鉢	在地		14.3	31.6	SE070、SK101、SD156、SD033A	
	2205	瓦質土器	火鉢	在地				SD156	
	2206	瓦質土器	火鉢	在地				SD156	
2207	瓦質土器	火鉢	在地		6.5		SD156		
284	2208	瓦質土器	火鉢	在地	(36.0)	29.9	(31.2)	SD156、包含層	
	2209	瓦質土器	火鉢	在地		10.1	(27.8)	SD156	
	2210	瓦質土器	火鉢	在地				SD156	
	2211	瓦質土器	火鉢	在地				SD156	
	2212	瓦質土器	火鉢	在地		6.1		SD156	

遺物一覽表24
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
284	2213	瓦質土器	甕	在地				SD156	
	2214	瓦質土器	鉢	在地				SD156	
285	2215	土師器	坏	在地	12.4	3.6	7.2	SD156	
	2216	土師器	坏	在地	(11.6)	3.6	8.1	SD156	
	2217	土師器	坏	在地	(11.2)	4.2	6.8	SD156	
	2218	土師器	坏	在地	12.2	3.6	6.1	SD156	
	2219	土師器	坏	在地	13.3	2.7	5.7	SD156	大内系
	2220	土師器	坏	在地	(11.4)	3.0	4.2	SD156	大内系
	2221	土師器	坏	在地	(14.0)	3.0	5.8	SD156	大内系
	2222	土師器	皿	在地	7.2	2.1	5.1	SD156	
	2223	土師器	皿	在地	7.2	1.8	4.4	SD156	
	2224	土師器	不明	在地	(7.0)	1.1		SD156	
288	2238	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	16.0			SD160	
	2239	青磁	皿	中国 (龍泉窯)			4.6	SD160	
	2240	青磁	皿	中国 (龍泉窯)			7.7	SD160	
	2241	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD160上層	
	2242	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD160上層	
	2243	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		2.9	7.0	SD033B、SK061、SD160	
	2244	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD160	
	2245	象嵌青磁	皿	朝鮮王朝				SD160	
	2246	白磁	碗	中国				SD160	
	2247	白磁	碗	中国				SD160	
	2248	陶器	四耳壺	中国		10.3		SD071、SD160、包含層、SD162	
	2249	陶器	壺	備前	(12.0)	21.2		A60A、SD160、SD185、SD225、包含層、SE070、SD033A、SD071	
	2250	陶器	壺	備前				SD160	
	2251	陶器	壺	備前				SD160上層	
	2252	陶器	壺	備前				SD160上層	
289	2253	陶器	甕	備前	(27.0)			SD160	
	2254	陶器	播鉢	備前				SD160	
	2255	陶器	播鉢	備前				SD160	
	2256	陶器	播鉢	備前	(32.0)	11.9	(16.0)	SD160	
	2257	陶器	播鉢	備前				SD160上層	
	2258	陶器	播鉢	備前				SD162、SD032	
	2259	須恵質土器	鉢					SD160上層	
	2260	須恵質土器	鉢					SD160上層	
	2261	陶器	おろし皿					SD160	
	2262	陶器	甕	常滑				SD160上層	
	2263	瓦質土器	風炉	在地	36.9+a	6.7+a		SD071上層、SK101、SD160上層	
	2264	瓦質土器	火鉢	在地	(54.0)	13.0	(39.0)	SD160上層、SD225	
	2265	瓦質土器	火鉢	在地		12.7	18.8	SD160上層	
	2266	瓦質土器	火鉢	在地		11.7		SD156、SD160	
290	2267	瓦質土器	火鉢	在地				SD160	
	2268	瓦質土器	火鉢	在地				SD160	
	2269	瓦質土器	火鉢?	在地				SD160	
	2270	瓦質土器	風炉	在地				SD160	
	2271	瓦質土器	風炉	在地				SD160、SD156	
	2272	瓦質土器	火鉢	在地				SD160上層	
	2273	瓦質土器	火鉢	在地				SD160	
	2274	瓦質土器	火鉢	在地				SD160	
	2275	瓦質土器	鉢	在地				SD160	
	2276	瓦質土器	甕	在地				SD160上層	
	2277	瓦質土器	鉢	在地				SD160	
	2278	瓦質土器	鍋	在地				SD160	
	2279	瓦質土器	鉢?	在地				SD160	
	2280	瓦質土器	鉢?	在地				SD160	
	291	2281	瓦質土器	鍋	在地				SD160
2282		京都系土師器	坏	在地	12.8	4.3	9.1	SD160	
2283		土師器	坏	在地	(12.8)	4.2	7.8	SD160	
2284		土師器	坏	在地	(12.5)	4.3	8.1	SD160	
2285		土師器	坏	在地	(11.4)	3.9	7.0	SD160	
2286		土師器	坏	在地	12.0	3.05	5.75	SD160	大内系
2287		土師器	坏	在地	14.8	3.7	6.1	SD160	大内系
2288		土師器	皿	在地	8.2	2.2	8.6	SD160	灯明皿として利用
2289		土師器	皿	在地	7.9	2.5	5.2	SD160	

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
291	2290	土師器	皿	在地	7.3	2.2	5.5	SD160	灯明皿として利用	
	2291	土師器	皿	在地	7.5	2.5	4.6	SD160		
	2292	土師器	皿	在地	7.0	2.2	4.9	SD160		
	2293	土師器	皿	在地	7.9	2.7	5.2	SD160	灯明皿として利用	
	2294	土師器	皿	在地	7.3	2.2	4.5	SD160	灯明皿として利用	
	2295	土師器	皿	在地	6.9	2.2	4.0	SD160	灯明皿として利用	
	2296	土師器	皿	在地	8.1	1.9	4.5	SD160	灯明皿として利用、内面轆 轆目残る。	
	2297	土師器	塊	在地		0.8	4.05	SD160		
	2298	土師質土器	土鍋	在地				SD120中層、SD160		
	2299	土師質土器	鍋	在地				SD160上層		
2300	土師質土器	鍋	在地				SD160上層			
292	2307	須恵器	高坏				SD160			
295	2316	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SD162		
	2317	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			4.6	SD162		
	2318	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			6.2	SD162		
	2319	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	13.0			SD162		
	2320	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SD162		
	2321	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)	12.0			SD162		
	2322	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)			12.7	SD162		
	2323	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)		3.5+ a		SE070、包含層、SD162上層		
	2324	青磁	香炉	中国 (龍泉窯)				SD162	112、268、269、559と同一 個体か	166
	2325	青磁	鳳凰耳瓶	中国 (龍泉窯)				SD162		
2326	五彩	碗	中国				SD162			
2327	陶器	皿	唐津	10.6+ a	3.4	5.0+ a	SD031、SD162、包含層			
2328	陶器	碗	瀬戸美濃	(9.7)	1.85	(5.5)	SD162、包含層、SD033A			
2329	陶器	播鉢	備前	(29.9)	12.7	(14.0)	SD156、SD162			
2330	陶器	播鉢	備前				SD162			
2331	陶器	鉢	備前				SD162			
2332	陶器	甕	備前	31.2			SD162			
2333	瓦質土器	碗	在地	(11.0)			SD060A、SD162			
2334	瓦質土器	碗	在地	(10.8)	5.5	(5.2)	SD162			
2335	瓦質	香炉	在地	11.7	5.2+ a	10.5	SD162			
2336	瓦質	香炉?	在地				SD162			
2337	瓦質	香炉?	在地	9.8+ a	5.4+ a		SD162			
2338	瓦質	火鉢	在地				SD162			
2339	瓦質	火鉢	在地				SD162			
2340	瓦質土器	火鉢	在地	50.4+ a	11.0+ a	37.5+ a	SD162、SE070、包含層			
2341	土師器	坏	在地		2.1	5.5	SD162	轆轆目顕著、大内系		
2342	土師器	小皿	在地	7.3	1.9	4.4	SD162	灯明皿として利用		
2343	土師器	小皿	在地	7.1	1.85	4.5	SD162			
2344	土師器	小皿	在地	5.75	2.3	4.2	SD162			
298	2354	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SD173		
	2355	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SD173		
	2356	陶器	播鉢	備前				SD173		
	2357	陶器	播鉢	備前				SD173		
	2358	陶器	播鉢	備前			(11.6)	SD173		
	2359	陶器	播鉢	備前				SD156、SD173		
	2360	陶器	甕	常滑				SD173		
	2361	瓦質土器	火鉢	在地				SD173		
	2362	瓦質土器	鉢	在地				SD173		
	2363	瓦質土器	風炉	在地				SD173		
2364	瓦質土器	鉢	在地				SD173			
2365	瓦質土器	播鉢	在地				SD173			
299	2366	土師器	坏	在地	11.2	2.9	8.7	SD173		
	2367	土師器	坏	在地	(10.9)	2.9	8.2	SD173		
	2368	土師器	坏	在地	(11.0)	2.8	(8.3)	SD173		
	2369	土師器	坏	在地	12.3	3.2	8.1	SD173		
	2370	土師器	小皿	在地	7.8	2.4	5.5	SD173		
	2372	須恵器	坏蓋	在地	(10.0)			SD173		
301	2375	陶器		瀬戸美濃		3.7		SD181		
	2376	瓦質土器	鉢	在地				SD181		
	2377	瓦質土器	鉢	在地				SD181		
	2378	土師器	坏	在地	(12.8)	4.1	(2.8)	SD181		
	2379	土師器	坏	在地	(12.6)	4.8	9.7	SD181		
	2380	土師器	坏	在地	(12.8)	4.9	(9.2)	SD181		
2381	土師器	坏	在地	(14.0)	4.2	(10.0)	SD181			

遺物一覧表26
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
301	2382	土師器	坏	在地	(12.8)	4.3	10.2	SD181	
	2383	土師器	坏	在地	(12.4)	4.6	(8.9)	SD181	
	2384	土師器	坏	在地	(11.9)	4.2	(8.6)	SD181	
	2385	土師器	坏	在地	(12.4)	4.1	(8.0)	SD181	
	2386	土師器	坏	在地	(13.2)	3.7	(8.6)	SD181	
	2387	土師器	小皿	在地	(8.6)	1.5	(6.6)	SD181	
	2388	土師器	小皿	在地	(8.0)	1.5	(6.8)	SD181	
	2389	土師器	小皿	在地	(8.4)	1.4	(6.8)	SD181	
	2390	土師器	小皿	在地	(8.2)	2.1	(7.0)	SD181	
302	2391	土師器	小皿	在地	(6.8)	1.9	(5.4)	SD181	
	2392	土師器	小皿	在地	(8.2)	1.6	(7.4)	SD181	
	2393	土師器	小皿	在地	(8.0)	1.7	(6.5)	SD181	
304	2396	陶器		古瀬戸	6.4+ a	4.9+ a		SD211	
	2397	須恵質土器	鉢	東播系				SD211	
	2398	瓦質土器	不明	在地		2.3		SD211	
	2399	瓦質土器	播鉢	在地		7.0	10.8	SD211	
	2400	土師器	皿	在地	7.3	2.1	5.5	SD211	灯明皿として利用
306	2402	土師器	皿	在地	12.7	2.4	6.8	SD224	
	2403	京都系土師器	皿	在地	13.3	2.3		SD224	灯明皿として利用
	2404	京都系土師器	皿	在地	10.8	2.4		SD224	灯明皿として利用
308	2405	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			3.7	SD225	
	2406	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SD225	
	2407	陶器	天目茶碗	中国?	(13.0)			SD225	
	2408	磁器	瓶の頸部	中国				SD225、包含層	
	2409	磁器 青花	碗	中国 (漳州窯)		2.5	5.0	SD225	
	2410	陶器	皿	唐津	8.6+ a	2.6	4.1+ a	SD225	
	2411	陶器	播鉢	備前				SD225	
	2412	陶器	播鉢	備前				SD225	
	2413	須恵質土器	鉢					SD156 SD225	
	2414	瓦質土器	火鉢	在地	(54.0)	13.0	(39.0)	SD160上層、SD225	
	2415	瓦質土器	火鉢	在地		14.0		SK356、SK061、SD225	
	2416	瓦質土器	火鉢	在地		8.5		SD225	
	309	2417	土師器	碗	吉備系?		1.2	4.2	SD225
2419		弥生土器	甕	在地		3.1	(7.6)	SD225	
311	2420	陶器	播鉢	備前				SD439	
313	2421	青磁	碗	中国 (龍泉窯)	(13.4)	4.1		SK061北	
	2422	磁器	碗	中国 (龍泉窯)	(13.4)	3.2		SD033A、SK061A、SD174	
	2423	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SK061	
	2424	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SK061	
	2425	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SK061	
	2426	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SK061北	
	2427	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		1.9	5.5	SK061	
	2428	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		1.5	5.3	SK061	
	2429	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.4	5.0	SK061	
	2430	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		2.6	(4.7)	SK061	
	2431	青磁	大皿または盤	中国 (龍泉窯)				SK061	
	2432	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SK061	
	2433	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SK061	
	2434	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		2.9	7.0	SD033B、SK061、SD160	
	2435	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		2.6	(7.4)	SK061	
	2436	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SK061	
	2437	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	(14.0)	3.0		SK061	
	2438	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	(13.0)	2.0		SK061北東	
	2439	青磁	器台	中国 (龍泉窯)	(8.8)	1.7		SK061北東	
	2440	青磁		中国 (龍泉窯)				SK061	
	2441	青磁		中国 (龍泉窯)				SK061	
314	2442	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)		1.1	(7.4)	SK061F	
	2443	白磁	碗	中国			(6.2)	SK061	
	2444	陶器	碗		(5.1)			SK061	
	2445	陶器	天目茶碗	中国?			(3.7)	SK061	
	2446	陶器	天目茶碗	中国?				SK061	
	2447	陶器	壺	瀬戸美濃				SD071、SK061	
	2448	陶器		瀬戸?		10.9	(15.5)	SD174、SK061、包含層、 SK250	
	2449	陶器	皿	瀬戸美濃				SK061	
	2450	陶器	壺	備前	(10.0)	5.4		SK061	
	2451	陶器	瓶	備前	(3.6)	2.0		SK061	

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
314	2452	陶器	甕	備前				SK061		
	2453	陶器	大甕	備前				SK061		
	2454	須恵質	播鉢					SK061		
	2455	陶器	播鉢	備前?				SK061		
	2456	陶器	播鉢	備前				SK061		
315	2457	陶器	播鉢	備前	28.8	13.8	12.3	SK061、SE070、SD071		
	2458	陶器	播鉢	備前	27.5+ a	6.8+ a		SK061、SK061		
	2459	陶器	播鉢	備前	29.5+ a	12.4	11.6	SK061		
	2460	陶器	播鉢	備前	28.1			SK061		
316	2461	陶器	播鉢	備前	30.9+ a	9.1+ a		SK061		
	2462	陶器	播鉢	備前	29.3			SK061		
	2463	陶器	播鉢	備前	27.5+ a	6.8+ a		SK061		
	2464	陶器	播鉢	備前	27.7			SK061		
	2465	陶器	播鉢	備前	28.4+ a	5.3+ a		SK061		
	2466	陶器	播鉢	備前	29.6			SK061		
317	2467	陶器	甕	常滑		10.2		SK061		
	2468	陶器	甕	中国		8.2	12.8	SD185、包含層、SK061		
	2469	瓦質土器	火鉢	在地	(38.0)	13.2		SD033A、SK061、SE070		
	2470	瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
	2471	瓦質土器	火鉢	在地				SK061上層		
	2472	瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
	2473	瓦質土器	火鉢	在地	(18.9)			SK061		
	2474	瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
	2475	瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
	2476	瓦質土器	風炉	在地				SK061		
	2477	瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
	2478	瓦質土器	風炉	在地				SK061		
	318	2479	瓦質土器	風炉	在地				SK061	
2480		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2481		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2482		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2483		瓦質土器	不明	在地				SK061		
2484		瓦質土器	風炉	在地				SK061		
2485		瓦質土器	火鉢?	在地				SK061		
2486		瓦質土器	不明	在地				SK061		
2487		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2488		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2489		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2490		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2491		瓦質土器	火鉢	在地		14.0		SK356、SK061、SD225		
2492		瓦質土器	香炉?	在地		4.3		SK061		
2493		瓦質土器	火鉢	在地				SK061		
2494	瓦質土器	火鉢	在地				SK061			
2495	瓦質土器	火鉢	在地				SK061D			
319	2496	瓦質土器	甕	在地	36.0+ a			SE070、SD071、SK061、SD174、包含層、道路2面		
	2497	瓦質土器	香炉?	在地	9.8+ a	6.2+ a		SK061		
	2498	瓦質土器	播鉢	在地				SK061		
	2499	瓦質土器	鉢	在地				SK061		
	2500	瓦質土器	鉢	在地				SK061		
	2501	瓦質土器	鉢	在地				SK061		
	2502	瓦質土器	鉢	在地				SK061下面		
	2503	瓦質土器	花瓶?	在地		3.2	(11.0)	SK061		
	2504	瓦質土器	鍋の脚部?	在地	(8.0)	(3.5)	(2.7)	SK061		
	2505	土師器	坏	在地	(12.0)	3.9	9.0	SK061		
	2506	土師器	坏	在地	11.6	3.6	5.6	SK061		
	2507	土師器	坏	在地	11.7	2.8	6.9	SK061		
	2508	土師器	坏	在地	11.6	2.7	6.0	SK061		
	2509	土師器	坏	在地	11.2	3.4	5.7	SK061		
	2510	土師器	坏	在地	12.1	2.4	5.6	SK061		
	320	2511	土師器	坏	在地	(15.4)	3.7	5.0	SK061	大内系?
		2512	土師器	坏	在地	10.8	3.0	5.7	SK061	轆轤目顕著
		2513	土師器	坏	在地	9.0	2.4	5.1	SK061	轆轤目顕著
2514		土師器	皿	在地	8.3	1.9	5.5	SK061		
2515		土師器	坏	在地	7.3	1.5	4.6	SK061	轆轤目顕著	
2516		土師器	坏	在地	9.8	2.4	5.0	SK061		
2517		土師器	皿	在地	7.6	2.3	4.4	SK061	灯明皿として利用	
2518		土師器	皿	在地	8.0	2.2	4.2	SK061	灯明皿として利用	

遺物一覧表28
(第88次調査)

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
320	2519	土師器	皿	在地	7.7	2.2	8.0	SK061	灯明皿として利用	
	2520	土師器	皿	在地	8.3	2.2	4.2	SK061	灯明皿として利用	
	2521	土師器	皿	在地	(8.4)	1.5	(6.4)	SK061		
	2522	土師器	皿	在地	8.5	1.5	7.0	SK061		
	2523	土師器	ミニチュア坏		4.8	1.8	2.5	SK061		
	2524	土師器	ミニチュア皿	在地	3.7	0.9	3.0	SK061	轆轤目顕著	
	2524	土師器	台付耳皿	在地		2.4	3.1	SK061		
	2525	土師器	耳皿	在地	5.6		3.4	SK061		
	2526	土師器	耳皿	在地	5.5		4.6	SK061		
	2529	土師質土器	鍋	在地				SK061		
349	2622	青磁	碗	中国 (龍泉窯)		5.0+ a		SK101		
	2623	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SK101		
	2624	青磁	皿	中国 (龍泉窯)		3.6+ a		SK101		
	2625	白磁	碗	中国				SK101		
	2626	磁器 青花	碗	中国 (景德鎮窯)		1.9	4.0	SK101		
	2627	陶器	碗	朝鮮王朝		2.7	5.7	SD032、SK101		
	2628	陶器	梅瓶	瀬戸美濃			12.8	SE070下層、SK101		
	2629	陶器	播鉢	備前	(29.6)	9.7		SK101		
	2630	陶器	播鉢	備前				SK101		
	2631	陶器	播鉢	備前				SK101 I層、包含層		
350	2632	瓦質土器	火鉢	在地		14.3	31.6	SE070、SK101、SD156、SD033A		
	2633	瓦質土器	火鉢	在地		5.9		SK101		
	2634	瓦質土器	風炉 火鉢	在地				SK101		
	2635	瓦質土器	壺?	在地				SK101北西		
	2636	瓦質土器	火鉢	在地		4.4		SK101		
	2637	瓦質土器	火鉢	在地		6.6		SK101		
	2638	瓦質土器	香炉	在地		2.0		SK101		
	2639	土師器	坏	在地	13.8	3.8	10.9	SK101		
	2640	土師器	坏	在地	11.9	3.4	6.0	SK101		
	2641	土師器	小皿	在地	6.1	2.35	4.7	SK101		
355	2652	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				S148		
	2653	瓦質土器	火鉢	在地		9.9		S148		
	2654	瓦質土器	鉢	在地		13.1		S148		
	2655	土師器	坏	在地	(14.4)	3.5	(10.4)	S148		
	2656	土師器	坏	在地	(10.4)	3.4	7.0	S148		
	2657	土師器	皿	在地	8.0	2.5	6.0	S148	灯明皿として利用	
	2659	陶器	播鉢	備前	(28.6)	(10.5)	(13.4)	S176		
357	2660	瓦質土器	火鉢	在地				S176		
	2661	土師器	坏	在地	11.3+ a	3.7	5.8	S176	轆轤目顕著	
	2669	青磁	皿	中国 (龍泉窯)				SK186		
360	2670	青磁	香炉	中国	5.5+ a			SK186		
	2671	青磁	碗	中国			6.0	SK186		
	2672	陶器	播鉢	備前	25.7+ a	7.0+ a		SK186上層、SE070		
	2673	須恵質土器	播鉢					SK186		
	2674	瓦質土器	火鉢	在地				SK186		
	2675	瓦質土器	鉢	在地	(23.1)			SK186上層		
	2676	瓦質土器	香炉	在地	(8.4)	5.6	(7.1)	SK186		
	2677	土師器	小坏	在地	7.2+ a	3.0	5.0	SK186		
	2678	土師器	小坏	在地	7.9+ a	2.4	5.9	SK186		
	361	2680	青磁	鉢?	中国 (龍泉窯)				SK192	
363	2681	磁器	碗	中国 (龍泉窯)		2.4	5.3	SK194		
	2682	土師器	坏	在地			7.5	SK194		
365	2683	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	(12.1)	(7.0)	(4.3)	SK197上層		
	2684	陶器	播鉢	備前				SK197上層		
	2685	瓦質土器	鉢	在地				SK197		
	2686	瓦質土器	壺	在地				SK197		
	2687	瓦質土器	火鉢	在地				SK197		
367	2688	土師器	皿	在地	7.5	2.2	6.2	SK222	灯明皿として利用	
368	2689	土師器	皿	在地	(11.6)	2.8	(7.8)	SK230		
	2690	土師器	皿	在地	(6.8)	2.5	(5.0)	SK230		
369	2692	白磁	皿	中国	(12.2)	1.9		SK235		
371	2693	青磁	皿	中国 (龍泉窯)	17.7+ a			SK236		
	2694	土師器	皿	在地	(8.3)	3.0	5.2	SK236	灯明皿として利用	
	2695	土師器	皿	在地	7.0	2.2	5.5	SK236	灯明皿として利用	
	2696	土師器	皿	在地	8.6	1.6	6.8	SK236		
373	2698	青磁	碗	中国 (龍泉窯)				SK239		
	2699	白磁	碗	中国				SK239		

土器・陶磁器類

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生 産 地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	器高	底径			
375	2700	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			SK250		
	2701	青磁	皿	中国 (龍泉窯)			SK250		
	2702	陶器		瀬戸?		10.9	(15.5)	SD174、SK061、包含層、SK250	
377	2704	青磁	碗	中国 (龍泉窯)			5.8+a	SK260	
	2705	陶器	播鉢	備前				SK260	
	2706	土師器	坏	在地	8.0	2.7	4.7	SK260	
	2707	土師器	坏	在地	(7.9)	(3.1)	(5.4)	SK260	
	2709	白磁	鉢	中国				SK300	
379	2710	白磁	碗	中国				SK300	
	2711	陶器	播鉢	備前				SK300	
	2712	瓦質土器	香炉	在地	(11.0)	7.5		SK300	
	2713	瓦質土器	鍋	在地		4.0		SK300	
	2714	土師器	坏	在地	14.0	4.2	9.4	SK300	
	2715	土師器	坏	在地	13.8	4.1	8.5	SK300	
	2716	土師器	坏	在地	14.5	3.9	9.5	SK300	
	2717	土師器	坏	在地	13.7	4.0	9.5	SK300	
	2718	土師器	小皿	在地	7.5	1.6	5.5	SK300	
	2719	土師器	小皿	在地	7.8	1.5	7.0	SK300	
	381	2720	土師器	皿	在地	(12.2)	3.8	(6.4)	SK304
385	2723	土師器	杯	在地	(13.0)	3.9	(10.6)	SK336	
387	2724	土師器	皿	在地	10.8	2.3	6.4	SK345	
	2725	京都系土師器	皿	在地	8.8		1.8	SK345	灯明皿として利用
	2726	土師質土器	坏?	在地		2.5		SK345	
388	2727	磁器 青花	皿	中国 (景德鎮窯)				SK346	
	2728	京都系土師器	皿	在地	12.6	2.2		SK346	
390	2730	土師器	皿	在地	(12.8)	3.4	8.8	S355	
392	2731	瓦質土器	火鉢	在地		14.0		SK356、SK061、SD225	
	2732	土師器	坏	在地				SK356	轆轤目顕著
	2733	土師器	皿	在地		1.2	5.2	SK356	
394	2734	京都系土師器	皿	在地	12.0	2.3		SK360	
	2735	京都系土師器	皿	在地	12.6	2.2		SK360	
396	2736	土師器	坏	在地	12.0	3.0	8.9	SK435	
398	2737	白磁	皿	中国				SK441	
	2738	土師器	皿	在地	(7.8)	2.6	(6.2)	SK441	
	2739	土師器	皿	在地	(7.6)	2.5	(6.2)	SK441	灯明皿として利用
	2740	瓦質土器	鉢	在地		6.4		SK442上層	
400	2741	瓦質土器	播鉢	在地	(34.2)	4.7		SK442	
	2742	瓦質土器	播鉢	在地	(29.4)			SK442上層	
	2743	土師器	坏	在地	(14.0)	3.1	(11.0)	SK442	
	2744	土師器	坏	在地	(11.7)	(3.3)	(9.4)	SK442	
	2745	土師器	坏	在地	(11.6)	(7.8)	(3.9)	SK442	
	2746	土師器	坏	在地	(11.7)	3.5	7.5	SK442	
	2747	土師器	坏	在地	(12.4)	3.7	(8.2)	SK442	
	2748	土師器	皿	在地	7.7	2.3	6.1	SK442	灯明皿として利用
	2749	土師器	小皿	在地	(6.6)	1.9	(5.0)	SK442	
	402	2750	青白磁	蓋	中国		2.8	5.5+a	SE240井筒内埋土
2751		須恵質土器	鉢	東播系				SE240	
2752		須恵質土器	鉢			6.0	9.0	SE240井筒内	
407	2754	青磁	水注	中国 (龍泉窯)		10.0	(8.5)	SD033A、SE070下層、SP090 北東	
	2755	白磁	碗	中国				SP108	
	2756	瓦質土器	碗	在地		2.0		SP325	
	2757	土師質土器	皿	在地		1.1+a	3.95+a	SP293	
	2758	陶器	壺	備前				SP141	
	2759	陶器	甕	常滑				SP091	
	2760	瓦質土器	火鉢	在地		8.8		SP191	
	2761	瓦質土器	風炉 火鉢	在地				SP017、SK101	
	2762	瓦質土器	火鉢	在地		9.7		SP252	
	2763	土師器	坏	在地	(13.6)		(9.6)	SP373	
	2764	土師器	坏	在地	(11.8)	3.5	(8.4)	SP402	
	2765	土師器	皿	在地	(12.4)	2.7	(8.4)	SP374	
	2766	土師器	皿	在地	6.2+a	1.8	4.0	SP045	灯明皿として利用
	2767	土師質土器	耳皿	在地		1.9		SP023	

遺物一覽表30
(第88次調査)

瓦類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
13	31	軒平瓦				S032	外側が突出	
	49	軒丸瓦	(10.0)	(15.0)		SK008		
22	50	軒丸瓦	(11.0)	(10.5)		SK008		
	59	平瓦	19.0	14.8		SK075		
34	67	軒丸瓦	(7.5)	(9.5)		SK094		
42	76	丸瓦		9.1	(2.8)	SK100		
	77	丸瓦	17.2	12.6	(1.9)	SK100		
47	85	軒丸瓦	13.5	8.7		SK116・SD035		
	86	丸瓦	8.0	13.0	(2.1)	SK116		
49	100	軒丸瓦	(14.0)			SK131		
59	169	軒丸瓦	10.0			SE070		
	170	軒平瓦	7.0	4.1	(2.0)	SE070		
	171	丸瓦	10.0	5.8	(2.8)	SE070南東		
	172	丸瓦	7.3	7.0	(2.0)	SE070南東		
	173	丸瓦	7.4	4.9	(2.1)	SE070		
	174	丸瓦	7.2	8.2	(2.4)	SE070		
	175	丸瓦	8.3	4.2	(1.8)	SE070南東		
	176	塀	17.6	12.0	(2.4)	SE070・包含層		
	177	塀	11.6	13.6	(2.4)	SE070		
60	178	平瓦	6.2	13.4	(2.0)	SE070		
	179	平瓦	16.3	15.9	(1.9)	SE070		
	180	伏間瓦	(23.0)	(16.6)	(2.7)	SE070下層		
61	181	鬼瓦	(14.3)	(10.9)	(3.4)	SE070		
63	199	軒丸瓦	11.0	10.0		SX178		
	200	軒丸瓦	(11.1)	(10.5)		SX178		
	201	軒丸瓦	12.1	11.5		SX178		
	202	軒丸瓦				SX178		
	203	軒丸瓦	(12.0)	(10.5)		SX178		
	204	軒丸瓦				SX178		
	205	軒丸瓦	(3.5)			SX178北西		
	206	軒平瓦瓦当	(8.7)	(5.7)	(3.1)	SX178		
64	207	軒平瓦瓦当	(9.5)	(5.2)	(2.6)	SX178		
	208	軒平瓦瓦当	7.2	5.6	(2.6)	SX178		
	209	軒平瓦瓦当	(4.4)	(2.0)	(2.4)	SX178南西		
	210	軒平瓦瓦当	(2.5)	(3.5)	(2.2)	SX178		167
	211	軒平瓦瓦当	(3.5)	(22.0)	(2.0)	SX178		
	212	軒平瓦瓦当	5.1	6.0		SX178		
	213	軒平瓦瓦当		(7.0)	(2.0)	SX178		
	214	丸瓦	(15.2)	(13.7)	(1.9)	SX178南西		
	215	丸瓦	11.2	8.0	(2.1)	SX178		
	216	丸瓦	(17.5)	(15.0)	(2.7)	SX178北西		
65	217	丸瓦	(16.4)	(13.8)	(2.1)	SX178南西		
	218	丸瓦	(9.5)	(11.9)	(2.9)	SX178		
	219	丸瓦	10.5	9.1		SX178		
	220	丸瓦	10.1	8.5	(2.4)	SX178		
	221	丸瓦	(16.9)	(12.8)	(2.3)	SX178南西		
	222	丸瓦	(11.0)	(10.0)	(3.0)	SX178北西		
66	223	丸瓦	(19.5)	(14.0)	(2.6)	SX178		
	224	丸瓦	(15.5)	(9.7)	(2.5)	SX178北西		
	225	丸瓦	(8.5)	(9.9)	(2.3)	SX178北西		
	226	丸瓦	14.4	11.4		SX178		
	227	軒丸瓦	(8.5)	(10.0)	(2.7)	SX178北西		
67	228	丸瓦	(21.5)	(14.6)	(2.5)	SX178		
	229	掛瓦	15.2	14.0		SX178		
	230	掛瓦	8.6	10.4		SX178		
	231	丸瓦	(11.3)	(11.4)	(2.7)	SX178南西		
68	232	丸瓦	18.1	12.7	(2.2)	SX178		
	233	丸瓦	(12.6)	(10.0)	(2.3)	SX178		
	234	丸瓦	(10.9)	(13.5)	(2.2)	SX178南西		
	235	丸瓦	(23.6)	(13.4)	(1.7)	SX178		
69	236	丸瓦	(21.1)	(15.1)	(1.9)	SX178		
	237	軒平瓦?			(2.2)	SX178		
	238	軒丸瓦	10.0	7.5	(2.7)	SX178		
	239	道具瓦	(10.6)	(8.6)	(2.3)	SX178		
	240	瓦止	(9.5)	(7.7)	(2.0)	SX178北西		
70	241	平瓦	(12.0)	(23.4)	(1.9)	SX178		
	242	平瓦	13.6	21.0	(2.1)	SX178		
	243	平瓦	(20.0)	(22.5)	(1.7)	SX178北西		

瓦類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
71	244	平瓦	(16.0)	(20.0)	(2.1)	SX178		
	245	平瓦	(12.6)	(12.1)	(2.0)	SX178		
	246	平瓦	(14.2)	(12.2)	(1.8)	SX178		
	247	平瓦	(13.5)	(17.5)	(2.1)	SX178		
72	248	のし瓦?	33.0	17.0	(2.6)	SX178		
	249	平瓦	(24.5)	(20.5)	(1.9)	SX178		
	250	平瓦	(15.3)	(11.3)	(1.7)	SX178		
73	251	平瓦	(9.8)	(13.0)	(2.1)	SX178		
	252	塼	(11.9)	(13.8)	(3.1)	SX178		
	253	平瓦	(11.5)	(9.5)	(1.6)	SX178		
	254	面戸瓦	(9.0)	(15.0)	(1.9)	SX178北西		167
	255	鬼瓦	(12.9)	(6.6)		SX178南東		
78	344	鬼瓦 角	(5.6)	(4.5)		包含層		
	345	鬼瓦 角?	(6.3)	(4.3)		包含層		
	346	鬼瓦 角?	(6.0)	(2.9)	(2.9)	包含層		
88	510	丸瓦	(25.0)	15.2	2.7	道路跡3面		167
	511	平瓦	(18.0)	(10.8)	2.2	道路跡3面		
95	598	軒丸瓦				SD033A		
	599	軒丸瓦	(11.5)	(12.5)		SD033A		
	600	軒平瓦	(7.9)	(3.5)	(2.0)	SD033A		
	601	軒平瓦	(10.3)	(3.8)	(1.6)	SD033A		
	602	軒平瓦	(3.5)	(21.7)	(11.4)	SD033A		
	603	軒平瓦	(13.5)	(3.5)	(2.1)	SD033A		
96	604	丸瓦	(23.7)	(14.1)	(2.3)	SD033A		
	605	丸瓦	(14.0)	(15.1)	(3.6)	SD033A		
	606	丸瓦	(51.1)	(14.2)	(3.5)	SD033A上層		
97	607	丸瓦	(17.8)	(11.0)	(2.8)	SD033A		
	608	丸瓦	(19.4)	(10.9)	(1.9)	SD033A		
	609	丸瓦	(12.1)	(15.1)	(2.6)	SD033A		
	610	丸瓦	(13.5)	(13.6)	(2.1)	SD033A		
	611	丸瓦	(9.8)	(13.4)	(2.4)	SD033A		
98	612	丸瓦	(17.0)	(15.2)	(2.4)	SD033A		
	613	丸瓦	(23.5)	(14.0)	(2.2)	SD033A		
	614	丸瓦	(18.8)	(12.3)	(2.3)	SD033A		
	615	丸瓦	(9.8)	(12.4)	(2.4)	SD033A		
99	616	平瓦	20.8	16.0	(1.9)	SD033A		
	617	平瓦	17.8	16.0	(1.8)	SD033A		
	618	平瓦	11.9	23.7	(1.9)	SD033A		
100	619	平瓦	(14.0)	(12.7)	(1.5)	SD033A		
	620	鬼瓦 鬘	(10.2)	(6.3)		SD033A		
	621	雁振瓦	(21.9)	(15.6)	(2.1)	SD033A		
103	652	軒丸瓦	13.5	8.7		SK116・SD035		
	653	軒平瓦	(4.0)	(5.2)		SD035		
108	703	軒丸瓦	(11.5)	(10.1)	(2.5)	SD071		
	704	丸瓦	(26.0)	(13.0)	(2.0)	SD071		
	705	丸瓦	(11.3)	(10.7)	(3.1)	SD071上層		
	706	丸瓦	(12.4)	(9.2)	(2.7)	SD071上層		
	707	丸瓦	(9.3)	(11.4)	(3.7)	SD071上層		
	708	丸瓦	(12.3)	(10.6)	(1.9)	SD071上層		
	709	丸瓦	(7.0)	(5.9)	(1.9)	SD071上層		
109	710	平瓦	14.9	20.0	(1.8)	SD071		
	711	平瓦	(10.5)	(11.5)	(2.0)	SD071上層		
	712	平瓦	20.5	13.3	(1.6)	SD071		
	713	平瓦	(15.0)	(12.0)	(1.8)	SD071		
168	1475	軒丸瓦	(12.9)	(14.7)	(3.2)	SD120中層・上層		
	1476	軒丸瓦	(9.5)	(6.3)	(2.0)	SD120中層		
	1477	軒丸瓦	(10.7)	(10.2)	(2.8)	SD120上層・SD120		
	1478	軒丸瓦	(6.7)	(6.1)	(2.5)	SD120瓦溜		
	1479	軒丸瓦	(14.1)	(13.9)	(4.3)	SD120瓦溜		
	1480	軒丸瓦	(12.4)	(14.2)	(4.4)	SD120		
	1481	丸瓦(鳥衾)	(15.4)	(15.2)	(4.7)	SD120		
	1482	軒丸瓦	(13.2)	(6.5)	(2.8)	SD120上層		
	1483	瓦当				SD120上層・SX310		167
	1484	軒平瓦				SD120中層		
	1485	軒平瓦				SD120中層・上層・瓦溜		
1486	軒平瓦	(7.1)	(4.6)	(2.1)	SD120中層			
1487	軒平瓦	(3.0)	(13.6)		SD120上層・SX310			

遺物一覽表32
(第88次調査)

瓦類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
168	1488	軒平瓦	(13.6)	(12.5)		SD120中層・S180		
	1489	軒平瓦				SD120中層		
	1490	軒平瓦	(16.0)	(10.4)	(1.9)	SD120中層		
	1491	軒平瓦	(24.0)	(11.0)	(1.8)	SD120中層		
	1492	軒平瓦	(6.5)	(4.7)	(1.8)	SD120中層		
	1493	軒平瓦	(13.0)	(18.0)	(1.8)	SD120		167
	1494	軒平瓦	(7.0)	(2.4)		SD120下層		
	1495	軒平瓦	(6.0)	(5.5)	(2.1)	S121中層		
	1496	軒平瓦	(11.6)	(4.6)	(2.2)	SD120下層		
	1497	軒平瓦				SD120上層		
	1498	軒平瓦	(10.8)	(3.6)	(2.3)	SD120		
	1499	軒平瓦?	(7.4)	(3.9)	(2.6)	SD120		
	1500	軒平瓦	(7.1)	(3.1)		SD120中層		
	1501	軒平瓦	5.0	10.0	(3.0)	SD120上層		
	169	1502	軒平瓦	(12.9)	(5.5)	(2.7)	SD120	
1503		丸瓦	(32.3)	(14.3)	(2.4)	SD120中層		
1504		丸瓦	(9.0)	(13.3)	(2.0)	SD120		
1505		丸瓦	(14.3)	(13.0)	(2.0)	SD120瓦溜		
1506		丸瓦	(17.2)	(13.0)	(2.0)	SD120瓦溜		
1507		丸瓦	(28.9)	(13.5)	(2.2)	SD120中層		
170	1508	丸瓦	(19.2)	(13.1)	(1.9)	SD120上層		
	1509	丸瓦	(16.8)	(13.2)	(2.5)	SD120		
	1510	丸瓦	(11.0)	(13.0)	(1.7)	SD120瓦溜		
171	1511	丸瓦	(22.5)	(13.6)	(2.2)	SD120上層		
	1512	丸瓦	(173.0)	(13.4)	(2.2)	SD120上層		
	1513	丸瓦	(24.6)	(13.8)	(2.4)	SD120		167
172	1514	丸瓦	(20.2)	(12.5)	(2.0)	SD120瓦溜		
	1515	丸瓦	(31.5)	(13.6)	(2.2)	SD120中層		
	1516	掛瓦	(13.0)	(13.3)	(3.2)	SD120瓦溜		
173	1517	丸瓦	(10.0)	(13.5)	(2.5)	SD120瓦溜		
	1518	掛瓦	(22.0)	(15.3)	(2.9)	SD120中層		
174	1519	掛瓦	(17.0)	(14.0)	(2.3)	SD120上層		167
	1520	掛瓦	(17.0)	(14.5)	(2.3)	SD120中層		
175	1521	平瓦	(16.8)	(21.0)	(1.9)	SD120瓦溜		
	1522	平瓦	14.7	20.0	(2.0)	SD120上層		
	1523	平瓦	26.1	11.3	(1.6)	SD120瓦溜		
176	1524	平瓦	30.0	(13.2)	1.9	SD120		
	1525	平瓦	(12.5)	(25.0)	(2.0)	SD120中層		
	1526	平瓦	13.8	22.2	(1.7)	SD120中層瓦溜		
177	1527	平瓦	(17.6)	(20.2)	(1.9)	SD120瓦溜		
	1528	平瓦	(13.5)	(22.0)	(2.2)	SD120中層		
	1529	平瓦	18.2	13.2	(2.0)	SD120瓦溜		
178	1530	伏間瓦	(15.6)	(16.6)	(2.5)	SD120中層		
	1531	伏間瓦	(18.1)	(16.5)	(2.1)	SD120中層		
	1532	塀瓦	(24.0)	(17.5)	(1.9)	SD120中層		
179	1533	塀瓦	(13.9)	(11.0)	(3.6)	SD120中層		
	1534	面戸瓦	(9.3)	(8.5)	(2.3)	SD120瓦溜		
	1535	鬼瓦?	(7.8)	(9.3)	(6.1)	SD120		
	1536	鬼瓦	(12.6)	(7.6)	(2.4)	SD120中層		
180	1879	軒平瓦	(17.4)	(5.1)	(2.5)	SD142		
	1880	平瓦	(13.6)	(14.5)	(2.0)	SD142		
	1881	平瓦	(2.8)	(17.0)	(2.0)	SD142		
210	1924	平瓦	(12.2)	(10.9)	(2.0)	SD174		
	1925	平瓦	(16.7)	(15.2)	(2.0)	SD174		
220	1979	平瓦	(14.4)	(18.7)	(2.2)	SD382		
230	1988	軒丸瓦	(13.8)	(2.2)	(1.9)	SK149		
	1989	平瓦	(15.3)	(16.6)	(1.7)	SK149		
237	1999	瓦当	12.0	12.5		SK207		
	2000	瓦当	2.8			SK207		
238	2001	丸瓦	(23.2)	(13.8)	(2.3)	SK207		
	2002	丸瓦	(26.6)	(13.6)	(2.1)	SK207		
	2003	平瓦	(17.8)	(14.7)	(1.8)	SK207		
239	2004	平瓦	10.5	11.7	(2.0)	SK207		
	2068	軒丸瓦	9.6	12.5		SX310		
	2069	軒丸瓦				SD142・SX310		
	2070	軒平瓦	(3.0)	(13.6)		SD120上層・SX310		
240	2071	丸瓦	25.9	13.5	2.1	SX310		
	2072	丸瓦	28.0	13.7	2.0	SX310		

瓦類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
267	2073	丸瓦	(11.7)	(6.6)	1.6	SX310		
	2074	丸瓦	(9.6)	(7.7)		SX310		
	2075	道具瓦	(11.2)	(6.2)		SX310		
	2076	面戸瓦	7.5	4.9		SX310		
	2077	平瓦	12.8	23.8	(2.0)	SX310		
	2078	平瓦	(20.3)	(14.1)	(1.9)	SX310		
268	2079	平瓦	(18.4)	(15.6)	1.6	SX310		
	2080	平瓦	14.4	13.9		SX310		
	2081	平瓦	(17.5)	(15.3)	(1.9)	SX310		
	2082	平瓦	(15.0)	(11.7)	(1.6)	SX310		
	2083	平瓦	(17.8)	(8.6)		SX310		
269	2084	平瓦	(11.8)	(13.5)	1.6	SX310		
	2085	塼	(18.4)	(16.5)	(1.8)	SX310		
	2086	塼	(25.6)	(17.5)	12.8	SX310		
271	2099	平瓦	(10.1)	(12.4)	(2.1)	SD033B上層		
275	2126	軒丸瓦	(4.5)			SD060A		
	2127	丸瓦	(13.2)	(10.5)	(2.6)	SD060A		
	2128	丸瓦	(19.3)	(13.5)	(2.4)	SD060A		
	2129	平瓦	(19.3)	(12.3)	2.0	SD060A		
276	2130	平瓦	(11.5)	(13.0)	1.9	SD060A		
	2131	平瓦	(12.4)	(10.1)	1.8	SD060A		
	2132	平瓦	(15.9)	(11.4)	2.0	SD060A		
278	2148	丸瓦	(18.0)	(5.6)	1.6	SD060B		
285	2225	軒丸瓦				SD156		
	2226	軒平瓦	(4.7)	(15.5)		SD156		
	2227	軒平瓦	(3.7)	(10.8)		SD156		
	2228	丸瓦	(24.3)	(9.0)	(1.7)	SD156		
	2229	平瓦	(18.0)	(28.4)	(1.8)	SD156		
286	2230	雁振瓦	(11.6)	(12.4)	(2.2-1.0)	SD156		
	2231	雁振瓦	(14.6)	(16.2)	(2.8)	SD156		
292	2301	丸瓦	(16.5)	(12.8)	(2.5)	SD160		
	2302	平瓦	(15.3)	(13.7)	(2.3)	SD160		
	2303	平瓦	(17.2)	(10.9)	(2.5)	SD160		
296	2345	軒丸瓦				SD162		167
	2346	軒丸瓦				SD162		
	2347	軒平瓦				SD162		
297	2348	鬼瓦	(14.2)	(12.8)	(2.1)	SD162		
	2349	雁振瓦	(17.4)	(13.2)	(2.6)	SD162上層		
	2350	平瓦	(18.2)	(16.7)	(2.0)	SD162		
	2351	平瓦	(26.5)	(10.1)	(1.9)	SD162		
299	2373	塼	(17.7)	(7.7)	(2.7)	SD173		
302	2395	面戸瓦	9.0	7.0	(1.9)	SD181		
321	2530	軒丸瓦	6.6			SK061		
	2531	軒平瓦	(3.2)	(7.1)		SK061		
	2532	軒丸瓦	36.2	12.4		SK061		
322	2533	丸瓦	(21.3)	(12.4)	(2.2)	SK061		
	2534	丸瓦	(25.6)	(14.1)	(2.3)	SK061		
	2535	丸瓦	21.0	13.4	(2.0)	SK061		
323	2536	丸瓦	(24.1)	(13.7)	(1.8)	SK061		
	2537	丸瓦	(19.7)	(14.2)	(1.9)	SK061		
	2538	丸瓦	23.9	12.9	(1.9)	SK061		
324	2539	丸瓦	19.1	13.4	(2.1)	SK061		
	2540	丸瓦	15.3	15.5	(2.2)	SK061		
	2541	丸瓦	20.4	11.5	(2.1)	SK061		
325	2542	丸瓦	29.2	14.0	2.2	SK061		
	2543	丸瓦	(22.8)	(14.1)	(1.9)	SK061		
326	2544	平瓦	(32.0)	(25.5)	(1.8)	SK061		
	2545	平瓦	(29.0)	(25.5)	(2.4)	SK061		
327	2546	平瓦	(22.2)	(25.7)	(1.8)	SK061		
	2547	平瓦	(34.5)	(26.5)	(2.5)	SK061		
328	2548	平瓦	26.8	25.5	(2.2)	SK061		
	2549	平瓦	16.5	26.9	(2.0)	SK061		
	2550	平瓦	(20.0)	(25.2)	(1.7)	SK061		
329	2551	平瓦	18.5	20.6	(2.3)	SK061 I層		
	2552	平瓦	(28.1)	(27.3)	(1.9)	SK061		
	2553	平瓦	16.7	18.3	(1.3)	SK061		
330	2554	平瓦	(19.2)	(15.1)	(1.8)	SK061		
	2555	平瓦	21.6	23.8	(2.0)	SK061		

遺物一覧表34
(第88次調査)

瓦類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
330	2556	平瓦	16.6	20.0	(2.0)	SK061		
	2557	平瓦	18.1	15.0	(1.9)	SK061		
331	2558	平瓦	20.0	17.9	(1.5)	SK061		
	2559	平瓦	26.8	16.3	(1.6)	SK061		
	2560	平瓦	(21.7)	(12.1)	(1.7)	SK061		
332	2561	平瓦	(17.0)	(10.0)	(2.1)	SK061		
	2562	平瓦	(33.4)	(16.8)	(1.8)	SK061		
	2563	平瓦	(16.7)	(20.6)	(2.0)	SK061		
	2564	平瓦	19.5	21.8	(1.7)	SK061		
333	2565	平瓦	18.2	17.6	(2.2)	SK061		
	2566	平瓦	19.2	18.6	(1.8)	SK061		
334	2567	平瓦	26.3	(17.5)	(2.0)	SK061		
	2568	平瓦	(25.5)	(21.0)	(2.2)	SK061		
	2569	平瓦	(12.0)	(16.5)	(1.9)	SK061		
	2570	平瓦	(34.0)	(17.5)	(2.8)	SK061		
335	2571	平瓦	(23.2)	(14.7)	(1.8)	SK061		
	2572	平瓦	(14.0)	(18.6)	(1.9)	SK061		
	2573	平瓦	(24.5)	(20.0)	(1.8)	SK061		
336	2574	平瓦	(21.0)	(15.5)	(2.2)	SK061		
	2575	平瓦	(34.1)	(19.0)	(1.9)	SK061		
	2576	平瓦	(16.5)	(19.2)	(1.5)	SK061		
337	2577	平瓦	(23.7)	(15.6)	(2.0)	SK061		
	2578	平瓦	(13.2)	(13.8)	(1.4)	SK061		
	2579	平瓦	(18.7)	(15.2)	(1.9)	SK061		
338	2580	平瓦	(26.0)	(14.5)	(2.0)	SK061		
	2581	平瓦	(23.2)	(16.8)	(2.5)	SK061		
	2582	平瓦	(16.4)	(25.2)	(1.9)	SK061		
	2583	平瓦	(25.3)	(21.5)	(1.7)	SK061		
339	2584	平瓦	(22.0)	(17.2)	(1.6)	SK061		
	2585	平瓦	(18.5)	(14.9)	(1.9)	SK061		
	2586	平瓦	(18.0)	(16.0)	(2.1)	SK061		
340	2587	平瓦	21.2	16.8	(2.0)	SK061		
	2588	平瓦	20.5	17.5	(2.0)	SK061		
	2589	平瓦	(22.6)	(18.3)	(1.8)	SK061		
341	2590	平瓦	18.0	17.0	(1.8)	SK061		
	2591	平瓦	20.3	17.3	(1.9)	SK061		
	2592	平瓦	(21.0)	(16.5)	(2.0)	SK061		
342	2593	平瓦	18.8	13.6	(1.9)	SK061		
	2594	平瓦	9.6	14.4	(2.0)	SK061		
	2595	平瓦	(27.0)	(13.5)	(2.3)	SK061		
343	2596	平瓦	(35.0)	(17.5)	(2.0)	SK061		
	2597	平瓦	(25.2)	(16.0)	(2.0)	SK061		
	2598	平瓦	(18.0)	(12.2)	(1.9)	SK061		
344	2599	平瓦	28.5	215.0	(2.2)	SK061		
	2600	平瓦	21.3	16.1	(2.0)	SK061		
	2601	平瓦	(17.4)	(11.9)	(1.7)	SK061		
345	2602	平瓦	(20.9)	(14.0)	(1.7)	SK061		
	2603	平瓦	21.7	19.6	(1.9)	SK061		
	2604	平瓦	17.4	14.7	(2.1)	SK061		
	2605	伏間瓦			(2.1)	SK061		
346	2606	平瓦	(12.3)	(13.8)	(2.0)	SK061		
	2607	伏間瓦	(21.0)	(18.7)	(2.7)	SK061		
	2608	雁振瓦	7.8	15.1	(2.6)	SK061		
351	2643	丸瓦	(17.8)	(15.0)	(2.1)	SK101		
	2644	丸瓦	(20.3)	(14.5)	(2.0)	SK101		
	2645	丸瓦	(26.4)	(15.0)	(2.2)	SK101		
352	2646	平瓦	(20.5)	23.6	(1.8)	SK101		
	2647	平瓦	18.2	20.5	(1.6)	SK101		
	2648	平瓦	13.8	23.5	(2.0)	SK101		
357	2662	丸瓦	22.7	13.8	(2.1)	SK176		
	2663	平瓦	(26.3)	(25.2)	(2.0)	SK176		
358	2664	平瓦	(23.0)	(17.8)	(2.2)	SK176		
	2665	平瓦	(25.5)	(14.7)	(2.2)	SK176		
	2666	平瓦	(20.9)	(16.6)	(2.0)	SK176		
371	2697	平瓦	(14.0)	(14.0)	(1.9)	SK236		
383	2722	平瓦	27.8	16.8	(1.9)	SK305		
388	2729	丸瓦	(17.2)	(8.6)	(1.9)	SK346		
408	2768	丸瓦	22.9	13.7	(2.2)	SP182		

土錘

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
12	17	素焼き	5.4	(1.2)		SD031		
78	337	素焼き	(5.15)	(1.05)	(1.0)	包含層		
	338	素焼き	(4.35)	(1.3)	(1.3)	包含層		
88	502	素焼き	(5.6)	(3.6)	(1.0)	道路跡第5面		
	503	素焼き	(5.4)	(1.2)	(1.2)	道路跡第1面検出時		
	504	素焼き	5.6	1.2		道路跡第3面上面		
	505	素焼き	4.9	0.9		道路跡第2面		
	506	素焼き	4.4	0.8		道路跡第4面検出時		
	507	素焼き	4.2	1.0		道路跡第2面溝内		
	508	素焼き	(3.85)	(1.1)	(1.05)	道路跡第4面検出時		
	509	素焼き	4.0	1.0		道路跡第5面検出時		
109	714	素焼き	(5.5)	(0.8)	(0.85)	SD071		
181	1551	素焼き	6.0	3.4		SD120中層		
	1552	素焼き	3.7	1.3		SD120上層		
	1553	素焼き	5.0	1.0		SD120上層		
	1554	素焼き	(4.6)	(1.1)		SD120上層		
	1555	素焼き	5.6	1.0		SD120上層		
	1556	素焼き	5.3	0.8		SD120上層		
	1557	素焼き	6.1	0.8		SD120上層		
	1558	素焼き	4.8	0.9		SD120上層		
	1559	素焼き	6.0	0.8		SD120上層		
	1560	素焼き	5.3	1.0		SD120上層		
	1561	素焼き	5.7	0.9		SD120上層		
	1562	素焼き	6.0	0.9		SD120上層		
	1563	素焼き	5.7	0.9		SD120中層		
	1564	素焼き	4.7	0.9		SD120中層		
1565	素焼き	4.3	0.8		SD120中層			
210	1882	素焼き	4.4	(0.8)		SD142上層		
	1883	素焼き	4.7	(0.9)		SD142上層		
	1884	素焼き	4.1	0.8		SD142上層		
221	1940	素焼き	(3.8)	(1.9)		SD185		
	1941	素焼き	(4.5)	(2.0)		SD185		
226	1967	素焼き	(4.7)	(1.1)		SD223上層		
	1968	素焼き	(2.9)	(1.1)		SD223上層		
	1969	素焼き	(3.9)	(1.1)		SD223上層		
269	2089	素焼き	5.1	1.4		SX310K北半		
286	2232	素焼き	5.9	(1.1)		SD156		
	2233	素焼き	4.9	1.0		SD156		
292	2304	素焼き	(5.7)	(4.9)		SD160	大型の土錘	
	2305	素焼き	(5.65)	(1.35)	(1.2)	SD160上層		
299	2371	素焼き	(2.4)	(0.9)		SD173	棒状	
347	2614	素焼き				SK061		

燭台

挿図 番号	遺物 番号	器 種	生産地	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				口径	高さ	底径			
181	1544	素焼き 燭台	在地				SD120下層		
	1545	素焼き 燭台	在地	(7.6)	7.6	7.2	SD120	168	
	1546	素焼き 燭台	在地			(8.0)	SD120		
226	1963	素焼き 燭台	在地	(7.1)	5.3	(6.6)	SD223		
269	2087	素焼き 燭台	在地				SX310	上面にスス付着	
320	2527	素焼き 燭台	在地		3.8	(6.6)	SK061		
	2528	素焼き 燭台	在地		4.2	(6.6)	SK061		
375	2703	素焼き 燭台	在地			(7.7)	SK250		

遺物一覧表36
(第88次調査)

埴塼

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
182	1569	素焼き	7.2	8.9		SD120	内面一部緑青	
	1570	素焼き	7.1	9.0	6.2	SD120		
	1571	素焼き	7.8	9.4	6.2	SD120	外面一部ガラス化	
	1572	素焼き	6.9	8.4	5.6	SD120下層		
	1573	素焼き	7.0	9.3	6.9	SD120	外面全面ガラス化、内面一部緑青	
	1574	素焼き	7.5	10.9	6.4	SD120	外面部分的にガラス化	
	1575	素焼き	7.0	9.8	6.4	SD120	内面に緑青	
	1576	素焼き	7.0	11.0		SD120	外面全面ガラス化、内面底黄変	
	1577	素焼き	(7.2)	10.5	(7.0)	SD120下層	外面全面ガラス化	
	1578	素焼き	6.7	9.0	6.5	SD120	外面全面ガラス化	
	1579	素焼き	7.6	9.5	7.1	SD120	外面全面ガラス化	
	1580	素焼き	6.5	9.5	6.0	SD120	内面黄変、部分的に緑青	
	1581	素焼き	7.4	9.5	7.0	SD120	外面一部ガラス化、内面一部緑青	
	1582	素焼き	6.9	8.7	6.0	SD120	外面全面ガラス化	
	1583	素焼き	(7.3)	6.6		SD120	外面全面ガラス化、内面緑青	
	1584	素焼き	(8.0)	6.5		SD120	外面全面ガラス化、内面黄変	
	1585	素焼き		7.5	(5.8)	SD120	内面黄変	
	1586	素焼き		5.8	5.9	SD120	外面に刷毛目、内面黄変	
	1587	素焼き		6.2		SD120	外面全面ガラス化	
	1588	素焼き				SD120	外面全面ガラス化、内面緑青	
	1589	素焼き		9.2		SD120	外面部分的にガラス化	
	1590	素焼き		8.2		SD120	外面全面ガラス化	
	1591	素焼き		6.4		SD120	外面全面ガラス化、内面緑青	
	1592	素焼き		6.4		SD120	外面全面ガラス化、内面緑青	
	1593	素焼き		3.7		SD120	外面全面ガラス化	
	1594	素焼き		4.9		SD120	外面全面ガラス化、内面一部ガラス化	
1595	素焼き				SD120	外面全面ガラス化、内面緑青・滓付着		
1596	素焼き				SD120	外面ガラス化、内面滓付着		

メンコ

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ			
8	4	メンコ	瓦質	(2.4)	(2.5)	(0.8)	S003A		
58	164	メンコ	瓦質	(3.9)	(3.85)	(0.9)	SE070北東		
	165	メンコ	陶器(備前)	(3.8)	(3.6)	(1.3)	SE070		
	166	メンコ	陶器(備前)	(3.7)	(3.4)	(1.1)	SE070北東		
	167	メンコ	瓦質	(2.8)	(3.05)	(0.55)	SE070		
	168	メンコ	素焼き	(2.8)	(2.8)	0.6	SE070		
78	339	メンコ	瓦質	(2.95)	(2.8)	(0.95)	包含層		
100	622	メンコ	陶器(中国)	(4.0)	(4.2)	(0.8)	SD033A	黒色釉	
	623	メンコ	素焼き	(3.4)	(3.5)	(1.1)	SD033A		
103	650	メンコ	陶器(瀬戸美濃)	縦	4.7	横	SD035		
	651	メンコ	瓦質	(4.8)	(2.5)	(1.9)	SD035		
181	1539	メンコ	陶器(瀬戸美濃)	(4.5)	(4.2)	(0.7)	SD120		
	1540	メンコ	陶器(瀬戸美濃)		1.1	4.5	SD120		
	1541	メンコ	陶器(瀬戸美濃)			4.5	SD120		
	1542	メンコ	素焼き	(5.1)	(4.9)	(1.7)	SD120下層		
292	2306	メンコ	素焼き	(3.3)	(3.1)	(0.75)	SD160		
309	2418	メンコ	陶器(備前)	(8.6)	(8.6)	(1.0)	S225		

その他土製品

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ			
78	334	土鈴	素焼き	3.6			包含層		
	335	犬型土製品	素焼き	(3.6)	(4.6)	(2.3)	包含層		168
	336	目貫金具鋳型	素焼き	(2.6)	(4.4)	(1.3)	包含層		168
89	512	ハマ	磁器質	(6.8)	(7.0)	(5.0)	道路跡第4面		168
100	624	土鈴	瓦質		3.1(3.2)		SD033A		
181	1537	ハマ	磁器質	7.0	7.0		SD120		168
	1538	ハマ	磁器質	(6.5)	(6.5)	(0.55)	SD120		168
	1550	土鈴	素焼き	(3.2)	3.7		SD120上層		
	1567	鞆の羽口	素焼き				SD120		
	1568	鞆の羽口	素焼き				SD120		
183	1597	炉蓋	素焼き	(12.4)	(9.2)		SD120		
	1598	炉蓋	素焼き	(17.9)	(11.7)		SD120中層・下層、S226		
271	2100	土玉	土製	(1.1)	(1.7)		SD033B		
302	2394	鞆の羽口	素焼き				SD181		
350	2642	土鈴?	素焼き	(1.9)	(1.4)	(0.7)	SK101		

石製品

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ			
61	184	硯		7.0			SE070		
	185	硯		7.5			SE070		
	186	硯		7.5			SE070		
78	340	硯		7.5	3.3	(0.65)	包含層		
89	513	硯		4.7			道路跡4面		
	514	硯					道路跡5面		
92	555	砥石		4.7	6.0	(1.2)	SD033上層		
100	626	砥石		6.8	6.6	(1.9)	SD033A		
109	715	硯		7.0			SD071		
	716	硯	赤間石	4.3			SD071		
187	1611	埴?	凝灰岩	(12.5+a)	(13.7)	(6.8)	SD120上層		
	1612	砥石	粘板岩?	(9.1)	(5.7)	(3.3)	SD120上層一括		
	1613	砥石	不明	9.0			SD120		
210	1885	砥石		(13.2)	(5.6)	(6.8)	SD142		
	1886	硯		7.2			SD142		
217	1897	硯		4.1			SD161		
220	1926	硯		2.3			SD174		
276	2133	硯	赤間石	6.5			SD060A		
292	2309	鍋の転用品	滑石	3.2	3.9	(1.8)	SD160		
	2310	石鍋	滑石	(20.8)	(4.4)		SD160上層		
304	2401	メソコ?	滑石	(3.1)	(2.7)	(0.7)	SD211		
347	2609	硯	赤間石	8.7			SK061		
	2610	硯	天草砂岩	3.0			SK061		
	2611	硯		(5.0)	(3.5)	(1.0)	SK061		
	2612	石鍋	滑石				SK061		
	2613	石鍋	滑石				SK061		
381	2721	硯	滑石	3.3	3.1	(1.7)	SK304		

石臼

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	部位	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
					上径	下径	厚さ			
	182	茶臼		下臼	(39.2)			SE070		
	183	茶臼	滑石?	下臼				SE070		
	342	茶臼	和泉砂岩(大阪)	下臼		(32.0)	(11.2)	包含層		
	343	挽き臼	安山岩	上臼	(26.0)	(28.0)	(8.6)	包含層		
	625	挽き臼	安山岩	下臼			(14.8)	SD033A		
	717	茶臼		下臼	(33.6)			SD071		
	1599	茶臼		上臼		(20.0)	(10.0)	SD120中層・瓦溜		
	1600	茶臼		上臼		(17.9)		SD120		
	1601	茶臼	砂岩	上臼				SD120瓦溜		
	1602	茶臼	和泉砂岩(大阪)	下臼	(38.0)	(30.0)	(12.0)	SD120		
	1603	茶臼	安山岩	下臼		(25.6)		SD120中層・瓦溜		
	1604	茶臼		下臼	(19.0)	(28.8)	(11.6)	SD120瓦溜		
	1605	挽き臼	凝灰岩	上臼	30.8	33.6	11.6	SD120中層		
	1606	挽き臼	凝灰岩	上臼	(36.0)	(36.0)	9.6	SD120		
	1607	挽き臼	凝灰岩	上臼	(34.4)	(35.4)	(8.8)	SD120		
	1608	挽き臼	石臼	上臼	(24.0)	(30.0)	(6.6)			
	1609	挽き臼	安山岩	下臼	(28.0)	(26.8)	7.4	SD120中層		
	1887	茶臼		上臼	(24.0)			SD142		
	1888	挽き臼	安山岩	上臼	(36.4)	(35.8)	(11.2)	SD142		
	1970	茶臼		下臼				SD223上層		
	2005	挽き臼	安山岩	上臼	(34.4)	(33.6)	10.4	SK207		
	2090	茶臼	安山岩	下臼				SX310		
	2308	茶臼		下臼				SD160上層		
	2615	茶臼		下臼	(50.4)			SK061		
	2667	茶臼	安山岩	下臼				SK176		
	2708	茶臼		下臼		(31.0)		SK260		
	2769	茶臼	和泉砂岩(大阪)	下臼			(11.4)	SP051		

遺物一覧表38
(第88次調査)

石塔

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	部位	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
					長さ	幅	厚さ			
47	87	五輪塔	凝灰岩	空風輪	18.9+ α	15.1		SK116		
61	189	無縫塔	凝灰岩	竿	24.5	19.8		SE070		
73	256	五輪塔	凝灰岩	火輪	24.8	16.6	13.7	SX178		
	257	五輪塔	凝灰岩	空風輪	21.5	16.6		SX178	墨書あり	
	258	五輪塔	凝灰岩	空風輪	18.2	17.0		SX178	墨書あり	
101	630	五輪塔	凝灰岩	空風輪	27.3	21.1		SD033A		
	631	五輪塔	凝灰岩	空風輪	21.4	16.7		SD033A		
	632	五輪塔	安山岩	空風輪	20.0	16.8		SD033A		
	633	五輪塔	凝灰岩	空風輪	20.0	17.4		SD033A		
	634	五輪塔	凝灰岩	空風輪	21.7	16.9		SD033A		
	635	五輪塔	凝灰岩	空風輪	24.6	17.5		SD033A		
	636	五輪塔	凝灰岩	空風輪	20.2	15.5		SD033A		
	637	五輪塔	凝灰岩	空風輪	(21.4)	(14.1)		SD033A		
	638	五輪塔	凝灰岩	空風輪	(21.6+ α)	(18.4)		SD033A		
	639	五輪塔	凝灰岩	空風輪	21.5	16.5	15.8	SD033A K3区		
	640	五輪塔	凝灰岩	空風輪	25.3	19.7		SD033A		
202	1778	五輪塔	凝灰岩	空風輪	13.7	18.0	17.6	SD120瓦溜		
	1779	五輪塔	凝灰岩	空風輪	21.6	16.1	15.3	SD120上層一括		
	1780	五輪塔	凝灰岩	空風輪	23.1	17.4	17.0	SD120		
	1781	五輪塔	凝灰岩	空風輪	(17.9+ α)	(16.7)		SD120		
	1782	五輪塔	凝灰岩	火輪	34.0	33.2	15.0	SD120		
1783	五輪塔	凝灰岩	火輪	(28.4×27.7)	(12.0)		SD120			
259	2021	五輪塔	凝灰岩	火輪	31.2	32.0	14.3	SX206		
	2022	五輪塔	凝灰岩	火輪	27.8	31.8	14.4	SX206		
	2023	五輪塔	凝灰岩	火輪	33.8	34.6	16.3	SX206		
	2024	五輪塔	凝灰岩	火輪	29.4	31.8	12.3	SX206		
	2025	五輪塔	凝灰岩	火輪	31.5	33.6	15.7	SX206		
	2026	五輪塔	凝灰岩	地輪	31.1	31.7		SX206		
	2027	五輪塔	凝灰岩	地輪	26.0	27.1	19.3	SX206		
	2028	五輪塔	凝灰岩	地輪	30.5	29.5	19.5	SX206		
	2029	五輪塔	凝灰岩	地輪	27.8	28.2	18.2	SX206		
	2030	五輪塔	凝灰岩	地輪	28.0	25.5	17.5	SX206		
260	2031	五輪塔	凝灰岩	地輪	26.6	28.0		SX206		
	2032	五輪塔	凝灰岩	地輪	28.8	28.8	22.6	SX206		
	2033	五輪塔	凝灰岩	地輪	22.0	29.2		SX206		
	2034	五輪塔	凝灰岩	地輪	27.0	28.5		SX206		
	2035	五輪塔	凝灰岩	地輪	21.0	27.7		SX206		
	2036	五輪塔	凝灰岩	地輪	28.8	29.4	19.8	SX206		
261	2038	不明			26.7	26.4	26.0	SX208		
	2039	五輪塔	凝灰岩	地輪	27.5	29.0	17.9	SX208		
	2040	五輪塔	凝灰岩	地輪	27.2	26.8	18.9	SX208		
277	2135	五輪塔	凝灰岩	空風輪	20.1	14.9	15.4	SD060A		
	2136	五輪塔	凝灰岩	空風輪	11.4	16.1	15.8	SD060A		
286	2236	不明	凝灰岩		24.9	20.5		SD156		
293	2314	五輪塔	凝灰岩	空風輪	25.6	16.2	15.9	SD160		
	2315	五輪塔	凝灰岩	火輪	30.2	30.2	14.8	SD160		
	2619	五輪塔	凝灰岩	地輪	20.0	27.0		SK061		

分銅

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			重量(g)	遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ				
81	405	太鼓型分銅	銅	1.45	0.36		6.7	包含層		169
90	539	繭形分銅	銅	(0.8)	(5.5)	(2.0)		道路跡第4面		169
	547	太鼓型分銅	銅	1.45		0.6	7.2	道路跡第4面		169
211	1889	太鼓型分銅	銅	2.4	2.4	1.1	34.3	SD142		171

鉄砲玉

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			重量(g)	遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ				
81	408	鉄砲玉		1.2			7.0	包含層		169
90	534	鉄砲玉		1.2			8.5	道路跡検出時		169

その他金属製品

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			重量(g)	遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ				
12	18	鉄滓	鉄	9.3	10.3	4.1	548.0	SD031		
61	187	鍋の取っ手	銅	2.8	5.9	0.25	24.6	SE070		
	188	不明	銅	1.55	6.1	0.03	3.3	SE070		
81	394	皿	銅	(9.0)	0.75		13.0	包含層		
	395	不明		10.0	0.45		5.2	包含層		
	396	不明	銅	5.3	0.45		2.4	包含層		
	397	鍵	銅	4.6	0.45		2.6	包含層		
	398	釘	銅	4.2	1.2		4.6	包含層		
	399	不明	銅	4.8	1.2		8.0	包含層		
	400	不明	銅	1.95	0.6	0.08	0.9	包含層		
	401	不明	銅	5.1	1.3		8.4	包含層		
	402	煙管	真鍮製	2.1	5.4	0.1	6.1	包含層		
	403	不明	銅	2.9	3.1	0.1	6.3	包含層		
	404	不明	銅	1.5	0.4	0.2	0.8	包含層		
	406	不明	銅	3.8+ α	2.2		5.1	包含層		
	407	不明	銅	5.1	1.7		3.8	包含層		177
	409	不明	銅	1.4	0.9	0.15	0.6	包含層		
	410	不明	銅	1.1	1.1	0.1	0.7	包含層		
411	不明	銅	1.0	1.3	0.25	1.1	包含層			
412	不明	銅	0.95	1.5	0.6	2.5	包含層			
413	鉄滓							包含層		
90	528	不明	銅	7.9	1.1	0.3	10.5	道路跡第1面検出時		
	529	煙管		1.2	1.5	0.1	1.6	道路跡第1面検出時		
	530	猿手金具	銅	2.5	3.1	0.35	7.6	道路跡第1面検出時		169
	531	不明	銅	1.7	2.7	0.1	2.1	道路跡第1面検出時		
	532	不明	銅	2.0	2.1	0.05	3.1	道路跡第1面検出時		
	533	不明	銅	1.0	0.7	0.45	0.1	道路跡第1面検出時		
	535	不明	銅	1.05	0.55	0.3	0.3	道路跡第1面検出時		
	536	不明	銅	5.4	3.95	0.03	12.4	道路跡第3面		
	537	不明	銅	1.4	1.2	1.35	23.2	道路跡第3面上面		169
	538	不明	鉄	2.7	2.8	0.3	9.3	道路跡第3面		169
	540		金箔	0.3	0.6	計測不明		道路跡第4面		
	541	不明	銅	3.9	2.2	0.35	8.9	道路跡第4面		
	542	不明	銅	6.7	0.4		5.0	道路跡第2面		
	543	不明	鉄	5.2	0.3		0.5	道路跡第4面検出時		169
	544	不明	銅	4.3	3.0		2.2	道路跡第4面検出時		169
545	不明	銅	0.9	1.1	0.15	0.3	道路跡第4面検出時			
546	不明	銅	1.9	0.4	0.03	0.3	道路跡第2面			
548	筭		17.8	1.3		17.0	道路跡第5面		169,177	
549	筭	銅	11.3+ α	7.5		6.9	道路跡最下層			
181	1566	鉄滓	鉄	(7.8)	(8.1)			SD120下層		
188	1616	鎖	真鍮製	19.3	0.3			SD120		170
	1617	灰匙	真鍮製	16.0	1.9			SD120		170
	1618	匙?	真鍮製	11.0		0.1		SD120中層		170
	1619	灰匙の柄	真鍮製	6.3	0.3	0.1	1.8	SD120		170
	1620	目貫金具	真鍮製?	4.8	1.5	0.6	1.0	SD120		169,177
	1621	目貫金具	真鍮製?	5.1	1.4	0.5	0.9	SD120		169,177
	1622	不明	銅	1.25	1.15	0.25	1.7	SD120		
	1623	不明		3.9	6.2	0.08		SD120		170
	1624	皿	銅	(12.25)	0.8		14.3	SD120		170
	1625	不明		4.9	5.1	0.1	25.9	SD120		170
	1626	不明		20.7	19.5	0.05	40.0	SD120		171,177
1627	不明	銅	4.0+ α	4.0		23.2	SD120上層		171	
189	1628	錠前	鉄	7.5	2.9	0.5	19.8	SD120		171

遺物一覧表40
(第88次調査)

その他金属製品

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			重量(g)	遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ				
189	1629	錠前靴金具	銅	3.3	7.6			SD120		171
	1630	鍵		5.1	0.7		8.8	SD120		
189	1631	不明		4.7	0.25		0.9	SD120中層 J2区		
	1632	不明	銅	6.1	0.6		2.9	SD120		171
	1633	不明		9.1	0.5		7.3	SD120下層 J5区		
	1634	不明		11.9	0.1		1.5	SD120		
	1635	猿手金具	銅	5.6	6.8	0.2	5.5	SD120		171
	1636	不明		5.9	0.45		0.9	SD120		
	1637	小刀		21.2	1.5	0.3	29.8	SD120		171.177
	1638	小刀	鉄	29.1	2.5	0.3	87.2	SD120		171.177
	1639	不明		15.7	5.1	0.05	104.7	SD120		171.177
211	1890	水滴	銅	10.8	1.0			SD142		177
233	1986	不明	銅	5.3	0.3		0.9	SD437		
277	2137	不明	銅	4.6	0.9	0.6	1.7	SD060A		
286	2234	不明	銅	3.1	2.9		4.9	SD156		171.177
	2235	釘	鉄	8.2	0.7		5.2	SD156		
297	2353	装飾品	銅	2.85	4.3	0.05	3.9	SD162		
299	2374	不明	銅	4.2	5.1	0.1	4.8	SD173		177
347	2616	不明		7.4	0.65		11.7	SK061		171
	2617	不明		5.8	1.1		17.2	SK061		
	2618	不明	銅	3.7	0.5		2.2	SK061		
355	2658	不明	銅	4.0	0.2	0.2	0.8	SK148		

銅銭

挿図 番号	遺物 番号	銭貨名	国・王朝名	初鋳年	法量		書体	遺構名	備考	図版 番号
					主さ	直径				
61	190	天聖元寶	北宋	1023	2.4	2.5	篆書	SE070 L3区		
79	347	咸平元寶	北宋	998	0.9	2.4		包含層		
	348	祥符元寶	北宋	1008	2.4	2.5		包含層		
	349	祥符通寶	北宋	1008	2.7	2.5		包含層		
	350	天聖元寶	北宋	1023	2.6	2.5	篆書	包含層		
	351	皇宋通寶	北宋	1038	1.5	2.3	真書	包含層		
	352	皇宋通寶	北宋	1038	2.6	2.4	真書	包含層		
	353	嘉祐通寶	北宋	1056	1.4	2.3	篆書	包含層		
	354	嘉祐通寶	北宋	1056	2.1	2.3	真書	包含層		
	355	治平元寶	北宋	1064	2.3	2.4	篆書	包含層		
	356	熙寧元寶	北宋	1068	2.0	2.3	真書	包含層		
	357	熙寧元寶	北宋	1068	2.8	2.4	真書	包含層		
	358	熙寧元寶	北宋	1068	2.9	2.3	真書	包含層		
	359	熙寧元寶	北宋	1068	2.2	2.5	真書	包含層		
	360	熙寧元寶	北宋	1068	2.5	2.3	篆書	包含層		
	361	熙寧元寶	北宋	1068	2.5	2.3	篆書	包含層		
	362	熙寧元寶	北宋	1068	2.7	2.5	真書	包含層		
	363	元豐通寶	北宋	1078	3.0	2.3	行書	包含層		
	364	元祐通寶	北宋	1086	2.6	2.3	行書	包含層		
	365	紹聖元寶	北宋	1094	3.7	2.4	篆書	包含層 K5区		
	366	元符通寶	北宋	1098	1.9	2.5	篆書	包含層		
367	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	2.4	篆書	包含層			
368	聖宋元寶	北宋	1101	3.3	2.3	篆書	包含層			
369	政和通寶	北宋	1111	3.1	2.5	篆書	包含層			
80	370	洪武通寶	明	1368	2.2	2.3		包含層		
	371	洪武通寶	明	1368	1.4	2.3		包含層		
	372	永樂通寶	明	1408	1.5	2.4		包含層		
	373	永樂通寶	明	1408	3.8	2.4		包含層		
	374	不明			2.9	2.4		包含層		
	375	聖宋元寶	北宋	1101	1.8	2.4	篆書	包含層		
	376	不明			1.3			包含層		
	377	不明			1.4	2.3	行書	包含層		
	378	不明			0.9			包含層		
	379	不明			0.7			包含層		
	380	不明			0.4		行書	包含層		
	381	無文銭			1.6	2.0		包含層		
	382	無文銭			1.7	2.1		包含層		
	383	無文銭			2.5	2.2		包含層		
	384	無文銭			1.4	2.1		包含層		
	385	無文銭			1.7	2.1		包含層		
	386	無文銭			2.4	2.4		包含層		
	387	不明			2.8	2.3		包含層		

銅銭

挿図 番号	遺物 番号	銭貨名	国・王朝名	初鑄年	法量		書体	遺構名	備考	図版 番号
					主さ	直径				
80	388	不明			2.1	2.3		包含層		
	389	寛永通寶	日本	1636	2.8	2.5		包含層		
	390	寛永通寶	日本	1668	1.3	2.4		包含層		
	391	寛永通寶	日本	1636	1.1	2.4		包含層		
	392	不明			1.3	2.1		包含層		
	393	雁首銭		近世	3.0	1.7		包含層		
89	517	開元通寶	南唐	845	3.2	2.3	隸書	道路跡第3面下層		
	518	天聖元寶	北宋	1023	2.3	2.4	篆書	道路跡第3面下層		
	519	嘉祐通寶	北宋	1056	1.6	2.4	真書	道路跡第3面		
	520	元豊通寶	北宋	1078	1.3	2.3	篆書	道路跡第3面下層		
	521	政和通寶	北宋	1111	2.7	2.5	篆書	道路跡第3面		
	522	朝鮮通寶	李氏朝鮮	1423	0.7	2.3		道路跡3面		
	523	不明			2.5	2.3		道路跡3面 包含層下		
	524	不明			0.6			道路跡3面		
	525	元豊通寶	北宋	1078	2.4	2.4	行書	道路跡4面		
	526	元祐通寶	北宋	1086	3.5	2.4	行書	道路跡4面		
527	不明			2.9	2.4		道路跡4面			
101	627	祥符元寶	北宋	1009	1.7	2.4		SD033A K3区 上層		
	628	天禧通寶	北宋	1017	2.2	2.4	真書	SD033A K3区		
	629	元祐通寶	北宋	1086	1.5	2.4	行書	SD033A 上層		
109	718	聖宋元寶	北宋	1101	1.8	2.3	行書	SD071 上層		
203	1787	開元通寶	唐	621	2.7	2.4		SD120		
	1788	太平通寶	北宋	976	2.2	2.5		SD120		
	1789	祥符元寶	北宋	1009	2.6	2.3	真書	SD120		
	1790	祥符元寶	北宋	1009	2.7	2.4	真書	SD120		
	1791	祥符元寶	北宋	1009	1.7	2.3	真書	SD120		
	1792	天禧通寶	北宋	1017	3.0	2.5		SD120		
	1793	天禧通寶	北宋	1017	2.3	2.4	真書	SD120		
	1794	皇宋通寶	北宋	1038	1.9	2.4	真書	SD120		
	1795	熙寧元寶	北宋	1068	2.0	2.2	真書	SD120 上層 J3		
	1796	元豊通寶	北宋	1078	2.2	2.4	行書	SD120 上層		
	1797	元豊通寶	北宋	1078	2.0	2.4	行書	SD120		
	1798	元豊通寶	北宋	1078	2.8	2.4	行書	SD120		
	1799	元豊通寶	北宋	1078	2.9	2.4	篆書	SD120		
	1800	紹聖元寶	北宋	1094	3.7	2.4	篆書	SD120		
	1801	紹聖元寶	北宋	1094	1.7	2.2	篆書	SD120 上層 J2区		
	1802	聖宋元寶	北宋	1101	2.6	2.3	篆書	SD120		
	1803	聖宋元寶	北宋	1101	2.3	2.4	篆書	SD120		
	1804	政和通寶	北宋	1111	2.8	2.4	隸書	SD120		
	1805	洪武通寶	明	1368	6.1	2.1		SD120		
	1806	淳化元寶	北宋	990	1.8	2.2	真書	SD120		
1807	咸淳元寶	南宋	1256	1.1	2.2		SD120			
1808	不明			1.1	2.3		SD120瓦溜			
1809	不明			1.9	2.3		SD120			
217	1899	洪武通寶	明	1368	2.2	2.1		SD161		
	1900	不明			1.3	2.3		SD161		
271	2101	永樂通寶	明	1408	2.2	2.5		SD033B L3区		
276	2134	洪武通寶	明	1368	2.4	2.3		SD060A K2区		
286	2237	不明			0.5			SD156 K5区		
292	2311	熙寧元寶	北宋	1068	2.7	2.4	篆書	SD160		
	2312	元豊通寶	北宋	1078	7.1	2.3	行書	SD160		
	2312	元豊通寶	北宋	1078	7.1	2.4	行書	SD160		
	2313	聖宋元寶	北宋	1101	2.3	2.4	行書	SD160		
297	2352	宣徳通寶	明	1433	2.6	2.5		SD162 K4区		
347	2620	嘉祐通寶	北宋	1056	2.5	2.3	篆書	SK061		
	2621	熙寧元寶	北宋	1068	2.4	2.3	篆書	SK061		
	2651	熙寧元寶	北宋	1068	2.6	2.4	真書	SK101		
358	2668	元祐通寶	北宋	1086	2.8	2.4	篆書	SK176		
360	2679	開元通寶	唐	621	1.9	2.1		SK186		
368	2691	嘉祐通寶	北宋	1056	1.5	2.4	篆書	SK230		

遺物一覧表42
(第88次調査)

ガラス製品

挿図 番号	遺物 番号	種別	材質	法量(単位cm)			重量(g)	遺 構 名	備 考	図版 番号
				径	厚さ	孔径				
30	60	小玉	ガラス	0.3	0.3			SK075		
78	341	小玉	ガラス	0.8	0.7			包含層		
90	550	小玉	ガラス	0.5	0.6			道路跡第3面		
	551	小玉	ガラス	0.5	0.5			道路跡第2面		
103	654	小玉	ガラス	0.4	0.4	0.2		SD035		
188	1614	杯	ガラス	6.4	0.13			SD120	ベネチアングラス	168
	1615	メンコ状	ガラス	2.2	2.2	(0.65)		SD120		
217	1898	小玉	ガラス	1.0	0.9			SD161		
408	2770	小玉	ガラス	0.4	0.4			SP090		

木製容器類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			口径	器高	底径			
190	1640	漆器椀	14.3	9.9	8.4	SD120		172
	1641	漆器椀	(13.7)	6.3	(6.2)	SD120		172
	1642	漆器椀		4.0+ <i>a</i>	(6.6)	SD120		
	1643	漆器椀		5.0+ <i>a</i>	6.1+ <i>a</i>	SD120		172
	1644	漆器椀		5.1+ <i>a</i>		SD120		172
	1645	漆器椀	14.0	6.0	(8.0)	SD120		
	1646	漆器椀	(13.0)	4.1+ <i>a</i>		SD120	「王」墨書	172
	1647	漆器椀	13.0	5.0	6.5	SD120		172
	1648	漆器椀	13.3	5.5+ <i>a</i>		SD120		
	1649	漆器椀		3.35+ <i>a</i>		SD120		172
	1650	漆器椀	(10.0)	3.0+ <i>a</i>		SD120		
	1651	漆器皿	11.0	3.0	5.8	SD120		
	1674	柄杓	9.3	7.2		SD120		
	1675	柄杓	9.6	4.1+ <i>a</i>		SD120		
1692	基筒蓋	7.5	1.3		SD120			
402	2753	漆器椀				SE240 L5 井筒内埋土8層下層		

下駄

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
191	1661		14.0+ <i>a</i>	8.9		SD120		174
	1662		15.2	7.5		SD120		174
	1663		19.5	9.8		SD120 J4 下層		174
	1664		19.6	9.7		SD120		175
192	1665		20.3	12.0		SD120		175
	1666		20.2	10.5		SD120		175

箸

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
197	1694	箸	25.1	0.5	0.45	SD120下層 J5区		
	1695	箸	23.7	0.6	0.6	SD120下層 J5区		
	1696	箸	27.4	0.6	0.5	SD120下層 J5区		
	1697	箸	23.7	0.7	0.5	SD120下層 J5区		
	1698	箸	18.7	0.5	0.45	SD120下層 J5区		
	1699	箸	19.6	0.7	0.6	SD120下層 J5区		
	1700	箸	25.1	0.7	0.5	SD120 J4 下層		
	1701	箸	24.5	0.9	0.9	SD120 J4 下層		
	1702	箸	27.0+ <i>a</i>	0.7	0.4	SD120 J2区中層		
	1703	箸	26.0	0.47	0.4	SD120下層 J5区		
	1704	箸	21.3	0.7	0.5	SD120		
	1705	箸	22.6	0.7	0.6	SD120		
	1706	箸	21.9	0.8	0.8	SD120		
	1707	箸	21.6	0.6	0.5	SD120		
	1708	箸	21.2	0.6	0.7	SD120		
	1709	箸	23.0+ <i>a</i>	0.7	0.6	SD120 J2区中層		

遊具類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
200	1750	独楽	7.1	5.1		SD120	鉄芯残る	176
	1751	独楽	5.25	4.3		SD120		176
	1752	独楽	3.4	2.7		SD120	鉄芯残る	
	1753	独楽	5.1+ <i>a</i>	3.6		SD120	鉄芯残る	176
	1754	独楽	4.6	2.5		SD120下層		
	1755	独楽	8.3	4.2		SD120		
	1756	独楽	7.6+ <i>a</i>	4.1		SD120	鉄芯残る	
	1757	独楽	10.5	4.5		SD120	鉄芯残る	176
201	1761	毬杖	2.6	2.85		SD120下層 J2区		
	1762	毬杖	2.6+ <i>a</i>	3.3		SD120 J3 下層		
	1763	毬杖	3.3	3.2		SD120		
	1764	毬杖	4.1	4.6		SD120下層 J4区		
	1765	毬杖	4.05	4.35		SD120下層 J4区		
	1766	毬杖	4.3	4.85		SD120下層 J5区		
	1767	毬杖	4.1	4.85		SD120下層 J2区		
	1768	毬杖	4.5	4.8		SD120		
	1769	毬杖	4.15	5.2		SD120下層 J2区		
	1770	毬杖	4.25	4.7		SD120 J3区		

遺物一覧表44
(第88次調査)

遊具類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
201	1771	毬杖	4.5	4.9		SD120 J4 下層		
	1772	毬杖	4.7	4.7		SD120 J3 下層		
	1773	毬杖	4.7	4.7		SD120 J3 下層		
	1774	毬杖	4.1	4.1		SD120下層 J5区		
	1775	毬杖	5.45	6.1		SD120		
	1776	毬杖	6.0	5.75		SD120		

櫛

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			高さ	横幅	厚さ			
190	1653		3.7	2.8	0.75	SD120		173
	1654		4.3	6.0	1.2	SD120		173
	1655		4.4	5.6	1.3	SD120		173
	1656		6.2	5.2	1.15	SD120		173
	1657		3.85	5.15	0.65	SD120		173
	1658		4.25	5.5	1.1	SD120		173
	1659		3.6	6.4	0.8	SD120		173
	1660		4.7	6.0	1.1	SD120		173

その他

挿図 番号	遺物 番号	材質	種別	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ			
190	1652	鹿角	筭	10.8		0.2	SD120中層		
	1667	竹	カゴ	33.5	26.5		SD120		
193	1668	木	松明	30.9	5.4		SD120		
	1669	竹	箒	34.1	14.9		SD120		
	1670	藁	草鞋	15.8	7.3		SD120		
	1671	藁	草鞋	15.5	9.8		SD120		
	1672	藁	草鞋	16.9	8.1		SD120		
	1673	藁	草鞋	18.3	7.8		SD120		
	1676	藁?	紐?	4.8	3.7	1.9	SD120下層 J4区		
194	1677	竹	カゴ	19.1	11.8		SD120		
	1678	竹	カゴ	24.5	16.5		SD120		
	1679	竹	タガ	31.3	26.2	2.7	SD120		
	1680	?	箒?	15.5	7.8		SD120		
195	1681	竹	タガ	26.5	29.5	3.0	SD120		
	1682	木	不明	30.1	1.8	0.75	SD120中層 J2区		
	1683	木	木板	26.4	4.8	1.3	SD120 J2区中層		
	1684	木	不明	30.8	5.0	3.0	SD120 J4 下層		
	1685	木	木板	50.5+ α	7.6	0.4	SD120 J2区中層		
	1686	木	折敷	10.4	4.4	1.2	SD120下層 J5区		
	1687	木	まな板	11.8	19.4	1.0	SD120	包丁疵多数あり	
196	1688	木	まな板	9.6	23.7	0.75	SD120下層 J5区	包丁疵多数あり	
	1689	木	板	10.1	13.1	0.6	SD120		
	1690	木	柄杓の底板	8.75	9.0	0.65	SD120		
	1691	木	柄杓の底板	7.9	7.6	0.55	SD120		
	1693	木	不明	35.7	11.0	1.9	SD120		
	197	1710	木	杭	13.1	5.4	4.5	SD120下層 J5区	
1711		木	杭	20.7	3.5	3.0	SD120下層 J5区		
1712		木	杭	27.9	4.5	4.3	SD120下層 J5区		
1713		木	杭	36.8	4.8	3.9	SD120下層 J5区		
1714		木	不明	3.4	3.7	3.1	SD120下層 J5区		
198		1715	木	刀形	34.2	2.3	0.35	SD120 J3区	
	1716	木	糸巻き	5.5+ α	1.9	1.0	SD120		
	1717	木	脚?	5.7	12.7	4.5	SD120		
	1718	木	不明	2.05	10.9	0.2	SD120中層 J2区		
	1719	木		18.2+ α	2.1+ α	7.1	SD120		
	1720	木	糸巻き?	8.5	4.1	0.6	SD120	中央に孔	
	1721	木	不明	20.1	6.0	0.1	SD120	反りを持つ	
	1722	木	木片	3.7+ α	4.8+ α	1.2	SD120 J3区下層		
	1723	木	木片	15.0+ α	1.8	0.7	SD120		
	1724	木	不明	6.6	4.45	0.3	SD120 J3区	孔が貫通	
	1725	木	不明	5.4	3.0	0.4	SD120下層 J5区	完形、挟りあり	
	1726	木	板	11.7	2.6	0.2	SD120 J3区下層	完形	
	1727	木	不明	7.05	6.7	0.95	SD120		
	1728	木	不明	4.6	3.2+ α	1.4+ α	SD120 J4 下層		
	1729	木	木片	9.6	7.0	1.5	SD120	挟りあり	
	1730	木	木片	10.2+ α	4.5	1.1	SD120		

その他

挿図 番号	遺物 番号	材質	種別	法量(単位cm)			遺 構 名	備 考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ			
198	1731	木	不明	6.9	2.3	0.5	SD120下層 J5区		
	1732	木	不明	7.4	3.0	0.85	SD120		
	1733	木	杭	22.9	3.9	2.2	SD120下層 J5区		
199	1734	木	板材	27.1	2.8	0.5	SD120 J3区 上層		
	1735	木	不明	4.8	22.5	0.55	SD120下層 J5区		
	1736	木	不明	19.1	5.0	0.6	SD120 J3区 上層	完形	
	1737	木	不明	13.6	1.4+ α	1.4+ α	SD120 J4	2箇所孔が貫通	
	1738	木	不明	8.0	2.0	0.95	SD120下層 J5区	表裏に疵跡あり	
	1739	木	不明	38.2	2.9	1.05	SD120下層 J5区		
	1740	木	板	19.9	4.2	0.8	SD120 J3区	側面に孔	
	1741	木	不明	16.7	3.2	0.45	SD120中層 J2区	表面に孔	
	1742	木	不明	17.4	5.4	1.0	SD120		
	1743	木	不明	17.2	3.7	0.5	SD120 J3区		
	1744	木	不明	7.1	2.85	0.55	SD120		
	1745	木	不明	13.65	1.95	0.25	SD120		
	1746	木	板材?	19.5	6.3	1.4	SD120 J3区	側面に孔	
	1747	木	木板	13.3	4.8	0.5	SD120		
	1748	木	不明	2.3	11.4+ α	1.6	SD120 J2区中層		
	1749	木	木片	8.5+ α	1.3	0.8	SD120 J3区		
200	1758	木、鉄	太鼓	10.6	8.7	1.7	SD120下層 J5区	上下とも6箇所に鎮止め	176
	1759	木	陽物	17.7	4.3	3.5	SD120		176
	1760	木	柄?	4.9+ α	4.0	2.7	SD120 J4区	筒状を呈する	176
202	1777	革	不明	18.0+ α	8.5	0.3	SD120	周囲に縫い目あり	176

遺物一覧表46
(第95次調査)

土器・陶磁器

挿図 番号	遺物 番号	器種	生産地	法量 (cm) () は復元径			遺構名	備考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
422	1	青磁	瓶	龍泉窯系			(4.5)	SD241		
	2	陶器	瓶 (徳利)	備前焼			(6.0)	SD250		
426	5	陶器	天目碗碗	瀬戸美濃				SD325上層		
	6	陶器	天目碗碗	瀬戸美濃	(11.2)	5.8	4.5	SD325下層		
	7	陶器	播鉢	備前焼				SD325下層		
	8	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	2.5		SD325下層		
	10	土師器	移動式甕	在地				SP296		
427	11	青釉陶器	小皿	中国				SK235		
	12	陶器	天目碗碗	瀬戸美濃	(13.0)			区域1第2面一括遺物		
429	13	土師質土器	皿	在地	(9.2)	2.2	(5.4)	SK017	灯明皿・回転系切り	
	14	土師質土器	坏	在地	(12.0)	2.9	(9.0)	SK017		
	15	土師質土器	坏	在地	11.0	2.7	8.2	SK017	回転系切り	
	16	土師質土器	坏	在地	(12.4)	3.75	(9.0)	SK017	回転系切り	
	17	土師質土器	坏	在地	(13.8)	4.0	(9.4)	SK017	回転系切り	
	18	瓦質土器	風炉または火鉢	国内		5.6+ <i>a</i>		SK017		
	19	瓦質土器	火鉢	国内		6.3		SK017		
431	20	陶器	碗	唐津焼	(12.0)	6.9	(4.7)	SK060		187
	21	京都系土師器	皿	在地	(8.9)	2.1		SK060	灯明皿	
	22	京都系土師器	皿	在地	8.5	1.8		SK060	灯明皿	
	23	京都系土師器	皿	在地	(9.2)			SK060		
	24	京都系土師器	皿	在地	12.3	2.3		SK060		
433	25	土師質土器	燗台	在地	8.0	3.6	6.2	SK060		187
	27	青磁	香炉	中国		2.2+ <i>a</i>		SD049		187
	28	白磁	碗	中国	(16.0)	4.6+ <i>a</i>		SD049		
	29	陶器	播鉢	備前焼	(36.0)	7.6+ <i>a</i>		SD049		
	30	瓦質土器	土鍋	国内	24.0	5.7+ <i>a</i>		SD049		
	31	瓦質土器	土鍋	国内	(11.8)			SD049		
	32	瓦質土器	鉢	国内		4.9		SD049		
	33	土師質土器	皿	在地	(7.5)	1.1	(5.6)	SD049	回転系切り	
	34	土師質土器	皿	在地	(8.0)	1.4	(6.0)	SD049	回転系切り	
	35	土師質土器	皿	在地	(4.6)	1.5	7.0	SD049	回転系切り	
434	36	土師質土器	皿	在地	8.2	1.6	(6.8)	SD049	回転系切り	
	37	土師質土器	皿	在地	(8.4)	1.5	(7.0)	SD049	回転系切り	
	38	土師質土器	坏	在地	(7.0)	2.2	(5.0)	SD049	回転系切り	
	39	土師質土器	坏	在地	(7.2)	2.4	(5.0)	SD049	回転系切り	
	40	土師質土器	坏	在地	(11.0)	3.0	(6.4)	SD049	回転系切り	
	41	土師質土器	坏	在地	(12.8)	3.0+ <i>a</i>		SD049		
	42	土師質土器	坏	在地	(14.0)	3.2		SD049		
	43	土師質土器	坏	在地	(14.0)	3.2+ <i>a</i>		SD049		
	44	土師質土器	坏	在地	(12.0)	4.0	(8.4)	SD049	回転系切り	
	45	土師質土器	坏	在地	(12.4)	4.0	(9.0)	SD049	回転系切り	
	46	土師質土器	坏	在地	(13.6)	3.9	(10.4)	SD049	回転系切り	
	47	土師質土器	坏	在地	(13.0)	4.2	(9.4)	SD049	回転系切り	
	48	土師質土器	坏	在地	(13.8)	3.8	(9.8)	SD049	回転系切り	
	49	土師質土器	坏	在地	(14.0)	3.9	(10.0)	SD049	回転系切り	
	435	50	土師質土器	坏	在地	(13.4)	4.2	(9.8)	SD049	回転系切り
51		土師質土器	坏	在地	13.8	4.1	8.8	SD049	回転系切り	
52		土師質土器	坏	在地	(13.0)	4.5	(9.0)	SD049	回転系切り	
53		土師質土器	坏	在地	(14.4)	4.3	(9.1)	SD049	回転系切り	
54		土師質土器	坏	在地	(14.4)	4.6	(10.0)	SD049	回転系切り	
55		土師質土器	坏	在地	(15.6)	4.1	(10.0)	SD049	回転系切り	
56		土師質土器	坏	在地	(11.8)	3.5	(7.8)	SD049	回転系切り	
57		土師質土器	坏	在地	(12.0)	3.1	(8.2)	SD049	回転系切り	
58		土師質土器	坏	在地	(12.6)	3.5	(8.4)	SD049	回転系切り	
59		土師質土器	坏	在地	(11.0)	3.1	7.2	SD049	回転系切り	
60		土師質土器	坏	在地	(12.4)	3.1	(8.8)	SD049	回転系切り	
61		土師質土器	坏	在地	12.8	4.3	10.0	SD049	回転系切り	
436	62	土師質土器	坏	在地	(12.6)	4.1	(10.0)	SD049	回転系切り	
	63	土師質土器	坏	在地	(13.8)	4.0	(7.0)	SD049	回転系切り	
	64	土師質土器	坏	在地			(9.2)	SD049	回転系切り	
	65	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	2.1		SD049		
438	66	京都系土師器	皿	在地	(13.8)	2.5		SD049		
	71	黒釉陶器	香炉	中国				SD035		187
	72	瓦質土器	土鍋	国内	(34.4)	8.5+ <i>a</i>		SD035		
	73	土師質土器	皿	在地	8.8	1.8	5.0	SD035	回転系切りの後、板状圧痕跡	
	74	土師質土器	皿	在地	(11.2)	2.3	(6.4)	SD035	回転系切りの後、板状圧痕跡	
439	75	土師質土器	皿	在地	11.3	2.4	6.2	SD035	回転系切りの後、板状圧痕跡	
	76	象嵌青磁	瓶	朝鮮王朝				SD035		187
	77	陶器	播鉢	備前焼	(27.6)	6.7		SD035		
	78	陶器	天目碗碗	中国				SD035		
	79	瓦質土器	風炉	国内				SD035		187
	80	瓦質土器	播鉢	国内		4.9+ <i>a</i>		SD035		
	81	土師質土器	皿	在地	(7.9)	2.2	5.9	SD035	回転系切り	
	82	土師質土器	坏	在地	(8.2)	2.0	4.6	SD035	回転系切りの後板状圧痕跡、煤付着	
	83	京都系土師器	皿	在地	(15.0)			SD035		
	84	京都系土師器	坏	在地	(10.8)	3.3+ <i>a</i>		SD035		

遺物一覧表47
(第95次調査)

挿図 番号	遺物 番号	器種	生産地	法量 (cm) () は復元径			遺構名	備考	図版 番号	
				口径	器高	底径				
441	85	陶器	播鉢	備前焼			SD028			
	86	陶器	播鉢	備前焼	(26.8)		SD028			
	87	陶器	播鉢	備前焼	(32.0)		SD028			
	88	瓦質土器	甕	国内			SD028			
	89	瓦質土器	火鉢	国内			SD028			
	90	京都系土師器	皿	在地	8.8	1.1	6.2	SD028		
	91	京都系土師器	皿	在地	(8.0)	1.8		SD028		
	92	京都系土師器	皿	在地	(8.3)	1.9		SD028		
	93	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	2.15		SD028	灯明皿	
	94	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	2.0		SD028		
	95	京都系土師器	皿	在地	(12.5)			SD028		
	96	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	2.2		SD028		
	97	京都系土師器	皿	在地	13.1			SD028		
	98	京都系土師器	皿	在地	(12.9)			SD028		
99	京都系土師器	皿	在地	(12.8)			SD028			
100	京都系土師器	皿	在地	(16.8)			SD028			
101	京都系土師器	皿	在地	(16.4)			SD028			
102	京都系土師器	皿	在地	(18.4)			SD028			
443	104	土師質土器	火鉢	在地		6.4+ α	SD027			
445	105	瓦質土器	土鍋または火鉢	在地	(22.3)		SK074			
	106	土師質土器	坏	在地			(7.2)	SK074		
	107	土師質土器	坏	在地				SK074		
	108	土師質土器	皿	在地	(6.8)	2.0	(6.0)	SK074	回転系切り	
	109	土師質土器	皿	在地	(7.8)	1.2	(6.8)	SK074	回転系切り	
	110	土師質土器	皿	在地	(6.7)	1.4	(6.3)	SK074	回転系切り	
	111	土師質土器	皿	在地	7.3	1.6-1.7	5.6	SK074	回転系切り	
	112	土師質土器	皿	在地	(8.3)	2.1	(6.2)	SK074	回転系切り	
	113	土師質土器	皿	在地	(7.9)	1.5	6.9	SK074	回転系切り	
	114	土師質土器	皿	在地	(8.2)	1.4	(6.2)	SK074	回転系切り	
	115	土師質土器	皿	在地	(8.8)	1.3	(7.7)	SK074	回転系切り	
	116	土師質土器	坏	在地	(9.5)	2.2	(7.9)	SK074	回転系切り	
	117	土師質土器	坏	在地	8.1	1.8-2.0	6.6	SK074	回転系切り	
	118	土師質土器	坏	在地	(12.6)	2.7	(8.9)	SK074	回転系切り	
	119	土師質土器	坏	在地	(11.0)	3.5	(7.7)	SK074	回転系切り	
	120	土師質土器	坏	在地	(14.2)	3.2	(10.4)	SK074	回転系切り	
	121	土師質土器	坏	在地	(13.6)	3.0	(9.2)	SK074	回転系切り	
	446	122	土師質土器	坏	在地	(12.4)	4.0	(10.0)	SK074	回転系切り
		123	土師質土器	坏	在地	(13.0)	3.5	(9.6)	SK074	回転系切り
124		土師質土器	坏	在地	(14.5)	4.0	(11.3)	SK074	回転系切り	
125		土師質土器	坏	在地	(12.4)	3.9	(9.4)	SK074	回転系切り	
126		土師質土器	坏	在地	(12.1)	3.5	9.2	SK074	回転系切り	
450	127	土師質土器	坏	在地	(12.6)	3.2	(8.6)	SP089		187
454	129	青磁	碗	中国	(13.0)		SK177			
454	130	瓦質土器	火鉢	国内	(51.2)		SK177			
456	131	土師質土器	坏	在地	(13.0)	3.4	(9.2)	SD133	回転系切り	
459	132	土師質土器	土鍋	在地			SE182木質周辺			
460	133	陶器	甕	常滑焼		7.6+ α	SP004			
	135	土師質土器	坏	在地	(11.0)	3.0	6.3	SP037	回転系切り	
	136	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	2.2		SP040		
	137	土師質土器	坏	在地	(10.2)	4.5	(4.9)	SP040		
	138	土師質土器	坏	在地	6.7	1.6	5.0	SP067	回転系切り	
	139	土師質土器	坏	在地	(7.6)	2.3	(5.4)	SP072	回転系切り	
	140	土師質土器	耳皿	在地	5.1	1.4	2.4-2.7	SP079	回転系切り	
	141	青磁	盤	中国	(22.0)	2.5+ α		SP079		
461	142	土師質土器	鉢	在地			SP107			
	144	白磁	碗	中国			区域2一括遺物			
	145	陶器	溝縁皿	唐津焼		2.3+ α		区域2一括遺物		
	146	京都系土師器	皿	在地	(15.2)			区域2一括遺物		
	147	京都系土師器	皿	在地	(13.3)	2.2		区域2一括遺物		

遺物一覧表48
(第95次調査)

瓦類

挿図 番号	遺物 番号	種別	法量 (単位cm)			遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ			
422	3	軒平瓦瓦当	5.5	6.5+ <i>a</i>	-	SD250	唐草文	
	4	平瓦	8.6+ <i>a</i>	8.2+ <i>a</i>	2.3	SD250	-	
431	26	平瓦	8.3+ <i>a</i>	11+ <i>a</i>	1.8	SK060	-	
436	67	丸瓦	21.3	14.0	2.2	SD049	-	
441	103	平瓦	9+ <i>a</i>	9.5+ <i>a</i>	2.0	SD028	-	
460	134	平瓦	6.8+ <i>a</i>	9.9+ <i>a</i>	2.0	SD028	-	

銅銭

挿図 番号	遺物 番号	銭貨名	国・王朝名	初鑄年	法量		書体	遺構名	備考	図版 番号
					重さ (g)	直径 (cm)				
426	9	不明	-	-	1.7	2.4	-	SD325上層	-	
436	68	祥符元寶	北宋	1008	2.2	2.5	-	SD049	-	
	69	嘉祐通寶	北宋	1056	2.7	2.4	篆書	SD049	-	
	70	不明	-	-	1.4	2.2	-	SD049	-	
452	128	元豊通寶	北宋	1078	2.9	2.5	行書	SP057	-	
461	143	不明	-	-	0.6	-	-	SP139	-	
	148	熙寧元寶	北宋	1068	2.4	2.3	篆書	区域2一括遺物	-	